

第23期調査研究

定年後もイキイキと暮らすための
働き方とライフスタイルのあり方



平成 23 年 12 月

中 部 産 政 研

**定年後もイキイキと暮らすための
働き方とライフスタイルのあり方**

中部産政研

序

この報告書は(財)中部産業・労働政策研究会が第23期(2010年9月～2011年8月)に行った調査研究「定年後もイキイキと暮らすための働き方とライフスタイルのあり方」の成果をまとめたものです。

昨今、60歳以降の就労に関する議論が高まる中、元気な内は長く働きたい人、会社を離れ地域社会などで社会貢献活動に生きがいを見つける人など、定年後の生き方も多様化しています。その一方で、退職後、それまでの仕事一筋の生活からの切り替えに戸惑う人々も存在しています。

こうした中、定年後もイキイキと暮らすためには、定年を迎えて初めて生き方を変更するのではなく、中高年層に入る前から退職後の人生をスルーで見据え、自分に合った生き方とライフスタイルを考え、実践することが重要であると言われています。

そこで本研究では、定年を控えた従業員に加え定年退職後の人々にもご協力いただき、在職時の就労実態や意識、生活態度や健康状態、仕事以外の生きがいや趣味、現在の家庭環境や経済状態、トータル満足度などをアンケート調査し、現状に満足している人、在職時の生き方を反省している人の特徴を調査・分析し、現役世代へのアドバイスを含め、定年後も充実した暮らしをするためのライフスタイルのあり方、そして労使の取り組むべき方向などについてまとめました。

報告書は3部構成となっています。このうち結論部分に当る第1部の総論では、調査結果の概要と調査結果から得られた定年後の望ましい姿を13の提言の形でとりまとめました。今回の調査では、大変多くのOBの方々から後輩へのアドバイスを含む貴重な自由記述をいただきましたので、それもできる限り掲載しました。

本書の提言が各企業労使の方々にとって、従業員が定年後もイキイキとした暮らしができるための施策を展開する一助になれば幸いです。調査に当たっては、中部地区の主要企業労使からなる「専門委員会」での活発な議論や貴重な助言をいただきました。報告書の作成に当たっては研究主査を務めていただいた大阪大学の大竹文雄教授、名古屋市立大学の澤野孝一郎准教授、名古屋商科大学の久米功一准教授にご尽力いただきました。また、アンケート調査を含め多数の方にご協力いただきました。この場をお借りして心からお礼申し上げます。

2011年11月

財団法人 中部産業・労働政策研究会

理事長 加藤 裕 治

目 次

第1部 総論

第1章 提言 働き方とライフスタイルの両面で	1
第2章 概要	6
第1節 はじめに	6
第2節 アンケート調査の概要	6
調査目的、調査対象、調査期間	
第3節 提言とその解説	7

第2部 各論

第1章 アンケート調査単純集計	22
第1節 調査対象者の属性	22
性別、年齢構成、配偶者の有無、学歴、子どもの有無、家族形態、 現在の住まい、月々の収入、月々の支出、世帯の年間総収入	
第2節 現在の仕事（現役）、在職時の状況（退職者・再雇用者）	29
職種、経験年数、役職、就労意識（現在、在職時）	
第3節 現在の生活（現役）や活動状況（退職者・再雇用者）	31
暮らしぶり、余暇の過ごし方、友人・仲間の数、間柄、 1週間のうちの外出日数	
第4節 今後の予定（現役）	34
就業意欲、定年に対する考え方、定年退職と再雇用の見込み	
第5節 定年退職への備え（現役、退職・再雇用者）	36
定年退職後の就労や生活に備えての準備、生活資金や資産の管理・ 運用、退職後の準備を始めた年齢、定年退職に備えた準備と実際 （金融資産残高）、今後の生活における不安や心配、定年退職後の 生活設計に役立つ（役立った）と思う会社の取り組み、今後に備 えての資産の運用について	
第6節 再雇用も含めた仕事の退職後（現役）	42
再雇用も含めて退職後に働きたくない理由、 再雇用も含めた退職後の就業意欲と理由	

第7節	定年退職時の状況（退職者・再雇用者）	43
	定年退職時の経験、平均年齢、勤続年数、定年退職後に 起きた出来事、退職後の仕事の有無、業種、職種、雇用形態	
第8節	生活水準、満足度、幸福度（現役、退職者・再雇用者）	46
	生活水準、幸福度、満足度（生活全般、家庭、仕事）	
第9節	健康状態、健康保険等（現役、退職者・再雇用者）	48
	健康状態、健康の維持増進のために心がけていること、外来受診 回数と窓口自己負担額、入院、過去5年間の病気の有無、本人お よび家族の介護、加入している健康保険（退職・再雇用者）	
第2章	アンケート調査の分析	53
第1節	定年前後の環境変化	53
	（在職時の準備、消費水準の変化、健康・介護）	
第2節	定年前の履歴	61
	（在職時の働き方、就労意識と退職後の満足度、 職種とパーソナリティの形成）	
第3節	個人の選好	65
	（危険に対する態度、性格、楽観性、他人への意識）	
第4節	経済面と配偶者（資産運用、配偶者・子ども、夫婦の関係）	68
第5節	周囲との関係性（交友関係、社会との関わり、社会関係資本）	73
第6節	将来の展望（余寿命予想と資産準備）	76
第7節	健康管理、就労状態と健康	78
	（在職時の健康管理と健康・医療、現役世代の不安・心配、 50歳時の就労意識と健康・医療、60歳代前半・就労状態と健康・ 医療、60歳代後半・就労状態と健康・医療）	
第8節	その他	93
	（個人属性と幸福度、雇用形態と幸福度、定年後の出来事と幸福度）	
第3章	実証分析編	96
第1節	幸福度、満足度の決定要因	96
第2節	現役時の準備の決定要因と退職後の暮らしへの影響	99
第3節	退職・再雇用者の就業決定	105
第3部	資料（質問票、集計結果）	

第1部

総論

第1部 総論

第1章 提言 働き方とライフスタイルの両面で

(財)中部産業・労働政策研究会 第23期調査研究「定年後もイキイキと暮らすための働き方とライフスタイルのあり方」では、定年後もイキイキと暮らすためには、現役のうちにどのような準備を進めればよいかを明らかにすることを目的として、定年を控えた現役と退職・再雇用者の双方にアンケート調査を行った。まず、本調査の結果より、退職・再雇用者、数年後に定年退職を控えた現役の生活実態の平均像は次の通りであった。

退職者の暮らしの典型例

39.6年勤めた会社を60歳で定年退職したAさんは、現在64歳、妻と二人暮らしで持ち家に住んでいる。退職時には、金融資産残高が3,000万円未満ほどあったが、現在は、月10万円程度の勤労収入、20～25万円程度の年金収入、月々の支出は25～30万円未満でやりくりしている。再雇用制度等を利用して、製造業で契約社員・嘱託として働いている。趣味は、釣り、ゴルフ、ガーデニング等であり、車で30分ほどかけて出かけて、職場の同僚・友人や趣味を通じて知り合った友人との交遊を楽しんでいる。健康維持のため、規則正しい生活や散歩・スポーツに取り組んでいる。現在の健康状態はふつうであるが、同世代の友人の10%程度は入院した経験があるようだ。

定年を控えた社員の典型例

30年以上勤めた会社を数年後に定年退職する予定の57歳のBさんは、3歳年下の妻と20歳代半ばの子どもの3人で持ち家に暮らしている。定年を人生の節目のスタートと考えており、50歳代に入って、定年退職後の就労・生活のために、自分なりの趣味、健康管理や体力づくり、将来に備えた貯蓄等を準備し始めている。現在の月々の収入はもっぱら勤労収入(35～40万円未満)であり、計画的に貯蓄しているが、生活資金や資産運用の面で特に何もしておらず、年金支給開始年齢の引き上げや年金の支給額が、自分や家族の健康と並んで、退職後の不安の種である。そのせいか友人たちの7割程度は65歳くらいまで働きたいと考えているらしく、Bさんも仕事の継続と趣味の間で揺れている。

こうした生活実態を踏まえた上で、定年後もイキイキと暮らすための備え・方策はどのようなか、調査結果から得られた提言は次頁以降の通りである。

提 言

1. 退職後の暮らしに向けて在職時から備える

退職後の暮らしに向けた在職時の準備（貯蓄、趣味、近所づきあい等）は、退職後の生活や家庭等における満足度を向上させる。

2. 退職後の収支をイメージして貯蓄・資産運用に励む

在職時の貯蓄準備においては、月々の具体的な収支をイメージしておく必要がある。退職後の幸福度は、月々の収入の多寡だけでなく、月々の収支（くらしのゆとり）にも影響される。

3. 退職のための会社説明会は役に立つ

会社説明会（資産運用、生活）が「役に立った」と回答した人は、退職後に向けた在職時の準備性向が高く、退職後の暮らしの満足度も高い。会社説明会への参加を促すだけでなく、「役に立つ」と実感させるための工夫が必要である。

4. 現在の楽しみと将来への備えの両面から健康づくりに励む

在職時から健康維持に取り組んだ人は、退職後の病気の重症度が比較的低い。また、生活習慣の見直しだけでなく、酒やたばこを減らす、定期的に健康検査を受ける等、健康維持のための積極的な活動は、現在の幸福度の向上につながる。

5. 「自発的に」働きゆったり暮らす

在職時に「仕事を生きがい」に感じていた人は、退職後の就労意識が高く、仕事を続けたいと望む傾向がある一方、引退して仕事以外の活動領域に移りたい人も少なくない。いずれにおいても「自発的な」活動が満足度や幸福度を高めるので、在職時から就労意向や暮らしの好みを見極めて、退職後に備えておく必要がある。

6. 定年後の中期的な人材活用・能力発揮を考える

「仕事を生きがい」に感じる人は、年金受給年齢に関係なく働きたいと考える人が多い。年金受給までの雇用延長だけでなく、定年後 10 年程度のキャリア形成も視野に入れた人材活用・育成（例えば、公的資格取得や中小企業への転職の支援等）を労使双方で考える必要がある。

7. 健康状態や就業意欲を包括的に考慮した処遇を考える

健康管理・就労状態と仕事の満足度は関連があり、これらを包括的に考慮した処遇を考える必要がある。

8. たまには新しいこと・違ったことをやってみる

「新しいことを人に先駆けて試みる」人の幸福度は総じて高い。「やり方を守る」ことで幸福感を得る人びとも、適度に新たなことに挑戦して、仕事や生活に活力を与えることが望ましい。

9. 自分の好みをよく知り、その対策を講じる

せっかちな人や危険愛好的な人は、退職時の金融資産残高が比較的少ない。これらの人びとは、将来に備えた貯蓄よりも現在の消費を優先し、将来の生活リスクを過小に評価するおそれがある。会社説明会は、これらの人びとに対しても、退職後の準備を促す効果があるが、それでも退職後準備が進まない人に対して、例えば、給与天引きによる貯蓄（あるいは給与の振込口座を複数に分ける）を標準設定にする等の措置も必要であろう。

10. 資産運用の考え方を学んで身につける

人びとは資産運用に積極的とはいえない一方、資産運用は必ずしも個人のリスク選好等で決定されるわけでもない。また、会社の資産運用説明会等が資産の運用の考え方にある程度影響を与えていることから、退職後も継続的に資産運用を考える機会が提供されることが望ましい。

11. 貯蓄・投資について夫婦でよく相談する

配偶者のいる家庭では、消費や貯蓄・投資の決定において、本人が単独で決定するよりも、配偶者と相談した上で（本人ではなく）配偶者が意思決定する人ほど、満足度や幸福度が高かった。退職後の暮らしの中で、難しい選択や不慣れな判断を迫られるときがあるが、夫婦で相談し合って、この苦痛を軽減することが大事である。

12. 家族、友人、近所づきあい等の「社会関係資本」を構築する

配偶者や子どものいる、友人・仲間の人数が多い、近隣や地域社会との付き合いを増やす準備をしたという人ほど、満足度や幸福度が高い。これらの社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）は、暮らしの豊かさにつながるので、在職時から退職後に向けて十分に準備しておくことが望ましい。

13. 余寿命を想定した上でいろいろな対応を考える

余寿命の予想は、退職時の金融資産残高と関係している。退職後にどれだけ生きるかという想定は、退職後の暮らしを考える上で不可欠である。

【補足】提言を実務につなげるためのより具体的な方策

- 「会社の取り組みが役に立つ」と「実感する」ためには、退職後のリスク、認知や体力の衰えに対する「気づき」を促す必要がある。
例：「体力測定」で身体の可動範囲や痛み、「記憶テスト、暗算、速読」で認知や体力の衰えを確認する等、より身近な状況で「できなくなりつつある自分」を自覚する。
例：退職後に起こりうるリスクシナリオ（健康悪化、介護、高齢者を狙った詐欺等）を具体的に想定して、その対策を考えてみる。

- 定年後の暮らしについて考えさせる。

例：勤続〇年という節目に「退職後を考える日」という有給休暇を設定、退職後の暮らしを考えてもらう。

例：定年退職後すぐに再雇用ではなく、リフレッシュ休暇期間を設けて、心身の刷新を図る。

- 新しいこと、違ったことに触れさせる。

例：社内勉強会に異業種・異分野の講師を招聘する（こうした勉強会活動を会社が支援する）。

例：50歳までに海外赴任を経験させる。

- 自分の選好（好みや癖）を知る

例：会社説明会の参加者だけでなく、会社説明会のチラシに、せっかちさや危険に対する好みの質問とそれがもたらす経済的な帰結（せっかちな人ほど貯蓄が進まない等）を掲載して、関心を喚起する。

- 給与天引きの実験的な導入

例：給与天引きで貯蓄させるプログラムを社員の一部に（無理やり）割り当てて、数年後にプログラム参加者と非参加者の貯蓄額を比較してみる。

第2章 概要

第1節 はじめに

退職後も元気よく過ごしていくために、現役世代はどのような準備をすればよいか、また働き方に関する制度や仕組みをどのように変えていくのがよいかを考えるために、定年を控えた現役の方々および定年退職された方々にアンケート調査を実施した。

第2節 アンケート調査の概要

(1) 調査目的

定年後の幸福度（満足度）、健康水準、経済的状況と在職時の働き方、生活の仕方の関連についてアンケート調査を行って明らかにして、(50歳以降の)現役世代に対し、定年後もイキイキと暮らすための現役時代の働き方とライフスタイルのあり方など「退職後の備え方」を提言することを目的とする。

(2) 調査対象

調査対象は、トヨタグループ主要企業7社の55歳以降の従業員及びOBとする。依頼部数と有効回答数は、表1の通りである。現役への配布は622部、有効回答470部、退職者・再雇用者への配布は1370部、有効回答945部であった。¹

表1. アンケート調査対象と回収数

	配布数	有効回答数
現 役	622	470
退職・再雇用者	1370	945
合 計	1992	1415

*退職者・再雇用者には、最も長く勤めた企業が「その他」である8名を含む。

¹ 退職者・再雇用者の回答において、ページめくりの誤りからか記入もれの回答（1～2ページ程度、設問数で9問）が約90部あった。これらも有効回答数に含めて、知り得た情報を可能な限り利用する。

依頼方法は、①「現役」向けは、目安として55歳から60歳くらいまでの現役を対象として、中部産政研より各社（人事担当部署）に一括してアンケートを渡した。管理職と組合員の内訳等の展開方法は各社に一任した（例えば、退職者説明会の参加者に配布）。②「退職者・再雇用者」向けは、主として60歳以上の退職者・再雇用者を対象として、原則として個人宛てに各社手配で郵送した。人選は、特定の層への偏りが無いことを前提に各社に一任した。

なお、OB会参加者へ配布した場合は、比較的活発なOBが調査対象となるため、サンプルに偏りが生じる点に留意する必要がある。また、退職者・再雇用者では、郵送法のため、本人が回答するとは限らず、特に病弱・要介護の場合には、家族が回答して返送する可能性がある。そのため、本人による回答か、配偶者や介護者の回答かを識別する問いをつけた。

（3）調査期間

本調査の事務局から専門委員への質問票の配布を2月4日（金）、専門委員からの調査対象者への配布を2月15日（火）までの間として、原則として、回答期限を3月4日（金）とした。返送された回答を順次回収して、4月19日（火）にデータの入力作業を終えた。

第3節 提言とその解説

1. 退職後の暮らしに向けて在職時から備える

退職後の暮らしに向けて、在職時に貯蓄（図1）や趣味をもつ（図2）ように準備した人の方が、退職後の生活や家庭等における満足度が高い。アンケートの自由記述欄でも、多くの人が趣味をもつことで退職後の生活が充実すると回答している。

図1. 在職時定年退職後に備えて貯蓄をしたか（問6）と現在の満足度の関係（問38）

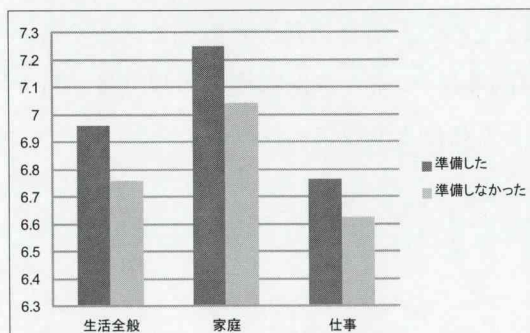
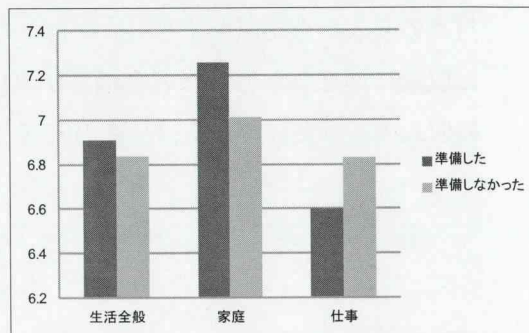


図2. 在職時定年退職後に備えて自分なりに趣味を持つ準備をしたか（問6）と現在の満足度の関係（問38）



趣味のすすめ：自由記述欄より

- 趣味は現役の時に少なくとも3つ、①雨が降っても出来る事 ②一人でも出来る事 ③複数人で出来る事は持つ事。道具の必要な趣味は一生使える良い物を現役の時に揃えておく事。
- 趣味を通じて出来た友人が長く付き合えると実感している。金銭的な問題もあるかもしれないが、若いうちから何かひとつは集中出来るものを作っておく事が大切と思う。地域の活動にも奥さん任せにせず、なるべく参加しておけば良かったと反省している。
- 退職時、私は趣味の事はほとんど考えていませんでした。しかし退職後、自分がやれる事は無い、すべて0発進です。少しでも何かしていれば良かったと思っています。
- 長く続けられる趣味を持つ。会社名、職位等に固執しない生活。地域活動への順応性が必要!! 社会へ出れば“先生”があらゆる方面にいる。
- 趣味と言うけれど本当に好きな趣味でないと継続できませんので色々なことにチャレンジして自分に合った趣味を沢山見つけて下さい。何をするにも健康第一です。
- 現役の時は仕事を中心であるのは当然であるが、私が現役を退いてから思う事は、現役の間に暇を作り趣味を持つ努力をすべきだと思いつくづく思う。趣味はスポーツと机上でやるものが良いと思う。
- 英会話、パソコンを使いこなせるようにしておいた方が良い。

2. 退職後の収支をイメージして貯蓄・資産運用に励む

月々の収入が多いほど幸福度は高くなるが、35万円以上でやや横ばいになる(図3)。月々の収入から支出を差し引いた月々の収支をみると、月々に貯金できるくらいに収支にゆとりがあるほど幸福度が高い(図4)。つまり、退職後の幸福度は、月々の収入の多寡だけでなく、月々の収支(くらしのゆとり)にも影響される。

図3. 月々の収入（万円、問 34）と幸福度（問 37）

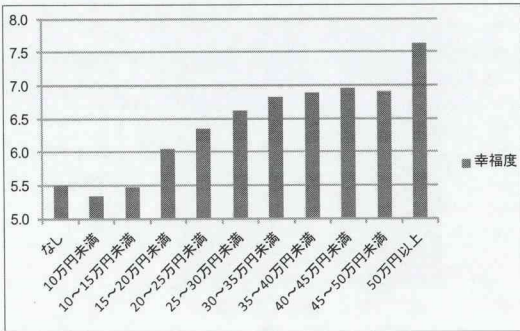
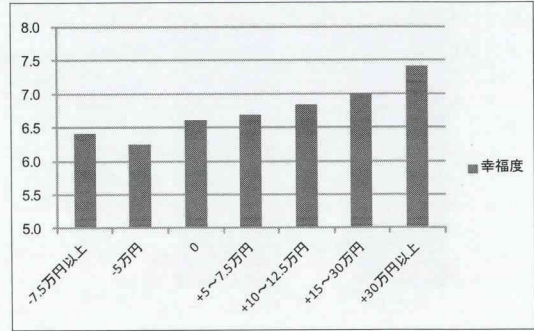


図4. 月々の収支（収入－支出（万円）、問 34）と幸福度（問 37）



貯蓄のすすめ：自由記述欄より

- 高齢化社会になる事は十分解っているつもりだったが50歳台には貯蓄・投資をやっておいた方が良い。私は失敗しました。
- 定年退職後を考えると年金収入だけではとても生活費が大変です。若い時から貯蓄をしていた方が良いと思います。私は今、後悔しています。
- 若い頃はあまり病気はしませんが、50歳すぎると色々体の悪い所ができますので若い時から貯蓄を考えた方が良いと思います。
- 資金運用に関する勉強をなるべく早く始めると良いと思う。
- 定年後も世の中の情勢は大きく変わるため貯蓄はしておくこと（実に支払いの多い国だ）→在職時は給料から引かれるのが大半で皆んな気がついていない。
- 年金額は予想より少ない。現役の時少しでも多く預貯金するように。
- 早い時期（遅くとも40代初）にライフプランをセミナー等で計画され以降のプラン実現に向けた取組をされるべきと考えます。年金収入は年々目減りし、生活が厳しくなるので、老後の生活資金は出来るだけ多い方が良いと思います。

3. 退職のための会社説明会は役に立つ

会社説明会（資産運用、生活）が「役に立った」と回答した人は、退職後に向けた在職時の貯蓄（図5）や趣味（図6）の準備性向が高く、退職後の暮らしの満足度も高い。したがって、会社説明会への参加を促すだけでなく、「役に立つ」と実感させるための工夫が必要である。

図5. 会社の取り組み（定年後の資産運用説明会）の評価（問13）と在職時定年退職後に備えた貯蓄の準備（問6）

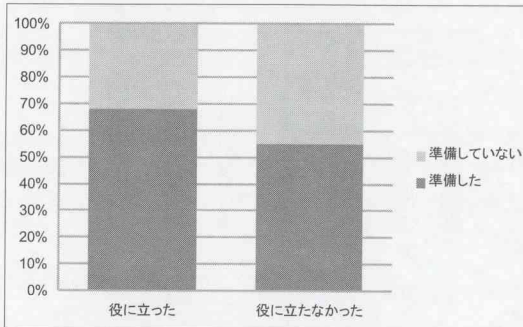
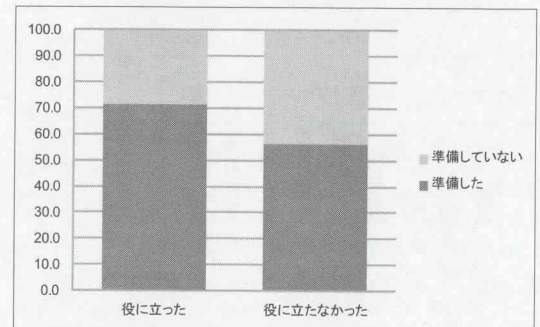


図6. 会社の取り組み（定年後の「生活説明会」）の評価（問13）と在職時定年退職後に備えた「趣味」の準備（問6）



セミナーのすすめ、セミナーへの要望：自由記述欄より

- 生活設計に関するセミナーを受ける年齢は、20代後半～30代前半の人が全員受ける様になると良い。
- 定年後も会社、組合で支援、相談が出来るシステム（窓口）。将来に備え健康な体造りに努める。
- 保険や年金に関する公的機関に提出する書類の種類や書き方等の手本の様な本があれば、斡旋してほしい。
- 定年前の説明会を継続して実施して下さい（生活プラン計画の参考）。
- 定年後の元従業員（OB）によるアドバイス等がほしいです。
- 転職者、早期退職者のその後の話を聞く会、開業経験者の話を聞く会を企画していただけると良いと思います。
- 早い段階からの生活設計の説明、教育の機会があると良いと思います（入社10年程度の節目から）。
- 親の介護に関する知識を提供してほしい。
- 定年退職者が集う場を設けて、個人の能力を生かした起業検討やサークル活動などを行なっては。
- 情報の提供をできる限りしてほしい。ホームページ等で。
- 退職された方の生活、生き甲斐について生の声を聞き、自分なりに生活設計を立て、定年を迎えたい。

- 退職後の生活設計での成功例、失敗例（失敗から学ぶこと、今後どうすべきか）を紹介してほしい。
- 65歳までの雇用（働く意欲のある人には）とそれを支える能力開発（仕事に必要なスキルを更に伸ばすため）プログラムを確立して頂きたい。
- 自己啓発等々、もっと人間自身に焦点を当てた、講習講演を行って頂き、社会全般に関する人間性やモラルの向上につながるようなイベントを開催して頂きたい。車社会のモラル、人作りが必要と考えています。
- 趣味を磨くサークル活動が社内であれば参加したい。（例：絵画、陶芸、パソコン教室他 講座サポート、介護）
- シニア会員相互の親睦が図れるコミュニケーションの場（会館など）や部活動や見学会・講演会など催しの提供。自主的な活動が出来ると良いです。既にこの様な場が設けられている様でしたら、PRをお願いします。
- 50歳時に退職後の話を聞かせてほしかった。もっと早く計画的にやりたかった。
- 定年後の再就職活動等に参加が出来る様な活動を活発に指導して下さい。就活は難しいから。
- 定年後の生活において相談の窓口として市役所、社保庁、ハローワーク、保健センターなど公的機関の役割、機能、目的など教えて欲しかった。年金額は予想より少ない。現役の時少しでも多く預貯金するように。
- 現役の時にやっておいた方が良いこと：仕事で関わりのある職場の仲間とのコミュニケーションを深めることと職場の垣根を越えた人たちとのコミュニケーションを図ることも大切。人脈作りの礎えとなります。技術会や社内活性化、スポーツイベントなど、会社からも支援を更に頂けると良いです。

4. 現在の楽しみと将来への備えの両面から健康づくりに励む

在職時から健康維持に取り組んだ人は、退職後における窓口自己負担額が低く（図7）、退職後の病気の重症度（入院日数、図8）が比較的低い。また、生活習慣の見直しだけでなく、酒やたばこを減らす、定期的に健康検査を受ける等、健康維持のための積極的な活動は、現在の幸福度の向上につながっている。

図7. 窓口自己負担額（回あたり、問 43-2）と準備（問 6）

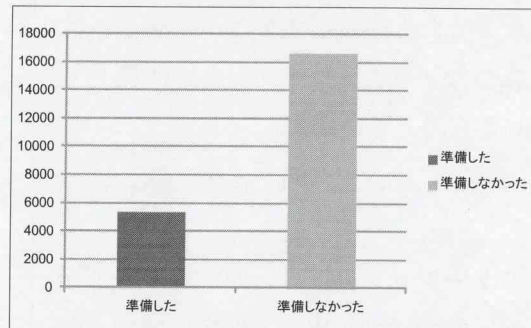
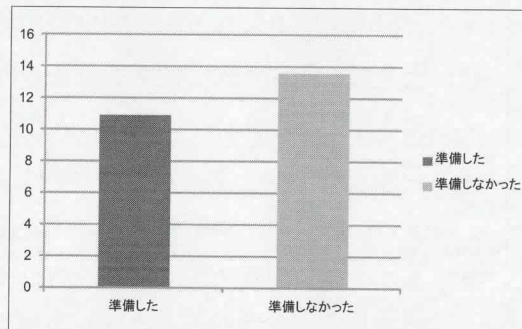


図8. 入院した日数（付問 44-1）と準備（問 6）



健康づくりのすすめ：自由記述欄より

- 生活習慣病の恐ろしさを徹底しておかないと定年後の生活が大変です。
- 定期の健康診断を継続して受診できたら有り難い。
- 明るく元気な前向きな社風の醸成、維持をお願いします。
- 在職中においては年相応の無理のない業務で健康に過ごせるようご配慮頂きたい。55歳を過ぎても同じ期待値では辛いと思われる。
- 腰を痛める人が多いように思えます。私も腰のヘルニアでブロック注射を打っています。若い時から無理をしている人は定年ごろにガタが来ますので社員専用のジム等でインストラクターを起用して健康管理してほしい。
- 体調の定期チェック（歯科、脳ドック等）、集中できる趣味・健康維持の運動習慣が必要。
- 健康第一。考え方を全てプラス思考で対応する。苦しい事、つらい事もプラスに変えると全て良くなる。
- 40歳を過ぎたら、まず健康増進と体力づくりが必要。50歳位～定年までの間に血液検査でNGのものは基準値に入る様にして下さい。例えば、高血圧、高尿酸、高血糖。追加として前立腺P S Aを検査しておく必要があります。

5. 「自発的に」働きゆったり暮らす

在職時に「仕事を生きがい」に感じていた人は、退職後の就労意識が高く、仕事を続けたいと望む傾向がある。定年退職後も働いている人の幸福度は総じて高い（図9）。

図9. 現在の就業状態（問16）と幸福度（問37）

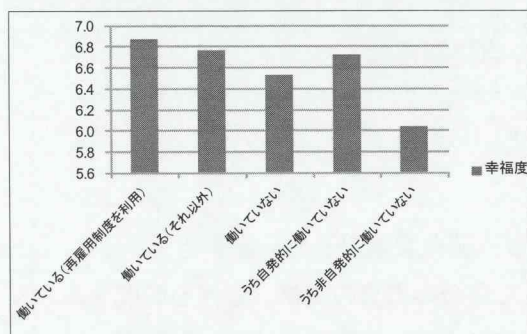
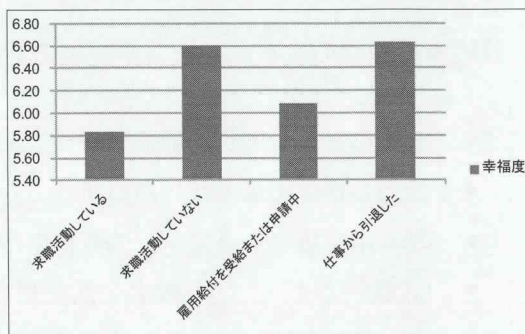


図10. 現在の状況（問16-7）と幸福度（問37）

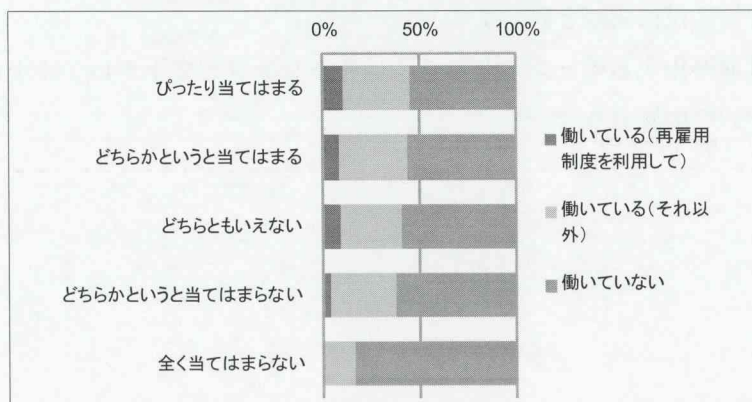


一方、働いていない人のうち、自発的に働いていない人の幸福度は高く（図10）、引退して仕事以外の活動領域に移りたい人も少なくない。いずれにおいても「自発的な」活動が満足度や幸福度を高めるので、在職時から就労意識や暮らしの好みを見極めて、退職後に備えておく必要がある。

6. 定年後の中期的な人材活用・能力発揮を考える

65歳以上の退職・再雇用者に限定して、在職時（50歳頃）の就労意識と現在の就業状態をみると、「仕事を生きがい」に感じていた人は、年金受給年齢に関係なく働いている人が多い（図11）。

図11. 退職・再雇用者の在職時（50歳頃）の就労意識（「仕事こそ生きがい」問4）と現在の就業状態（問16）65歳以上に限定した場合



また、自由記述欄によれば、退職後の仕事の充実、職探しの円滑さの面から、公的な資格取得等を勧める声が多い。したがって、年金受給までの雇用延長だけでなく、定年後 10 年程度のキャリア形成も視野に入れた人材活用・育成（例えば、公的資格取得や中小企業への転職の支援等）を労使双方で考える必要があろう。

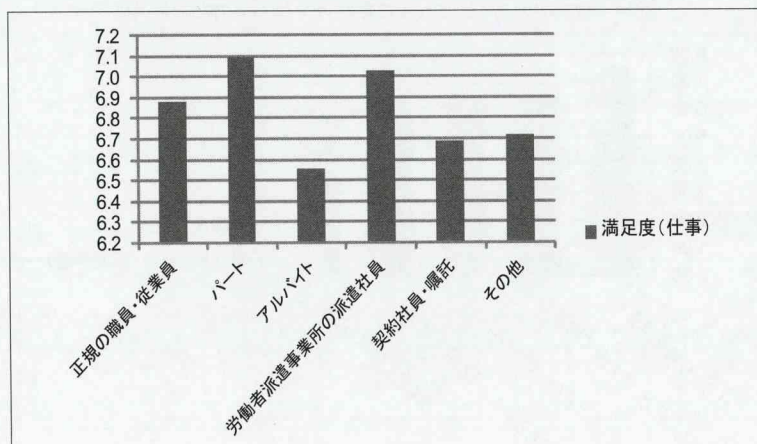
公的資格取得のすすめ、技能や経験の活用：自由記述欄より

- お金になる公的資格取得はやっておくといいですよ。
- 公的資格は出来るだけ取得する方が良い。
- 職の中を広める為に、公的資格の取得も大切な要素だと思います。
- 50 歳後半より、定年後の生活を想定した場合の自分の資格、勉強を時間をみて、年休を使って、やるべきでしょう。私は農業や専門校への入学等をやり、現在があると思います。
- 私は定年後、電子製品製造の経験を生かし指導してほしいと頼まれました。現場一筋の仕事でしたが、トヨタ生産方式のうわべだけでなく、底辺から成り立っている仕組みや進め方の経験を基に教え、喜んでいただきました。
- 60 歳以降が人生の真の勝負どこだ。働くための特技、資格を取るよう心掛ける事が必要（自分にあった資格、中広く世間の全ての職種から選択し楽しみが味わえるように進むと良いと思います）。
- 退職後に社会に恩返しするために（１）仕事面ではモノづくりの「生産の仕組み、人の効率、目で見える管理の道具等」を各社に指導できる技術を身につける。（２）特技（例えば陸上指導等）を身に付け、指導できるようにしておく。
- 製造現場の管理技術、品質保証、生産性、無駄排除手法を身に付けていると、子会社等で役に立つと思います。
- 資格は取得出来るチャンスがある時はチャレンジして下さい ※上司によりチャンスの増減あり。

7. 健康状態や就業意欲を包括的に考慮した処遇を考える

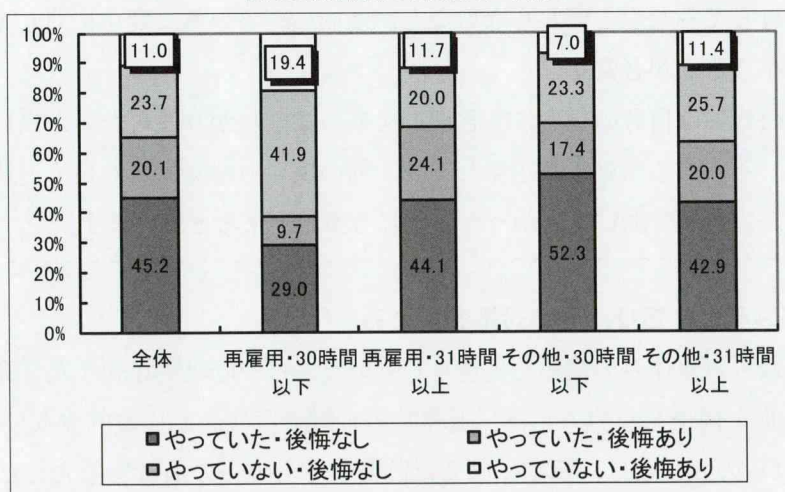
退職・再雇用者の雇用形態別に仕事の満足度をみると、パートや労働者派遣事業所の派遣労働者の満足度が高く、正規の職員・従業員や契約社員・嘱託は必ずしも高くはない（図12）。正社員、契約・嘱託社員の多くはフルタイムの労働者であるが、その働き方や処遇が十分ではないことを示唆している。

図12. 雇用形態（付問16-2）と満足度（仕事、付問38-3）



一方、パートタイム労働者については、「就労（再雇用制度）・30時間以下」でみると、「全体」と比較して、在職時に健康管理や体力づくりに注意しておらず、それを後悔している人の割合が高い（図13）。以上のように、健康管理・就労状態と仕事の満足度には関連があり、これらを包括的に考慮した処遇を考える必要があるだろう。

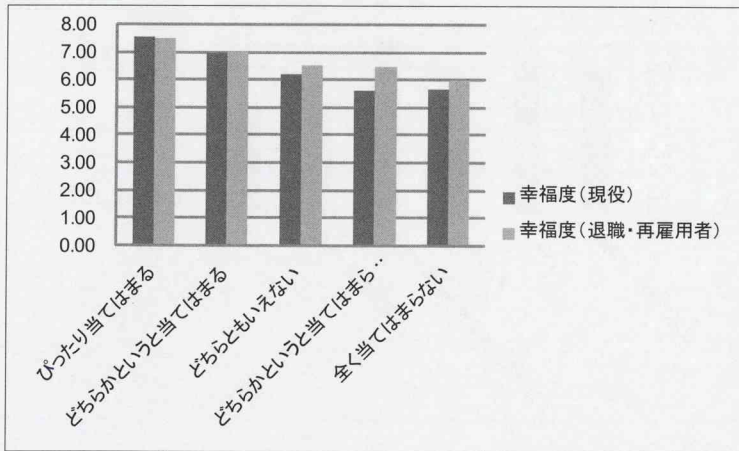
図13. 就労状態と健康管理の状況



8. たまには新しいこと・違ったことをやってみる

退職後の生活における心構えにおいて、「新しいことを人に先駆けて試みる」人の幸福度はそうでない人に比べて総じて高い（図14）。退職後のチャレンジやひと区切りつけることの大切さは自由記述欄からもうかがえる。「やり方を守る」ことで幸福感を得ている人びとも、適度に新たなことに挑戦して、仕事や生活に活力を与えることが望ましい。

図14. 何か新しいことを人にさきがけて試みる方だ（問41）



新しいことにチャレンジすることのすすめ：自由記述欄より

- あらゆることにチャレンジして身につけておくことが肝要です。後は自分の人生です。いかに前向きに行動するかという自分のやる気です。お互いががんばりましょう。
- 退職はしてみないと解からないことが多い。いろいろな変化に対してついていく柔軟さが必要だ。
- 現役時代には自分の仕事に生きがいを持ってしっかり働いた方が良いと思います。そうする事により定年した時、何の悔いもなく気持ち良く退社出来ます。この会社で働けてよかったと感じる事が出来ると思います。

9. 自分の好みをよく知り、その対策を講じる

せっかちな人（夏休みの宿題を先送りしていた人）や危険愛好的な人（降水確率が高くないと傘を携帯しない人）は、退職時の金融資産残高が比較的少ない（図15、図16）。これらの人びとは、将来に備えた貯蓄よりも現在の消費を優先したり、将来の

生活リスクを過小に評価したりするおそれがある。会社説明会は、これらの人びとに対しても、退職後の準備を促す効果があるものの、それでも退職後準備が進まない人に対して、例えば、給与天引きによる貯蓄（あるいは給与の振込口座を複数に分ける）を標準設定にする等の措置も必要であろう。

図 15. 退職時の金融資産残高（万円、問 9）と
先延ばしの態度（問 39）

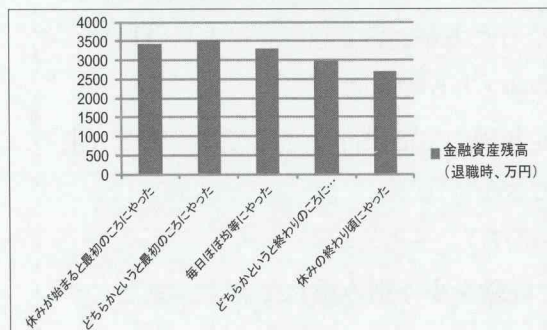
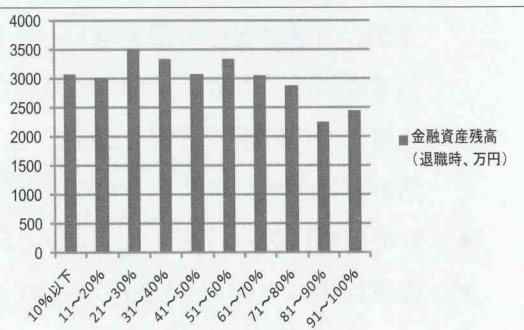


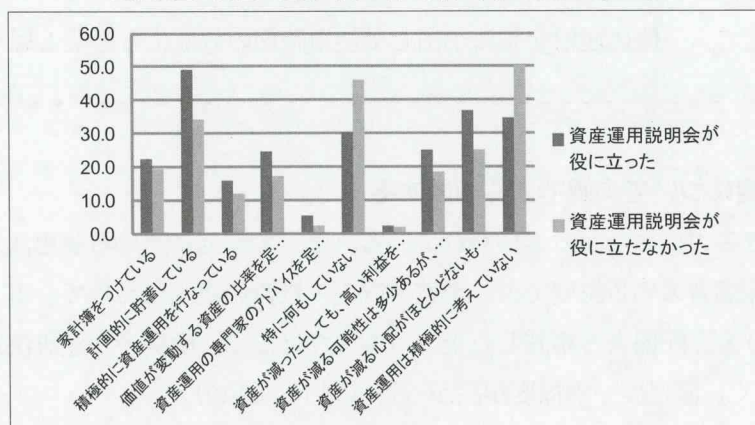
図 16. 退職時の金融資産残高（万円、問 9）と
傘を持って出かける降水確率（%）（問 40）



10. 資産運用の考え方を学んで身につける

人びとは資産運用に積極的とはいえない一方、資産運用は必ずしも個人のリスク選好だけで決定されるわけでもない。図 17 によれば、会社の資産運用説明会等が資産の運用の考え方にある程度影響を与えている。とくに、退職後の生活資金・資産の運用について、「計画的に貯蓄している」「特に何もしていない」の項目での差が大きい。また、自由記述欄からも、資産運用の重要性について多くの声が寄せられている。以上から、退職後も継続的に資産運用を考える機会が提供されることが望ましい。

図 17. 資産運用説明会の評価（問 13）と
生活資金・資産の運用（問 18）、今後の資産の運用（問 19）



資産運用、その学習のすすめ：自由記述欄より

- 資産運用で投資信託等は信用できそうで大丈夫であるかの説明をうけても、短期的でなく5～10年先の世間～世界の状況（政治、経済、動向、予想）を十分考慮して投資する事。
- 平均寿命が長くなり、年金問題（赤字になるらしい）もあり、現役中に、何らかの方法で老後の蓄えをしっかりとった方がいいと思う。子ども（孫）へ気楽に援助できるし、自分の気持ちのゆとりができる。
- 定年までの貯蓄額目標を設定して、定年後の生活設計を立てておくこと（生活の質はなかなか低下させることはできない）。
- 貯金や自社株の購入（少しずつで良いから）。
- 資産運用について30歳位から知って経験を少々積み重ねておく。また、ライフ計画を持つ。
- 5年後、10年後の将来が見えないので、いかなる時にも対応出来るよう貯金をしていく事。
- 老後の生活設計を40歳台で立てておいた方がよい。特に生命保険は若いうちに安い金額の時に入っておいた方がよい。
- 他人と絶対交際しない人は別にして、交際費は自分の近所では月5万円くらいは必ずいる。厚生年金の他、個人年金もいくつか掛けておくこと。貯蓄をして将来に備えるよう。今が良ければいいは駄目です（経験から）。
- 定年退職した時期により運、不運が決まる事が多々ある。定年後の人生も長くあるため、退職金等まとまった金を貯蓄、ファンド、金（ゴールド）等に分散して、一機に運用せずに小出しで使用時期の分散化も必要と思う。

11. 貯蓄・投資について夫婦でよく相談する

選択は生きる力につながるといわれている。そこで家庭における意思決定を分析してみると、配偶者のいる家庭では、消費や貯蓄・投資の決定において、本人が単独で決定するよりも、配偶者と相談した上で（本人ではなく）配偶者が意思決定する人ほど、（仕事を除く）満足度や幸福度が高かった（図18、図19）。

図 18. 家計の消費の決定における夫婦の役割（問 24）と
幸福度（問 37）、満足度（問 38）

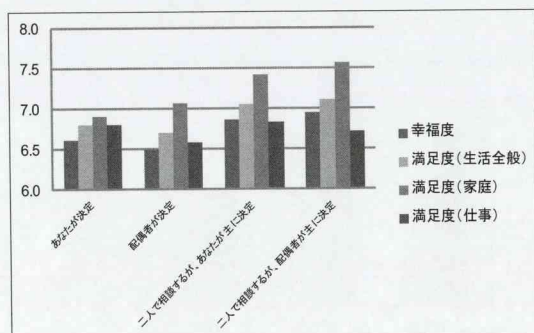
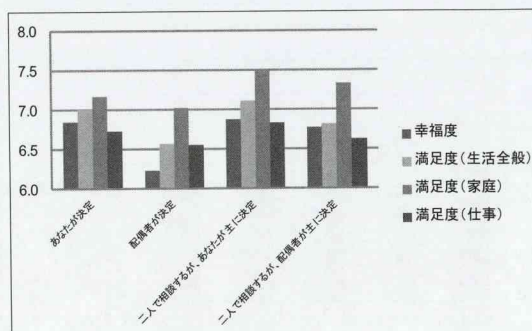


図 19. 家計の貯蓄・投資の決定における夫婦の役割（問 24）
と幸福度（問 37）、満足度（問 38）



自由記述欄からも、配偶者との相談する機会を現役のときから設けておくことが退職後の暮らしをイメージする上で重要であるとの意見がある。退職後の暮らしにおいては、難しい選択や不慣れな判断を迫られるときがあるが、夫婦で相談し合うことによって、この苦痛を軽減することが大事である。

夫婦で相談することのすすめ：自由記述欄より

- 50 歳くらいまでには奥さん、家族と老後（退職後）の話し合いをして相互理解を図っておくとよい。①収入／資産運用②お互いの生活のペース③共通の趣味をつくっておく④連れ合いを亡くしてからの生活、等々。
- 40 歳頃に夫婦でライフプランについて話し合うと良い（私はしっかり検討しました）。
- 定年退職後の事を夫婦で良く考えて計画を立て推進して下さい（定年後では遅いです）。将来のイメージをつくりあげておく事。

12. 家族、友人、近所づきあい等の「社会関係資本」を構築する

退職して職場を離れると、家庭や地域を中心とした生活が始まる。この移行を円滑にするためにも、在職時から家庭や地域での居場所を作っておくことは有効である。本調査によれば、配偶者や子どもがいる、友人・仲間の人数が多い（図 20）、近隣や地域社会との付き合いを増やす準備をしたという人ほど（図 21）、満足度や幸福度が高い。これらの社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）は、暮らしの豊かさにつながるので、在職時から退職後に向けて十分に準備しておくことが望ましい。

図 20. 友人・仲間の人数（問 9）と幸福度（問 37）

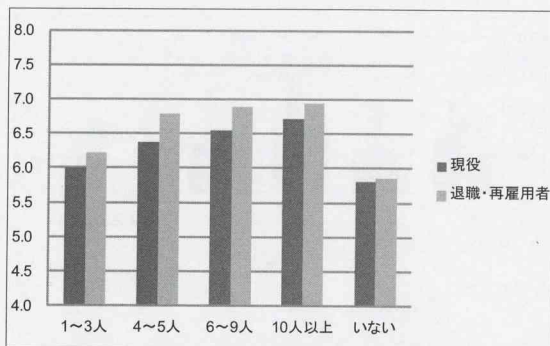
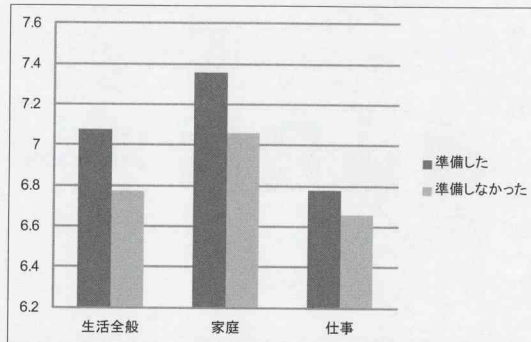


図 21. 在職時定年退職後に備えて、近隣や地域社会との付き合いをやしたか（問 6）と現在の満足度（問 38）



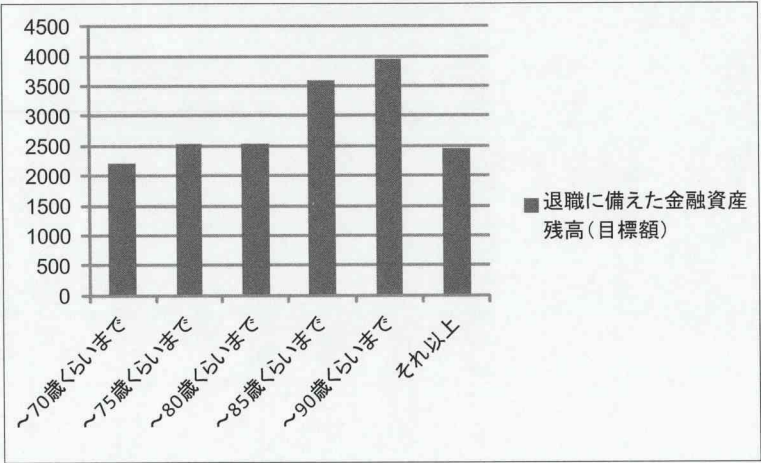
家族、友人、近所付き合いのすすめ：自由記述欄より

- 人間関係…人を好きになる心を持つ事。気にいらない、いやな人の批判は自分にとってもマイナスで、良いところだけを見る。おかげで私は上司にも仲間にも家族にも恵まれ最高の現役生活を過せ感謝で一杯です。今の仕事も皆さんからあてにされ、これも現役時代の教えのたまものと感謝しています。
- 近隣や地域の活動に積極的に参加して会社以外のつながりを作っておくことです。
- 地域活動への参加→定年後の継続性のある友人づくり。年齢を重ねてもできる趣味をつくる→定年後の心の豊かさの充実。
- 会社員という事で地域活動をしなくても良いという事ではない。出来るだけ参加すること。
- 現役の頃は自分のほとんどを会社関係に使い、仕事中心だったが、現役の頃から一つでいいから趣味を作り、それを通じた友人を作るべきだ。現役の頃から地域の人との交流に心がけ、定年後にスムーズに地域にとけ込む様にする。地域の仲間は定年後でも変わらず長く付き合える。会社の仲間は時間がたつと少しずつ遠くなる。
- 一生お付き合いのできる友人（地域の人、趣味の人、会社の同僚）をいろいろな分野の人達と幅広くお付き合いして人脈を作っておくことがいいと思います。

13. 余寿命を想定した上でいろいろな対応を考える

想定した以上に長生きして生活資金不足に陥ることは余寿命リスクと呼ばれている。こうしたリスクを認識して、余寿命の予想することは、退職時の金融資産残高とも関係してくる（図 22）。退職後にどれだけ生きるかという想定は、退職後の暮らしを考える上で不可欠といえる。

図 22. 余寿命予想（問 14）と
退職に備えた金融資産残高（目標額）（問 18）



第2部

各論

第2部 各論

第1章 アンケート調査単純集計

本調査では、定年後の生活をイキイキさせる要因を明らかにするため、アンケート調査の結果を分析する。定年後の生活を浮き彫りにするために、現役を対象とした調査と、定年退職者および再雇用者を対象とした調査を並行して実施した。ここでは、二つのグループを比較しながら、その特徴について、単純集計結果から見ていく。

第1節 調査対象者の属性

性別

本調査では、現役 470 名、退職者・再雇用者 945 名、合計 1415 名の対象者から回答が得られた。現役のうち（図 23）、男性は 436 名（92.8%）、女性は 22 名（4.7%）、性別不明 12 名（2.5%）、退職者・再雇用者のうち（図 24）、男性は 895 名（94.7%）、女性 38 名（4.0%）、性別不明 12 名（1.3%）である。回答者のほとんどが男性であることから、本調査の結果は、男性社員の現役および退職後の生活を反映したものとなる。

図 23. 性別（現役）（問 24.）

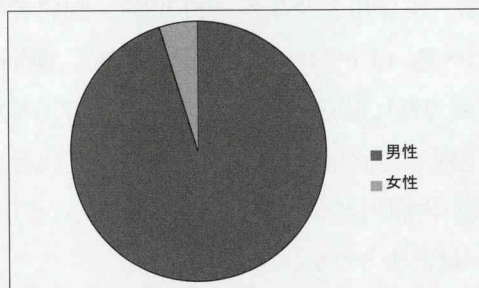
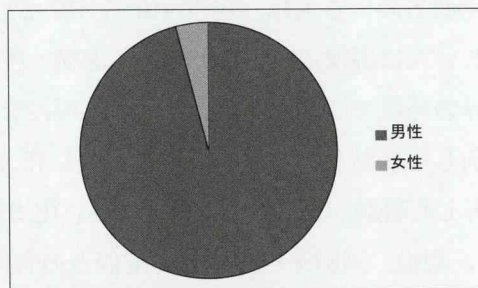


図 24. 性別（退職者&再雇用者）（問 23.）



年齢構成

対象者の平均年齢は、現役 57.2 歳、退職・再雇用者 64.6 歳である。年齢構成に注意すると、現役 360 名のうち、54 歳以下 6 名（1.7%）、55 歳 42 名（11.7%）、56 歳 65 名（18.1%）、57 歳 61 名（16.9%）、58 歳 65 名（18.1%）、59 歳 115 名（31.9%）、60 歳以上 6 名（1.7%）である（図 25）。退職・再雇用者 873 名では、60 歳以下 41 名（4.7%）、61 歳以上 63 歳以下 336 名（38.5%）、64・65 歳 198 名（22.7%）、66・67 歳 145 名（16.6%）、68・69 歳 91 名（10.4%）、70 歳以上 62 名（7.1%）である（図 26）。2006 年 4 月 1 日から施行された高年齢者雇用安定法の改正により、年金の支給開始年齢の段階的引き上げにあわせて、企

業は 65 歳までの雇用確保を義務づけられたが、この移行過程のために、本調査では、旧定年年齢の 60 歳の対象者が少なくなり、その前後の 59 歳または 61 ～ 63 歳の年齢層の対象者が多くなっている。現役はこれから退職または継続雇用を控えた 50 代後半の対象者である一方、2011 年時点の継続雇用の上限年齢は 64 歳であることから、退職・再雇用者の約 4 割は再雇用者であるといえる。

図 25. 年齢（現役とその配偶者）（問 27）.

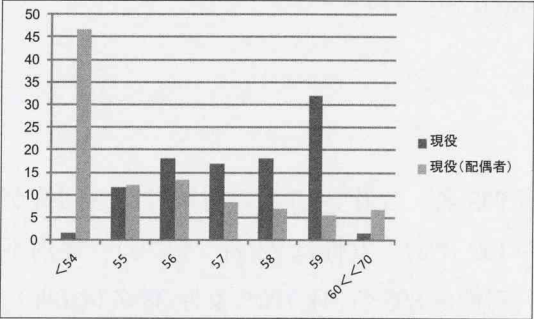
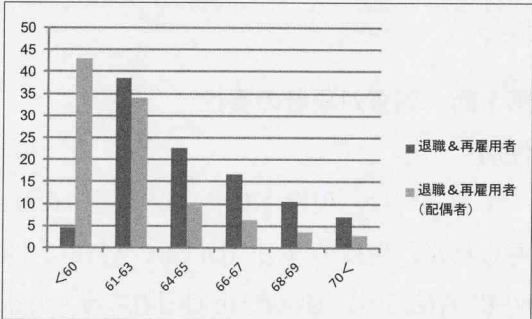


図 26. 年齢（退職&再雇用者とその配偶者）（問 26）.



配偶者の有無

配偶者のいる人は、現役 410 名（87.2%）、退職・再雇用者 859 名（90.9%）、配偶者のいない人は現役 49 名（10.4%）、退職・再雇用者 38 名（4.0%）であった（図 27）。離別・他界の経験では、いずれもない人が、現役 398 名（84.7%）、退職・再雇用者 827 名（87.5%）、離別した経験がある人が、現役 27 名（5.7%）、退職・再雇用者 30 名（3.2%）、配偶者が他界した経験がある人が、現役 13 名（2.3%）、退職・再雇用者 38 名（4.0%）であった（図 28）。現役、退職・再雇用者で配偶者の有無の違いはあまりない。

図 27. 配偶者（問 25、問 24）.

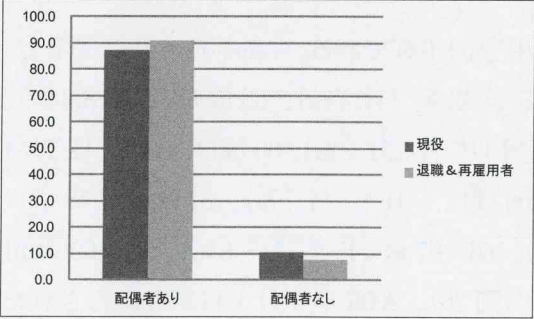
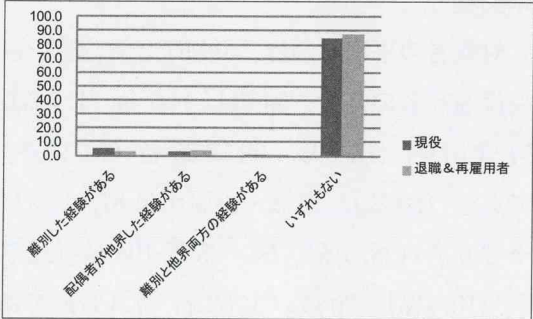


図 28. 配偶者との離別や他界（問 26、問 27）.

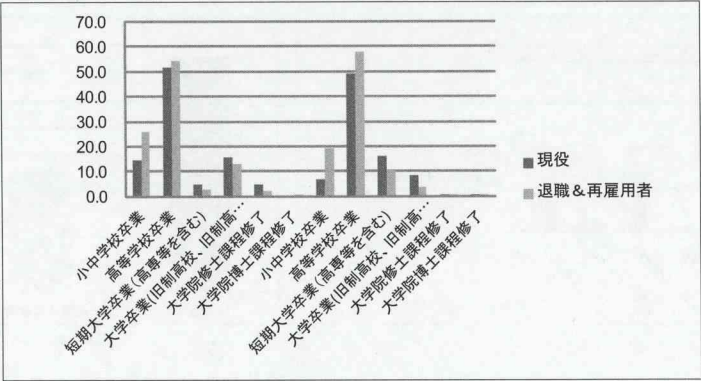


学歴

対象者の最終学歴については、現役では、小中学校卒業 68 名 (14.5%)、高等学校卒業 243 名 (51.7%)、短期大学卒業 (高専等を含む) 23 名 (4.9)、大学卒業 (旧制高校、旧制高等専門学校を含む) 74 名 (15.7%)、大学院修士課程修了 21 名 (4.5%) であり、退職・再雇用者では、小中学校卒業 243 名 (25.7)、高等学校卒業 514 名 (54.4%)、短期大学卒業 (高専等を含む) 23 名 (2.4%)、大学卒業 (旧制高校、旧制高等専門学校を含む) 124 名 (13.1%)、大学院修士課程修了 20 名 (2.1%)、大学院博士課程修了 2 名 (0.2%) である (図 29)。

退職・再雇用者のグループにおける小中学校卒業者、高等学校卒業者がやや多い。

図 29. あなたとあなたの配偶者が最後に卒業した学校 (問 28、27)



子どもの有無

現役のうち、子供がいない人 56 名 (11.9%)、子供がいる人 395 名 (84.0%、図 30)、子どもの数の平均 (図 31) は 2.2 人、最も下の子供の平均年齢は 24.6 歳である。退職・再雇用者では、子供がいない 85 名 (9.0%)、子供がいる 841 名 (89.0%)、子どもの数は平均 2.1 人、最も下の子供の平均年齢は 32.0 歳である。

図 30. 子どもの状況について (問 31、問 30)

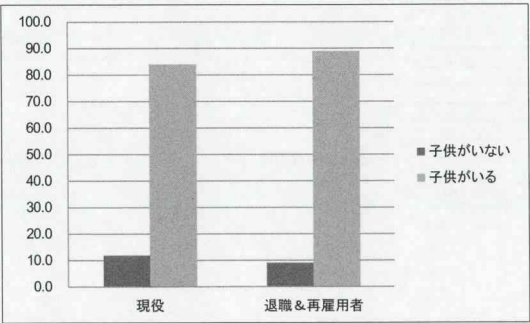
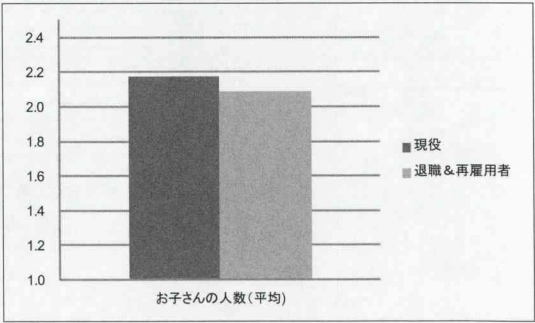


図 31. 子どもの人数 (平均) (問 31、問 30)



家族形態

同居している家族形態（図 32）について、現役は、単身 35 名（7.4%）、夫婦だけ 94 名（20.0%）、夫婦と子供 207 名（44.0%）、片親と子供 6 名（1.3%）、夫婦と子供と親 65 名（13.8%）、夫婦と子供と孫 14 名（3.0%）、それ以外 36 名（7.7%）である。退職・再雇用者は、単身 39 名（4.1%）、夫婦だけ 359 名（38.0%）、夫婦と子供 292 名（30.9%）、片親と子供 19 名（2.0%）、夫婦と子供と親 62 名（6.6%）、夫婦と子供と孫 89 名（9.4%）、それ以外 73 名（7.7%）である。世帯人数の平均（図 33）は、現役 3.4 人、退職・離職者 2.9 人である。現役は、夫婦と子供の世帯、退職・離職者は、夫婦のみの世帯が最も多い。

図 32. 同居しているご家族の家族形態（問 29、問 28）

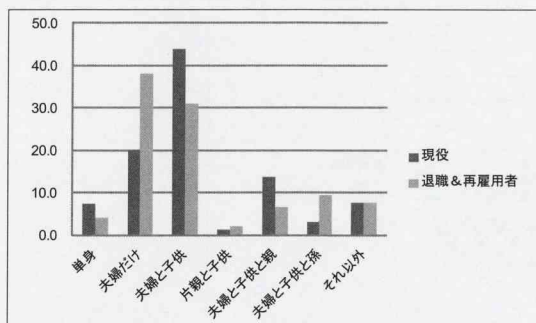
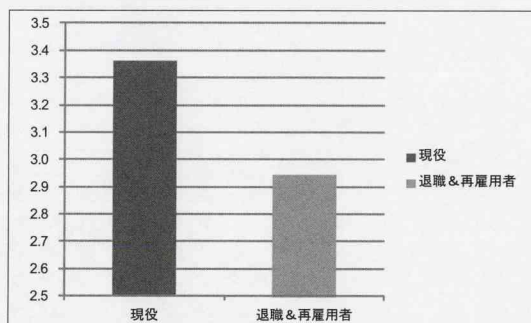


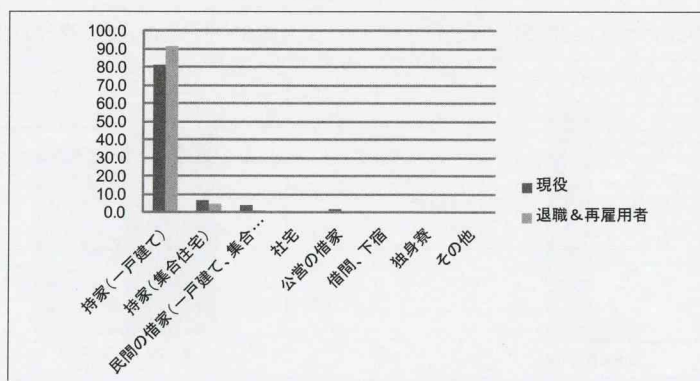
図 33. 世帯の人数（問 30、問 29）



現在の住まい

対象者の住まいについて、現役は、持家（一戸建て）383 名（81.5%）、持家（集合住宅）33 名（7.0%）、民間の借家（一戸建て、集合住宅）19 名（4.0%）、公営の借家 8 名（1.7%）、退職・再雇用者は、持家（一戸建て）868 名（91.9%）、持家（集合住宅）45 名（4.8%）、民間の借家（一戸建て、集合住宅）14 名（1.5%）、公営の借家 1 名（0.1%）である（図 34）。いずれのグループも持家率が高く、特に、退職・再雇用者の 96.7%が持家である。

図 34. 現在の住まい（問 33）



月々の収入

月々の収入については、現役には、「勤労収入」、「その他収入」、「それらの合計」、退職・再雇用者には、これらのほかに「年金収入」も質問した。月々の勤労収入（図 35）について、現役 427 名の平均は 35 ～ 40 万円未満であり、10 万円未満 1 名（0.2%）、10 ～ 15 万円未満 3 名（0.6%）、15 ～ 20 万円未満 11 名（2.3%）、20 ～ 25 万円未満 22 名（4.7%）、25 ～ 30 万円未満 53 名（11.3%）、30 ～ 35 万円未満 72 名（15.3%）、35 ～ 40 万円未満 55 名（11.7%）、40 ～ 45 万円未満 43 名（9.1%）、45 ～ 50 万円未満 50 名（10.6%）、50 万円以上 117 名（24.9%）である。これにその他収入を合わせた月々の収入合計の平均は、勤労収入と同じく 35 ～ 40 万円未満であり、現役世代の収入のほとんどは勤労収入であるため、月々の収入合計は、勤労収入の分布に似ている。退職・再雇用者においては、月々の勤労収入の平均は 10 ～ 15 万円未満であり、勤労収入なしの人は 20.5%いる（194 名）。勤労収入では、10 万円未満 120 名（12.7%）、10 ～ 15 万円未満 107 名（11.3%）が多い。一方、月々の年金収入は、10 万円未満 130 名（13.8%）、10 ～ 15 万円未満 92 名（9.7%）、15 ～ 20 万円未満 94 名（9.9%）、20 ～ 25 万円未満 210 名（22.2%）、25 ～ 30 万円未満 154 名（16.3%）、30 ～ 35 万円未満 91 名（9.6%）、35 ～ 40 万円未満 30 名（3.2%）、40 ～ 45 万円未満 12 名（1.3%）、45 ～ 50 万円未満 6 名（0.6%）、50 万円以上 6 名（0.6%）である。月々のその他の収入では、なし 288 名（30.5%）と最も多いが、10 万円未満も 202 名（21.4%）と少なからず存在する。これらを合わせた月々の収入合計（図 36）では、30 ～ 35 万円未満 156 名（16.5%）、25 ～ 30 万円未満 130 名（13.8%）が多い。現役は、勤労収入が収入のほとんどすべてを占めるが、60 歳代の退職・再雇用者では、勤労収入と年金収入を合わせることで、現役の収入の分布に近くなる。現役には月々 50 万円以上の人が多いが、退職・再雇用者ではその割合が小さく、退職後の勤労収入が減少する可能性を示唆している。

図 35. 月々の勤労収入（問 34）

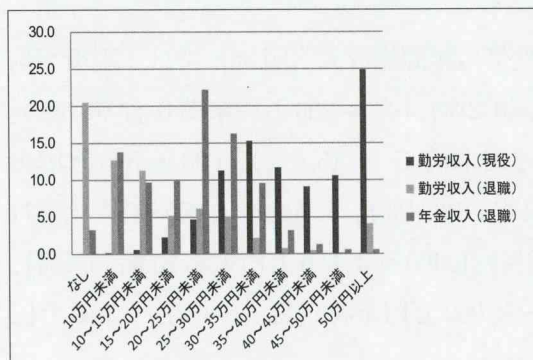
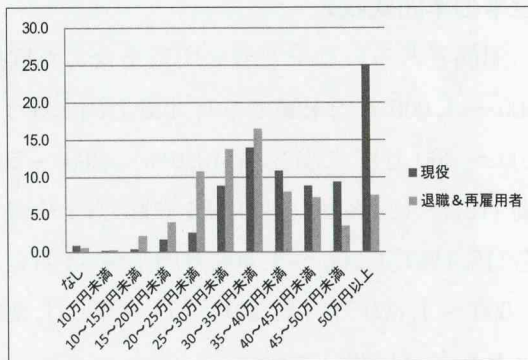


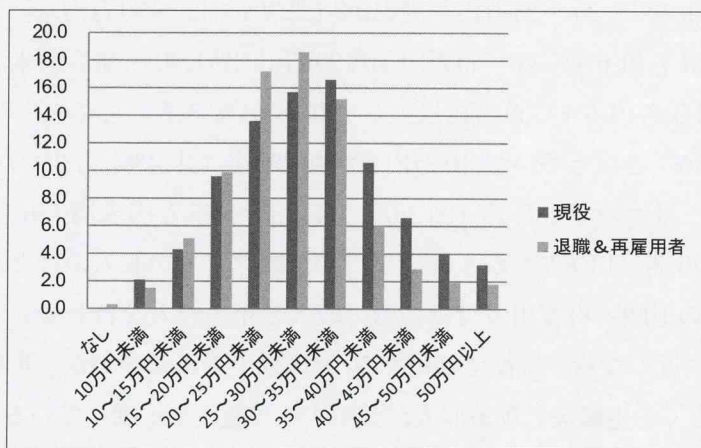
図 36. 月々の収入合計（問 34.A+B, A+B+C）



月々の支出（日常生活費）

月々の支出（図 37）について、日常生活にかかる費用を質問した。現役では、平均 25 ～ 30 万円未満であり、10 万円未満 10 名（2.1%）、10 ～ 15 万円未満 20 名（4.3%）、15 ～ 20 万円未満 45 名（9.6%）、20 ～ 25 万円未満 64 名（13.6%）、25 ～ 30 万円未満 74 名（15.7%）、30 ～ 35 万円未満 78 名（16.6%）、35 ～ 40 万円未満 50 名（10.6%）、40 ～ 45 万円未満 31 名（6.6%）、45 ～ 50 万円未満 19 名（4.0%）、50 万円以上 15 名（3.2%）である。退職・再雇用者の月々の支出（日常生活費）は、平均で 20 ～ 25 万円未満であり、退職後に月 5 万円程度支出が減少している。その内訳は、10 万円未満 14 名（1.5%）、10 ～ 15 万円未満 48 名（5.1%）、15 ～ 20 万円未満 94 名（9.9%）、20 ～ 25 万円未満 163 名（17.2%）、25 ～ 30 万円未満 176 名（18.6%）、30 ～ 35 万円未満 144 名（15.2%）、35 ～ 40 万円未満 57 名（6.0%）、40 ～ 45 万円未満 27 名（2.9%）、45 ～ 50 万円未満 18 名（1.9%）、50 万円以上 17 名（1.8%）である。

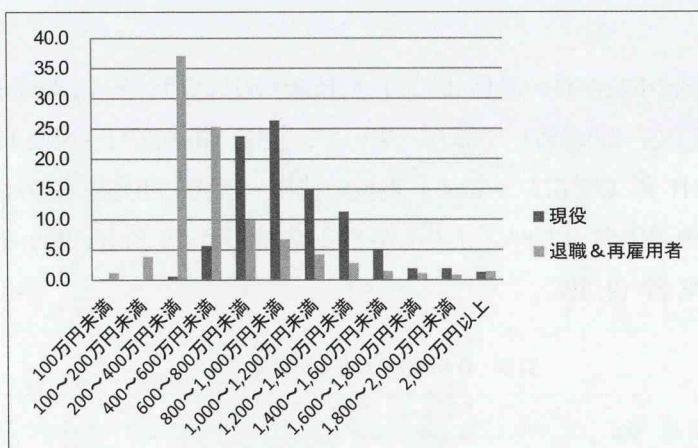
図 37. 月々の支出（問 37）



世帯の年間総収入

配偶者あるいは子どもの所得を含めた同居世帯の年間総収入（図 38）では、現役平均 800 ～ 1,000 万円未満であり、100 万円未満 1 名（0.2%）、100 ～ 200 万円未満 0 名（0.0%）、200 ～ 400 万円未満 3 名（0.6%）、400 ～ 600 万円未満 27 名（5.7%）、600 ～ 800 万円未満 112 名（23.8%）、800 ～ 1,000 万円未満 124 名（26.4%）、1,000 ～ 1,200 万円未満 71 名（15.1%）、1,200 ～ 1,400 万円未満 53 名（11.3%）、1,400 ～ 1,600 万円未満 24 名（5.1%）、1,600 ～ 1,800 万円未満 9 名（1.9%）、1,800 ～ 2,000 万円未満 9 名（1.9%）、2,000 万円以上 6 名（1.3%）である。

図 38. 世帯全体の 2010 年の税込み年間総収入（問 35）



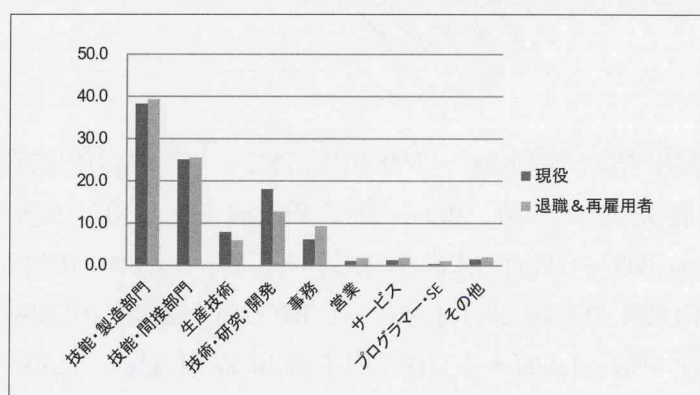
一方、退職・再雇用者は、平均 400 ～ 600 万円未満であり、100 万円未満 11 名 (1.2%)、100 ～ 200 万円未満 37 名 (3.9%)、200 ～ 400 万円未満 351 名 (37.1%)、400 ～ 600 万円未満 239 名 (25.3%)、600 ～ 800 万円未満 94 名 (9.9%)、800 ～ 1,000 万円未満 63 名 (6.7%)、1,000 ～ 1,200 万円未満 40 名 (4.2%)、1,200 ～ 1,400 万円未満 26 名 (2.8%)、1,400 ～ 1,600 万円未満 14 名 (1.5%)、1,600 ～ 1,800 万円未満 10 名 (1.1%)、1,800 ～ 2,000 万円未満 8 名 (0.8%)、2,000 万円以上 13 名 (1.4%) である。退職・再雇用者では、200 ～ 400 万円未満が 37.1% と最も多く、定年退職による収入の減少に加えて、子どもが独立して夫婦のみの世帯となっている等、家族構成の変化を反映していると思われる。

第2節 現在の仕事（現役）、在職時の状況（退職者・再雇用者）

職種

対象者の最も経験年数が高い職種（図39）は、技能・製造部門が多く、現役180名（38.3%）、退職・再雇用者371名（39.3%）であり、次いで、技能・間接部門（現役118名（25.1%）、退職・再雇用者241名（25.5%）が続く。現役の技術・研究・開発従事者は84名（18.1%）と退職・再雇用者の121名（12.8%）よりもやや多く、事務が29名（6.2%）とやや少ない（退職・再雇用者は88名（9.3%））。

図39. 最も経験年数が高い職種（問2）



経験年数、役職

対象者の経験年数（図40）では、平均的には現役、退職・再雇用者ともに、21～30年であるが、30年以上の対象者が、現役264名（56.2%）、退職・再雇用者647名（68.5%）と最も多い。これまでの役職（図41）では、現役では、一般190名（40.4%）、監督クラス相当（組長、班長等）76名（16.2%）、係長クラス相当（係長、工長等）48名（10.2%）、課長クラス相当98名（20.9%）、部・次長クラス相当以上57名（12.1%）、退職・再雇用者では、一般125名（13.2%）、監督クラス相当（組長、班長等）302名（32.0%）、係長クラス相当（係長、工長等）243名（25.7%）、課長クラス相当138名（14.6%）、部・次長クラス相当以上136名（14.4%）である。本調査の対象においては、現役では一般、課長クラス、退職・再雇用者では監督・係長クラスが多いことに留意しなければならない。

図 40. 経験年数の通算期間（付問 2-1）

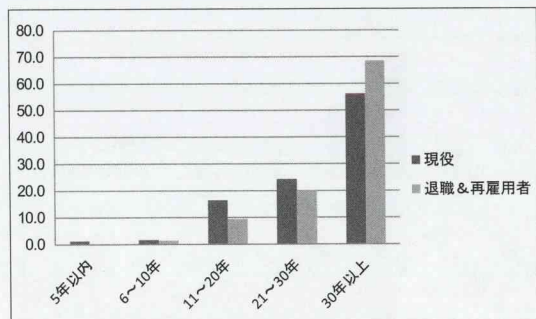
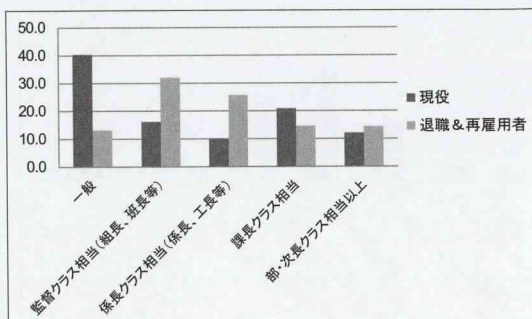


図 41. 役職（現役）、これまでの最高位の役職（退職）（問 3）



就労意識（現在、在職時）

対象者の就労意識について、現役と退職・再雇用者の双方に「仕事こそ生きがいである（であった）」、「仕事を通じて達成感を味わうことができる（できた）」、「仕事は単にお金を稼ぐ手段に過ぎない（なかった）」、「生活のために職場でつらいことがあっても我慢している（していた）」について、「ぴったり当てはまる」から「全く当てはまらない」の五段階で評価してもらった。「仕事こそ生きがい」（図 42）については、現役は「どちらともいえない」が 211 名（44.9%）、退職・再雇用者の在職時は「どちらかという当てはまる」が 396 名（41.9%）と最も多い。「達成感を味わう」（図 43）では、現役、退職・再雇用者の在職時ともに「どちらかという当てはまる」が最も多く、それぞれ 257 名（54.7%）、485 名（51.3%）である。「お金を稼ぐ手段」（図 44）に対しては、「どちらともいえない」人が現役 181 名（38.5%）、退職・再雇用者 357 名（37.8%）で最も多い。「生活のため我慢している（していた）」（図 45）に対して「どちらかという当てはまる」人は、現役 212 名（45.1%）、退職・再雇用者 400 名（42.3%）である。退職・再雇用者の在職時は、現役に比べて、仕事に生きがいを感じて、達成感を味わう傾向がやや高かったといえる。

図 42. 就労意識（現在、在職時）：仕事こそ生きがい（問 4.5）

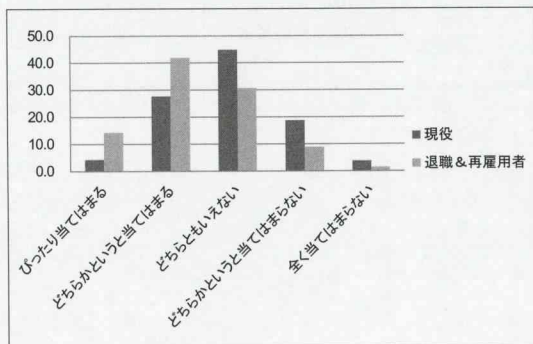


図 43. 就労意識（現在、在職時）：達成感を味わう（問 5.4）

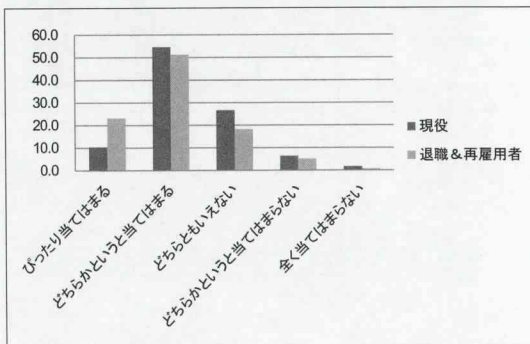


図 44. 就労意識（現在、在職時）：お金を稼ぐ手段（問4, 5）

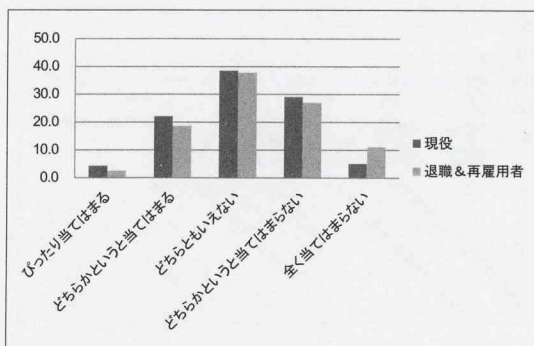
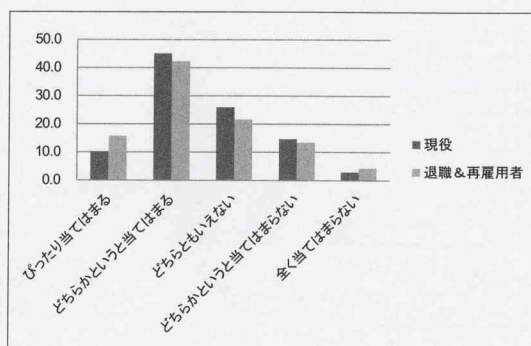


図 45. 就労意識（現在、在職時）：生活のため我慢（問4, 5）

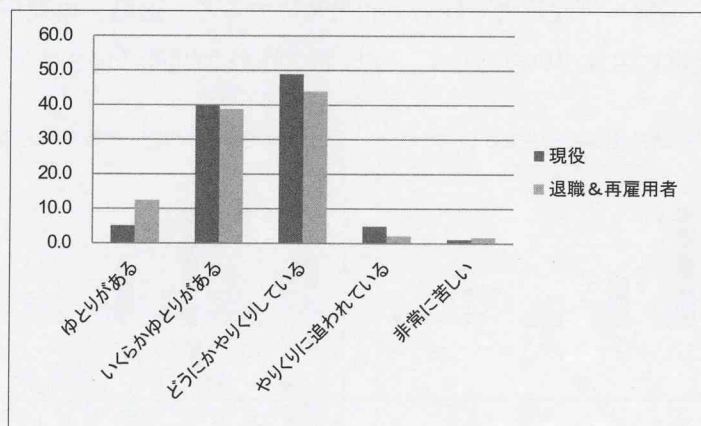


第3節 現在の生活（現役）や活動状況（退職者・再雇用者）

暮らしぶり

対象者の暮らしぶり（図 46）について、「ゆとりがある」から「非常に苦しい」まで5段階で評価してもらった。現役は、平均的には「いくらかゆとりがある」であり、「ゆとりがある」24名（5.1%）、「いくらかゆとりがある」187名（39.8%）、「どうにかやりくりしている」230名（48.9%）、「やりくりを追われている」23名（4.9%）、「非常に苦しい」5名（1.1%）である。退職・再雇用者も、平均的には「いくらかゆとりがある」であり、「ゆとりがある」117名（12.4%）、「いくらかゆとりがある」367名（38.8%）、「どうにかやりくりしている」415名（43.9%）。「やりくりを追われている」20名（2.1%）。「非常に苦しい」16名（1.7%）である。

図 46. 現在の暮らしぶり（問6, 16）



余暇の過ごし方

対象者の余暇の過ごし方（図 47）については、1 番の活動として、「趣味」が最も多く、現役 195 名（41.5%）、退職・再雇用者 369 名（39.0%）である。趣味の具体的な内容としては、釣り、ゴルフ、家庭菜園等が多い。次いで、現役は「家族との交流」104 名（22.1%）、「スポーツ活動」80 名（17.0%）、退職・再雇用者は「スポーツ活動」175 名（18.5%）、「家族との交流」65 名（6.9%）が続く。活動場所への移動手段（図 48）は、車が最も多く（現役 195 名（41.5%）、退職・再雇用者 416 名（44.0%））、平均所要時間は、現役 32.7 分、退職・再雇用者 28.3 分である。

図 47. 余暇の過ごし方（1，2 番の活動）（問 7，20）

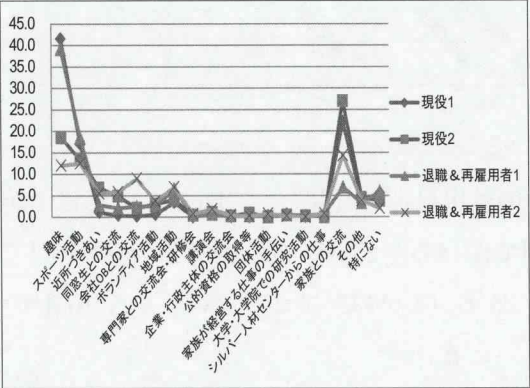
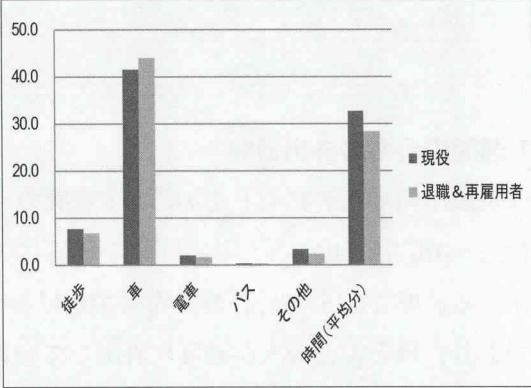


図 48. 活動場所への移動（付問 7-1，20-1）



友人・仲間の数、間柄

対象者の友人・仲間の数（図 49）については、現役は「1 ～ 3 人」149 名（31.7%）が最も多く、次いで、「4 ～ 5 人」139 名（29.6%）、「10 人以上」91 名（19.4%）の順であり、「いない」29 名（6.2%）と答えた人もいる。

その間柄（図 50）は、「学校時代の友人」134 名（28.5%）、「職場の同僚・元同僚」278 名（59.1%）、「近所の人」142 名（30.2%）、「趣味を通じた仲間」249 名（53.0%）、「その他」28 名（6.0%）である。退職・再雇用者では、「10 人以上」289 名（30.6%）が最も多く、「1 ～ 3 人」195 名（20.6%）、「4 ～ 5 人」250 名（26.5%）、「6 ～ 9 人」143 名（15.1%）、「いない」47 名（5.0%）である。間柄は、「学校時代の友人」288 名（30.5%）、「職場の同僚・元同僚」570 名（60.3%）、「近所の人」341 名（36.1%）、「趣味を通じた仲間」533 名（56.4%）、「その他」67 名（7.1%）である。

現役と退職・再雇用者では、友人・仲間の間柄に違いはほとんどないが、友人・仲間の人数が、現役は数名、退職・再雇用者 10 人以上とかなり異なる。これは、仕事以外の活動やその参加の仕方の違いによるものなのかもしれない。

図 49. 友人・仲間の人数 (問 8, 21)

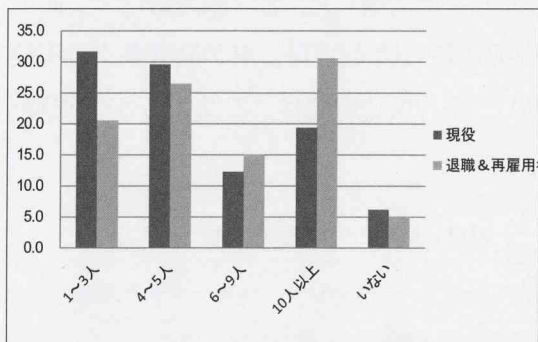
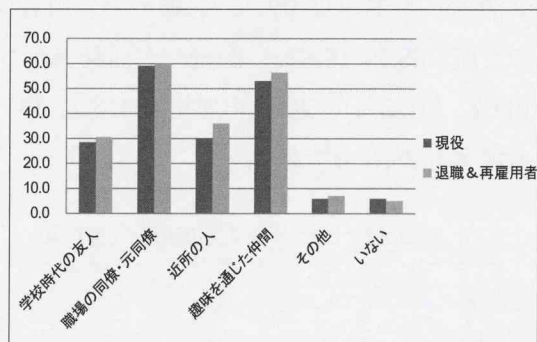


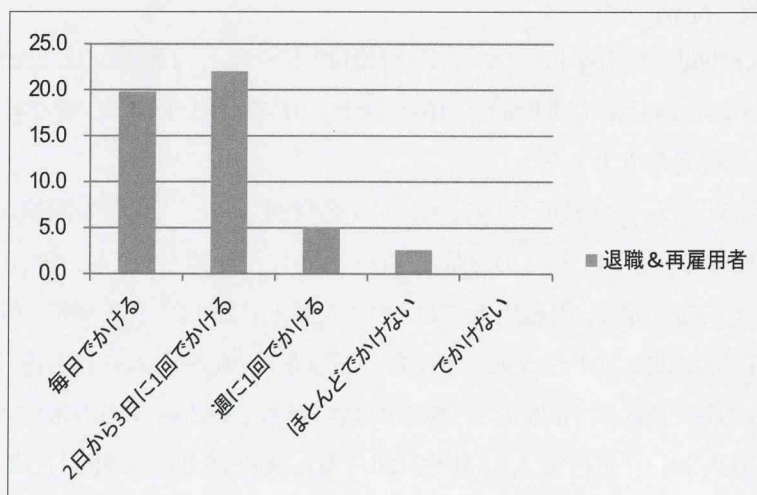
図 50. 友人・仲間の間柄 (問 9, 22)



1 週間のうちの外出日数

退職・再雇用者に対してのみ、1 週間のうちの外出日数を質問した (図 51)。「毎日でかける」187 名 (19.8%)、「2 日から 3 日に 1 回でかける」208 名 (22.0%)、「週に 1 回でかける」48 名 (5.1%)、「ほとんどでかけない」25 名 (2.6%)、「でかけない」1 名 (0.1%) であり、ほとんどの人が適度に外出しているといえる。

図 51. 一週間の内でどのくらい外出するか (付問 18- 1)



第4節 今後の予定（現役）

就業意欲

現役の就業意欲を二通り質問した。「いつまでも働きたいか」（図 52）に対して、「はい」340 名（72.3%）、「いいえ」128 名（27.2%）である。就業意欲の旺盛なグループと退職後はのんびり暮らしたいグループが存在する可能性を示唆している。「何歳まで働きたいか」（図 53）に対しては、現役は平均 64.7 歳まで、退職・再雇用者は平均 67.8 歳までである。これより、現役は年金受給年齢を考慮している一方、退職・再雇用者には、年金受給と就業の両立を考えている人がいると見受けられる。

図 52. いつまでも働きたいか（現役のみ、問 10）

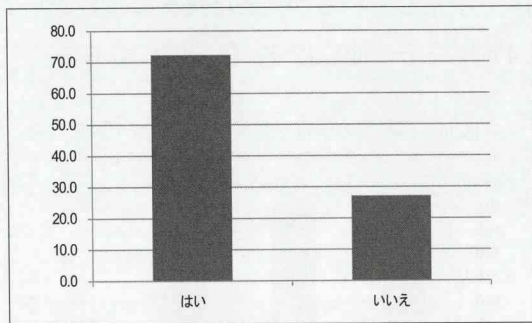
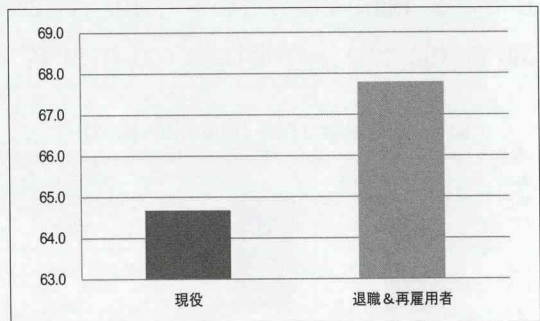


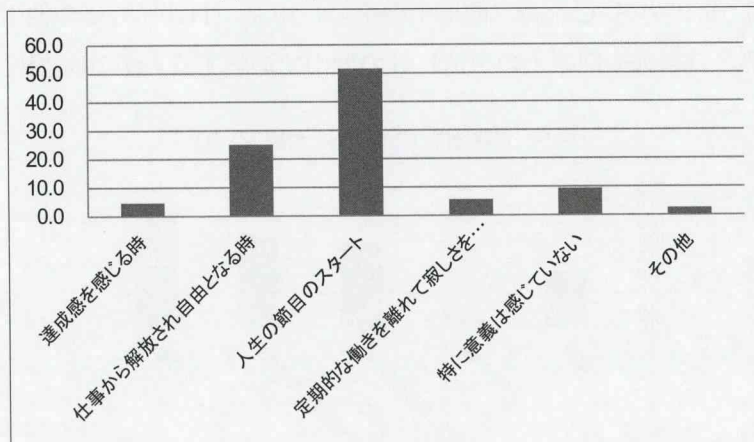
図 53. 何歳まで働きたいか（付問 16- 5）



定年に対する考え方

定年を控えた現役に対して、定年に対するいくつかの考え方から当てはまるものを 1 つ選んでもらった（図 54）。

図 54. 定年とは（現役のみ、問 12）



「達成感を感じる時」22名(4.7%)、「仕事から解放され自由となる時」118名(25.1%)、「人生の節目のスタート」243名(51.7%)、「定期的な働きを離れて寂しさを感じる時」27名(5.7%)、「特に意義は感じていない」44名(9.4%)、「その他」12名(2.6%)である。定年を人生の節目と前向きに考えて、新たなスタートを切りたいと考える人が多い。

定年退職と再雇用の見込み

定年を控えた現役に対して、定年退職と再雇用の見込みを質問した(図55)。定年退職は、「定年退職を見込んでいる」203名(43.2%)、「予定しているが、まだ決まっていない」246名(52.3%)、「定年の前に退職予定」1名(0.2%)である。再雇用は(図56)、「予定している(通知を受けている)」107名(22.8%)、「予定しているが、まだ決まっていない」246名(52.3%)、「予定していない」91名(19.4%)、「その他」12名(2.6%)である。

図 55. 定年退職の予定(現役のみ、問 13)

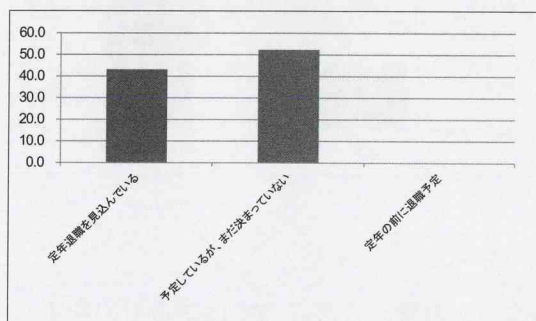
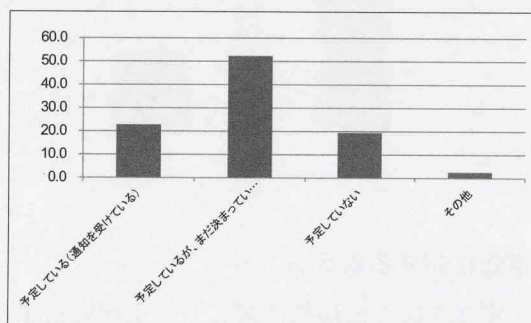
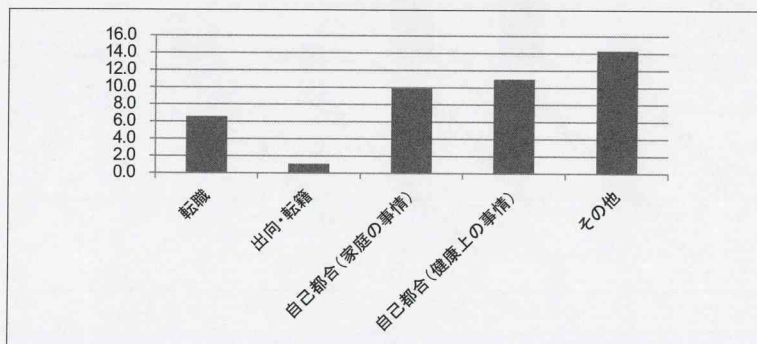


図 56. 再雇用の予定(現役のみ、付問 13- 2)



定年後、再雇用制度で働くことを「予定していない」と答えた91名に対して、退職理由を質問したところ(図57)、転職6名(6.6%)、出向・転籍1名(1.1%)、自己都合(家庭の事情)9名(9.9%)、自己都合(健康上の事情)10名(11.0%)、その他13名(14.3%)である。自己都合(家庭や健康上の事情)等の理由で退職する人が20%程度である。

図 57. 退職理由(現役のみ、付問 13- 3)

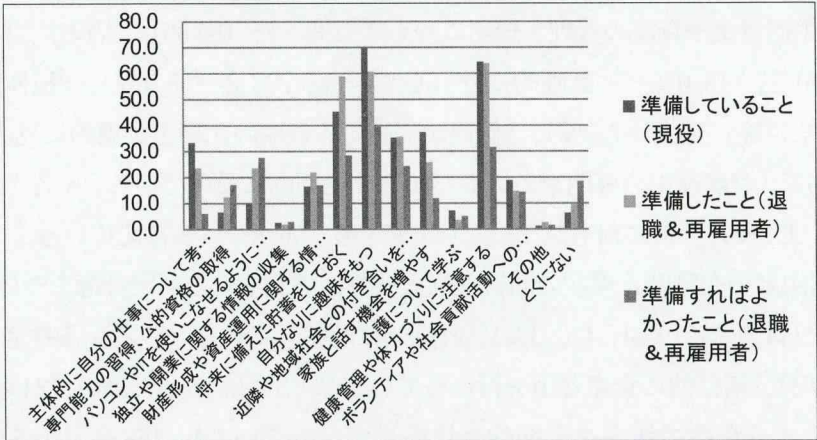


第5節 定年退職への備え（現役、退職・再雇用者）

定年退職後の就労や生活に備えての準備

現役に対して、定年退職後の就労や生活に備えての準備について質問した（図58）。「自分なりに趣味をもつ」328名（69.8%）が最も多く、以下、「健康管理や体力づくりに注意する」303名（64.5%）、将来に備えた貯蓄をしておく」213名（45.3%）、「家族と話す機会を増やす」176名（37.4%）、「近隣や地域社会との付き合いを増やす」166名（35.3%）、「主体的に自分の仕事について考える」157名（33.4%）、「ボランティアや社会貢献活動への参加」89名（18.9%）、「財産形成や資産運用に関する情報の収集」78名（16.6%）、「パソコンやITを使いこなせるようにする」46名（9.8%）、「介護について学ぶ」34名（7.2%）、「専門能力の習得、公的資格の取得」31名（6.6%）、「独立や開業に関する情報の収集」12名（2.6%）、「その他」6名（1.3%）、「とくにない」29名（6.2%）である。

図58. 定年退職後の就労や生活に備えての準備（現役、準備したこと（退職）、やっておけばよかったこと（退職）（問15、6、14）



一方、退職・再雇用者に対しては、「在職時に定年退職後の就労や生活に備えた準備」と「定年退職後にやっておけばよかったこと」の両方を質問した（図58）。「準備していたこと」の多い順に「やっておけばよかったこと」との回答比率を併記すると、「健康管理や体力づくりに注意する」604名（63.9%）、299名（31.6%）、「自分なりに趣味をもつ」574名（60.7%）、374名（39.6%）、「将来に備えた貯蓄をしておく」557名（58.9%）、268名（28.4%）、「近隣や地域社会との付き合いを増やす」337名（35.7%）、231名（24.4%）、「家族と話す機会を増やす」245名（25.9%）、112名（11.9%）、「パソコンやITを使いこなせるようにする」224名（23.7%）、261名（27.6%）、「主体的に自分の仕事について考える」223名（23.6%）、57名（6.0%）、「財産形成や資産運用に関する情報の収集」207名（21.9%）、

161名(17.0%)、「ボランティアや社会貢献活動への参加」138名(14.6%)、135名(14.3%)、「専門能力の習得、公的資格の取得」117名(12.4%)、163名(17.2%)、「介護について学ぶ」33名(3.5%)、47名(5.0%)、「その他」25名(2.6%)、15名(1.6%)、「独立や開業に関する情報の収集」18名(1.9%)、27名(2.9%)、「とくにない」91名(9.6%)、175名(18.5%)である。「健康管理や体力づくりに注意する」、「自分なりに趣味をもつ」、「将来に備えた貯蓄をしておく」は、「準備していたこと」と「やっておけばよかったこと」の両方で、上位に挙げられており、準備してもし過ぎることはない項目といえる。「準備していたこと」と「やっておけばよかったこと」のギャップに注目すると、「パソコンやITを使いこなせるようにする」や「専門能力の習得、公的資格の取得」は、退職前には準備の必要性はそれほど高くなかったが、退職後にこれらの有用性に気付いた人が少なくないといえる。

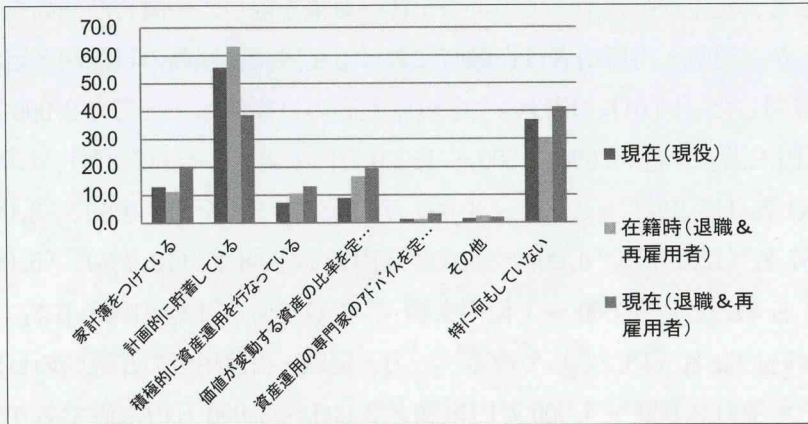
生活資金や資産の管理・運用

現役には現在の生活資金や資産の管理・運用について、退職・再雇用者には在職時と現在における生活資金や資産の管理・運用について質問した(図59)。現役は、「家計簿をつけている」61名(13.0%)、「計画的に貯蓄している」262名(55.7%)、「積極的に資産運用を行なっている」34名(7.2%)、「価値が変動する資産の比率を定期的に見直している」42名(8.9%)、「資産運用の専門家のアドバイスを定期的に受けている」6名(1.3%)、「その他」7名(1.5%)、「特に何もしていない」173名(36.8%)と答えている。

退職・再雇用者の在職時と現在の回答を選択肢毎に併記すると、「家計簿をつけていた(いる)」107名(11.3%)、192名(20.3%)、「計画的に貯蓄していた(いる)」597名(63.2%)、366名(38.7%)、「積極的に資産運用を行なっていた(いる)」99名(10.5%)、124名(13.1%)、「価値が変動する資産の比率を定期的に見直していた(いる)」158名(16.7%)、184名(19.5%)、「資産運用の専門家のアドバイスを定期的に受けていた(いる)」12名(1.3%)、30名(3.2%)、「その他」22名(2.3%)、19名(2.0%)、「特に何もしていなかった(いない)」282名(29.8%)、391名(41.4%)である。

これらの回答から、在職時の生活資金や資産の管理・運用では、「計画的に貯蓄している」人が多く、「特に何もしていない」人も少なくないが、いったん退職すると、貯蓄を取り崩して生活するため、計画的に貯蓄する割合が低下して、在職時よりも、「家計簿をつける」、「積極的に資産運用を行なっている」、「価値が変動する資産の比率を定期的に見直している」が増加する。その一方で、「特に何もしていない」人も増えている。

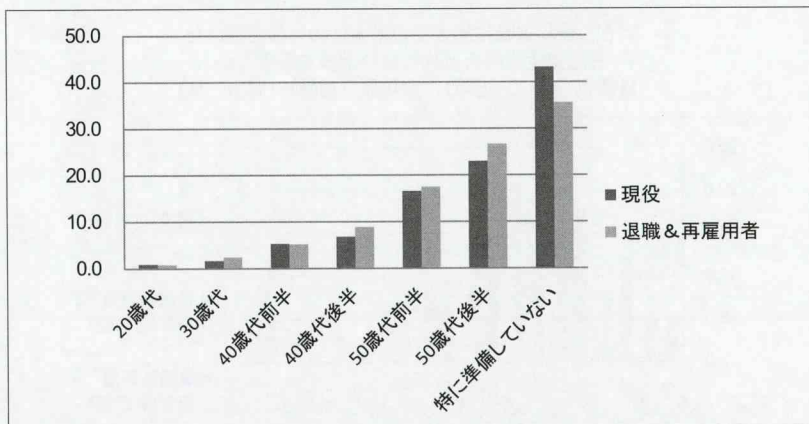
図 59. 生活資金や資産の管理・運用について（現在（現役）、在職時（退職）、現在（退職）（問 16, 7, 18）



退職後の準備を始めた年齢

退職後の準備を始めた年齢では（図 60）、現役は「20 歳代」4 名（0.9%）、「30 歳代」8 名（1.7%）、「40 歳代前半」25 名（5.3%）、「40 歳代後半」32 名（6.8%）、「50 歳代前半」78 名（16.6%）、「50 歳代後半」108 名（23.0%）、「特に準備していない」203 名（43.2%）、退職・再雇用者は、「20 歳代」8 名（0.8%）、「30 歳代」23 名（2.4%）、「40 歳代前半」49 名（5.2%）、「40 歳代後半」84 名（8.9%）、「50 歳代前半」165 名（17.5%）、「50 歳代後半」252 名（26.7%）、「とくに準備しなかった」336 名（35.6%）である。

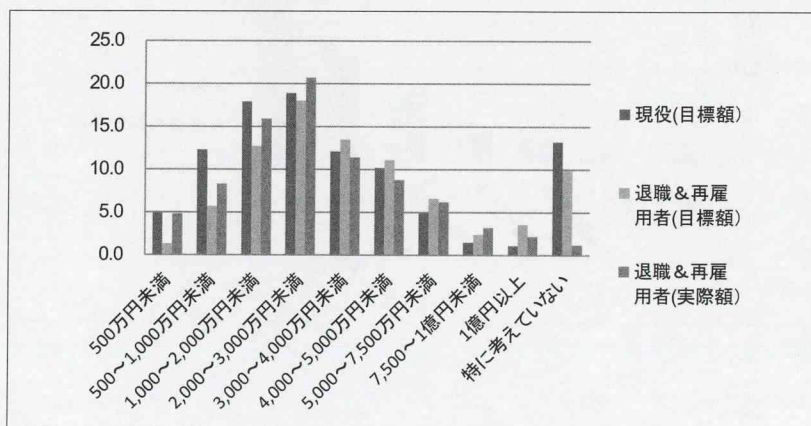
図 60. 何歳から定年退職の準備をはじめたか（問 17, 8）



定年退職に備えた準備と実際（金融資産残高）

現役に対して、定年退職に備えての世帯全体の負債を除いた金融資産残高をどれくらい準備する考えか、退職・再雇用者は在職時における金融資産残高の目標額と定年時における実際額を質問した（図 61）。現役の金融資産残高の目標額は、平均で 3,000 万円程度であり、「500 万円未満」23 名（4.9%）、「500 ～ 1,000 万円未満」58 名（12.3%）、「1,000 ～ 2,000 万円未満」84 名（17.9%）、「2,000 ～ 3,000 万円未満」89 名（18.9%）、「3,000 ～ 4,000 万円未満」57 名（12.1%）、「4,000 ～ 5,000 万円未満」48 名（10.2%）、「5,000 ～ 7,500 万円未満」23 名（4.9%）、「7,500 ～ 1 億円未満」7 名（1.5%）、「1 億円以上 5 名（1.1%）」、「特に考えていない」62 名（13.2%）である。一方、退職・再雇用者の在職時の目標額と実際額の平均はそれぞれ 3,000 ～ 4,000 万円未満と 2,000 ～ 3,000 万円未満であり、実際額が目標額を下回っている。目標額と実際額の分布は、「500 万円未満」12 名（1.3%）、45 名（4.8%）、「500 ～ 1,000 万円未満」54 名（5.7%）、78 名（8.3%）、「1,000 ～ 2,000 万円未満」120 名（12.7%）、150 名（15.9%）、「2,000 ～ 3,000 万円未満」170 名（18.0%）、196 名（20.7%）、「3,000 ～ 4,000 万円未満」128 名（13.5%）、108 名（11.4%）、「4,000 ～ 5,000 万円未満」105 名（11.1%）、83 名（8.8%）、「5,000 ～ 7,500 万円未満」62 名（6.6%）、59 名（6.2%）、「7,500 ～ 1 億円未満」23 名（2.4%）、30 名（3.2%）、「1 億円以上 34 名（3.6%）」、21 名（2.2%）、「とくに考えていなかった」94 名（9.9%）、11 名（1.2%）である。このように、退職時の金融資産残高の準備を考えていない人は 10% 程度存在する、実際額は目標額を平均で 1,000 万円程度下回る。

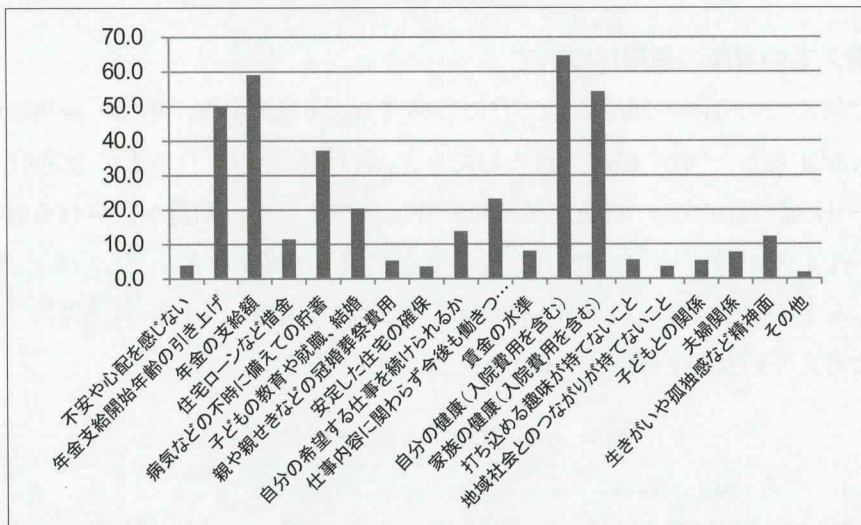
図 61. 定年退職に備えて世帯全体の負債を除いた
金融資産残高をどれくらい準備する考えか
（目標額（現役、退職）、実際額（退職）（問 18、9）



今後の生活における不安や心配

現役に対して、今後の生活における不安や心配を質問した（図 62）。回答比率が高い順に、「自分の健康（入院費用を含む）」304 名（64.7%）、「年金の支給額」278 名（59.1%）、「家族の健康（入院費用を含む）」255 名（54.3%）、「年金支給開始年齢の引き上げ」235 名（50.0%）、「病気などの不時に備えての貯蓄」175 名（37.2%）、「仕事内容に関わらず今後も働きつづけられるかどうか」109 名（23.2%）、「子どもの教育や就職、結婚」96 名（20.4%）、「自分の希望する仕事を続けられるか」65 名（13.8%）、「生きがいや孤独感など精神面」58 名（12.3%）、「住宅ローンなど借金」54 名（11.5%）、「賃金の水準」38 名（8.1%）、「夫婦関係」36 名（7.7%）、「打ち込める趣味が持てないこと」26 名（5.5%）、「親や親せきなどの冠婚葬祭費用」25 名（5.3%）、「子どもとの関係」25 名（5.3%）、「不安や心配を感じない」19 名（4.0%）、「安定した住宅の確保」17 名（3.6%）、「地域社会とのつながりが持てないこと」17 名（3.6%）、「その他」9 名（1.9%）である。

図 62 今後の生活における不安や心配（問 19）

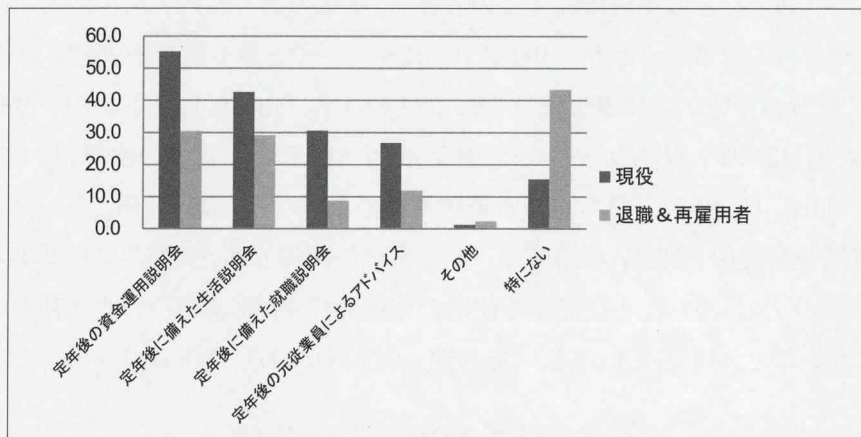


定年退職後の生活設計に役立つ（役立った）と思う会社の取り組み

現役ならびに退職・再雇用者に対して、定年退職後の生活設計に役立つ（役立った）と思う会社の取り組みについて、いくつかの選択肢から複数回答を得た（図 63）。現役では、「定年後の資金運用説明会」260 名（55.3%）、「定年後に備えた生活説明会」200 名（42.6%）、「定年後に備えた就職説明会」144 名（30.6%）、「定年後の元従業員によるアドバイス」126 名（26.8%）、「その他」6 名（1.3%）、「特にない」73 名（15.5%）である。一方、退職・再雇用

者では、「定年後の資金運用説明会」287名（30.4%）、「定年後に備えた生活説明会」275名（29.1%）、「定年後に備えた就職説明会」82名（8.7%）、「定年後の元従業員によるアドバイス」112名（11.9%）、「その他」23名（2.4%）、「とくになし」410名（43.4%）である。

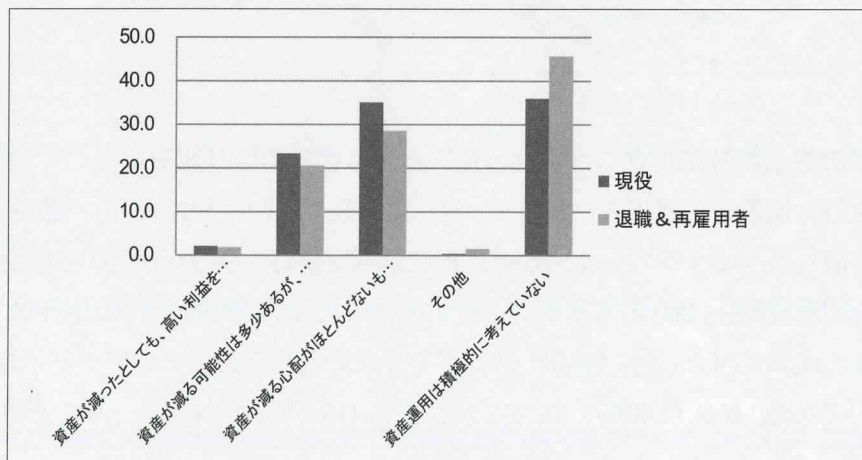
図 63. 定年退職後の生活設計に役立った取り組み（問 20, 13）



今後に備えての資産の運用について

今後に備えての資産の運用の考え方について（図 64）、現役、退職・雇用者の順に回答比率を併記すると、「資産が減ったとしても、高い利益を得られるものを選択する」10名（2.1%）、17名（1.8%）、「資産が減る可能性は多少あるが、利益が得られるものを選択する」110名（23.4%）、195名（20.6%）、「資産が減る心配がほとんどないものを選択する」165名（35.1%）、270名（28.6%）、「その他」2名（0.4%）、14名（1.5%）、「資産運用は積極的に考えていない」169名（36.0%）、432名（45.7%）である。

図 64. 今後に備えての資産の運用（問 22, 19）

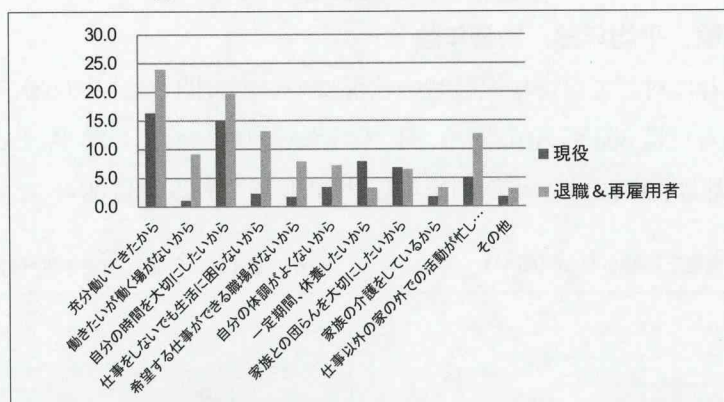


第6節 再雇用も含めた仕事の退職後（現役）

再雇用も含めて退職後に働きたい理由

現役に対しては、働きたい理由、退職・再雇用者に対しては、働いていない理由を尋ねた（図 65）。その主な回答を現役、退職・再雇用者の順に並べて記載すると、「充分働いてきたから」77名（16.4%）、227名（24.0%）、「働きたいが働く場がないから」5名（1.1%）、87名（9.2%）、「自分の時間を大切にしたいから」71名（15.1%）、186名（19.7%）、「仕事をしなくても生活に困らないから」11名（2.3%）、125名（13.2%）、「希望する仕事ができる職場がないから」8名（1.7%）、75名（7.9%）、「自分の体調がよくないから」16名（3.4%）、68名（7.2%）、「一定期間、休養したいから」37名（7.9%）、31名（3.3%）、「家族との団らんを大切にしたいから」32名（6.8%）、61名（6.5%）、「家族の介護をしているから」8名（1.7%）、31名（3.3%）、「仕事以外の家の外での活動が忙しいから」24名（5.1%）、120名（12.7%）である。現役では、充分に働いてきたので自分の時間を大切にしたいというセカンドライフ志向がみられるが、退職・再雇用者の中には、働きたいが働く場がない、希望する仕事ができる職場がないという非自発的な失業者が少なくない。

図 65. 再雇用を含めて退職後に働きたい理由（現役）、
働いていない理由（退職）（付問 23-2, 16-7）



再雇用も含めた退職後の就業意欲と理由

現役に対して、再雇用も含めて退職後に続けて働きたいかを尋ねた（図 66）。回答は「働きたい」356名（75.7%）、「働きたくない」95名（20.2%）である。働きたい理由は（図 67）、「現在・将来の生活のため」282名（60.0%）、「自分の経験や能力を発揮できるから」116名（24.7%）、「健康のため」202名（43.0%）、「社会とのつながりを維持したいから」104名（22.1%）、「仕事を通じて、社会貢献したいから」57名（12.1%）、「小遣いがほしいため」117名（24.9%）、「会社や職場の仲間から働いてほしいと頼まれているから」20

名 (4.3%)、「今、担当している仕事が好きだから」75名 (16.0%)、「仕事を通じて、実現したい夢や理想があるから」29名 (6.2%)、「家にいても仕方がないから」123名 (26.2%)、「やり残している仕事があるから」14名 (3.0%)、「ほかに仕事が見つからないから」50名 (10.6%)、「その他」18名 (3.8%) である。

図 66. 再雇用を含めて退職後も続けて働きたいか
(現役のみ) (問 23)

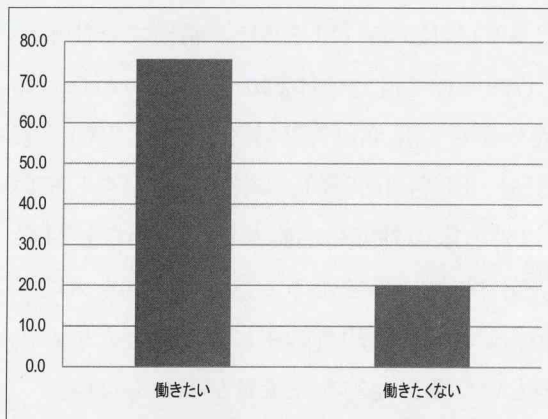
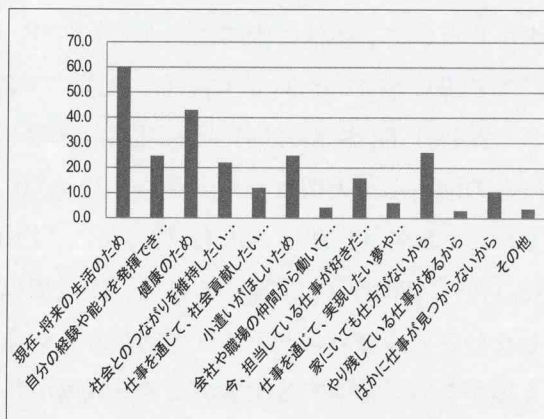


図 67. 再雇用を含めて退職後も働きたい理由
(現役のみ) (付問 23- 1)



第7節 定年退職時の状況 (退職者・再雇用者)

定年退職時の経験、平均年齢、勤続年数

退職・再雇用者に対して、定年退職時の状況について質問した (図 68)。定年退職を経験した人 (「はい」) は 863 名 (91.3%)、していない (「いいえ」) 36 名 (3.8%) であり、定年時の平均年齢は、60.0 歳、平均勤続年数は 39.6 年である (図 69)。

図 68. 定年退職を経験したか (問 11)

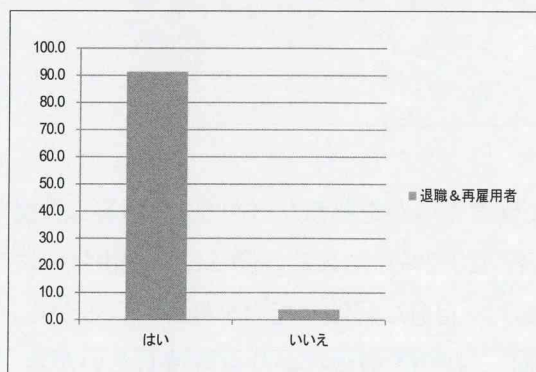
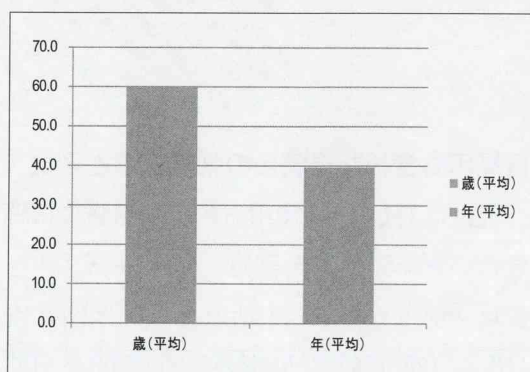
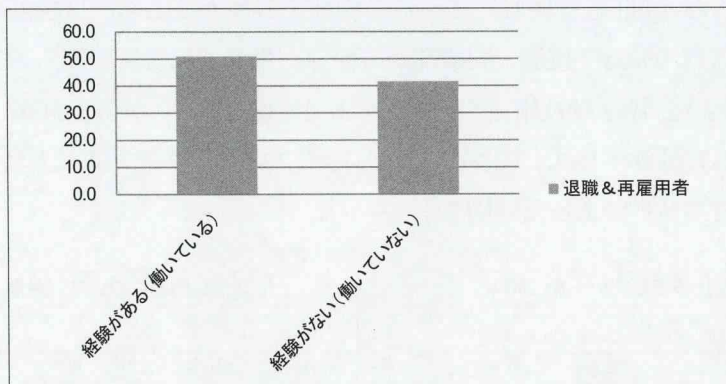


図 69. 定年時の年齢と勤続年数 (付問 11- 1, 11- 2)



再雇用制度で働いた経験では、「経験がある（働いている）」481名（50.9%）、「経験がない（働いていない）」393名（41.6%）である（図70）。

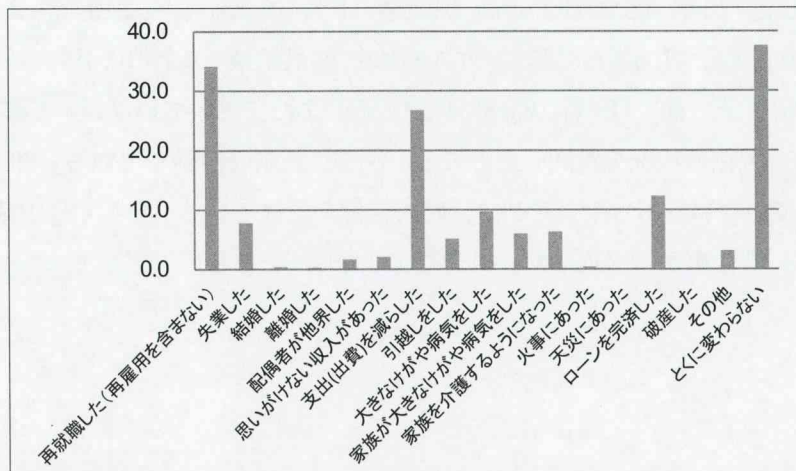
図70. 再雇用制度で働いた経験（付問11-3）



定年退職後に起きた出来事

退職・再雇用者において、定年退職後に起きた出来事として、「再就職した（再雇用を含まない）」323名（34.2%）、「失業した」74名（7.8%）、「結婚した」4名（0.4%）、「離婚した」3名（0.3%）、「配偶者が他界した」16名（1.7%）、「思いがけない収入があった」20名（2.1%）、「支出（出費）を減らした」253名（26.8%）、「引越しをした」48名（5.1%）、「大きなけがや病気をした」92名（9.7%）、「家族が大きなけがや病気をした」57名（6.0%）、「家族を介護するようになった」60名（6.3%）、「火事にあった」4名（0.4%）、「天災にあった」0名（0.0%）、「ローンを完済した」116名（12.3%）、「破産した」1名（0.1%）、「その他」29名（3.1%）、「とくに変わらない」355名（37.6%）である（図71）。

図71. 定年退職後の出来事について（問12）



退職後の仕事の有無、業種、職種、雇用形態

退職・再雇用者においては、「働いている（再雇用制度を利用して）」216名（22.9%）、「働いている（それ以外）」283名（29.9%）、「働いていない」437名（46.2%）であり（図72）、働いている人（499名）に対して、その職種を尋ねたところ、「技能・製造（運転手を含む）」60名（12.0%）、「技能・間接部門（保守、生産・品質管理等）」95名（19.0%）、「生産技術」22名（4.4%）、「技術・研究・開発」37名（7.4%）、「事務」64名（12.8%）、「営業」14名（2.8%）、「サービス」62名（12.4%）、「プログラマー・SE」1名（0.2%）、「その他」136名（27.3%）であった（図73）。

図72. 現在、仕事をしているか（問16）

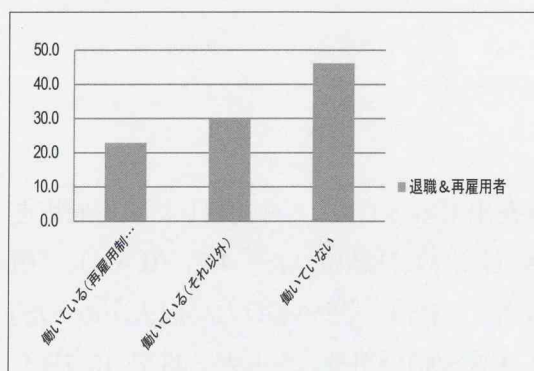
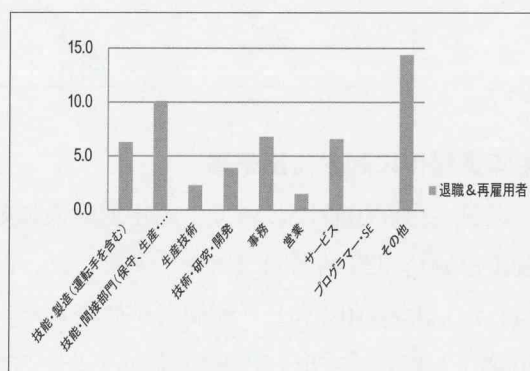


図73. 職種について（付問16-1）



その雇用形態は（図74）、「正規の職員・従業員」65名（13.0%）、「パート」100名（20.0%）、「アルバイト」38名（7.6%）、「労働者派遣事業所の派遣社員」36名（7.2%）、「契約社員・嘱託」183名（36.7%）、「その他」74名（14.8%）、業種については（図75）、「農林業」23名（4.8%）、「鉱業」0名（0.0%）、「建設業」5名（1.0%）、「製造業」258名（51.7%）、「卸売業・小売業」10名（2.0%）、「金融・保険業」1名（0.2%）、「不動産業」3名（0.8%）、「運輸・通信業」9名（1.8%）、「電気・ガス・水道・熱供給業」2名（0.4%）、「サービス業」74名（14.8%）、「その他」119名（23.8%）である。また、「働いていない」と答えた人（437名）に対して、現在の状況を質問したところ（図76）、「求職活動している」36名（3.8%）、「求職活動していない」164名（17.4%）、「雇用給付を受けている（もしくは申請中である）」12名（1.3%）、「仕事から引退した」315名（33.3%）である。

図 74. 雇用形態について (付問 16- 2)

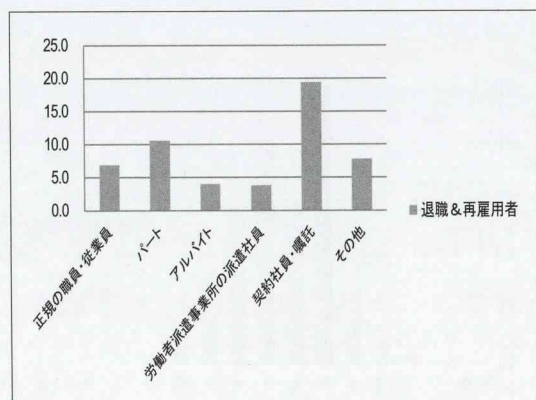


図 75. 業種について (付問 16- 3)

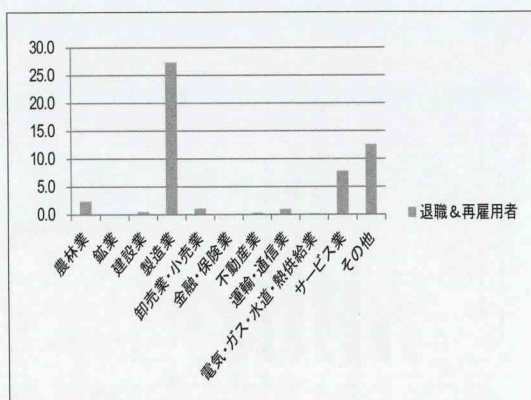
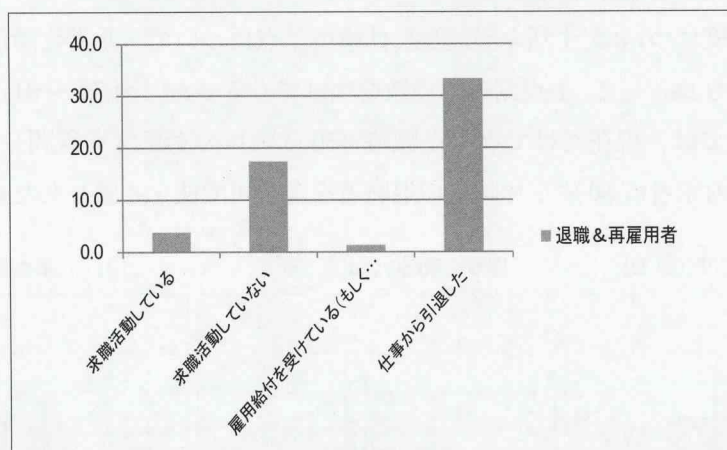


図 76. 現在の状況について (求職活動) (付問 16- 6)



第 8 節 生活水準、満足度、幸福度 (現役、退職者・再雇用者)

生活水準、幸福度

対象者の生活水準について、「もっとも豊か」を 10 点、「もっとも貧しい」を 0 点として、1 点刻みで点数をつけてもらった (図 77)。また、全体として、あなたは普段どの程度幸福だと感じていますか、「非常に幸福」を 10 点、「非常に不幸」を 0 点として、同様に 1 点刻みで点数をつけてもらった (図 78)。生活水準については、現役平均が 5.5 点、退職・再雇用者平均 5.5 点、幸福度では、現役平均 6.3 点、退職・再雇用者平均 6.7 点である。退職・再雇用者の幸福度がやや高いが、その分布の形状において二つのグループの違いはみられない。

図 77. 生活水準 (問 36)

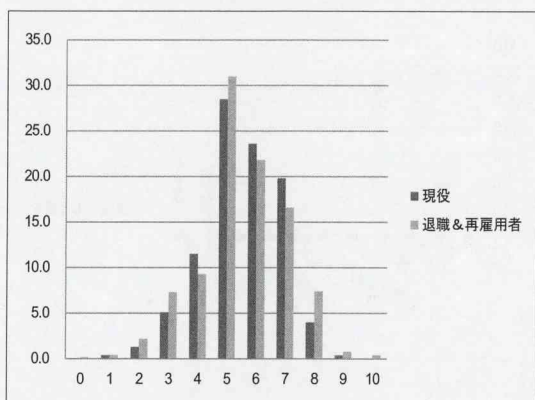
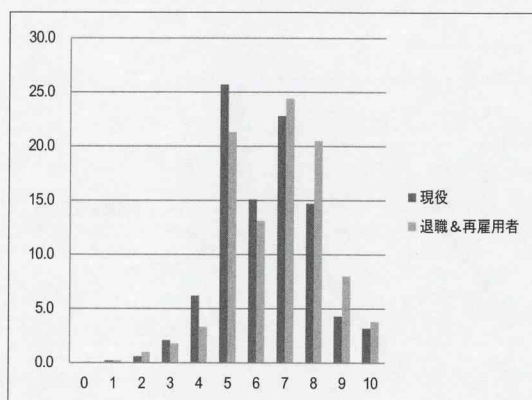


図 78. 幸福度 (問 37)



満足度 (生活全般、家庭、仕事)

対象者の満足度について、生活全般、家庭、仕事の三点について、「非常に満足」を 10 点、「非常に不満足」を 0 点として、1 点刻みで点数をつけてもらった (図 79～81)。また、退職・再雇用者に対しては、現在だけでなく在職時 (50 歳頃) の満足度も質問した。50 歳頃としたのは、調査対象者に 50 歳定年時代の退職者を含む可能性を考慮したためである。

図 79. 生活満足度 (問 38)

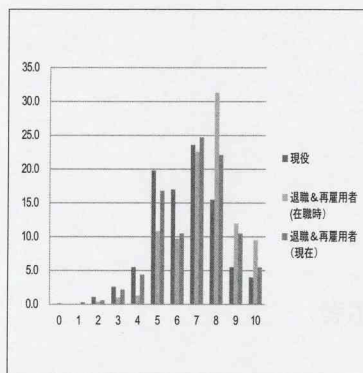


図 80. 家庭の満足度 (問 38)

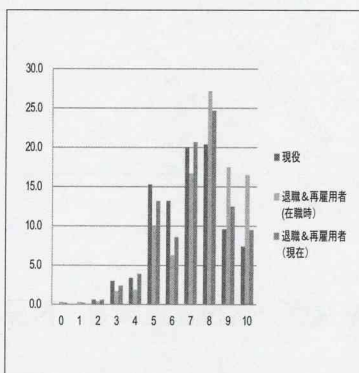
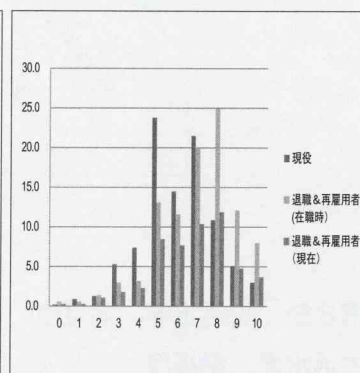


図 81. 仕事の満足度 (問 38)



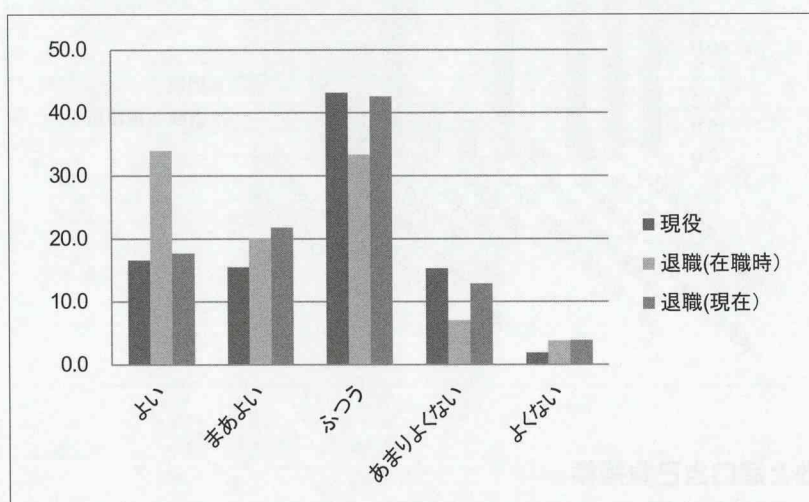
現役平均では、現在の満足度について、生活全般 6.5 点、家庭 6.9 点、仕事 6.1 点である。退職・再雇用者においては、在職時 (50 歳頃) の満足度が、生活全般 7.4 点、家庭 7.7 点、仕事 7.0 点、現在の満足度は、生活全般 6.9 点、家庭 7.2 点、仕事 6.7 点であり、すべての項目において、現在の満足度は在職時 (50 歳頃) に比べて低下している。退職後に仕事から家庭へと活動の場を移すというよりは、退職後の仕事も家庭も現役時代とは異なっており、それぞれに難しさ (や楽しさ) があることを示唆している。

第9節 健康状態、健康保険等（現役、退職者・再雇用者）

健康状態

健康状態について、「よい」から「よくない」まで5段階で質問した（図82）。退職・再雇用者に対しては、現在だけでなく在職時（50歳頃）の健康状態も質問した。「よい」を1、「よくない」を5として得点化すると、現役平均は2.7、退職・再雇用者の在職時平均は2.3、現在の平均は2.6、退職・再雇用者は在職時に比べて健康状態がやや悪化している。

図82. 健康状態（現在（現役）、在職時（退職）、現在（退職）（問42, 10）

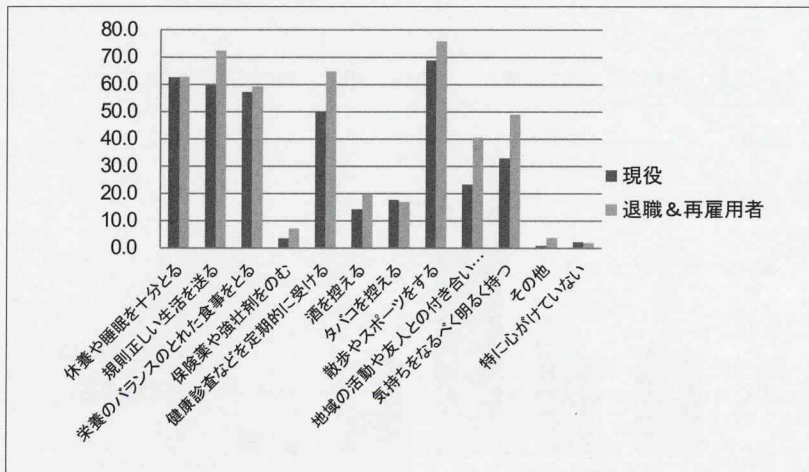


健康の維持増進のために心がけていること

現役ならびに退職・再雇用者に対して、健康の維持増進のために心がけていることを尋ねた（図83）。現役、退職・再雇用者の順に回答を並べると、「休養や睡眠を十分とる」294名（62.6%）、593名（62.8%）、「規則正しい生活を送る」281名（59.8%）、684名（72.4%）、「栄養のバランスのとれた食事をとる」269名（57.2%）、559名（59.2%）、「保険薬や強壮剤をのむ」17名（3.6%）、68名（7.2%）、「健康診査などを定期的に受ける」235名（50.0%）613名（64.9%）、「酒を控える」67名（14.3%）、186名（19.7%）、「タバコを控える」83名（17.7%）、161名（17.0%）、「散歩やスポーツをする」324名（68.9%）、717名（75.9%）、「地域の活動や友人との付き合いに参加する」110名（23.4%）、383名（40.5%）、「気持ちをなるべく明るく持つ」155名（33.0%）、463名（49.0%）、「その他」4名（0.9%）、36名（3.8%）、「特に心がけていない」11名（2.3%）、18名（1.9%）である。

心がけている項目の回答の分布に大きな違いはないが、現役に比べて退職・再雇用者は健康や生活習慣の自己管理が求められるため、規則正しい生活や定期的な健康診査の受診に心がけていると思われる。活動領域の違いから、退職・再雇用者では「地域の活動や友人との付き合いに参加する」が多く、また、退職・再雇用者は「気持ちをなるべく明るく持つ」という回答が多く、前向きな姿勢が目立つ。

図 83. 健康の維持増進のために心がけていること（問 22, 17）



外来受診回数と窓口自己負担額

現役の外来受診回数(年間、図 84)は平均 9.2 回/年、窓口自己負担額(図 85)は平均 5,620.8 円/回であり、退職・再雇用者は、それぞれ平均 14.0 回/年、10,519.5 円/回である。

図 84. 外来（受診回数、年間）（問 42）

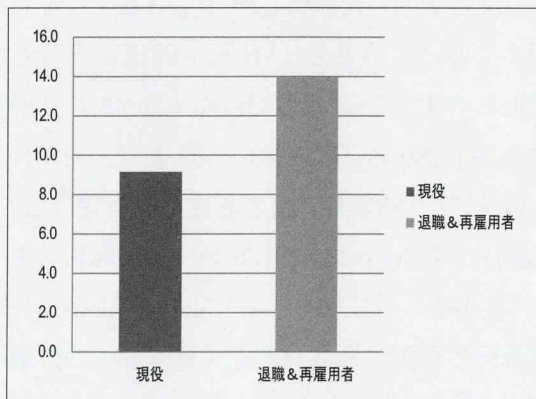
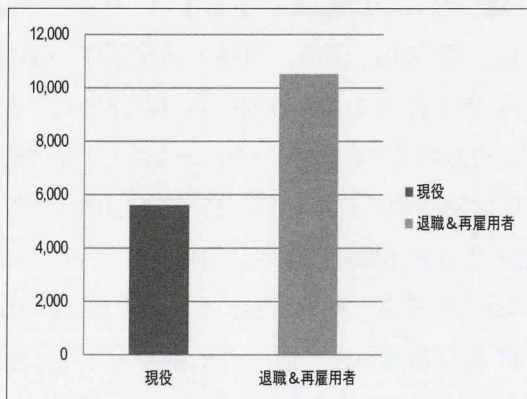


図 85. 窓口自己負担額（1 回あたり、円）（問 43）



入院

現役では、「入院した」27名(5.7%)、「入院していない」406名(86.4%)、「一番長かった入院の日数(連続)」28名(13.5日)、「その入院で支払った窓口自己負担額」22名(213,136.4円)であり、退職・再雇用者では、「入院した」93名(9.8%)、「入院していない」842名(89.1%)、「一番長かった入院の日数(連続)」96名(13.3日)、その入院で支払った窓口自己負担額92名(187,183.4円)である(図86～88)。

図86. 入院(問44)

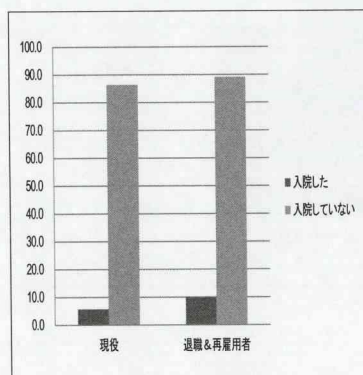


図87. 一番長かった入院日数(連続) 付問44-1

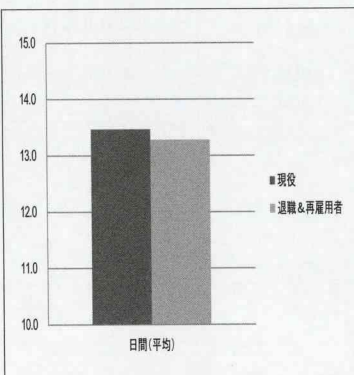
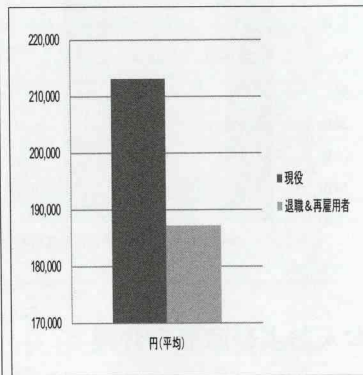


図88. その入院で支払った窓口自己負担額(付問44-2)



過去5年間の病気の有無

現役でこの5年間に病気で入院したことが「ある」67名(14.3%)、「ない」366名(77.9%)、対して、退職・再雇用者は「ある」233名(24.7%)、「ない」698名(73.9%)である(図89)。自身に関わる年間10万円以上の医療費自己負担額については(図90)、現役では、「ある」150名(31.9%)、「ない」282名(60.0%)、退職・再雇用者では「ある」450名(47.6%)、「ない」484名(51.2%)である。

図89. この5年間に病気で入院したか(問45)

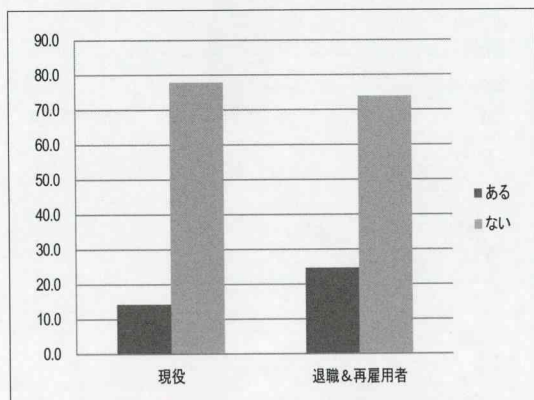
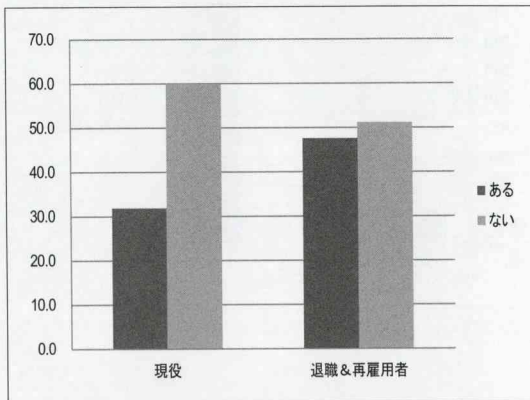


図90. 年間10万円以上の医療費自己負担額(問46)



医療・疾病関係の保険については（図 91）、現役で「加入している」398 名（84.7 %）、
「加入していない」65 名（13.8 %）、「年間保険料総額（図 92）」が平均で 283,204.5 円で
あるのに対して、退職・再雇用者で「加入している」749 名（79.3%）、「加入していない」
165 名（17.5%）、「年間保険料総額」は平均で 201,295.4 円である。

図 91. 医療・疾病関係の保険（問 47, 48）

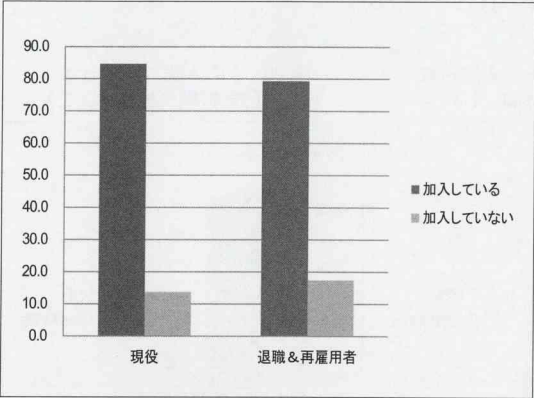
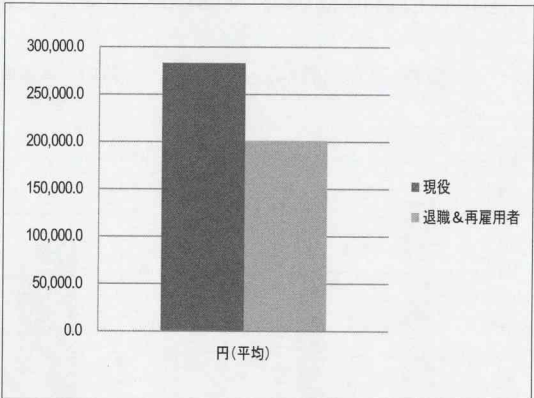


図 92. 年間保険料総額（問 47, 48）



本人および家族の介護

家族で要介護認定を受けて介護必要な方の有無については（図 93）、現役、退職・再雇用者の順で「1 人いる」52 名（11.1%）、87 名（9.2%）、「1 人以上いる」3 名（0.6%）、7 名（0.7%）、「いない」400 名（85.1%）、840 名（88.9%）である。また、退職・再雇用者に対して、本人が要介護認定を受けているかを問うたところ、「要介護認定を受けている」16 名（1.7%）、「要介護認定を受けていない」909 名（96.2%）である（図 94）。

図 93. 家族で、要介護認定を受け、介護を必要とする人（問 32）

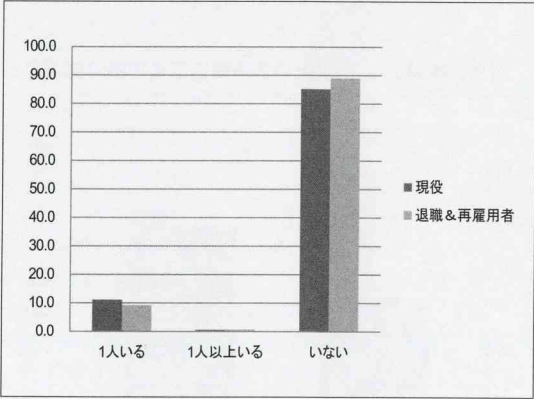
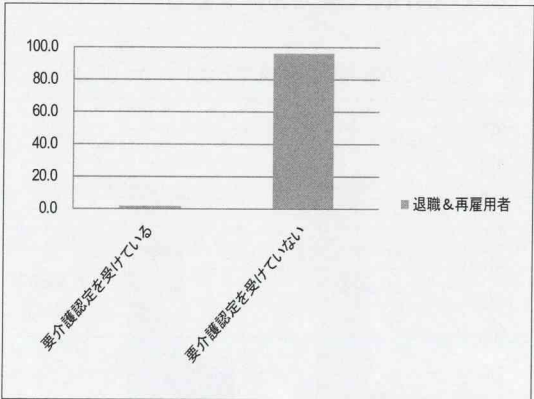


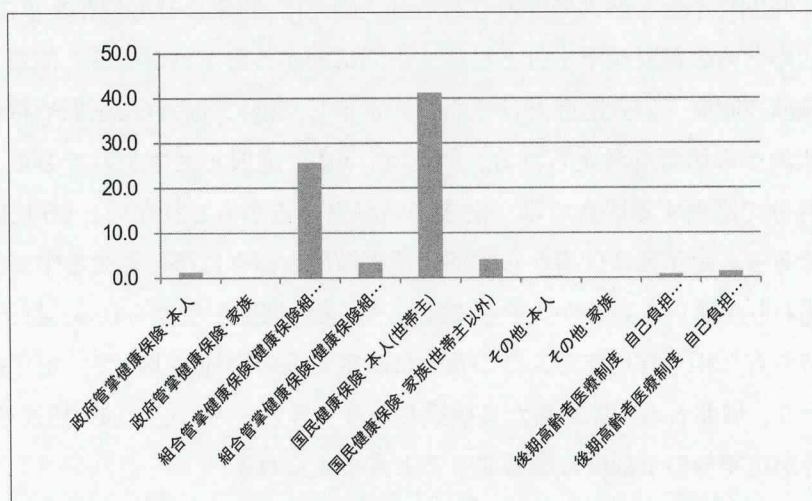
図 94. 要介護認定を受けているか（問 31）



加入している健康保険（退職・再雇用者）

退職・再雇用者において、「政府管掌健康保険・本人」12名（1.3%）、「政府管掌健康保険・家族」2名（0.2%）、「組合管掌健康保険（健康保険組合）・本人」243名（25.7%）、「組合管掌健康保険（健康保険組合）・家族」32名（3.4%）、「国民健康保険・本人（世帯主）」389名（41.2%）、「国民健康保険・家族（世帯主以外）」39名（4.1%）、「その他・本人」3名（0.3%）、「その他・家族」0名（0.0%）、「後期高齢者医療制度 自己負担率-1割」8名（0.8%）、「後期高齢者医療制度 自己負担率-3割」13名（1.4%）である（図95）。

図95. 加入している健康保険（問47）



第2章 アンケート調査の分析

定年後もイキイキと暮らすための働き方とライフスタイルのあり方を考えるにあたっては、退職・再雇用者の暮らしぶり、幸福度や生活満足度について、現役との比較を考慮しながら分析する。分析においては、いくつかの留意すべき視点がある。

まず(1)定年前後の変化の有無である。定年後に仕事から引退すると、勤労所得は減るが、自由時間が増える。こうした環境変化に対して人びとはどのように対応しているかをよく区別する必要がある。あるいは(2)定年前の履歴が定年後に影響をもたらす可能性がある。在職時に仕事を生きがいとしてきた人は、定年後も強い就業意欲をもちうる。さらに、(3)時間に不変な個人の好みもあろう。例えば、将来よりも現在を重視する人は、退職後の生活のための蓄財が不十分となり、生活に窮するおそれがある。他方、退職前後の変化、退職前の履歴、個人選好だけでなく、定年した後に行われた選択や将来の展望による現在の状況への影響も考えられる。例えば、(4)選択と生きがいである。与えられた枠組みと自分で選択する場合では、生きがい異なるかもしれない。(5)周囲との関係性も重要である。定年後に仕事から生活に活動領域を徐々に移行させる中で、どのように周囲との関わりを築いているか。さらには(6)将来の展望が挙げられる。将来の展望は、現在の心の持ち方と相互作用する。このように、定年前の準備によって、定年後の環境変化に順応したり、周囲との関係を新たに構築したりできる一方、定年前の履歴や(不変の)個人の好み等が定年後の幸福度に影響することも考えられる。

上述の6つの視点を中心として、定年後の生活満足度、幸福度、暮らしぶり等の決定要因を明らかにして、定年後もイキイキと暮らし、働くための方策を検討する。

第1節 定年前後の環境変化(在職時の準備、消費水準の変化、健康・介護)

(1) 定年前後の環境変化

① 在職時の準備

在職時から、退職後に備えて健康管理、計画的貯蓄、職場外の人間関係の構築、生活力を身につけていた人は、退職後にこれらに不便することがなく、退職後の生活の満足度が高いのではないだろうか。このような能力を職場の教育で身につけることができるのか。できるとするならば、どのような教育が有効であろうか。

はじめに、退職・再雇用者向けのアンケート結果を用いて、在職時に退職後に備えた準備をしたかどうかと現在の満足度の関係をみてみる(図96)。「在職時に主体的に仕事について考えた」と答えた人は、生活全般、家庭、仕事のいずれにおいても満足度が高く、とくに、仕事で高い。「退職後に備えた貯蓄」については、とくに生活での満足度が高い。

図 96. 在職時に主体的に仕事について考えたこと
(問 6) と現在の満足度 (問 38)

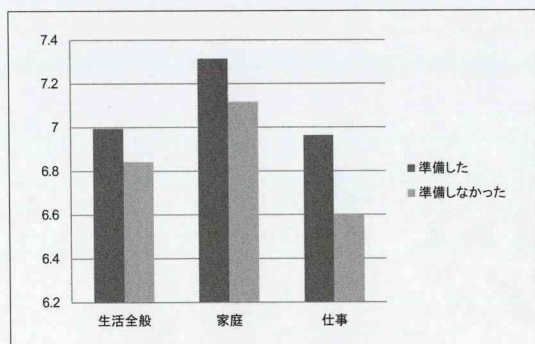
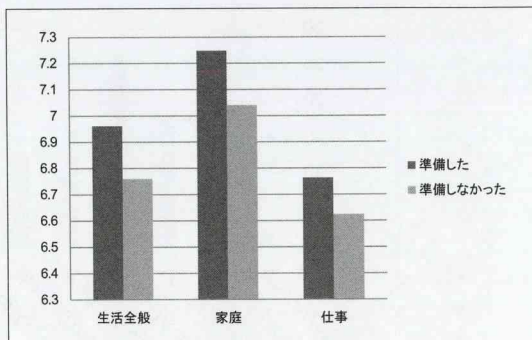


図 1 (再掲) 在職時定年退職後に備えて貯蓄をしたか
(問 6) と現在の満足度 (問 38)



一方、「在職時に退職後に備えて、自分なりに趣味を持つ準備をしたか」について (図 2 再掲)、「準備した」人の満足度は、「準備していない人」に比べて、家庭に関する満足度を高めるが、仕事に関する満足度は、「準備していない人」の方が高い。退職後の趣味の充実と仕事の充実とは別のものであり、それぞれに準備する必要があることを示唆している。「とくに準備しなかった」と回答した人とそうでない人 (なんらかの準備をした人) とを比較すると (図 97)、準備した人の方が現在の満足度が総じて高い。現在 (退職後) の満足度を高めるために、在職時に退職後に備えてなんらかの準備することは不可欠である。

図 2 (再掲) 在職時定年退職後に備えて、自分なりに趣味を持つ準備をしたか (問 6) と現在の満足度 (問 38)

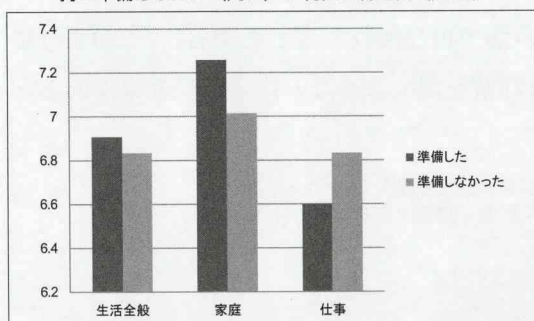
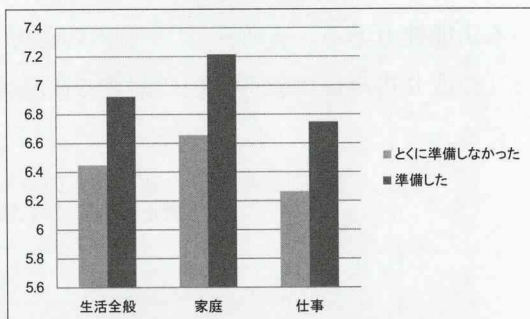
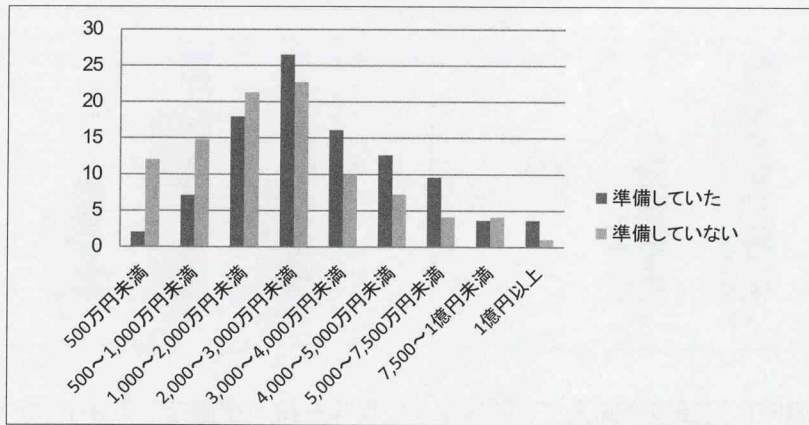


図 97. 在職時定年退職後に備えて準備はとくにない (問 6) と現在の満足度 (問 38)



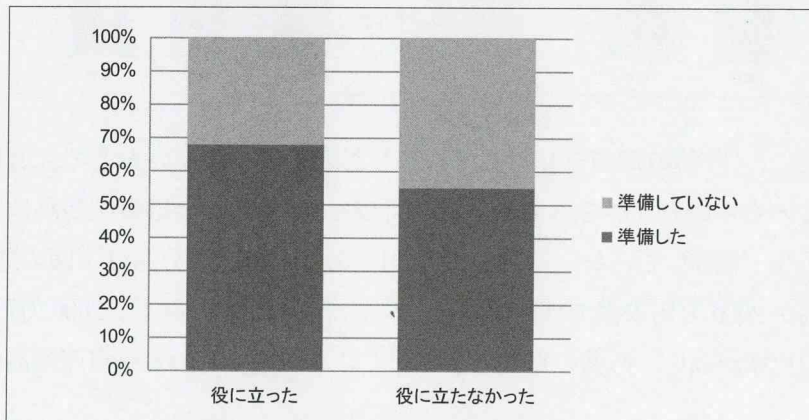
より具体的に、「貯蓄の準備をした」と回答した人とそうでない人とで、退職時の金融資産残高がどのくらい違うかをみてみよう (図 98)。平均的な金融資産残高は、準備した人 3526.7 万円、準備していない人 2517.7 万円であり、資産の分布は下図の通りである。金融資産残高が 2000 万円未満では、準備しなかった人の比率が高く、2000 万円以上では、準備した人の比率が高い。貯蓄の準備をしておくことが退職時の金融資産残高の差に表れている。

図 98. 在職時定年退職後に備えて貯蓄したか（問6）と
定年退職時の金融資産残高（問9）



在職時の準備が満足度を高めて、とりわけ貯蓄においては、退職時の金融資産残高の差となって表れることが確認されたが、では、「準備する能力」を職場で教育することができだろうか。会社の取り組み（定年後の「資産運用説明会」）の評価（役に立ったか否か）と貯蓄準備の関係をみてみよう。図5（再掲）の通り、「資産運用説明会が役に立った」と回答したグループは、そうでない（「役に立たなかった」と表記）グループに比べて、貯蓄準備をした割合が12.9%高い。つまり、会社の取り組みは、資産運用説明会に参加した人すべてに対して役に立っているとはいえないものの、役に立ったと感じている人の貯蓄性向を高めているといえよう（もともと貯蓄性向が高い人が「役に立った」と回答している可能性もある。この点は、「個人の選好」の節で再び触れることとする）。このように会社の取り組みには、退職後に備えて在職時に貯蓄を促すような一定の啓発効果があるといえる。

図5（再掲）会社の取り組み（定年後の資産運用説明会）の評価（問13）と
在職時定年退職後に備えた貯蓄の準備（問6）

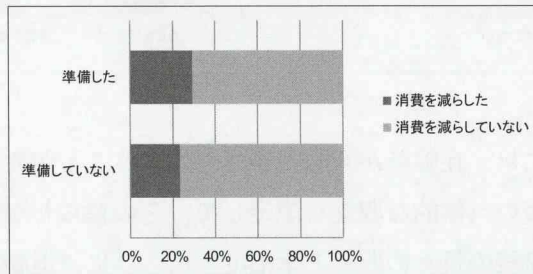


② 消費水準の変化

一般的には、退職前後で消費水準が低下することが知られている。しかし、消費の変動を嫌うならば、退職後に勤労所得が低下することを見越して、在職時から貯蓄しているはずである。あるいは、消費水準の低下は、予算制約によるものではなく、退職後に時間が増えてより安いものを買うことができたために生じている可能性がある。余暇の時間が増えることで、例えば、外食ではなく、自分で料理作りを楽しむといったお金を使わないような過ごし方ができる。この場合、消費水準は低下するが、生活満足度は高まるといえる。

この点について、消費を減らしたか否かを確認している退職・再雇用者アンケートの結果を用いて確認してみよう（図 99）。まず、退職後に「消費を減らした」と回答した人がどの程度在職時に退職後に備えて「貯蓄」を準備していたかをみると、貯蓄を準備したグループの方が、準備しなかったグループよりも、消費を減らした人の割合が高い。つまり、退職後に備えて貯蓄を準備したものの、その準備が不十分であった可能性がある。

図 99. 退職後に「消費を減らした」（問 12）と
在職時定年退職後に備えた「貯蓄」の準備（問 6）



消費を減らした人とそうでない人の平均的な退職時の金融資産残高と現在の月々の収入を比較すると、消費を減らしたグループは、金融資産残高が 500 万円程度少なく（図 100）、月収も 4 万円ほど少ない（図 101）。消費の減少は、消費を減らしていないグループと相対的にみて、収入および金融資産残高が少ないことに起因しているといえる。

図 100. 退職後に「消費を減らした」（問 12）と
退職時に金融資産残高（万円）（問 9）

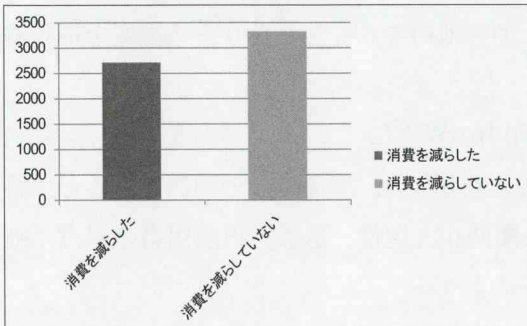
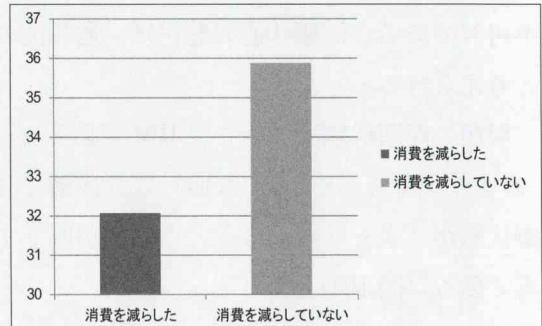


図 101. 退職後に「消費を減らした」（問 12）と
月々の収入（万円）（問 34）



他方、消費の減少は、前述の通り、余暇に対する好みや過ごし方によって、必ずしも幸福感を損ねるとはいえない。そこで、「消費を減らしたか否か」と「現在の暮らし向き」あるいは「幸福度」との関係を試みると、図 102、103 の通りである。消費を減らしたと回答した人は、相対的に現在の暮らしぶりにゆとりがない人が多く、幸福度も低い。このように、退職後の消費水準の低下は、暮らしぶりや幸福感を損ねる。

図 102 退職後に「消費を減らした」(問 12) と現在の暮らしぶり (1 ゆとりがある～5 非常に苦しい) (問 15)

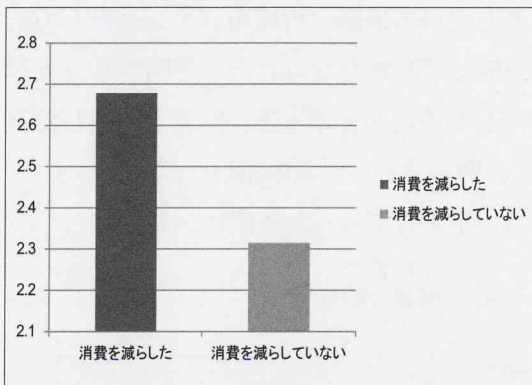
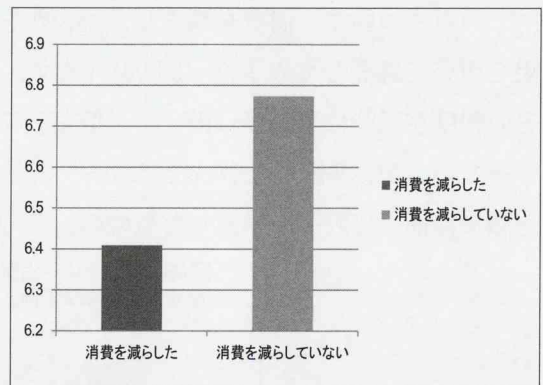


図 103 退職後に「消費を減らした」(問 12) と幸福度 (非常に幸福 10～非常に不幸 0) (問 37)



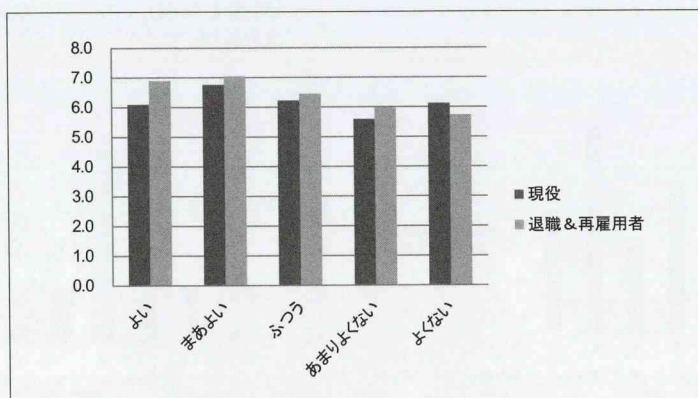
これを回避するためには、在職時から貯蓄等を準備することが大事であるが、ただ準備するのではなく、退職後の具体的な収支を想定して、その暮らしが十分可能な金額を心得ておく必要がある。退職後の月々の収入と幸福度、ならびに、退職後の月々の収入から支出を差し引いた額と幸福度との関係を見ると (9 頁図 3 参照)、月収が多いほど幸福度が高いが、月収 35 万円～50 万円未満では幸福度は横ばいとなる。一方、月々の収支と幸福度では、収支差が大きい (ゆとりがある) ほど、幸福度が高い (9 頁図 4 参照)。

③ 健康、介護

人びとの長寿化が進み、退職後の豊かな時間を充実して過ごすためには、健康維持が不可欠である。健康状態の悪化は、退職後の行動を制約することとなり、幸福度を損ねると考えられる。

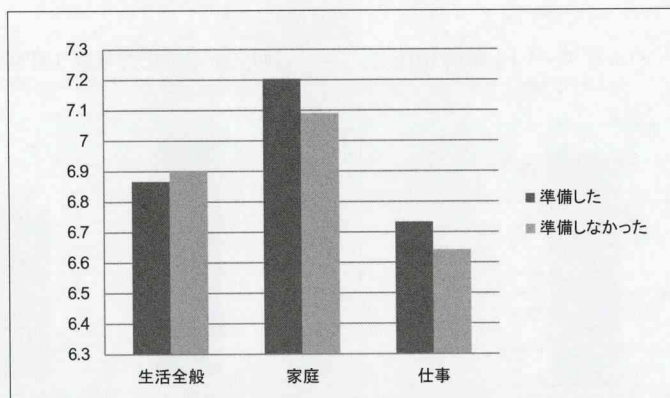
現在の健康状態について、現役、退職・再雇用者の双方に「よい」「まあよい」「ふつう」「あまりよくない」「よくない」の 5 段階で評価してもらい、幸福度との関係を見ると、健康状態が「よくない」ほど、幸福度が低下する傾向が、現役、退職・再雇用者の双方で確認できる (図 104)。

図 104. 現在の健康状態（問 42）と現在の幸福度（問 37）



続いて、退職・再雇用者のアンケート結果を用いて、在職時の健康状態と退職後の健康状態を比較する（図 105）。まず、在職時に退職後に備えて、健康管理や体力作りに注意したか否かと現在の満足度の関係をみると、家庭や仕事の満足度では準備した方が、生活全般では準備しない方が高くなっている。

図 105. 在職時定年退職後に備えて、健康管理や体力づくりに注意したか（問 6）と現在の満足度（問 38）



次に、在職時の健康状態と退職時の健康状態の差分を作ると、－4（悪化）～0（現状維持）～3（好転）の8段階からなる健康状態の退職前後の変化を表す変数ができる。この変数と現在の幸福度（図 106）、あるいは、退職前の健康維持の準備との関係を見ると（図 107）、健康状態の変化と幸福度は、あまりはっきりした関係がみられない。

図 106. 在職時と現在の健康状態の変化
(問 10 と問 42) と幸福度 (問 37)

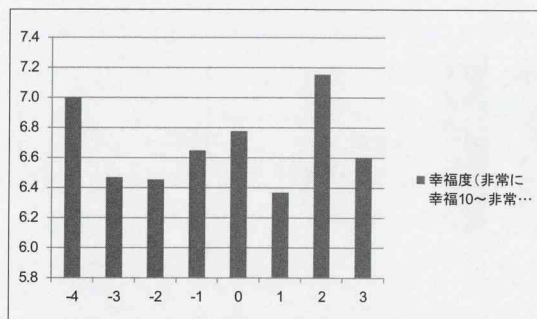
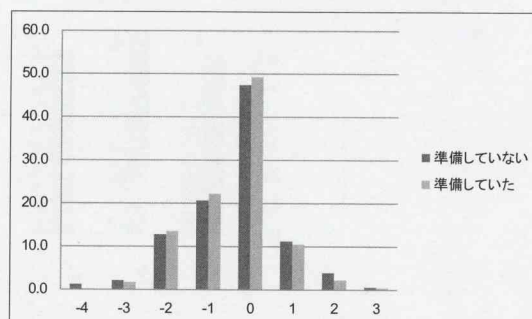


図 107. 在職時と現在の健康状態の変化
(問 10 と問 42) と在職時定年退職後に備えて
「健康管理や体力づくりに注意した」か (問 6)



前述の結果も考慮すると、幸福度は、健康状態の過去からの変化ではなく、現在の健康状態と負の関係があるといえる。また、「健康管理や体力づくりに注意した」か否かと在職時と現在の健康状態の変化の関係を確認すると、その分布に大きな違いがみられない。ただし、これらの結果は、対象者自身による健康に関する主観的な評価に基づいている点に注意する必要がある。そこで、「健康管理や体力づくりに注意した」か否かと退職後の外来受診回数、入院経験、窓口自己負担額、入院日数を比較すると、図 108、109、12 頁図 7、12 頁図 8 の通りであり。

図 108. 外来受診回数 (年間、問 43- 1) と準備 (問 6)

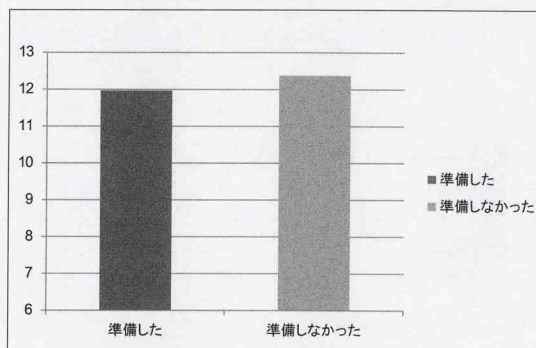
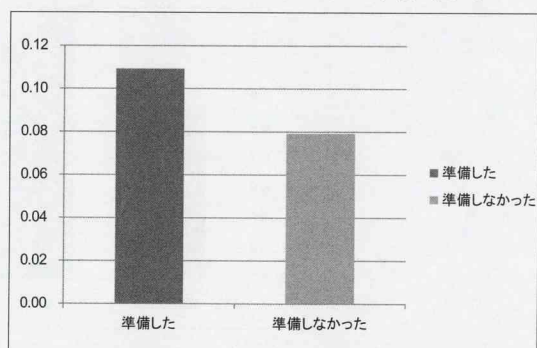


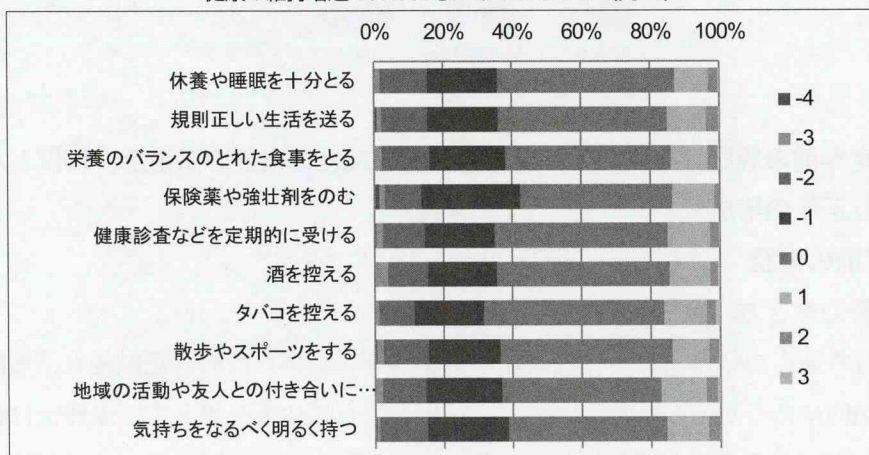
図 109. 入院した経験 (問 44) と準備 (問 6)



健康管理や体力づくりをしていたからといって、平均以上に疾病や怪我のリスクを引き下げられるわけではないが、その重症度の面で違いが生じている可能性がある。つまり、健康管理や体力作りは、幸福度の面からは、退職後に備えた準備というよりも、現在の活動を充実させるために有効であり、疾病や怪我のリスクを引き下げないまでも、重症度を軽減できる可能性があるといえるかもしれない (この点はより詳細で客観的な健康データに基づく分析が必要である)。

健康増進のために心がけていることのうち、どの項目が健康状態の維持に寄与しているかをみると（図 110）、「タバコを控える」、「酒を控える」、「健康診査などを定期的に受ける」がやや高い。規則正しい生活、バランスのとれた食事、適度な運動といった生活習慣だけでなく、体に良くないものを控えたり、定期的に検査を受けたりといった積極的な健康維持の活動も健康状態の維持や改善に有効であるといえる。

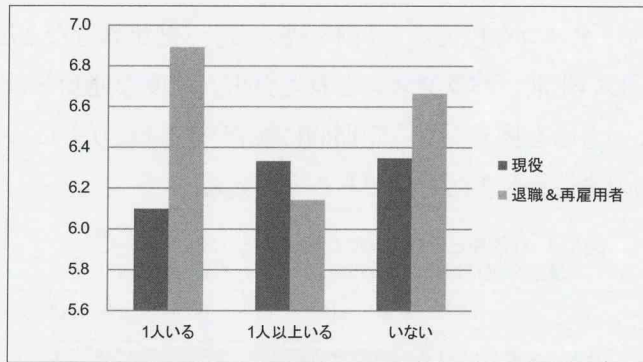
図 110. 在職時と現在の健康状態の変化（問 10 と問 42）と
健康の維持増進のために心がけていること（問 17）



「健康」に関連して、退職前後の課題となるのが「介護」である。介護保険制度が整備されて、介護の社会サービス化が進んではいるが、退職を控えた頃の現役にとっての親の介護、退職後には自身や配偶者の介護等、介護は重要な活動のひとつである。介護は、家族と過ごすことができるという便益とそのために得られたであろう賃金や余暇等を諦めなければならないという機会費用の両面がある。とくに、在職中の介護と仕事との両立が難しい。他方、退職後の介護には（在職時よりは）多くの時間を費やすことができるため、介護の機会費用や負担感、退職後の方が小さいかもしれない。

この点について、「家族で要介護認定を受け介護が必要な人がいるかどうか」と幸福度との関係性をみると（図 111）、現役では、要介護認定を受ける人が 1 人いる場合は、いない場合よりも幸福度が低く、介護が負担となっていると推測される。退職・再雇用者の場合、1 人いる方が、いない場合よりも、幸福度が高い。一方、「1 人以上いる」場合には、現役、退職・再雇用者で幸福度に違いが生じる。これは、現役と退職・再雇用者における介護の機会費用の差を表しているといえ、退職・再雇用者にとって、1 人の介護は市場労働から介護労働へのシフトで対応できて本人の幸福度を高めるが、1 人以上を介護するとなると、介護サービスに頼らざるを得ず、その費用が負担になると推測される。

図 111. 家族で要介護認定を受け介護が必要な人の有無（問 42）と幸福度（問 37）



第2節 定年前の履歴（在職時の働き方、就労意識と退職後の満足度、職種とパーソナリティの形成）

（1）定年前の履歴

① 在職時の働き方、就労意識と退職後の満足度

仕事に打ち込んできた人は、在職時に仕事を満喫していたため、退職後も積極的に仕事を求める傾向にあるかもしれない。一方、定年とともに仕事を終えて、退職後は趣味を中心としたセカンドライフを満喫したいと考えている人もいるだろう。

本節では、このような二通りの人間像を明らかにする。はじめに、就労意識と現在の幸福度の関係をみる。現役には、現在の就労意識、退職・再雇用者には、在職時（50歳頃）の就労意識を質問している。「仕事こそ生きがい」や「達成感を味わう」に対して（図 112、図 113）、「ぴったり当てはまる」「どちらかという当てはまる」と答えた人は、現役、退職・再雇用者の双方で幸福度が高い。その一方で「全く当てはまらない」と答えた人の幸福度もとくに現役において高い。

図 112. 現在の就業意識（問 5）、退職・再雇用者の在職時（50歳頃）の就労意識（「仕事こそ生きがい」（問 5）と現在の幸福度（問 37）

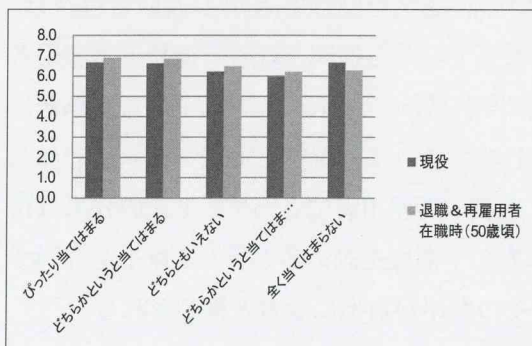
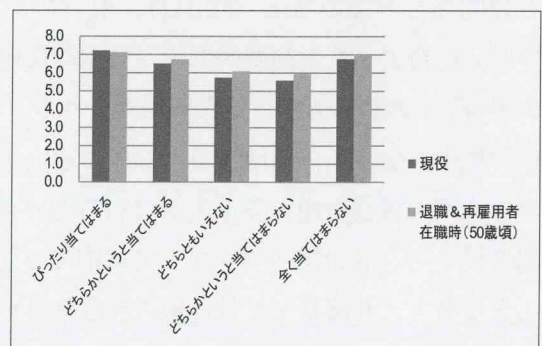


図 113. 現在の就業意識（問 5）、退職・再雇用者の在職時（50歳頃）の就労意識（「達成感を味わう」（問 5）と現在の幸福度（問 37）



また、「お金を稼ぐ手段」、「生活のため我慢」に対して（図114、図115）、「当てはまらない」人ほど幸福度が高い。これは、人びとが、金銭あるいは生活上の動機だけから仕事に従事していないことを示唆している。

図114. 現在の就業意識（問5）、退職・再雇用者の在職時（50歳頃）の就労意識（「お金を稼ぐ手段」（問5）と現在の幸福度（問37）

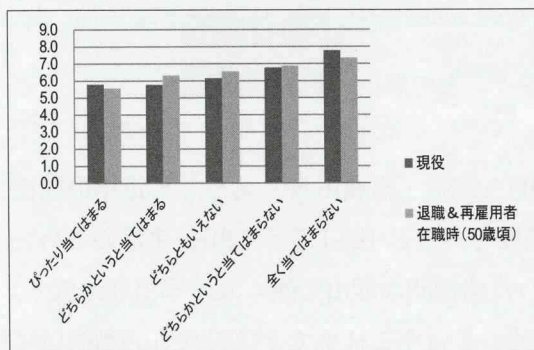
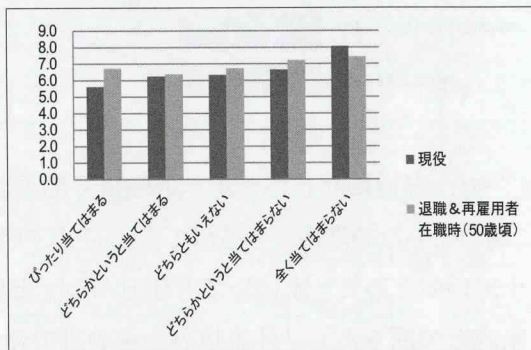


図115. 現在の就業意識（問5）、退職・再雇用者の在職時（50歳頃）の就労意識（「生活のため我慢」（問5）と現在の幸福度（問37）



続いて、退職・再雇用者の現在の就業状態と幸福度の関係を見ると、働いている人の幸福度は高い（13頁図9参照）。働いていない人のうち、働いていない理由として「働きたいが働く場がないから」または「希望する仕事ができる職場がないから」を挙げた人を「非自発的に働いていない人」とし、それ以外の働いていない人を「自発的に働いていない人」とすると、働きたくても働けない非自発的に働いていない人の幸福度が最も低い。この点は、「求職活動をしている人」と、「求職活動していない人」あるいは「引退した人」との幸福度を比較しても確認できる（13頁図10参照）。就業意欲の高い人を非自発的な趣味人にするのではなく、本人の就業希望にできるだけ沿う形でいかに活用していくかは、社会全体の生産性の面で重要であり、引き続き企業が取り組むべき課題といえよう。

次に、在職時の就労意識と退職後の就業状態の関係をみると、「仕事こそ生きがい」と考えている人は、定年退職後も再雇用やその他の方法で仕事を続けている割合が高く（図116）、特に65歳以上となると、その割合は高くなる（13頁図11再掲）。年金の受給開始まで雇用を希望する人と年金の受給年齢にかかわらず、就業を続けたいと考える人の二通りがあり、本人の就業意欲にあわせて、退職後雇用における複線的な人材活用を考慮すべきなのかもしれない。

図 116. 退職・再雇用者の在職時（50 歳頃）の就労意識（「仕事こそ生きがい」問 4）と現在の就業状態（問 16）

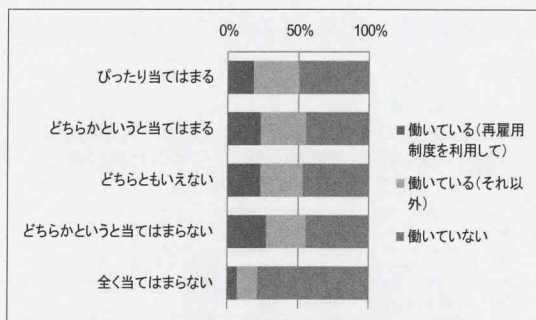
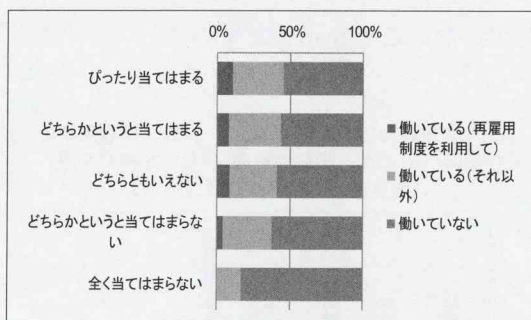


図 11 再掲 退職・再雇用者の在職時（50 歳頃）の就労意識（「仕事こそ生きがい」問 4）と現在の就業状態（問 16）：65 歳以上に限定した場合



一方、現役に対して「定年退職後も働く理由」、退職・再雇用者に対して「定年退職後に働いていない理由」を尋ねて、それぞれの幸福度をみると（図 117～120）、「生活のため」、「小遣いのため」、「家にいても仕方ない」といった消極的な理由で働く人の幸福度は低く、「家族との団らん」、「仕事以外の家の外での活動」というこれまでとは異なる活動領域に自発的に入った人の幸福度が総じて高い。

図 117. 再雇用も含めて退職後も働きたい理由（付問 23- 1）

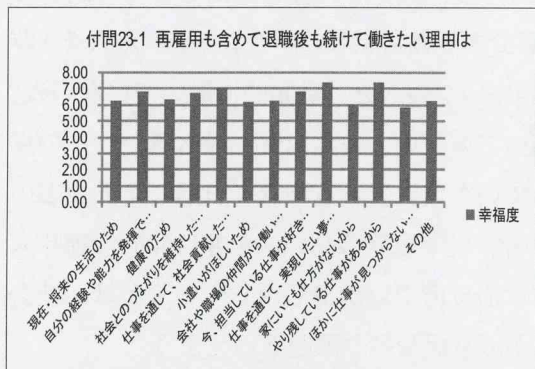


図 118. 働いていない理由（付問 16- 7）と幸福度（問 37）

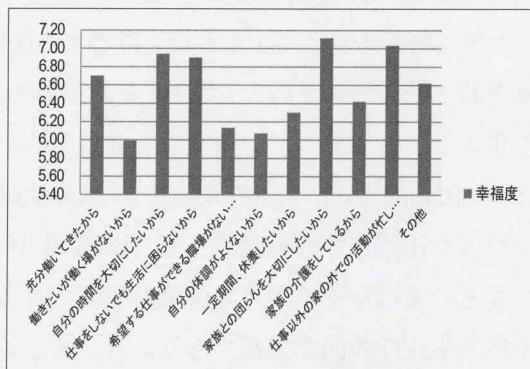


図 119. 働いていない理由（付問 16- 7）と現在の満足度（生活全般、問 38）

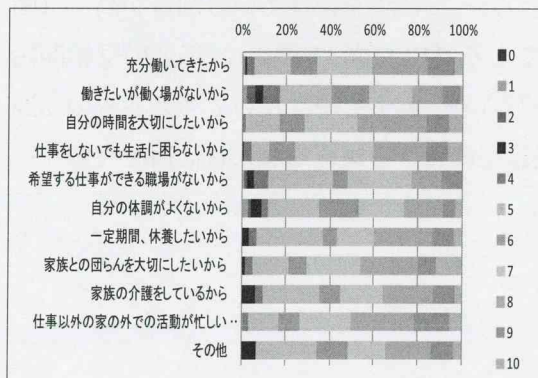
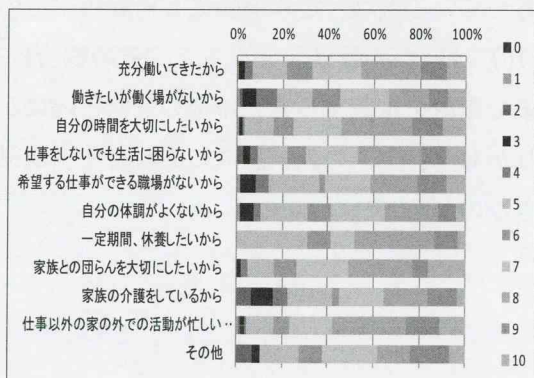


図 120. 働いていない理由（付問 16- 7）と現在の満足度（家庭、問 38）



② 職業とパーソナリティ

仕事には人それぞれに向き不向きがあり、自分の性格が合っていたからこそ長く仕事を続けられるという面と、長年仕事に携わることにより、職種によってパーソナリティが形成される可能性もあろう。この相関関係について確認してみよう。

人びとの考え方の保守性、革新性を測る質問として、「以前からなされてきたやり方を守る」ことが、最上の結果を生む、「何か新しいことをさがけて試みる方だ」に対して、「ぴったり当てはまる」から「全く当てはまらない」の5段階で評価してもらった。保守性の尺度に関しては、回答の分布が両端で高くなっており、以前からなされてきたやり方に従うことが幸福な人と、それを幸福と感じない人にわかれている（図121）。一方、現役、退職・再雇用者ともに「何か新しいことをさがけて試みる方だ」に当てはまる人ほど、幸福度が高く、新しいことにチャレンジすることですなんらかの幸福を得ている（図14再掲）。

図121. 以前からなされてきたやり方を守ることを、
最上の結果を生む（問41）

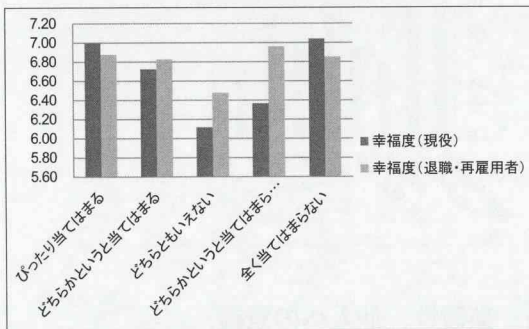
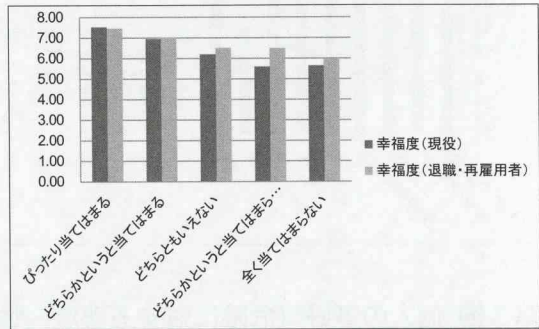


図14再掲 何か新しいことを人にさがけて試みる
方だ（問41）



続いて、新しいものに取り組むか、従来のやり方に従うかといった行動様式が、経験の長い職種に決定されて、それが退職後の幸福度につながっている可能性について検討してみる。最も経験年数が長い職種と幸福度の関係をみてみると（図122）、技能・製造部門、技能・間接部門では、幸福度がやや低く、営業やサービスで高い（サンプル数が少ないことに注意）。いま、技能・製造部門、技能・間接部門にいるの人びとのパーソナリティに注目すると（図123、124）、これらの職種の人びとは、「以前からなされてきたやり方を守る」ことが最上の結果を生むに対して「（ぴったり）当てはまる」人が多く、「何か新しいことを人にさがけて試みる方だ」に対して「（全く）当てはまらない」人が多い。先に見たように、やり方を守るという保守性がプラスの幸福度を与える半面、新しいことを試みない人の幸福度は低くなる。したがって、技能・製造部門や技能・間接部門の人たちが保守的な性向にあるならば、ある面で保守性を発揮しつつ、適度に新たなことに挑戦して、仕事や生活に活力を与えることも幸福度の面から考慮できると考えられる。

図 122. 最も経験年数が長い職種（問 2） 幸福度（問 37）

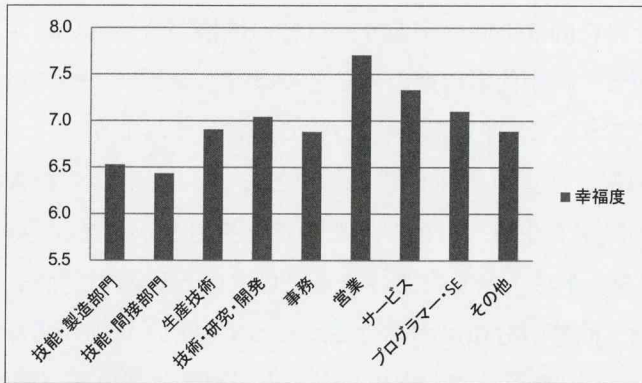


図 123. 最も経験年数が長い職種（問 2）と
以前からなされてきたやり方を守る（問 41）

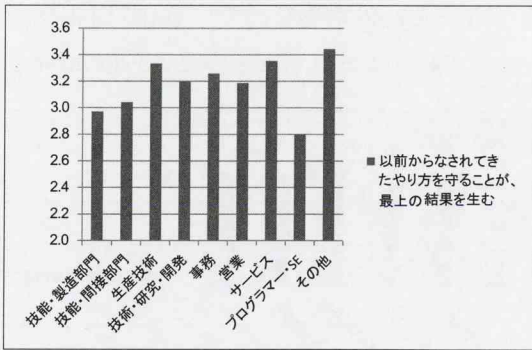
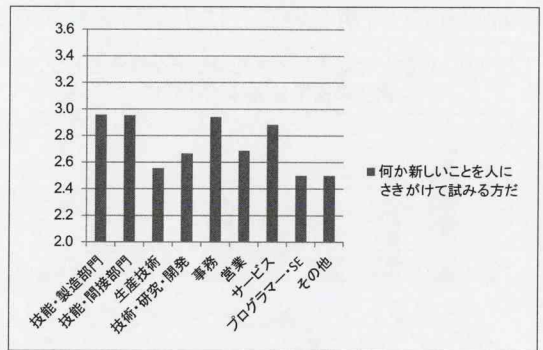


図 124. 最も経験年数が長い職種（問 2）と
何か新しいことを人にささげて試みる（問 41）



第 3 節 個人の選好（危険に対する態度、性格、楽観性、他人への意識）

（1）個人の選好

① 危険に対する態度、せっかちさ、他人に対する意識等

例えば、せっかちな人は蓄財しないで消費するので（将来時点では）生活に苦しく幸福度が低くなる、他人を意識しない人は（自分中心に物事を考えるため）満足度が高いと考えられる等である。

はじめに、人びとの考え方と幸福度が関係する例を二つみてみる。第一は、「周りの人と同じような行動をとっていると安心だ」という質問で、同調性（Conformity）を確認できる。個人主義的な人ほど、人びとに同調しない方が幸福であり、集団主義を好む人は、周りの人と同じ行動をとるほど幸福度が高くなる（図 125）。また、信仰心が幸福度を高めることもよく知られている。今回の調査でも、「宗教を熱心に信仰している」に対して、「ぴったり当てはまる」と答えた人の幸福度が高い。宗教とはいわないまでも、信仰心は心の平静を保つ上で大切である（図 126）。

図 125. 周りの人と同じような行動をとっていると
安心だ (問 41)

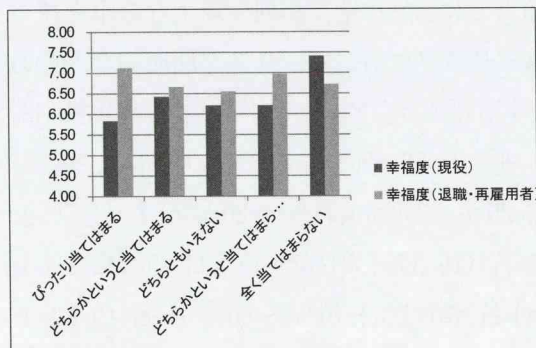
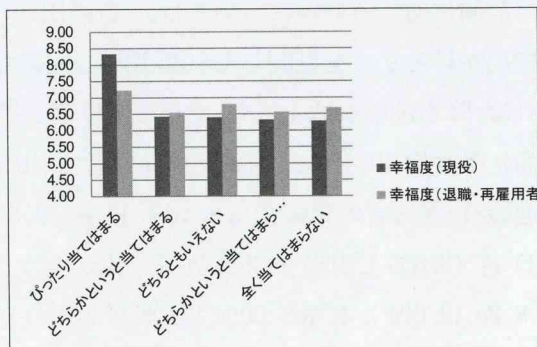


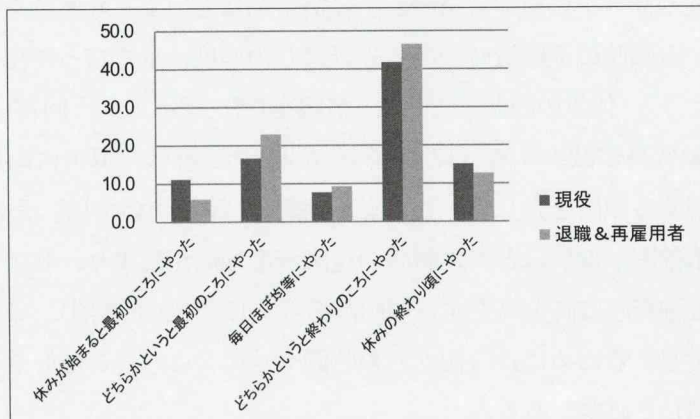
図 126. 宗教を熱心に信仰している (問 41)



時間に関する好み

次に時間に関する好みを考えよう。本調査では、これを把握するために、「こどもの時、休みに出された宿題をいつごろやるが多かったか」を尋ねた(図 127)。こどもにとって、一般に、宿題は(遊びに比べて)苦痛なタスクであり、遊びを優先して宿題を先送りしたいという希望をもつ。これを質問することで人びとの先送りの程度(あるいは現在時点に対する好みの強度、せつかさ)を把握することができる。現役、退職・再雇用者の並びで、「休みが始まると最初のころにやった」52名(11.1%)、56名(5.9%)「どちらかというとも最初のころにやった」78名(16.6%)、216名(22.9%)「毎日ほぼ均等にやった」36名(7.7%)、88名(9.3%)「どちらかというとも終わりのころにやった」196名(41.7%)、439名(46.5%)「休みの終わり頃にやった」71名(15.1%)であり、退職・再雇用者では、「休みが始まると最初のころにやった」56名(5.9%)、120名(12.7%)である。

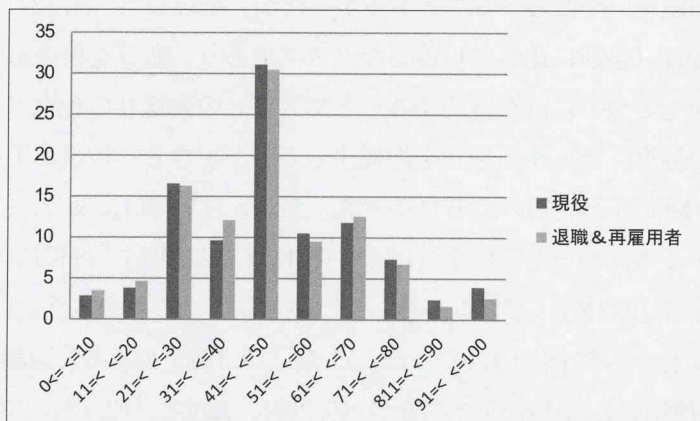
図 127. 先延ばしの態度(子どもの頃の宿題)(問 39)



危険に対する好み

危険に対する好みについては、「普段出かけるときに、降水確率が何%以上なら傘を持って出かけるか」を質問した（図128）。雨に濡れるリスクに対して、リスク回避的な人であれば、降水確率が低くても、できるだけ傘を携帯するだろう。アンケート結果では、現役（427名）の平均50.4%で、退職・再雇用者（910名）平均は52.4%、それぞれの分布は、現役、退職・再雇用者の順に、0%～10% 15名（3.5%）、26名（2.9%）、11%～20% 20名（4.7%）、35名（3.8%）、21%～30% 70名（16.3%）、151名（16.5%）、31%～40% 52名（12.1%）、88名（9.6%）、41%～50% 131名（30.5%）、284名（31.1%）、51%～60% 41名（9.5%）、96名（10.5%）、61%～70% 54名（12.5%）、108名（11.8%）、71%～80% 29名（6.7%）、67名（7.3%）、81%～90% 7名（1.6%）、22名（2.4%）、91%～100% 11名（2.6%）、36名（3.9%）である。

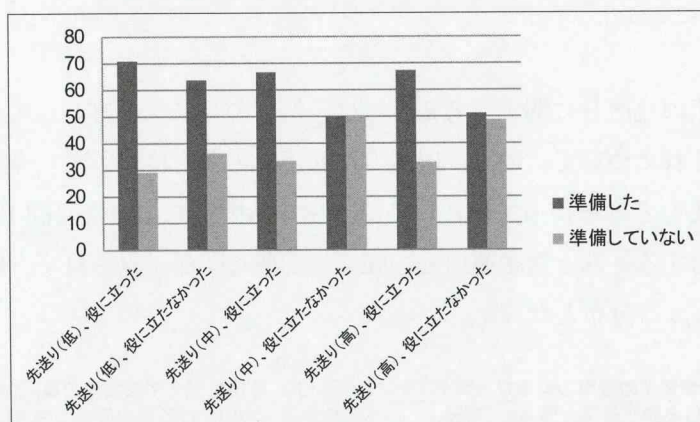
図128. 傘を持って出かける降水確率（%）（問40）



このような時間やリスクに対する選好が、経済行動にどのような影響を及ぼしているのだろうか。まず、退職時の金融資産残高と先延ばしの態度、傘を持って出かける降水確率の関係をみてみよう。「休みの終わりころに（宿題を）やった」という回答になるにつれて、退職時の金融資産残高が減少する（17頁図15参照）。これは、将来に向けた貯蓄よりも現在の消費を重視する傾向を表している。また、降水確率については、緩やかではあるが、傘を持参する降水確率が低いほど、退職時の金融資産残高が高まり、リスクに対して回避的であるほど、金融資産残高を高くする傾向がある（17頁図16参照）。このように、退職時に向けた準備を整えるためには、個々人の時間やリスクに対する選好を十分に把握した上でその対策を講じる必要がある。

退職前準備の重要性や会社の取り組みがわかっていたとしても、せっかちな人やリスクに対して寛容な人は、十分な準備をできない可能性がある。では、会社の取り組みは効果がないのだろうか。そこで、宿題の先送りの程度と、資産運用説明会が役に立ったか否か、貯蓄準備をしたかどうか、の三つを合わせて分析すると、図 129 の通りとなった。先送りの程度が低いほど、準備した割合が（概ね）高い。これは、前述のように、個人の選好を表している。さらに、先送りの程度が低いグループを、説明会が役に立ったと回答した人とそうでない人に分けると、役に立ったと答えた人の方が「貯蓄を準備した」割合が高い。つまり、退職後に向けた貯蓄の程度は、個人の時間選好に依存する面があるが、会社の取り組みによっても（「役に立った」と思ってもらえる限りは）いくばくかは貯蓄準備を促すことができると考えられる。難しいのは、先送りの程度が、中または高く、説明会を役に立ったと思わない人びとである。この人たちの貯蓄準備は他のグループに比べて低い。彼らに対しては、給与受け取りの時点で一定割合を貯蓄に組み込む給与支払いを標準設定にするといったある種の給与天引き型の貯蓄が必要なかもしれない。

図 129. 先延ばしの態度（問 39）、説明会が役に立ったか（問 13）、貯蓄を準備したか（問 6）



第4節 経済面と配偶者（資産運用、配偶者・子ども、夫婦の関係）

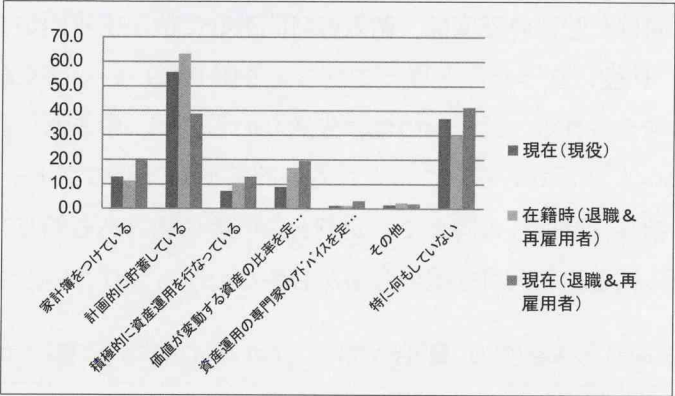
（1）選択と生きがい

① 資産運用

人びとは老後貯蓄に対して積極的に考えるというよりも、偶然与えられた仕組みをそのまま受け入れてしまう傾向がある。危険ではあるが収益率が高い資産をどの程度組み入れるかを自分で決めることは少ない。また、資産運用に対する考え方は、個人のリスク選好に依存しているか、それとも会社で教育可能なのだろうか。

生活資金や資産の管理・運用については、単純集計の分析の通り（38 頁図 59）、定期的に貯蓄している人がほとんどであり、積極的に資産運用を行う人はほとんどおらず、何もしていない人も少なくない。勤労収入がなくなり、年金収入と資産でやりくりしなければいけない退職後の人びとは、資産運用を見直す機会が自然と多くなりそうであるが、実態はそうではなく、与えられた仕組みをそのまま受け入れているものと推測される。

図 59（再掲） 生活資金や資産の管理・運用について（現在（現役）、在職時（退職）、現在（退職）、問 16、7、18）



では、資産運用の見直しに関する考え方には、個人のリスク選好から生じる違い等があるのだろうか。これについて、現役、退職・再雇用者の双方について、今後に備えての資産の運用後の考え方と傘を持って出かける降水確率の関係を調べた（図 130、131）。その結果、リスクに対する好みと資産運用との間には明確な関係が見られず、現役と退職・再雇用者でも似たような分布となった。

図 130. 今後に備えての資産の運用の考え方（問 19）と傘を持って出かける降水確率（問 40） 現役

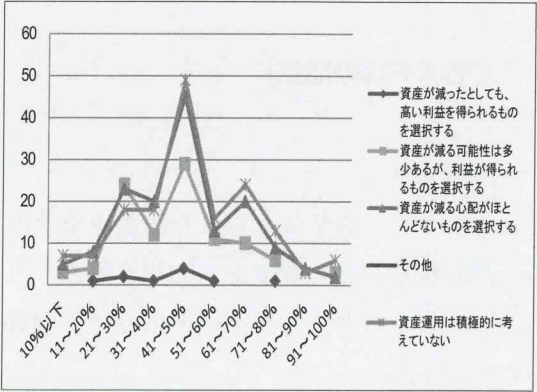
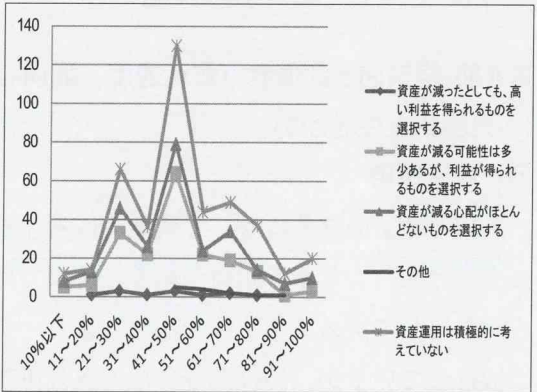
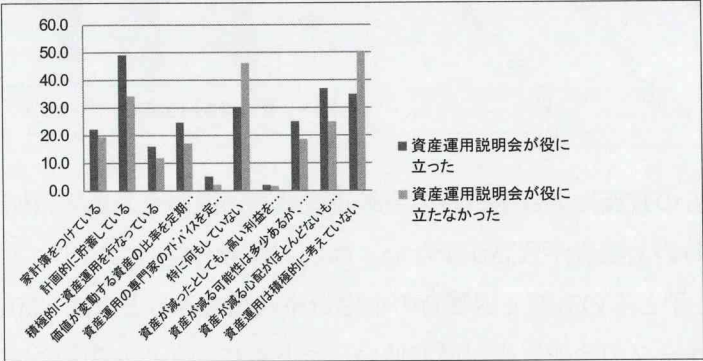


図 131. 今後に備えての資産の運用の考え方（問 19）と傘を持って出かける降水確率（問 40） 退職・再雇用者



資産運用に対する考え方が、選好によらないのなら、会社で教育可能なのだろうか。資産運用説明会の評価と生活資金・資産の運用、今後の資産の運用の関係をみると（17 頁図 17）、資産運用説明会が役に立ったと回答した人ほど、いずれに項目においても、資産運用に積極的である。会社の提供する説明会は、資産運用に対する意識を啓発して実際にある程度まで促しているといえる。

図 17(再掲) 資産運用説明会の評価（問 13）と
生活資金・資産の運用（問 18）、今後の資産の運用（問 19）



② 配偶者・子どもの有無、住居形態

配偶者がいることによって、支出が増加する（共働きの場合は収入も増加する）一方、貯蓄計画を共有して自制的になるとも考えられる。子どもをもつことで、教育費等の支出が増加したり、子どもへの遺産動機から貯蓄したりする可能性がある。配偶者もなく、子どももいない、あるいは、借家住まいである場合には、老後の暮らしに備えて、より慎重に貯蓄を積み立てると考えられる。

これらの属性と退職時の金融資産残高の関係をみてみると、現役では、配偶者のいる人の目標金額が多いが、退職・再雇用者の実績額では、（現在は）配偶者のいない人の方が退職時の金融資産残高が多い（図 132）。退職・再雇用者について、離婚や配偶者の他界の経験別に分けてみると、離別経験のある人は 22 人、うち 11 人が現在配偶者なし、残る 11 人は配偶者がいる。配偶者が他界した経験をもつ人は 30 人で、うち 24 人が現在配偶者なし、6 人に配偶者がいる。離婚・他界のいずれの経験もない人は 676 人、うち 9 人が配偶者なし、667 人が配偶者ありである。現在の配偶者の有無と離婚や他界の経験別でみると（図 133）、配偶者なしの方が総じて退職時の金融資産残高が大きい。離婚・他界のいずれの経験もなく、現在配偶者がいない人の退職時の金融資産残高は約 4500 万円と最も高い（ただし、サンプルサイズが 8 人と小さい）。配偶者のいる人の方が資産計画を立てていると思われるが、支出面も考慮すると、金額自体では配偶者のいない人の方が多くなるのかもしれない。

図 132. 配偶者の有無（問 25）と退職時の金融資産残高（問 9, 18）：現役は目標金額、退職・再雇用者は実績金額（万円）

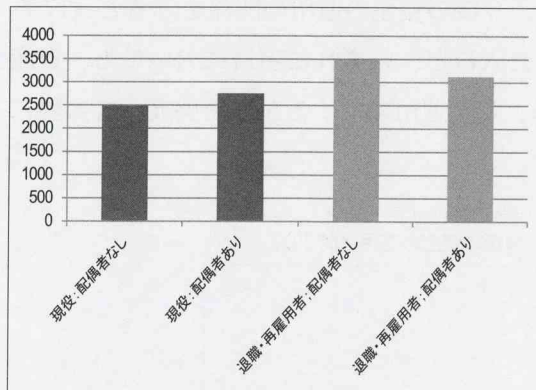
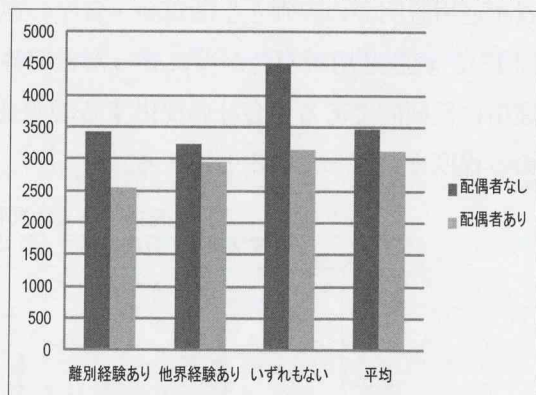


図 133. 退職・再雇用者の退職時の金融資産残高（問 9, 18）と配偶者との離別等の経験（問 25）



つぎに、子どもの有無による退職時の金融資産残高の違いをみると（図 134）、子どもがいる方が、退職時の金融資産残高が少ない。離別・他界の経験のいずれも経験がないサンプルに限定して、子どもの有無と退職時の金融資産残高をみると（図 135）、配偶者がいて、子どももいるグループの金融資産が最も低い。子どもにかかる支出の多さ、配偶者や子どもがいない場合の将来の生活への備えの大きさがうかがえる。

図 134. 子どもの有無（問 30）と退職時の金融資産残高（万円、問 18）

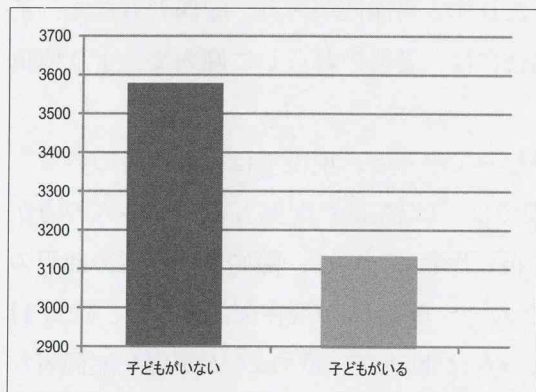
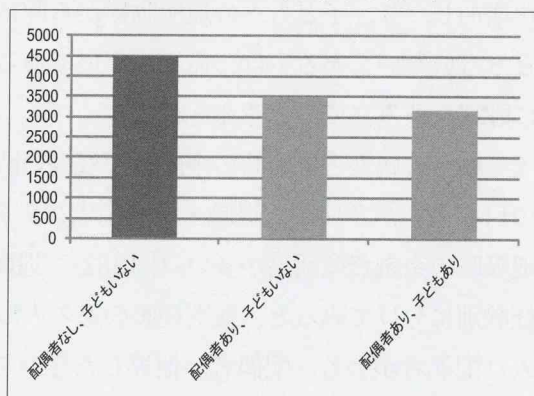
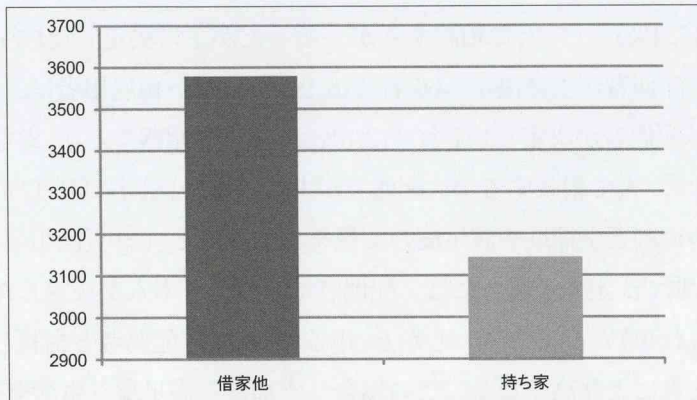


図 135. 配偶者の有無（問 24）、子どもの有無（問 30）と退職時の金融資産残高（万円、問 18）



住居形態と退職時の金融資産残高をみると（図 136）、持ち家に比べて借家他で住むの方が退職時の金融資産残高が高い。借家住まいである場合には、老後の暮らしに備えて、より慎重に貯蓄を積み立てると考えられる。

図 136. 住居形態（問 33）と退職時の金融資産残高（万円、問 18）



③ 夫婦の役割分担

配偶者がいる人の場合、退職後は家庭で配偶者と過ごす時間が長くなる。一般に、自己決定（選択すること）は、自分の効用を高めて、生きる力につながるといわれる。したがって、夫婦間の役割分担がうまくいけば、満足度が高まるが、逆の場合、それを押し下げおそれもある。そこで、消費や貯蓄・投資の決定における夫婦の役割を質問した。

家計における決定（夫婦の役割）

分析対象を有配偶者に限定すると、「消費の決定」について、現役では、「あなたが決定」42名（10.6%）、「配偶者が決定」104名（26.3%）、「二人で相談するが、あなたが主に決定」168名（42.4%）、「二人で相談するが、配偶者が主に決定」82名（20.7%）であり、退職・再雇用者は、「あなたが決定」81名（9.6%）、「配偶者が決定」234名（27.9%）、「二人で相談するが、あなたが主に決定」323名（38.5%）、「二人で相談するが、配偶者が主に決定」202名（24.1%）である（図 137）。

図 137. 家計の消費の決定（付問 25- 2、24- 2）

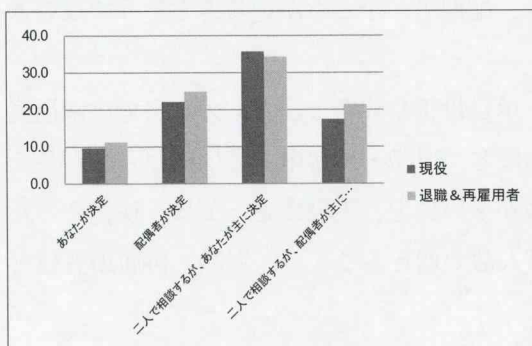
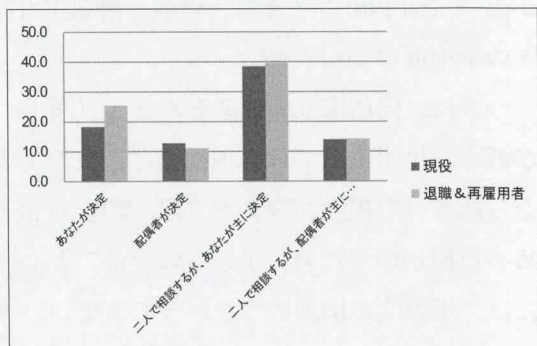


図 138. 家計の貯蓄・投資の決定（付問 25- 2、24- 2）



「貯蓄と投資の決定」(図 137)では、現役は「あなたが決定」83名(21.3%)、「配偶者が決定」60名(15.4%)、「二人で相談するが、あなたが主に決定」181名(46.4%)、「二人で相談するが、配偶者が主に決定」66名(16.9%)、退職・再雇用者は、「あなたが決定」218名(26.3%)、「配偶者が決定」104名(12.6%)、「二人で相談するが、あなたが主に決定」374名(45.1%)、「二人で相談するが、配偶者が主に決定」133名(16.0%)である。

続いて、夫婦の役割と幸福度や満足度の関係をみると(19頁図18、19参照)、消費や貯蓄・投資を単独で決定する場合には、配偶者ではなく、本人が決定した方が、幸福度、満足度(生活全般、仕事)が高くなる。しかし、単独ではなく、配偶者と相談して決める方が、幸福度、満足度ともにより高くなる。この場合、幸福度、満足度(生活全般、家庭)においては、最終的に配偶者が、満足度(仕事)は本人が決定する場合に最も高くなる。つまり、単独で決定するよりは、配偶者と相談して決定する方が幸福であり、相談した場合には配偶者に判断を委ねることが概ね快適であるが、仕事に限っては本人が選択することが望ましいようである。これらは自己決定や選択が本人の効用を高めるという仮説とは異なる結果であるが、仕事から家庭・生活へと活動領域を移行させた人にとって、難しい選択や不慣れな判断はときに苦痛である。こうした苦痛を配偶者と相談して軽減することは、退職後の幸福を高める上で大切である。

第5節 周囲との関係性(交友関係、社会との関わり、社会関係資本)

(1) 周囲との関係性

① 社会関係資本

人びとの幸福度は、財やサービスの消費だけでなく、ともに暮らす家族、気心の知れた友人、地域活動の参加等の社会関係資本(ソーシャルキャピタル)の有無によっても左右される。

はじめに、家族関係をみてみよう。配偶者のいる人(図139)、子どものいる人の幸福度が高い(図140)。とくに、退職・再雇用者では、配偶者、子どもがいる人とそうでない人との幸福度の差が大きい。

つぎに、同居家族の形態をみると(図141)、単身世帯や片親と子どもの世帯では幸福度が低く、世帯人数では、現役では人数が少ないほど、退職・再雇用者では概ね人数が多くなるほど、幸福度が高まる(図142)。世帯人数が多いほど、現役にとっては、扶養するための負担が増すため、子どものいることや世帯人数の増えることが、退職・再雇用者ほどには、幸福度の増加につながってこない。

図 139. 配偶者の有無（問 24）と幸福度（問 37）

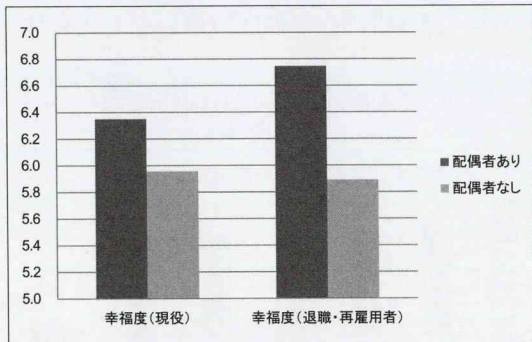


図 140. 子どもの有無（問 30）と幸福度（問 37）

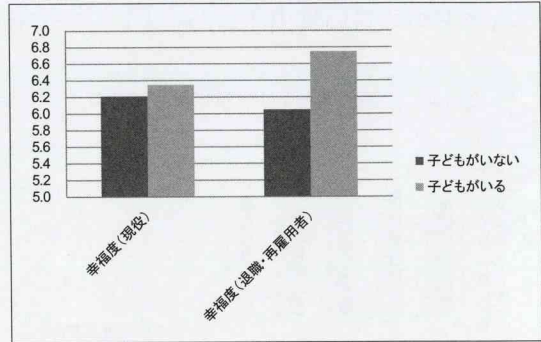


図 141. 同居家族の形態（問 28）と幸福度（問 37）

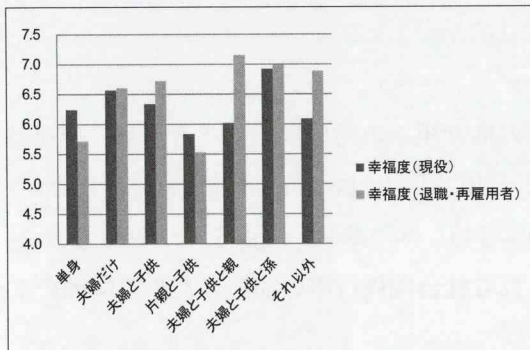
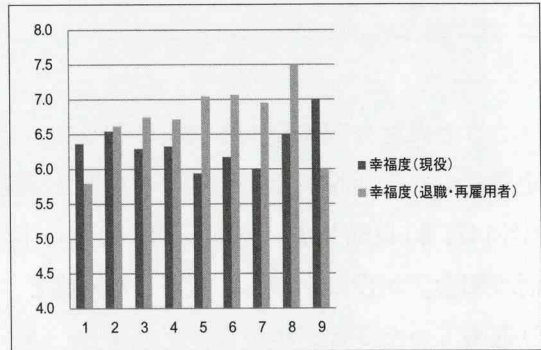


図 142. 世帯人数（問 29）と幸福度（問 37）



友人・仲間の人数、その間柄と幸福度をみると、現役、退職・再雇用者ともに、友人・仲間の人数が多くなるほど幸福度が高く、いない人は幸福度がかなり低い（20 頁図 20）。その間柄による幸福度の違いは見られない（図 143）。

図 20（再掲）友人・仲間の人数（問 9）と幸福度（問 37）

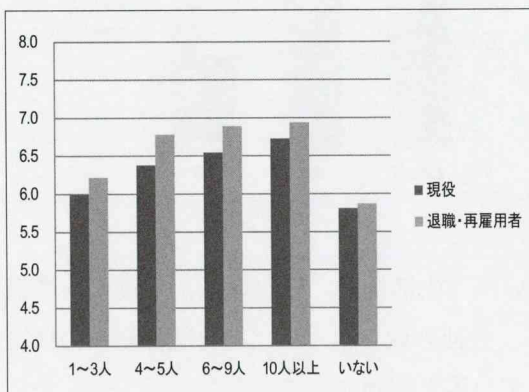
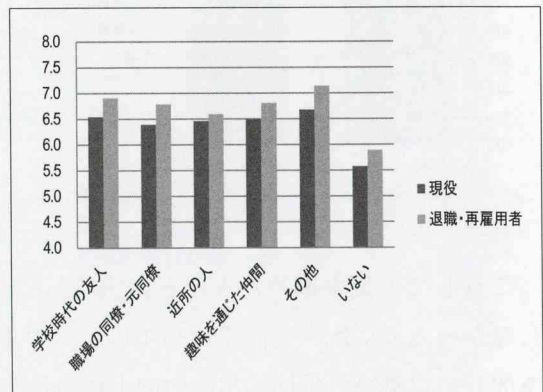


図 143. 友人・仲間の間柄（問 9）と幸福度（問 37）



「大部分の人は信頼できる」という他人に対する信頼の度合い（図 144）や「1 週間のうちでどのくらい外出するか」といった活動の実態（図 145）も幸福度の違いをもたらす。

図 144. 大部分の人々は信頼できる（問 41）

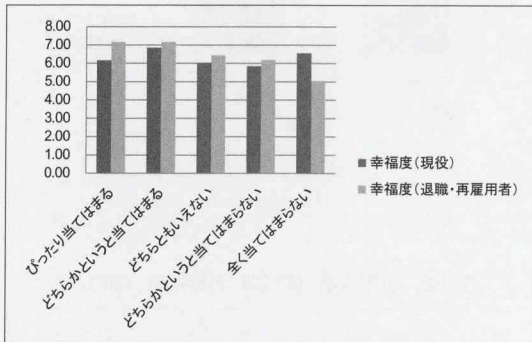
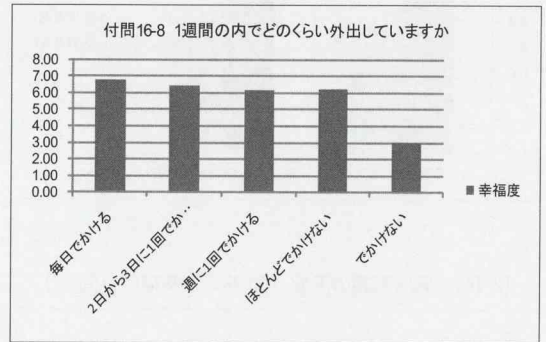


図 145. 1 週間の内でどのくらい外出しているか（付問 16- 8）



こうした社会関係資本の構築に関して、会社の取り組みの効果はあるだろうか。会社の定年後の「生活説明会」に対する評価と「趣味」（10 頁図 6、図 146）、「近所との付き合い」（図 147、20 頁図 21）、「家族と話す機会」（図 148、149）への準備の関係をみてみると、「生活説明会」が役に立ったと回答した人ほど、これら社会関係資本の構築のための準備をより進めていたことがわかる。

図 6（再掲）会社の取り組み（定年後の「生活説明会」の評価（問 13）と在職時定年退職後に備えた「趣味」の準備（問 6）

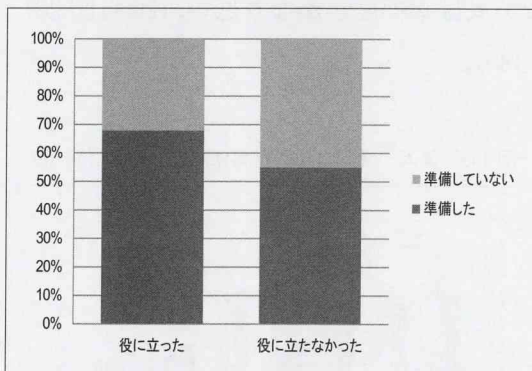
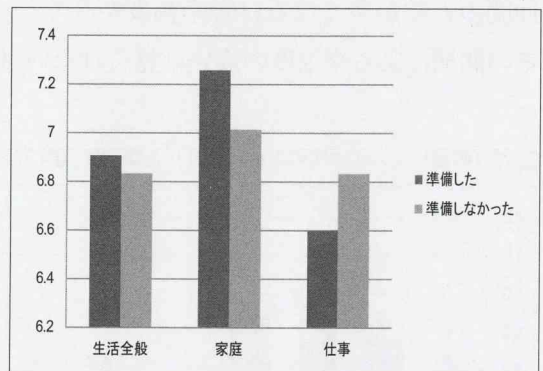


図 146. 在職時定年退職後に備えた「趣味」の準備（問 6）と現在の満足度（問 38）



こうして準備を進めた人ほど、「家庭」あるいは「生活全般」における満足度が、準備しなかった人に比べて高くなっている。つまり、会社の取り組みは、社会関係資本の構築を促し、退職後の生活満足度の向上につながっていると評価できる。

図 147. 会社の取り組み（定年後の「生活説明会」）の評価（問 13）と在職時定年退職後に備えた「近所付き合い」の準備（問 6）

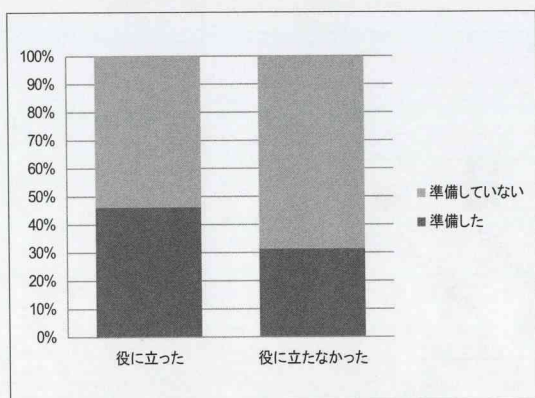


図 21 (再掲) 在職時定年退職後に備えて「近隣や地域社会との付き合いを増やしたか」(問 6)と現在の満足度 (問 38)

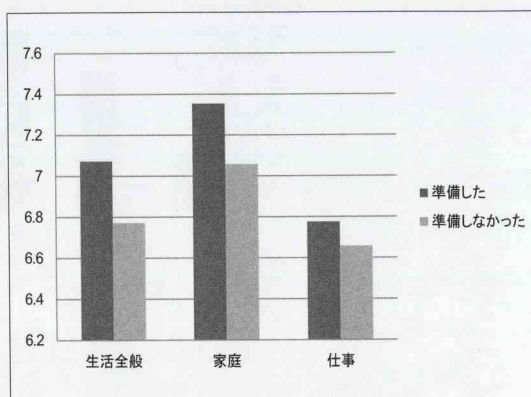


図 148. 会社の取り組み（定年後の「生活説明会」）の評価（問 13）と在職時定年退職後に備えた「家族と話す機会」の準備（問 6）

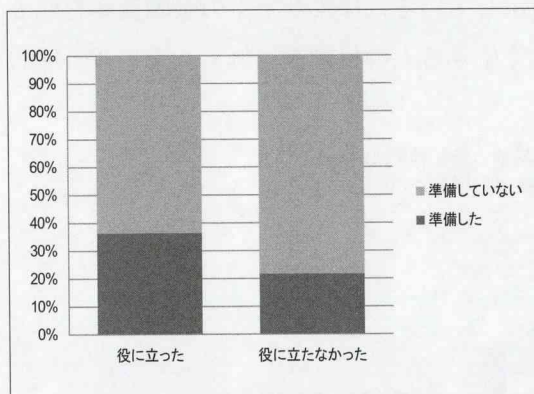
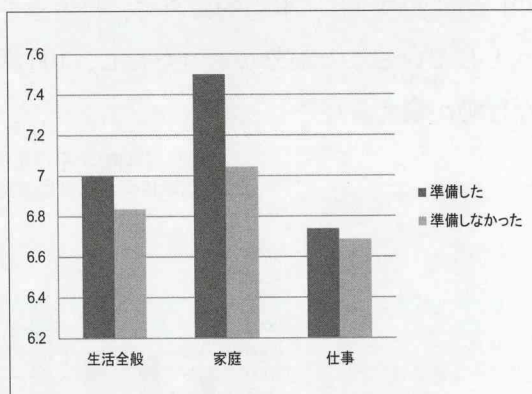


図 149. 在職時定年退職後に備えて「家族と話す機会を増やしたか」(問 6)と現在の満足度 (問 38)



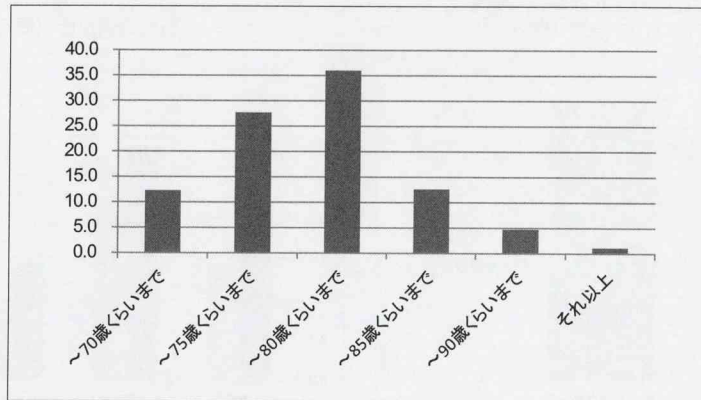
第 6 節 将来の展望（余寿命予想と資産準備）

（1）将来の展望

① 余寿命予想（長生きリスク）

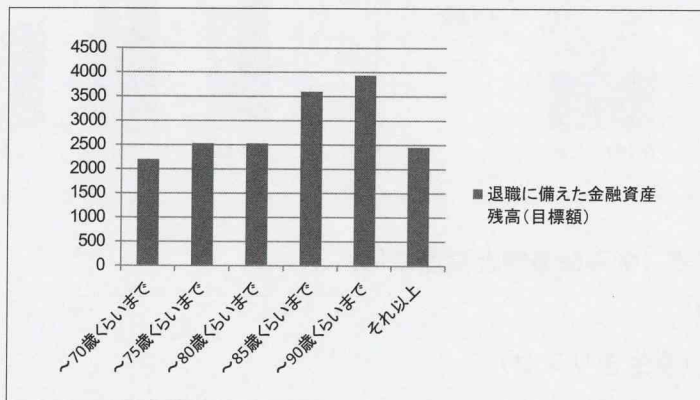
退職後にゆとりのある生活を送るためには、自分の余寿命に対して、十分な資産残高を準備しておく必要があるが、長生きリスクを過小に見積もってしまい、資産不足に陥るおそれがある。あるいは、逆に、健康リスクを過大に見積もり、医療保険に支払いすぎることもあるだろう。そこで、現役に対して、いくつまで生きると考えているかを質問した（図 150）。「～ 70 歳くらいまで」58 名（12.3%）、「～ 75 歳くらいまで」130 名（27.7%）、「～ 80 歳くらいまで」169 名（36.0%）、「～ 85 歳くらいまで」59 名（12.6%）、「～ 90 歳くらいまで」22 名（4.7%）、「それ以上」5 名（1.1%）である。

図 150. 平均想定余寿命（歳）（現役のみ、問 14）



この余寿命予想と退職後に備えた退職時の金融資産残高の目標額とは、正の関係がある（21 頁図 22 参照）。平均的にみて、長生きを想定している人はより多くの金融資産を残そうとしていることが分かる（ただし、100 歳近く生きる人の目標額は低く、やや非合理的な行動が窺える）。

図 22（再掲） 平均想定余寿命（歳）（問 14）と
退職に備えた金融資産残高（目標額）（問 18）



余寿命予想は、本人の健康状態の正確な把握による合理的な計算からだけでなく、死亡リスクをどう見積もったかというリスクに対する態度や、長生きして将来の消費を楽しみたいという時間選好にも左右される。この点について確認すると、リスク選好については、危険回避的な人ほど余寿命を長く見積もる傾向がある。つまり、危険回避的な人ほど、長生きから生じる貯蓄不足のリスクに対して回避しようと考えられ、合理的な行動をとっていると考えられる（図 151、152）。

図 151. 宿題の取り組み方（問 39）と
平均想定余寿命（歳）（問 14）

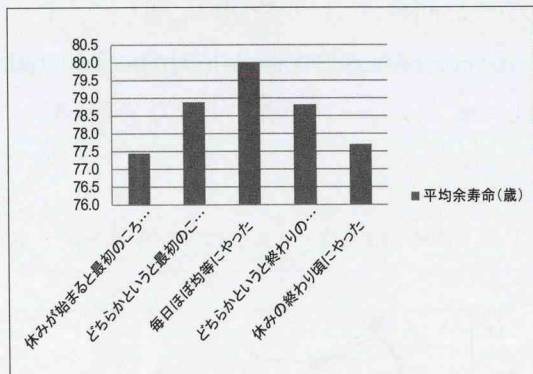
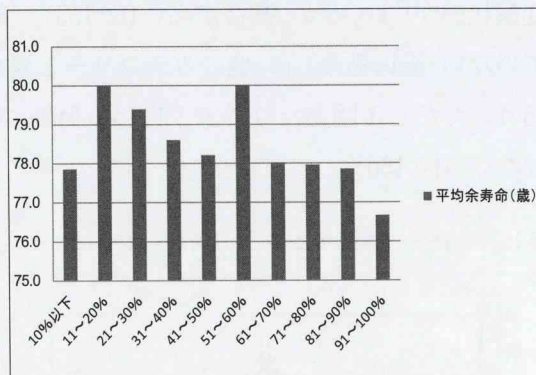


図 152. 出かけるときに傘を携帯する降水確率（問 40）と
平均想定余寿命（再）（問 14）



第7節 健康管理、就労状態と健康

（1）在職時の健康管理と健康・医療

退職・再雇用者向けアンケートでは、「在職時（50歳頃）、定年退職後の就労や生活に備えて準備していたこと（問6）」と「定年退職後に、あなたは在職時に「やっておけばよかった」と思うもの（問14）の二つを質問している。このうち、在職時に「健康管理や体力づくりに注意」していた人と、していなかった人、退職後の現在、在職時に「健康管理や体力づくりに注意」しておけばよかったと後悔している人と、後悔していない人について、在職時の健康管理の有無と現在の後悔の有無をカテゴリー化すると、「やっていた・後悔なし」、「やっていた・後悔あり」、「やっていない・後悔なし」、「やっていない・後悔あり」の4タイプの回答者を作ることができて表2の通りとなる。

表2 在職時の健康管理の有無と現在の後悔の有無

	後悔なし	後悔あり
やっていた	41.4	22.5
やっていない	27.0	9.1

退職・再雇用者の人で、在職時に定年退職後の就労や生活に備えて、健康管理や体力づくりに注意しておらず、定年退職後に、それを後悔している人が約9%いる。また在職時に健康管理や体力づくりに注意していたものの、もっとやっておけば良かったと後悔している人が22.5%いる。

現在の健康状態をみると、「やっていない・後悔あり」は、他のカテゴリーと比べて、健康状態が「よくない」割合が高い(図153)。「外来・受診回数」では、受診回数に関して、「やっていない・後悔あり」は、他のカテゴリーと異なる分布を持ち、受診回数が相対的に多い(図154)。ただし1回あたり外来・自己負担額に関しては、グループの間に大きな分布の違いはない(図155)。

図153. 在職時・健康管理と現在の健康状態(構成比:%)

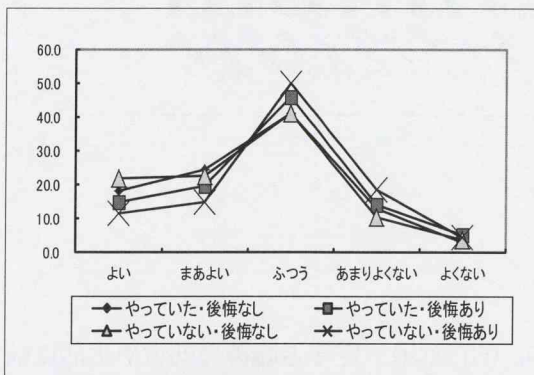
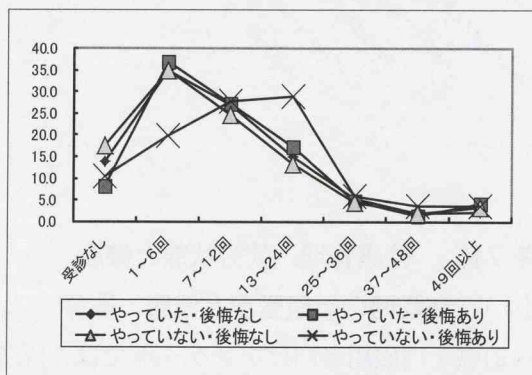


図154. 在職時・健康管理と外来・受診回数(年間、構成比:%)



過去1年の入院経験では、「やっていない」は、「やっていた」よりも低い値を取る。過去5年の入院経験では、「やっていない・後悔あり」は、他のカテゴリーと比べて、高い値(入院率)を取る(図156)。

図155. 在職時・健康管理と1回あたり外来・自己負担額(構成比:%)

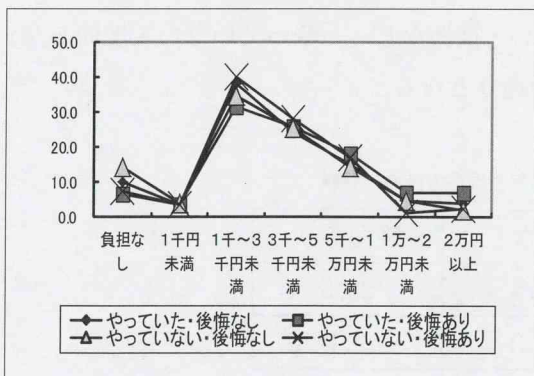
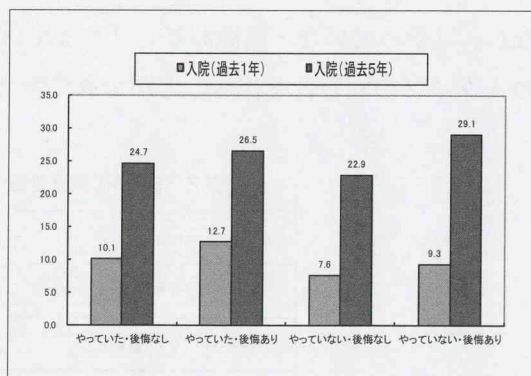


図156. 在職時・健康管理と入院・受診の経験(構成比:%)



以上より、退職再雇用者で在職時に健康管理や体力づくりに注意しておらず、それを後悔している人は現在の健康状態は悪く、医療機関に多くかかっている。すなわち現在の健康が良くないという意味で、「やっていない・後悔あり」のカテゴリーは、定年後いきいきと暮らしていない人たちのグループである。

図 157 は、退職再雇用者の最も経験年数が長い職種別に在職時・健康管理をまとめたものである。構成比は、職種ごとの割合である。最も左側にある「全体」は、比較の基準として、全サンプルに関する割合を示している。「やっていない・後悔あり」の категорияは、グラフ中に枠で印している。職種が「技術・研究・開発」、「事務」、「営業」、「プログラマー・SE」だった者には、「全体」と比較して、在職時に健康管理や体力づくりに注意しておらず、それを後悔している人の割合が高い。

図 157. 在職時・健康管理と最も経験年数が長い職種
(構成比：%)

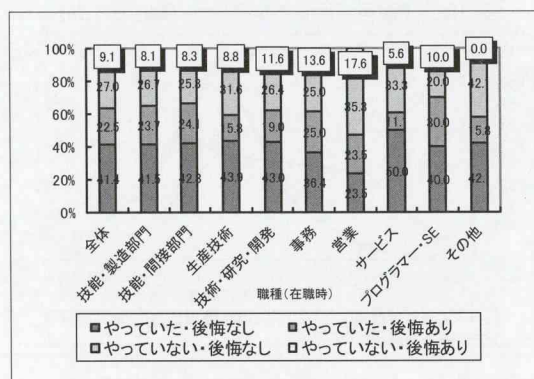


図 158. 在職時・健康管理とこれまでの最高位の役職
(構成比：%)

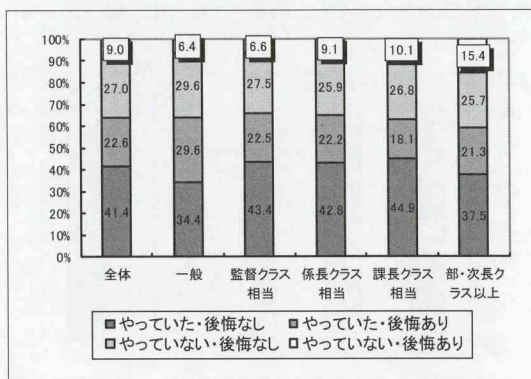


図 158 は、退職再雇用者のこれまでの最高位の役職別に在職時・健康管理をまとめたものである。構成比は、役職ごとの割合である。役職が「課長クラス相当」、「部・次長クラス以上」だった者には、「全体」と比較して、在職時に健康管理や体力づくりに注意しておらず、それを後悔している人の割合が高い。

(2) 現役世代の不安・心配

現役は、定年退職後の生活にいくつもの不安と心配を抱えている。定年退職後に予想される大きな不安や心配として、健康（例えば、大病の発病）に対する不安、将来の必要医療に対する経済的な備え、配偶者や親の介護を抱えている、などがある。そこで、特に年金、健康・医療、病気などの不時の備えに関する不安と心配を分析する。

現役世代の多くが不安・心配している事項をみると、健康、年金、貯蓄が上位に来る（図 159）。現役の 50～60%の人は年金について、54～65%の人は健康・医療（本人と家族）について、37%の人は病気などの不時の備えについて、不安や心配を抱えている。

年金受給の現状は、60～64歳の退職再雇用者とそれ以外（65～69歳および70歳以上の退職再雇用者）で異なっている（図 160）。60～64歳の退職再雇用者では、5%程度の人

年金を受給していないのみで、それ以外の人は年金を受給している。受給水準は、10万円未満、10～20万円未満、20～30万円未満がそれぞれ25～30%程度で、この区分で全体の80%近くを占める(図160)。他方、65～69歳および70歳以上の退職再雇用者では、受給していない人はほとんどおらず、全体の60%近い人たちが20～30万円未満の年金を受給している。なお、55～59歳の現役とすべての退職再雇用者では、現在の健康状態についての分布には大きな差がない。「外来の受診回数」では、退職再雇用者は、現役と比較して、病院に行くようになり、回数も増加するが、1回あたり窓口負担額は、大きく変化しない。

図159. 現役世代の不安と心配(上位5位、構成比：%)

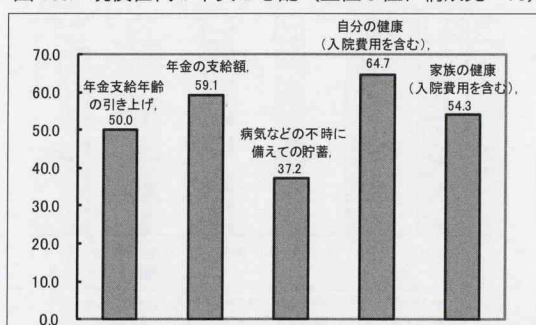


図160. 退職再雇用者の年金受給(構成比：%)

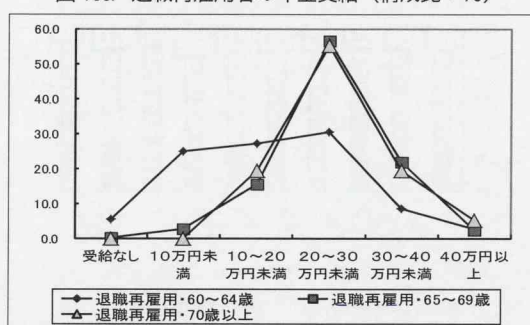


図161は、現役および退職再雇用者の入院経験(過去1年・過去5年)と高額自己負担経験をまとめたものである(現役票・問44,45,46、退職・再雇用者票・問44,45,46)。「入院」では、退職再雇用者は、現役と比較して、入院を経験するようになる(過去1年・過去5年)。高額自己負担経験では、55～59歳の現役の人は、35.7%の人がその負担を経験している。70歳以上の退職再雇用者の人は、41.9%の人がその負担を経験している。65～69歳の退職再雇用者がピークとなっている点を除けば、全体的な傾向としては加齢の効果が現れている。

図161. 入院・受診等の経験(構成比：%)

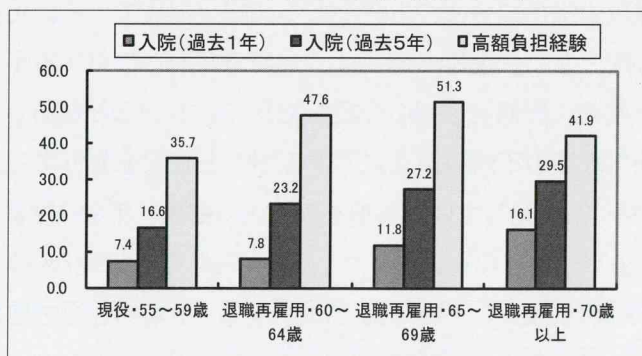


図 162. 入院日数（構成比：％、過去1年に入院を経験した者に関して）

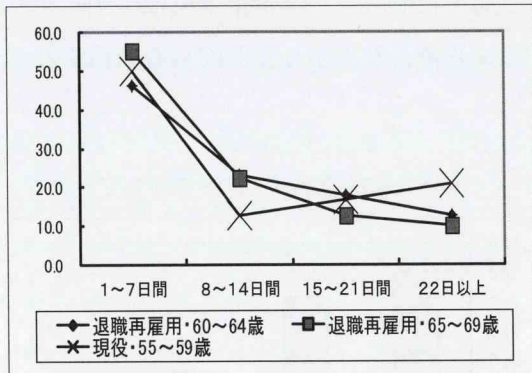


図 163. 入院・自己負担額（構成比：％、過去1年に入院を経験した者に関して）

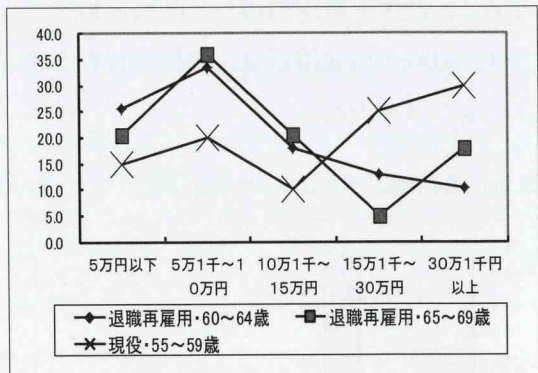


図 162 は、過去1年間に入院経験がある者に限定して分析を行ったものである。入院を経験した人の45～55％は1週間以下の入院であり（1～7日以下）、入院を経験した人のおよそ70％は、2週間以下の入院である（「1～7日以下」と「8～14日以下」の合計）。

図 163 は、過去1年間に入院経験がある者に限定して分析を行ったものである。退職・再雇用者で、入院を経験した人の約55％は、入院の自己負担額が10万円以下（「5万円以下」と「5万1千～10万円」の合計）であるが、現役で入院を経験した人の約55％は、自己負担額が15万1千円以上（「15万1千～30万円」と「30万円以上」の合計）である。

介護について、退職・再雇用者本人の要介護認定では（図 164）、60～64歳の退職再雇用者の人の1.3％が認定を受けている。65～69歳の退職再雇用者の人は、2.1％の人がその認定を受けている。「家族の要介護者」（図 165）では、退職・再雇用者も現役も一定割合、抱えており、その両方で抱える割合は大きな差がない。

図 164. 要介護認定（構成比：％）

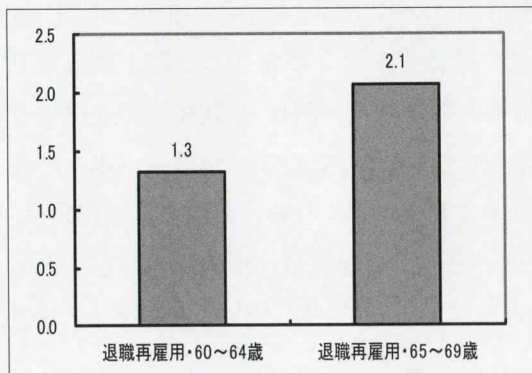
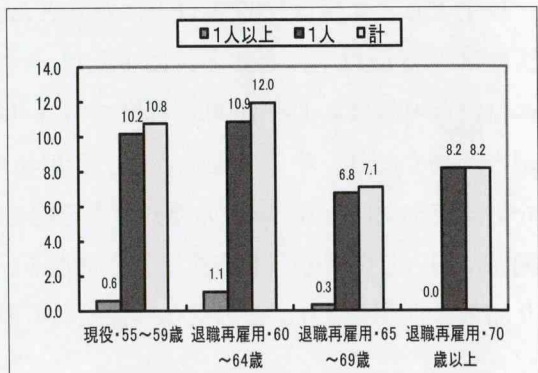


図 165. 家族の要介護者（構成比：％）



病気などの不時の備えとして、「公的医療保険」(図 166) をみると(退職・再雇用者のみ)、大半は、健保・被保険者か、国保・世帯主として加入している。「私的医療保険」(図 167) では、退職・再雇用者は、現役と比較して、加入する割合が下がり、保険料も節約するようになる(図 168)。

図 166. 退職再雇用者の公的医療保険・加入(構成比: %)

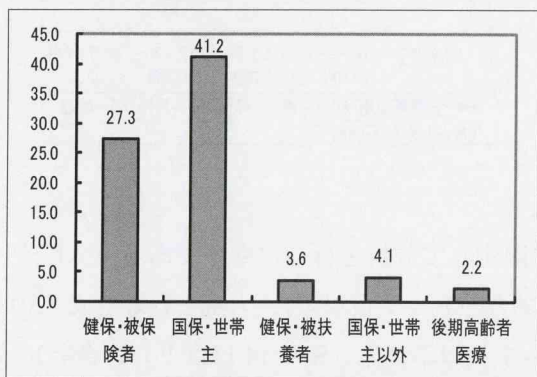


図 167. 私的医療保険・加入(構成比: %)

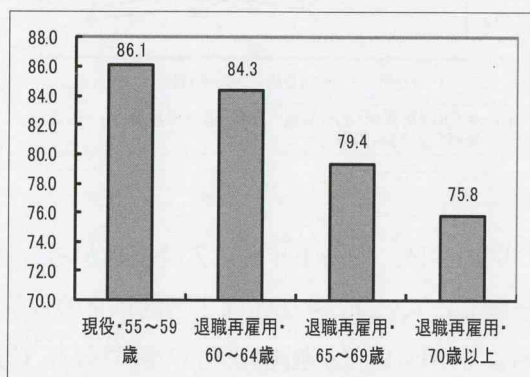
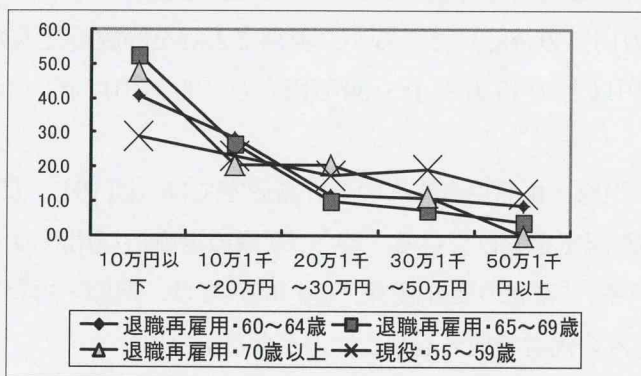


図 168. 私的医療保険・保険料(年間、構成比: %)



以上より、年金は、65歳以上になるとおよそ月額20～30万円未満の年金を受給する。医療は、65歳以上になると月に1回以上、外来で受診するようになり、その1回あたりの自己負担額はおよそ5000円程度である(年額1人あたり6万円)。入院で治療を受ける割合が高くなり、そこで支払う自己負担額は安くても10万円である。介護は、本人が要介護認定を受けたり、家族の要介護者を抱えたりする割合も高くなる。公的な医療保険は、国保に加入して保険料を支払うようになる。民間の私的医療保険は、保険の見直しであまり加入されなくなり、その支払い保険料も節約されて、年間で20万円以下に抑えられる。

(3) 50 歳時の就労意識と健康・医療

定年退職を前にして、老後のプラン設計で重要なことの一つに、貯蓄を考慮した家計費の見直しがある。特に近年では多くの人が様々な保険に入っており、その見直しは家計費および定年退職後の生活設計で重要な位置を占めている。今後は、定年後も家のローンが残るなど、現役時代における資産形成がしにくい時代ともなり、その資産形成準備の観点からも保険の見直しは重要になっている。そこで、55～60 歳未満（50 歳代後半）の現役の私的医療保険の加入と現在の健康状態、時間とリスク態度との関係を分析する。

現役票のうち「55～60 歳未満（50 歳代後半）」の回答者を抽出して、現役の私的医療保険の加入割合を職種ごとにまとめると、図 169 のようになる。加入割合が最も高いのは「技能・製造部門」の人で、最も低いのは「技能・間接部門」の人である。図 170 より、加入割合が最も高いのは収入額「40～50 万円未満」の人で、最も低いのは「50 万円以上」の人である。加入と収入額の間には、強い関係は観察されない。

図 169. 55～60 歳未満(50 歳代後半)「私的医療保険・加入」と「最も経験年数が長い職種」(構成比：%)

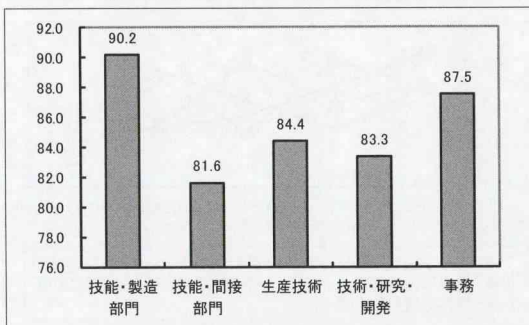


図 170. 「私的医療保険・加入」と「収入額」(割合：%)

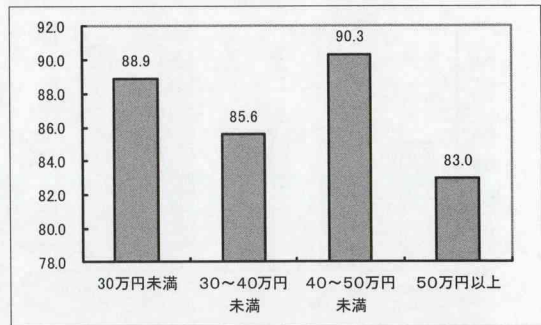


図 171. 私的医療保険・加入と現在の健康状態 (割合：%)

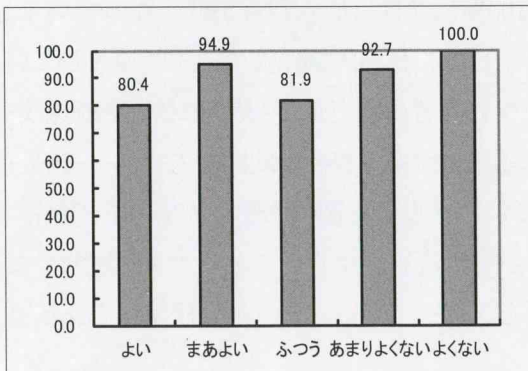
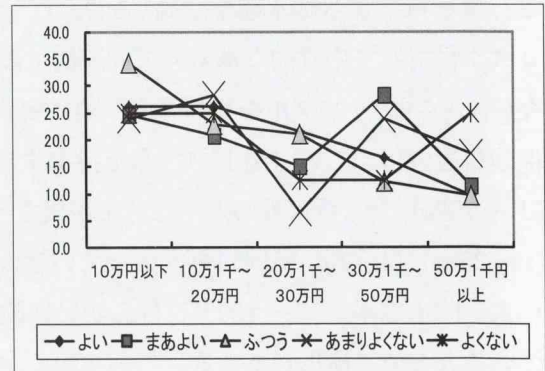


図 172. 「私的医療保険・保険料」と「現在の健康状態」(年間、構成比：%, 私的医療保険に加入している者に関して)



現役の私的医療保険の加入割合を現在の健康状態ごとにまとめると（図 171）、加入割合が最も高いのは健康状態が「よくない」の人で、最も低いのは「よい」の人である。健康状態がよくないとするにつれ、加入割合が高まる傾向にある。図 172 は、現役の私的医療保険・保険料の分析を行ったものである。現在の健康状態が「あまりよくない」・「よくない」人は、それ以外の人と比べ、高い保険料を支払っている人の割合が高い。

現役の私的医療保険の加入割合を時間に関する好みごとにまとめると（図 173）、「休みの終わり頃にやった」という回答になるにつれて、加入割合が高くなっている。図 174 は、サンプルを私的医療保険に加入している者に限定して、現役の私的医療保険・保険料の分析を行ったものである。「どちらかというとも休みの終わり頃にやった」と「休みの終わり頃にやった」人は安い保険料を支払っている人の割合が高い。「どちらかというとも最初の頃にやった」人は、その次に安い保険料を支払っている人の割合が高い。「毎日ほぼ均等」はその次で、最後は「休みが始まる最初の頃」の人である。

図 173. 私的医療保険・加入と時間に関する好み(割合:%)

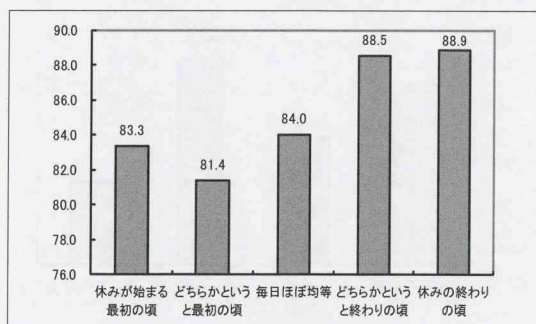


図 174. 私的医療保険・保険料」と「時間に関する好み（年間、構成比: %、私的医療保険に加入している者に関して

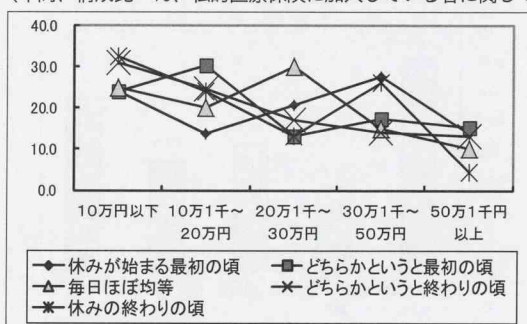


図 175 は、現役の私的医療保険の加入割合を危険に対する好みごとにまとめたものである。傘を持参する降水確率が高い回答（75～100%）では、加入割合が低くなっている。リスクに対して中立的なある人（回避的でない人）は、私的医療保険にあまり加入していない。さらに、サンプルを私的医療保険に加入している者に限定して、現役の私的医療保険・保険料を分析すると（図 176）、傘を持参する降水確率がある程度の範囲の人（26～50%・51～75%）とそれ以外の人では分布が異なっている。非常に危険回避的な人（降水確率：0～25%）は、高い保険料を支払っている人の割合が高い。中立的である人（回避的でない人、降水確率：76～100%）は、安い保険料を支払っている人と、高い保険料を支払っている人とで二極化している。

図 175. 私的医療保険・加入と危険に対する態度(割合:%)

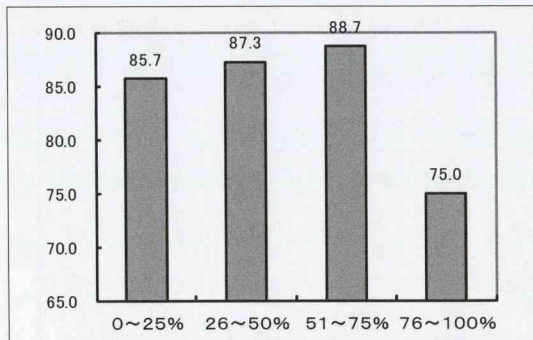
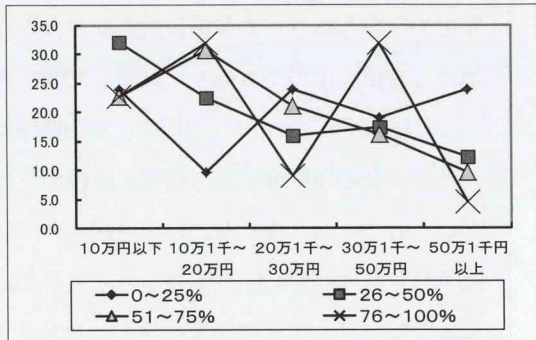


図 176. 私的医療保険・保険料と危険に対する態度
(年間、構成比:%、私的医療保険に加入している者に関して)



以上をまとめると、50歳代後半の現役の人で、現在の健康状態が悪く、過去に入院を経験している人は、私的医療保険に加入する割合が高く、支払っている保険料も多い。将来よりも現在の消費を重視する人は、私的医療保険に加入する割合が高いが、支払っている保険料は少ない人が多い。リスクに対してあまり回避的でない人は、私的医療保険に加入する割合が低くなっている。

コラム：いわゆる民間医療保険とその見直しについて

近年、定年退職前の保険見直しで注目されるのが、民間の保険会社が販売する医療保険です。これらの保険は、公的な医療保険（健康保険）と区別する意味で、私的医療保険と呼ばれます。以前は、共済等の傷害保険を除くと、生命保険会社が販売する生命保険に医療保障特約として付けることが一般的でした。この保険のあり方に大きな影響を与えたのが、2001年に行われた保険分野規制の撤廃です。

それまで日本国内の保険は、3つの区分ごとに分離規制されていました（保険分野規制）。第一分野に属する保険は、主に死亡保障をカバーする生命保険で、生命保険会社のみがその販売を認めていました。第二分野に属する保険は、自動車保険や火災保険等で、その取り扱いには損害保険会社のみが行いました。そして第三分野に属する保険は、がん保険や医療保険などの私的医療保険で、外資系保険会社や日本の中小保険会社にのみが販売していました。

この保険分野規制は長年にわたって課題になっていました。1996年には、日米保険協議において保険分野規制が緩和されることが合意されました。2001年1月からは、大手生命保険会社と損保が設立する生命保険会社（子会社）に、7月には損害保険会社に私的医療保険が単体で販売が認められるようになりました。

この2001年夏以降、日本国内では私的医療保険の販売が盛んになりました。この分野は歴史的経緯もあり、外資系保険会社が大きな市場シェアを有していましたが、将来成長が望める有望な市場でもあり、保険会社間で非常に激しい販売競争が行われています。このような経緯からこの10年の間に、私的医療保険は急速に普及しました。

日本の公的な医療保険を補完する役割を持つ私的医療保険ですが、その保険料は決して安いものではありません。定年退職後、保険を継続するか、それとも保険を解約し、その保険料分だけ貯蓄し続けるのかは、重要な退職後計画の一つです。その際、それを決める重要な要素は、本人の健康状態と、自分が老後に罹るかもしれない疾病のリスク評価と、そこで支払うことになる公的な医療保険制度での自己負担額に関する予想です。これらリスク評価と将来の負担予想は非常に難しい話ではありますが、近年では多くの人が定年退職を前に向き合わないといけな保険見直しの課題の一つとなっています。

(4) 60歳代前半・就労状態と健康・医療

60歳の定年後、退職者は就労するか（働き続けるか）、就労しないかの大きな選択に直面する。そして働き続ける場合には、会社の再雇用制度を利用して働くか（再雇用者）、その他で働くかの選択がある。再雇用制度は、健康状態や勤務態度、本人の意思を確認することを条件として、1年契約で64歳もしくは65歳までで用意されることが多い。そこではフルタイムで働く以外に、1日4時間、週2～3日勤務など短時間勤務等も用意されている。一方、このような再雇用制度が職場側のニーズとは合わないことも多く、そのミスマッチが課題になっている場合もある。

定年退職後、再雇用を含め、本人の就労決定に影響する要因のひとつが健康である。加齢に伴い、労働に必要な体力や健康水準が低下してくる。ここでは、60～65歳未満（60歳代前半）の退職再雇用者の就労と現在の健康状態の関係を分析する。

現役向けアンケートの「定年退職の予定」によれば（現役票・問13）、「定年退職を見込んでいる」が43.2%、「予定しているが、まだ決まっていない」が52.3%で、回答者の95%の人が定年退職を見込むか予定をしている（以下、定年退職を予定している人という）。この定年退職を予定している人に対して、再雇用制度で働くことを予定しているかどうかについても訊いている（現役票・付問13-2）。表3は、予定の有無を構成比（%）としてまとめたものである。

表3 現役の再雇用での就労予定（構成比：％、定年退職を予定している人に関して）

働くことを予定している（再雇用の通知を受けている）	22.8
働くことを予定しているが、まだ決まっていない	52.3
予定していない	19.4
その他	2.6

注1) 不明回答の構成比は省略している。

定年退職を予定している人で再雇用が確定している人が22.8%、再雇用を予定しているが確定していない人が52.3%である。定年退職を予定している人の75%は、再雇用制度による就労を継続もしくは希望している。

図177. 60歳代前半・退職再雇用者の就労（構成比：％）

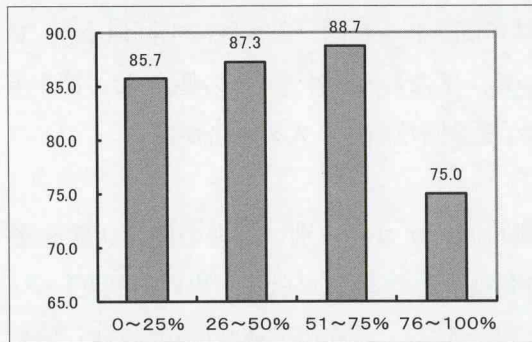


図178. 60歳代前半・退職再雇用者の労働時間（構成比：％、就労している者に関して）

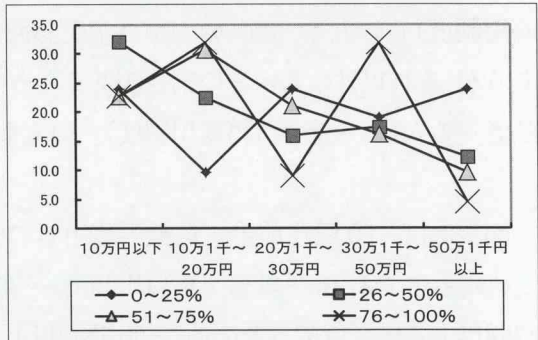


図177は、退職・再雇用者票より「60～65歳未満（60歳代前半）」の回答者を抽出し、60歳代前半・退職再雇用者の就労と労働時間をまとめたものである（退職・再雇用者票・問16、付問16-4）。60歳代前半の退職再雇用者で、再雇用制度で働いている人は全体の38.2%、その他で働いている人は全体の26.2%である。就労率は、この両者の合計で64.4%である。

図178は、60歳代前半の退職再雇用者のサンプルで、就労している者に限定して分析を行ったものである。縦軸に構成比（％）を取り、就労別の労働時間をまとめている。60歳代前半の退職再雇用者のサンプルで、再雇用制度で働き、週平均の労働時間が31時間以上の方は、全体の48.8%である。その他で働く人は、週平均の労働時間が30時間以下の人が多く、全体の29.0%である。

図 179. 「60～65 歳未満・就労」と現在の健康状態
(構成比：%)

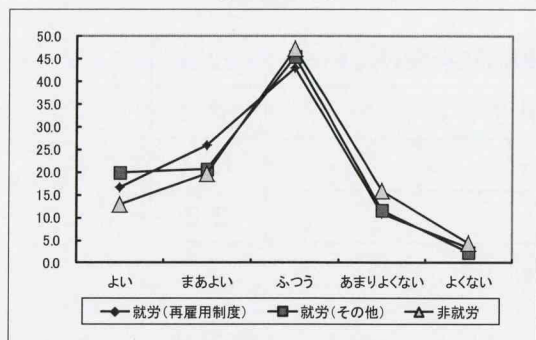


図 180. 「60～65 歳未満・就労」と外来・受診回数
(年間、構成比：%)

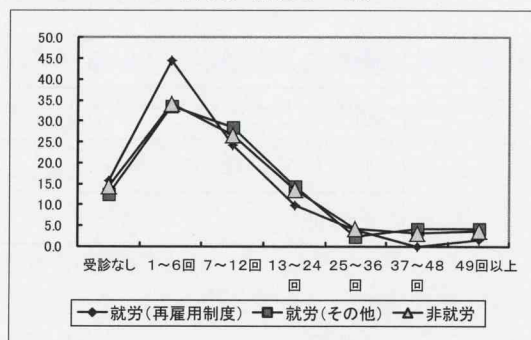


図 179 は、60 歳代前半・退職再雇用者の就労カテゴリー別に現在の健康状態をまとめたものである。「非就労」の人は、他のカテゴリーと比べて、現在の健康状態がわるい状態（「あまりよくない」と「よくない」の合計）の人の割合が高い。図 180 は、60 歳代前半・退職再雇用者の就労カテゴリー別に外来受診回数（年間）をまとめたものである。「就労（再雇用制度）」の人は、45%の人が外来受診回数は年間「1～6 回（2 ヶ月に 1 回以下）」であるが、それ以外の人はその割合が低くなっている。すなわち「就労（その他）」および「非就労」の人は、「就労（再雇用制度）」の人よりも受診回数が多い人の割合が高い。

図 181 は、60 歳代前半・退職再雇用者の労働時間カテゴリー別に現在の健康状態をまとめたものである。「就労（再雇用制度）・30 時間以下」の人は、「就労（再雇用制度）・31 時間以上」と「就労（その他）・30 時間以下」の人と比べ、現在の健康状態がわるい（「あまりよくない」と「よくない」の合計の割合が高い）。過去の入院経験（図 182）では、「就労（再雇用制度）・30 時間以下」と「就労（その他）・31 時間以上」は、高い値を取る。

図 181. 「60～65 歳未満・労働時間（週）」と現在の健康状態（構成比：%）

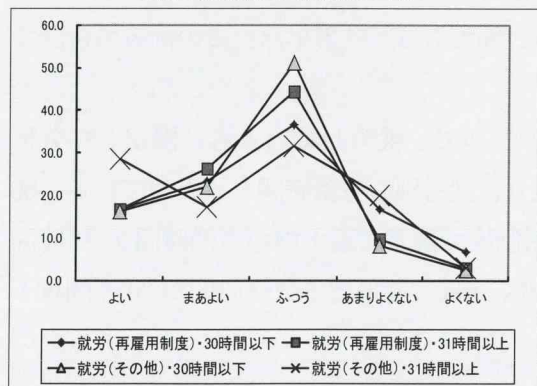
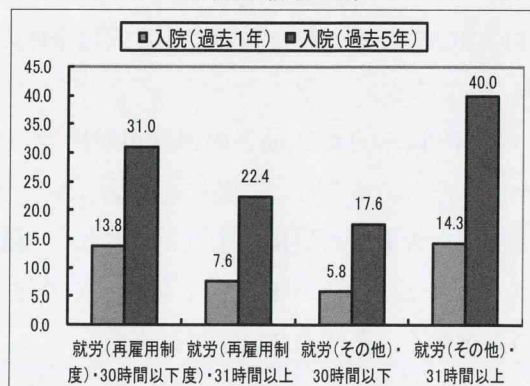


図 182. 「60～65 歳未満・労働時間（週）」と入院・受診の経験（割合：%）



以上より、60歳代前半の退職再雇用者で、再雇用制度で働き、週当たり労働時間が30時間以下の人と、その他で働き、週当たり労働時間が31時間以上の人の一部は、現在の健康状態は悪く、医療機関に多くかかっている。現在の健康が良くないという意味で、この両者のカテゴリーは、定年後イキイキと暮らしていない人たちのグループといえる。

図183は、退職再雇用者の最も経験年数が長い職種別に労働時間をまとめたものである。「就労（再雇用制度）・30時間以下」は、サンプル数の少ない「プログラマー・SE」と「その他」を除くと、「全体」と比較して、「技能・製造部門」でその割合が高い。「就労（その他）・31時間以上」は、サンプル数の少ない「営業」と「サービス」を除くと、「全体」と比較して、「生産技術」、「技術・研究・開発」、「事務」でその割合が高い。図184は、退職再雇用者のこれまでの最高位の役職別に労働時間をまとめたものである。構成比は、役職ごとである。「就労（再雇用制度）・30時間以下」は、「全体」と比較して、「係長クラス相当」でその割合が高い。「就労（その他）・31時間以上」は、「課長クラス相当」、「部・次長クラス以上」でその割合が高い。

図183. 「60～65歳未満・労働時間（週）」と最も経験年数が長い職種（構成比：％）

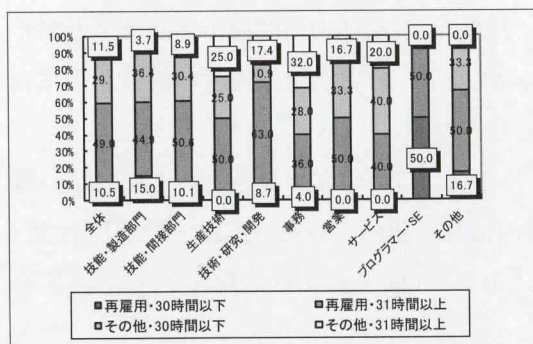
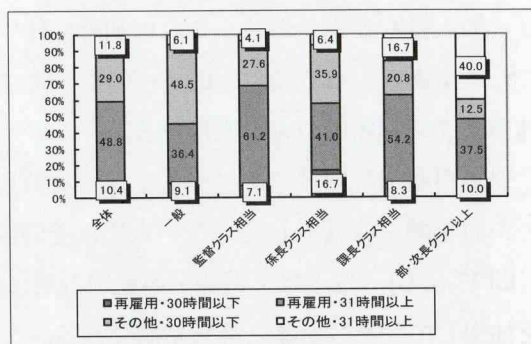


図184. 「60～65歳未満・労働時間（週）」とこれまでの最高位の役職（構成比：％）



退職再雇用者の労働時間別に在職時（50歳頃）の健康状態をみると、「就労（再雇用制度）・30時間以下」は、わかった状態（「あまりよくなかった」と「よくなかった」の合計19.4%、全体は10.9%）の人の割合が高く、「就労（その他）・31時間以上」は、わかった状態（「あまりよくなかった」と「よくなかった」の合計15.6%、全体は10.9%）の人の割合が高かった。さらに、15頁図13は、退職再雇用者の労働時間別に在職時・健康管理をまとめている。「就労（再雇用制度）・30時間以下」は、「全体」と比較して、在職時に健康管理や体力づくりに注意しておらず、それを後悔している人の割合が高い。

主たる結果をまとめると、60 歳代前半で就労している人に関して、再雇用制度で働き、週当たり労働時間が 30 時間以下の人（以下から「就労（再雇用制度）・30 時間以下」という）は、現在の健康状態は悪く、外来にかかる回数もそれ以外の人より多く、過去により多くの入院を経験している。そのような人は、在職時の職種が「技能・製造部門」、だった者で割合が高くなっている。在職時の役職は、「係長クラス相当」だった者で割合が高い。そして 50 歳時・健康状態で、悪かった状態の人の割合が高く、在職時に健康管理や体力づくりに注意しておらず、それを後悔している人の割合が高い。

（５）60 歳代後半・就労状態と健康・医療

65 歳は再雇用も終了し、年金の完全支給が始まる年齢である。そして新たに今後の人生を考える歳でもある。再雇用も含めた退職後、趣味や生きがいがなく生活に張りがなかったり、働きたくても望むような勤務形態（短時間、隔日勤務など）の職がなかったりすることも多い。「毎日が日曜日」状態になった時にどう生活をしたらいいのか分からないとの不安もあったりする。65 歳以降、イキイキと暮らすために、さらに働き続けるのか否かというのは非常に重要な選択である。

再雇用も含めた退職後、本人の就労決定に影響する要因として、その能力に加え、健康はその大きな要素である。これは加齢に伴い、労働に必要な体力や健康水準が低下してくるためである。ここでは、65～70 歳未満（60 歳代後半）の退職再雇用者の就労と現在の健康状態の関係について報告する。

退職再雇用者向けアンケートでは、就労している人にはいつまで働きたいと思っているのかの年齢を、就労していない人にはその現在の状況を訊いている（退職・再雇用者票・付問 17-5, 6）。以下は、退職・再雇用者票より「60～65 歳未満（60 歳代前半）」の回答者を抽出して、それをまとめた結果である。

表 4 は、60 歳代前半で就労している人がその働きたいと思っている年齢について、構成比（％）としてまとめたものである。

表 4. 60 歳代前半で就労している退職再雇用者の就労意欲（構成比：％）

60 歳～65 歳	67.4
66 歳～70 歳	29.9
70 歳以上	2.7

67%の人が65歳まで働きたいと思っている。約30%の人は70歳まで、2%強の人は70歳以上まで働きたいと思っている。表5は、60歳代前半で就労していない人について、現在の状況とその就労意欲について訊いたものであり、その状況に関する選択率（%）としてまとめている。

表5. 60歳代前半で就労していない退職再雇用者の就労意欲（選択率：%）

求職活動している	12.8
求職活動していない	37.8
雇用給付を受けている (もしくは申請中である)	4.9
仕事から引退した	69.5

厳密な意味で就労意欲を持ち、求職活動している人は、12.8%である。一方、仕事から引退した人は、60歳代前半で就労していない人の69.5%となっている。

続いて、退職・再雇用者票より「65～70歳未満（60歳代後半）」の回答者を抽出し、60歳代後半・退職再雇用者の就労（図185）と労働時間（図186）をまとめた（退職・再雇用者票・問16、付問16-4）。60歳代後半の退職再雇用者で、再雇用制度で働いている人は全体の5.0%、その他で働いている人は全体の34.5%である。就労率は、この両者の合計で39.5%である。60歳代後半の退職再雇用者のサンプルで、再雇用制度で働いた経験があり、週平均の労働時間が21時間以上の人、全体の33.9%であり、週平均の労働時間が20時間以下の人、全体の24.8%である。再雇用制度で働いた経験がなく働いている人は、週平均の労働時間が20時間以下の人が多く、全体の24.8%である。

図185. 60歳代後半・退職再雇用者の就労（構成比：%）

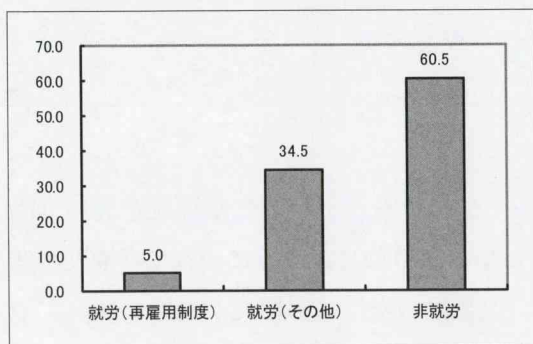
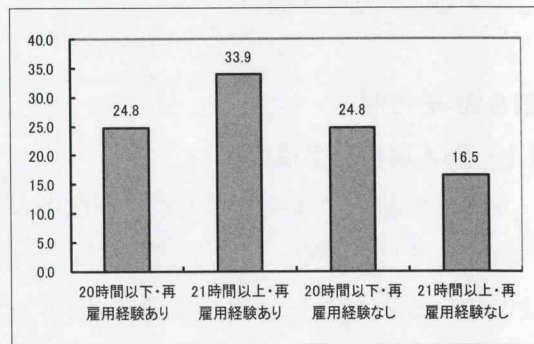
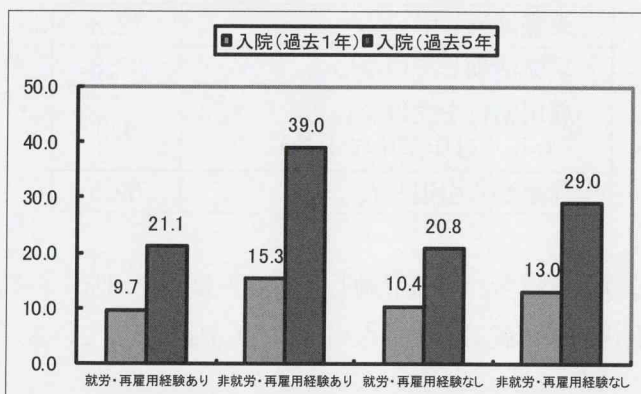


図186. 60歳代後半・退職再雇用者の労働時間（構成比：%）



60 歳代後半・退職再雇用者の就労カテゴリー別に現在の健康状態を調べると、「就労・再雇用経験あり」の人は、現在の健康状態がよい状態（「よい」と「まあよい」の合計）の人の割合が高く、再雇用経験の有無に関わらず「非就労」の人は、「就労」の人よりも受診回数が多い人の割合が高かった。また、再雇用経験の有無に関わらず「非就労」の人は、「就労」の人よりも過去に入院を経験している人の割合が高い（図 187）。

図 187. 「65～70 歳未満・就労」と入院・受診の経験（割合：％）



以上の分析、および「60 歳代前半」の就労状態の分析と同様にして、以下の通りの結果を得た：60 歳代後半で就労していない人（以下「非就労」の人という）は、再雇用経験の有無に関わらず、現在の健康状態は悪く、外来にかかる回数もそれ以外の人より多く、過去により多くの入院を経験している。そのような人は、再雇用経験がある場合には、在職時の職種が「技能・製造部門」と「技術・研究・開発」だった者で割合が高くなっており、在職時の役職は、「課長クラス相当」だった者で割合が高い。再雇用経験がない場合には、在職時の職種が「生産技術」と「事務」、だった者で割合が高くなっており、在職時の役職は、「一般」と「監督クラス相当」だった者で割合が高い。そして 50 歳時・健康状態で、悪かった状態の人の割合が高く、在職時に健康管理や体力づくりに注意しておらず、それを後悔している人の割合が高い。

第 8 節 その他

（1）個人属性と幸福度

定年退職後のグループの方が、在職中のグループよりも、平均的に幸福度が高い（図 188）。ただし、加齢と幸福度の関係ははっきりしない（70 歳に近づくにつれて幸福度が低下しているように見える）。性別と幸福度では、退職後の女性の幸福度が男性に比べてやや低い。また、学歴が高いほど、幸福度が高い（図 189、190）。

図 188. 年齢（問 26）と幸福度（問 37）

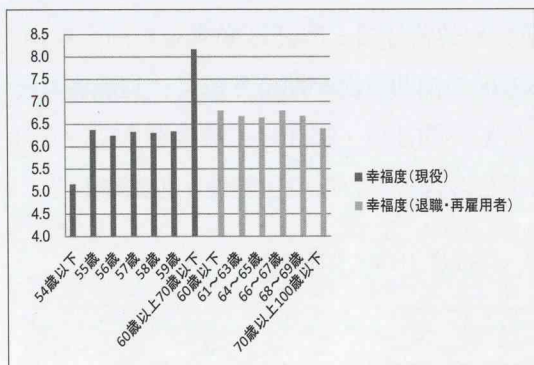


図 189. 性別（問 23）と幸福度（問 37）

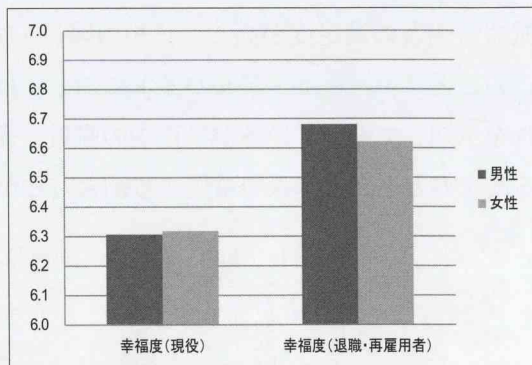
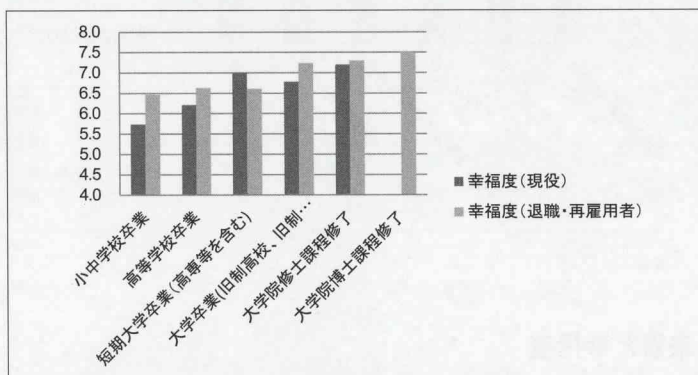


図 190. 最終学歴（問 27）と幸福度（問 37）



(2) 雇用形態と幸福度

雇用形態別の幸福度をみると、正規の職員・従業員の幸福度が高い（図 191）。雇用形態別の勤労所得でも、正規の職員・従業員で高く、幸福度は勤労所得に由来すると推察される（図 192）。

図 191. 雇用形態（付問 16- 2）と幸福度（問 37）

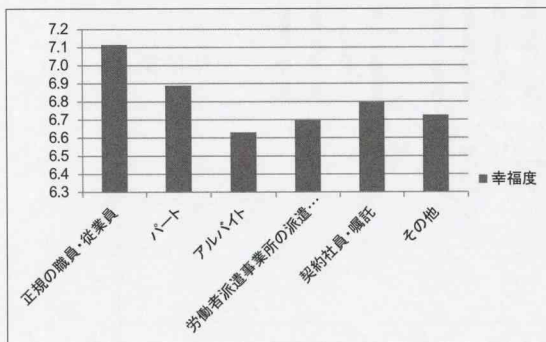
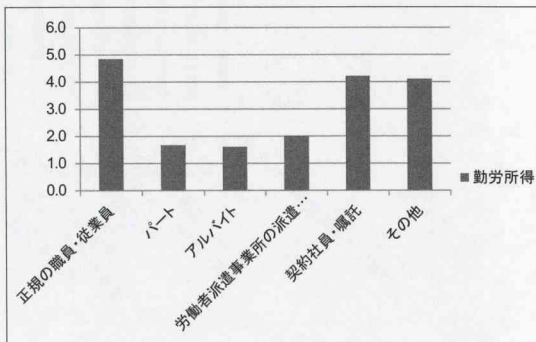
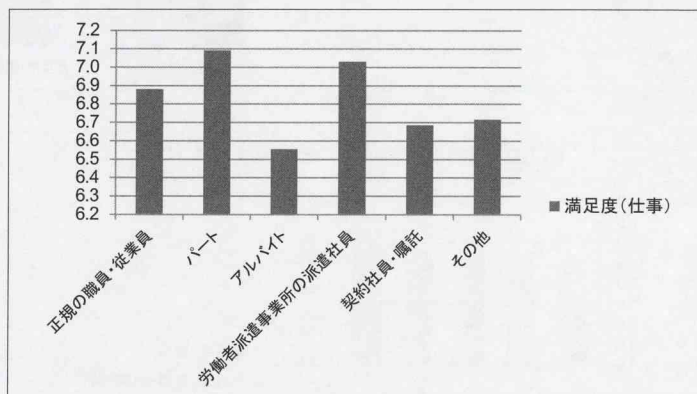


図 192. 雇用形態（付問 16- 2）と勤労所得（付問 34- 1）



一方、雇用形態別に仕事の満足度をみると（15 頁図 12）、パートや労働者派遣事業所の派遣労働者の満足度が高く、正規の職員・従業員や契約社員・嘱託は必ずしも高くない。このことは、パート・アルバイトに対してはある種の補助労働が期待されて、退職者もそれを承知して働いているが、正規の職員・従業員や契約社員・嘱託は、職場から期待される働き方と退職者本人の希望する働き方とが必ずしも合っていない可能性が推察される。

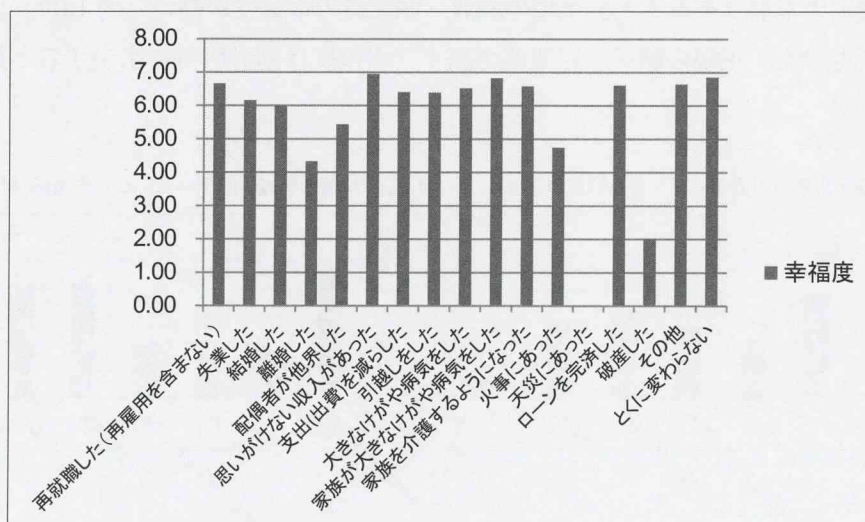
図 12（再掲） 雇用形態（付問 16- 2）と満足度（仕事、付問 38- 3）



（３）定年後の出来事と幸福度

定年後に離婚、配偶者の他界、火事、破産を経験した人の幸福度は非常に低い（図 193）。

図 193. 定年退職後の出来事（問 12）と幸福度（問 37）



第3章 実証分析編

前節において、退職後の暮らしぶり、在職時の過ごし方、それらと個人属性との関係等を見ることによって、さまざまな要因が退職後の暮らしに影響することがわかった。しかし、そのうちのどの属性が退職後の生活・労働、幸福度・満足度、健康状態を強く決定するのかを特定するためには、さまざまな要因を同時に考慮した分析が必要となる。また、退職前後の状態の変化を比較する際には、個人の特性の違いや因果関係にも注意を要する。そこで、本節では、いくつかの仮説に対して、実証分析を行って、退職後の暮らしの決定要因の特定化やその統計的な有意性を明らかにする。

第1節 幸福度、満足度の決定要因

これまでの分析から、幸福度や満足度が、基本属性、配偶者や子どもの有無、退職前の準備状況、健康状態等の違いによって異なることがわかった。しかし、ある属性が幸福度や満足度に影響を与えるか否かを確認するためには、その他の属性からの影響を除いて（コントロールして）分析する必要がある。

そこで、本節では、退職・再雇用者と現役を対象として、幸福度と満足度の決定要因について、基本属性等を説明変数とした回帰分析を行う。主な変数と基本統計量は表6の通りである。

表6. 記述統計量

	退職・再雇用者			現役		
	サンプル サイズ	平均	標準偏差	サンプル サイズ	平均	標準偏差
幸福度(非常に不幸0～非常に幸福10)	657	6.72	1.58	299	6.40	1.67
生活満足度(非常に不満0～非常に満足10)	657	6.95	1.67	298	6.59	1.72
家庭満足度(非常に不満0～非常に満足10)	653	7.25	1.78	295	6.99	1.85
仕事満足度(非常に不満0～非常に満足10)	343	6.73	1.96	296	6.17	1.84
年齢(歳)	657	64.58	3.50	299	57.39	1.63
男性(男性=1、女性=0)	657	0.96	0.18	299	0.95	0.23
教育年数(年)	657	11.97	2.32	299	12.70	2.44
既婚(配偶者あり=1、なし=0)	657	0.93	0.26	299	0.90	0.31
単身世帯(単身世帯=1、それ以外=0)	657	0.04	0.18	299	0.07	0.26
子どもの有無(子どもあり=1、なし=0)	657	0.92	0.27	299	0.88	0.33
等価世帯所得(万円、年間の世帯所得/世帯の人数)	657	213.9	177.5	299	358.7	203.7
持ち家(持ち家あり=1、なし=0)	657	0.98	0.13	299	0.94	0.24
退職時の金融資産残高(万円)	657	3173.9	2508.8	n.a		
健康状態(悪い0～良い5)	657	3.33	1.04	299	3.32	0.99
仕事の有無(働いている=1、働いていない=0)	657	0.50	0.50	n.a		
非自発的失業(働きたいが職場がない=1、それ以外=0)	657	0.13	0.34	n.a		
友人の数(人)	657	6.62	4.14	299	5.41	3.82
準備(貯蓄、準備した=1、準備しなかった=0)	657	0.64	0.48	299	0.49	0.50
準備(趣味、準備した=1、準備しなかった=0)	657	0.62	0.48	299	0.74	0.44
準備(近所付き合い、準備した=1、準備しなかった=0)	657	0.37	0.48	299	0.35	0.48
準備(家族との会話、準備した=1、準備しなかった=0)	657	0.27	0.44	299	0.40	0.49
準備(健康管理、準備した=1、準備しなかった=0)	657	0.68	0.47	299	0.68	0.47
仕事こそ生きがい(全くあてはまらない=1、ぴったり当てはまる=5)	644	3.58	0.88	299	3.07	0.90
達成感を味わう(全くあてはまらない=1、ぴったり当てはまる=5)	651	3.93	0.82	299	3.66	0.83
お金を稼ぐ手段(全くあてはまらない=1、ぴったり当てはまる=5)	643	2.70	0.96	299	2.91	0.94
生活のため我慢(全くあてはまらない=1、ぴったり当てはまる=5)	645	3.55	1.04	299	3.49	0.96

退職・再雇用者のサンプルサイズは 657、基本属性 X（性別、婚姻状態、教育年数、年齢、子どもの有無、等価世帯所得、持ち家、退職時の金融資産）について、男性・既婚が 9 割以上であり、教育年数は 11.9 年、年齢が 64.6 歳、等価世帯所得が 213.9 万円、退職時の金融資産残高が 3173.9 万円である。健康状態 H は 1～5 の値をとり、値が大きいほど健康を表す変数であり、平均値は 3.3 で「ふつう (=3)」に近い。友達の数 F の平均は 6.6 人である。仕事あり（有業者）はサンプルの 5 割、非自発的失業 INV は、「働いていない理由」について、「働きたいが働く場がないから」または「希望する仕事ができる職場がないから」と答えたときに 1 の値をとるダミー変数であり、サンプルの 13% がそれに該当する。準備に関する各変数は、在職時に退職後の就労や生活に備えて準備したかという問いに対して「準備した」ときに 1、それ以外で 0 をとるダミー変数である。6 割程度の人が、退職後に備えて、貯蓄、趣味、健康管理を心掛けている。最後に 50 歳時点での就労意識について、全く当てはまらない 1～ぴったり当てはまる 5 で評価した値の平均値をみると、達成感をもった人が比較的多い。一方、現役のサンプルサイズは 299、男性・既婚が 9 割以上であり、教育年数は 12.7 年、年齢が 57.4 歳、等価世帯所得が 358.7 万円である。健康状態 H の平均値は 3.2、友達の数 F の平均は 5.4 人である。退職後に向けた準備では、趣味や健康管理が高い。現在の就労意識では、達成感をもった人が比較的多い。

非常に不幸 0～非常に幸福 10 で評価した主観的な幸福度 Happiness を被説明変数、上述の諸変数を説明変数とする以下の推計式を順序ロジット法で推計する。なお、順序ロジット法とは、被説明変数が離散的な順序変数のときに用いる推計方法である。

$$\text{Happiness} = \beta_1 X + \beta_2 H + \beta_3 F + \beta_4 \text{INV} + u$$

推計結果は、表 7 の通りである。* 印は、推計値の統計的有意性を表し、推計された係数がゼロであるという仮説が、* が多いほど棄却される、つまり、統計的にみて係数がゼロではないことの確からしさを示す。退職者においては、配偶者がおり、等価世帯所得が高く、退職時の金融資産残高が多いほど、幸福度が高い。仕事していることと幸福度の関係は薄いだが、仕事をしたくてもできない状態は幸福度を損ねる。健康状態が良く、友人が多いほど、幸福度が高い。準備のうちでは、家族との会話の準備が幸福度に正に影響する。在職時（50 歳頃）に仕事に達成感を抱いていた人の現在の幸福度は高い。現役においては、家族や世帯構成による幸福度の違いは見られないが、就労意識によって幸福度に差が生じている。つまり、仕事を生きがいとする人の幸福度は高いが、お金を稼ぐ手段として、あるいは、生活のために我慢して仕事している人の幸福度は低い。

表7. 幸福度の決定要因（退職・再雇用者、現役）：順序ロジット法

	幸福度					
	退職・再雇用者			現役		
	係数	標準誤差	z値	係数	標準誤差	z値
年齢	-0.02	0.03	-0.92	0.06	0.07	0.80
男性	-0.12	0.44	-0.27	0.07	0.51	0.14
教育年数	-0.02	0.03	-0.50	0.06	0.05	1.17
既婚	1.88	0.45	4.19 ***	0.56	0.51	1.08
単身世帯	0.90	0.57	1.59	0.50	0.64	0.78
子どもあり	0.06	0.30	0.21	0.27	0.44	0.61
等価世帯所得	0.00	0.00	1.70 *	0.00	0.00	1.89 *
持ち家	0.76	0.70	1.07	-0.10	0.52	-0.18
退職時の金融資産残高	0.00	0.00	3.68 ***	n.a.		
仕事	0.04	0.18	0.21	n.a.		
非自発的失業	-0.52	0.24	-2.18 **	n.a.		
健康状態	0.52	0.08	6.74 ***	0.44	0.12	3.79 ***
友達の数	0.04	0.02	2.34 **	0.06	0.03	2.12 **
準備(貯蓄)	-0.07	0.16	-0.41	-0.10	0.22	-0.48
準備(趣味)	0.04	0.16	0.25	0.23	0.27	0.86
準備(近所付き合い)	0.14	0.16	0.87	0.17	0.23	0.73
準備(家族との会話)	0.34	0.17	2.03 **	0.07	0.23	0.30
準備(健康管理)	-0.09	0.17	-0.52	-0.24	0.24	-0.98
生きがい	-0.15	0.11	-1.41	-0.24	0.15	-1.63
達成感	0.32	0.12	2.66 ***	0.41	0.17	2.40 **
手段	-0.11	0.09	-1.24	-0.27	0.13	-2.06 **
我慢	-0.12	0.08	-1.49	-0.37	0.13	-2.93 ***
サンプルサイズ	641			299		
Prob > chi2	0.000			0.000		
Pseudo R2	0.076			0.091		

注)***1%、**5%、*10%で有意

続いて、被説明変数を3つの満足度（生活全般、家庭、仕事）に代えて、幸福度の決定要因との違い、および、それぞれの満足度の決定要因の違いを分析する。満足度は、非常に不満足0～非常に満足10で評価した主観的な変数であり、推計方法は、順序ロジット法であり、推計結果は、表8の通りとなった。

表8. 満足度の決定要因（退職・再雇用者、現役）：順序ロジット法

	満足度(生活全般)						満足度(家庭)						満足度(仕事)					
	退職・再雇用者			現役			退職・再雇用者			現役			退職・再雇用者			現役		
	係数	標準誤差	z値	係数	標準誤差	z値	係数	標準誤差	z値	係数	標準誤差	z値	係数	標準誤差	z値	係数	標準誤差	z値
年齢	-0.03	0.03	-1.21	0.08	0.07	1.15	-0.03	0.03	-1.22	0.17	0.08	2.14 **	0.02	0.04	0.37	0.03	0.07	0.44
男性	0.05	0.44	0.11	0.03	0.51	0.06	0.06	0.44	0.14	0.40	0.50	0.79	-0.90	0.94	-0.96	-0.98	0.54	-1.81 *
教育年数	-0.03	0.03	-0.89	0.03	0.05	0.51	0.02	0.03	0.44	0.02	0.05	0.39	-0.13	0.05	-2.57 **	-0.05	0.06	-0.98
既婚	1.17	0.43	2.74 **	0.36	0.49	0.74	2.18	0.44	4.98 ***	0.81	0.52	1.55	0.02	0.60	0.03	0.42	0.50	0.84
単身世帯	0.27	0.54	0.49	-0.22	0.64	-0.34	0.75	0.56	1.34	-0.65	0.69	-0.94	-0.73	0.93	-0.78	0.42	0.63	0.67
子どもあり	0.09	0.31	0.30	0.23	0.41	0.57	0.06	0.31	0.21	0.61	0.41	1.49	0.24	0.48	0.51	0.48	0.42	1.12
等価世帯所得	0.00	0.00	0.94	0.00	0.00	2.23 **	0.00	0.00	0.38	0.00	0.00	1.95 *	0.00	0.00	0.94	0.00	0.00	-0.05
持ち家	0.43	0.71	0.60	-0.14	0.51	-0.27	0.39	0.72	0.54	-0.64	0.57	-1.12	0.20	0.88	0.23	-0.36	0.52	-0.70
退職時の金融資産残高	0.00	0.00	4.53 ***	n.a.			0.00	0.00	2.48 **	n.a.			0.00	0.00	0.47	n.a.		
仕事	-0.02	0.18	-0.12	n.a.			0.13	0.18	0.73	n.a.			n.a.			n.a.		
非自発的失業	-0.61	0.24	-2.60 **	n.a.			-0.51	0.24	-2.16 **	n.a.			n.a.			n.a.		
健康状態	0.50	0.08	6.55 ***	0.53	0.12	4.44 ***	0.39	0.07	5.27 ***	0.42	0.12	3.58 ***	0.56	0.11	4.93 ***	0.48	0.12	3.97 ***
友達の数	0.04	0.02	2.31 **	0.07	0.03	2.16 **	0.04	0.02	2.32 **	0.05	0.03	1.58	0.02	0.03	0.63	0.04	0.03	1.27
準備(貯蓄)	0.03	0.16	0.20	-0.19	0.22	-0.87	0.08	0.16	0.46	0.00	0.22	0.00	-0.12	0.22	-0.54	-0.02	0.22	-0.10
準備(趣味)	-0.05	0.16	-0.29	0.19	0.26	0.73	0.03	0.16	0.19	-0.04	0.26	-0.15	-0.38	0.22	-1.69 **	0.15	0.27	0.56
準備(近所付き合い)	0.17	0.16	1.08	0.25	0.24	1.05	-0.02	0.16	-0.15	0.45	0.23	1.93 *	-0.13	0.23	-0.58	0.20	0.24	0.83
準備(家族との会話)	0.25	0.17	1.48	0.07	0.23	0.31	0.52	0.17	3.04 ***	0.35	0.23	1.53	0.02	0.25	0.10	0.36	0.23	1.57
準備(健康管理)	-0.10	0.16	-0.58	-0.42	0.24	-1.70 *	0.04	0.16	0.23	-0.09	0.24	-0.39	0.39	0.23	1.65 *	-0.52	0.24	-2.14 **
生きがい	-0.17	0.11	-1.59	-0.26	0.15	-1.80 *	-0.16	0.11	-1.47	-0.27	0.15	-1.88 *	0.15	0.15	0.96	0.46	0.15	3.12 ***
達成感	0.36	0.12	3.02 ***	0.47	0.17	2.71 ***	0.29	0.12	2.46 **	0.38	0.17	2.22 **	0.23	0.17	1.31	0.91	0.18	5.04 ***
手段	-0.12	0.09	-1.38	-0.22	0.14	-1.66 *	-0.17	0.09	-1.96 *	-0.15	0.13	-1.13	-0.25	0.13	-1.91 *	-0.02	0.13	-0.17
我慢	-0.17	0.08	-2.13 **	-0.27	0.13	-2.15 **	-0.25	0.08	-3.20 ***	-0.11	0.12	-0.85	-0.31	0.12	-2.54 **	-0.62	0.13	-4.70 ***
サンプルサイズ	641			299			637			298			319			296		
Prob > chi2	0.000			0.000			0.000			0.000			0.000			0.000		
Pseudo R2	0.075			0.085			0.073			0.072			0.062			0.133		

注)***1%、**5%、*10%で有意

生活全般の満足度について、退職・再雇用者は、配偶者がいて、退職時の金融資産残高が多く、健康状態がよく、友人が多いほど、満足度が高い。現役では、等価世帯所得が高いほど、満足度が高い。現役においては、仕事を生きがいと感じている人の生活満足度は統計的に有意に低い。在職時に仕事から達成感を味わっていた退職・再雇用者の生活満足度は高い。家庭の満足度については、退職・再雇用者は、配偶者がおり、在職時に家族との会話等の準備をした人ほど、満足度が高い。つまり、退職後における家庭の満足度を高めるためには、家族との良好な関係を退職前から積極的に築くことが効果的であるといえる。現役では、退職後の生活に備えて近所付き合いの準備をしている人ほど、家庭の満足度が高い。ここでも、現役において、仕事を生きがいと感じている人の家庭の満足度は低い。仕事の満足度は、配偶者の有無に関係なく、健康状態が良いほど、高くなる。退職・再雇用者のうち、教育年数が高いほど、仕事の満足度が低い。退職後に備えた趣味の準備は現在の仕事の満足度に負に影響する。これは、趣味を準備したものの、仕事に従事せざるを得なくなった場合に生じる、仕事に対する不満足と考えられる。現役においては、仕事に生きがいを感じ、達成感を得ている人ほど、仕事の満足度が高いが、退職・離職者においては、在職時に仕事から生きがいや達成感を得ていた人の仕事の満足度は低い。現役時代に仕事を生きがいと感じて、達成感を得たりすることが、現在の仕事の満足度に必ずしも結び付かないことを示している。

第2節 現役時の準備の決定要因と退職後の暮らしへの影響

第2部の結果によれば、在職時から退職後に向けた準備を進めることが、定年退職後にイキイキと暮らすために重要であった。しかし、退職後に向けた準備の有無が退職後の暮らしぶりに与える影響を明らかにするためには、個人の属性や特性をコントロールする必要がある。例えば、もともと貯蓄性向の高い人が、退職後の暮らしのために貯蓄の準備を進めた結果、退職時の金融資産残高の多さにつながったとも考えられる。このような個人の特性（この場合、貯蓄性向）の影響を差し引かなければ、貯蓄の準備がもたらした退職時の金融資産残高への効果を検証したことにはならない。つまり、貯蓄準備をした人としていない人で同じような個人属性を持っている人同士をマッチングさせて、個人の属性や特性をコントロールした上で、そのアウトカム（例えば、退職時の金融資産残高等）の差を評価することが望ましい。このような方法をプロペンシティ・スコア・マッチング法（Propensity score matching）という。本節では、この手法を用いて、退職に向けた準備の決定要因と準備による成果の違いを明らかにする。

まず、退職後に向けた準備について、退職・再雇用者向けの間6を用いて4つに大別する。第1に、仕事に関する準備で「主体的に自分の仕事について考える」「専門能力の習得、公的資格の取得」「パソコンやITを使いこなせるようにする」「独立や開業に関する情報の収集」のいずれかに該当したときに1、それ以外に0をとる変数を作成する。同様に、第2に、貯蓄に関する準備で「財産形成や資産運用に関する情報の収集」「将来に備えた貯蓄をしておく」、第3に、趣味・家族・近所付き合いに関する準備で「自分なりに趣味をもつ」「近隣や地域社会との付き合いを増やす」「家族と話す機会を増やす」「ボランティアや社会貢献活動への参加」、最後に健康に関する準備で「介護について学ぶ」「健康管理や体力づくりに注意する」のそれぞれに該当する場合に1、それ以外0をとる変数を作成する。

その成果については、仕事の有無（仕事あり＝1、仕事なし＝0）、仕事の満足度（非常に不満足0～非常に満足10）、家庭の満足度（非常に不満足0～非常に満足10）、退職時の金融資産残高（万円）、現在の健康状態（よくない＝1～よい＝5）を検証する。

検証の手順としては、第1段階として、退職後の生活に備えて準備したか否かの決定関連数をプロビット法で推計して、個々人の準備性向のスコアを計算する。第2段階として、このスコアを用いて、準備した人を、その人と同様の特徴を持ち、したがって準備する確率が同程度であるはずの非準備者とマッチングする。このようにしてマッチさせた非準備者のアウトカム（平均値）は、準備した人がもし準備しなかったときの仮想的なアウトカムの期待値の推計値として適切であるといえ、準備による効果を評価できることとなる。

第1段階の準備をするか否かを決定する要因として、個人属性（年齢、性別、教育年数）、家族構成（配偶者の有無、単身世帯、子どもの有無）、企業ダミー変数に加えて、個人の特性と役に立った会社説明会の有無を用いる。個人の特性については、宿題の先延ばしの程度で測った辛抱強さ（時間に対する好み）と傘を持参するときの降水確率で測った危険回避度を用いる。退職後の暮らしのために貯蓄するためには、現在の消費を我慢しなければならない。したがって、宿題を先送りして、楽しみを優先する（我慢できない）人は、将来に向けた貯蓄性向が低いと予想される。また、退職後の所得変動を憂慮するようなリスク回避的な憂慮する人は在職時から貯蓄に励むが、リスクに対して寛大な人の貯蓄性向は低いと考えられる。役に立った会社説明会の有無については、問13「定年退職後の生活設計に役立った会社の取り組みについて」を用いる。仕事に関する会社説明会1として、「定年後に備えた就職説明会」、貯蓄に関する会社説明会2として「定年後の資産運用説明会」、趣味・家族・地域に関する会社説明会3として「定年後に備えた生活説明会」、同様に、健康に関する会社説明会3として「定年後に備えた生活説明会」、これらに「定年後の元従業員によるアドバイス」、「その他」を加えた変数を会社説明会のダミー変数とする。

こうして作成された諸変数の記述統計は表9の通りである。サンプルサイズは827、平均年齢64.6歳、9割が男性、配偶者があり、子どもがいる。平均教育年数は12.0年である。全体に対して、仕事の準備をした人は44%、貯蓄準備をした人は65%、趣味・家族・近所付き合いの準備をした人が75%、健康に関する準備をした人は66%を占める。会社説明会が役に立ったと考える人の割合は、就職説明会等が約2割、資産運用説明会と生活説明会等がそれぞれ約4割である。

表9. 記述統計量（退職・再雇用者）

	サンプル サイズ	平均	標準偏差
仕事の準備(準備した=1,準備していない=0)	827	0.44	0.50
貯蓄の準備(準備した=1,準備していない=0)	827	0.65	0.48
趣味・家族・近所付き合いの準備(準備した=1,準備していない=0)	827	0.75	0.43
健康に関する準備(準備した=1,準備していない=0)	827	0.66	0.48
仕事している(=1)	820	0.52	0.50
仕事満足度(非常に不満足0～非常に満足10)	437	6.68	1.94
家庭満足度(非常に不満足0～非常に満足10)	818	7.19	1.83
健康状態	821	3.35	1.06
退職時の金融資産残高(万円)	681	3130.0	2445.8
年齢(歳)	827	64.6	3.6
男性(男性=1,女性=0)	827	0.96	0.19
教育年数(年)	827	12.0	2.3
既婚(配偶者あり=1,なし=0)	827	0.92	0.27
単身世帯(単身世帯=1,それ以外=0)	827	0.04	0.19
子どもの有無(子どもあり=1,なし=0)	827	0.92	0.28
宿題(すぐ取りかかった=1,終わりに行った=5)	827	3.38	1.16
傘(降水確率%)	827	51.8	21.0
会社説明会1(就職説明会、元従業員の助言、その他)	827	0.20	0.40
会社説明会2(資産運用説明会、元従業員の助言、その他)	827	0.40	0.49
会社説明会3,4(生活説明会、元従業員の助言、その他)	827	0.39	0.49

(1) 仕事の準備と退職後の仕事満足度、仕事の有無

仕事に関する準備で「主体的に自分の仕事について考える」「専門能力の習得、公的資格の取得」「パソコンやITを使いこなせるようにする」「独立や開業に関する情報の収集」のいずれかに該当したときに1、それ以外0の値をとる、仕事準備の決定要因をみると（表10）、年齢が高く、仕事に関する会社説明会が役立った人ほど、仕事の準備をしている。

表10. 仕事の準備の決定要因（退職・再雇用者）：プロビット法

選択関数(プロビット法、準備した=1、準備しなかった=0)

	係数	標準誤差	z値
年齢	0.04	0.01	3.06 ***
男性	0.28	0.25	1.11
教育年数	0.02	0.02	0.97
既婚	-0.25	0.23	-1.09
単身世帯	-0.63	0.33	-1.90 *
子ども	-0.12	0.17	-0.70
宿題	-0.06	0.04	-1.44
傘	0.00	0.00	-0.74
会社説明会	0.43	0.11	3.82 ***
定数項	-2.90	1.05	-2.76 ***
企業ダミー	あり		
サンプルサイズ	827		
Prob > F	0.000		
Pseudo R2	0.035		

注)***1%、**5%、*10%で有意

こうして得られるスコアでマッチングした準備した人と準備していない人との仕事満足度の差をみると（表 11）、平均的には準備をした人の方が、仕事満足度がやや高いが、この差は統計的に有意な差ではない。しかし、仕事の有無に関しては、有意水準 10%ながら、準備した人の方が仕事についている確率が高い（表 12）。つまり、退職後の仕事に向けた準備は、仕事満足度には影響しないが、仕事に就く確率を高めているといえる。

表 11. 退職後の仕事に向けた準備の有無による仕事満足度の差の検定：マッチング法

推計結果（マッチング法、準備した＝1、準備しなかった＝0）

バンド幅	マッチングしない 場合(se, t値)	ガウシアン・カーネル・マッチング			局所線形マッチング			バランス 検定
		0.02	0.2	2.0	0.02	0.2	2.0	
準備した	6.743	6.736	6.736	6.736	6.736	6.736	6.736	0.3687
準備しなかった	6.630	6.566	6.626	6.630	6.572	6.572	6.585	
差	0.113	0.169	0.109	0.106	0.164	0.164	0.151	
ブートストラップse	0.186	0.183	0.199	0.179	0.192	0.215	0.200	
z値	0.61	0.93	0.55	0.59	0.85	0.76	0.75	
サンプルサイズ	437	437	437	437	437	437	437	

注) ***1%、**5%、*10%で有意

表 12. 退職後の仕事に向けた準備の有無による退職後の仕事の有無：マッチング法

推計結果（マッチング法、準備した＝1、準備しなかった＝0）

バンド幅	マッチングしない 場合(se, t値)	ガウシアン・カーネル・マッチング			局所線形マッチング			バランス 検定
		0.02	0.2	2.0	0.02	0.2	2.0	
準備した	0.548	0.548	0.548	0.548	0.548	0.548	0.548	0.0132
準備しなかった	0.492	0.479	0.490	0.492	0.473	0.477	0.585	
差	0.055	0.069	0.058	0.055	0.074	0.070	0.070	
ブートストラップse	0.035	0.035	0.033	0.035	0.039	0.036	0.037	
z値	1.58	1.95 *	1.75 *	1.59	1.90 *	1.96 *	1.87 *	
サンプルサイズ	820	820	820	820	820	820	820	

注) ***1%、**5%、*10%で有意

（2）貯蓄の準備と退職時の金融資産残高

貯蓄に関する準備で貯蓄に関する準備で「財産形成や資産運用に関する情報の収集」「将来に備えた貯蓄をしておく」のいずれかに該当したときに 1、それ以外 0 の値をとる、貯蓄準備の決定要因をみると（表 13）、子どもがいる、宿題を先送りする人ほど、貯蓄準備していない。貯蓄に関する会社説明会が役立った人ほど、貯蓄の準備をしている。

表 13. 貯蓄の準備の決定要因（退職・再雇用者）：プロビット法

選択関数（プロビット法、準備した＝1、準備しなかった＝0）

	係数	標準誤差	z値
年齢	-0.01	0.01	-0.47
男性	-0.37	0.28	-1.32
教育年数	0.00	0.02	0.09
既婚	0.19	0.23	0.80
単身世帯	0.06	0.33	0.18
子ども	-0.33	0.19	-1.76 *
宿題	-0.08	0.04	-2.04 **
傘	0.00	0.00	-0.19
会社説明会	0.44	0.10	4.55 ***
定数項	1.33	1.02	1.31
企業ダミー	あり		
サンプルサイズ	827		
Prob > chi2	0.000		
Pseudo R2	0.039		

注) ***1%、**5%、*10%で有意

個人の属性・特性をコントロールした上での、貯蓄準備した人としていない人の退職時の金融資産残高の平均値の差（表 14）は、1143.1 ～ 1309.8 万円であり、この差は統計的に有意である。退職後に向けた貯蓄準備は、退職時の金融資産残高の多寡に大きく影響する。

表 14. 貯蓄の準備の有無による退職時の金融資産残高の差の検定：マッチング法

推計結果（マッチング法、準備した＝1、準備しなかった＝0）

バンド幅	マッチングしない 場合(se, t値)	ガウシアン・カーネル・マッチング			局所線形マッチング			バランス 検定
		0.02	0.2	2.0	0.02	0.2	2.0	
準備した	3480.9	3484.8	3484.8	3484.8	3484.8	3484.8	3484.8	0.0192
準備しなかった	2337.3	2175.0	2341.6	2337.5	2253.6	2229.2	2262.6	
差	1143.6	1309.8	1143.1	1147.3	1231.1	1255.5	1222.2	
ブートストラップse	198.6	269.0	189.7	187.1	177.8	190.2	170.4	
z値	5.76 ***	4.87 ***	6.03 ***	6.13 ***	6.92 ***	6.60 ***	7.17 ***	
サンプルサイズ	681	681	681	681	681	681	681	

注) ***1%、**5%、*10%で有意

（３）趣味・家族・近所付き合いに関する準備と家庭の満足度

趣味・家族・近所付き合いに関する準備で「自分なりに趣味をもつ」「近隣や地域社会との付き合いを増やす」「家族と話す機会を増やす」「ボランティアや社会貢献活動への参加」のいずれかに該当したときに１、それ以外０の値をとる、趣味・家族・近所付き合いの準備の決定要因をみると（表 15）、教育年数が高く、宿題を先送りする、危険愛好的な人ほど、趣味・家族・近所付き合いの準備が不足している。逆に、配偶者がいることや会社説明会が役に立つと感じることによって、趣味・家族・近所付き合いの準備が促されている。

表 15 趣味・家族・近所付き合いに関する準備の決定要因（退職・再雇用者）：プロビット法

選択関数（プロビット法、準備した＝1、準備しなかった＝0）

	係数	標準誤差	z値
年齢	0.00	0.02	-0.32
男性	-0.24	0.29	-0.83
教育年数	-0.08	0.02	-3.65 ***
既婚	0.63	0.24	2.64 ***
単身世帯	0.21	0.33	0.65
子ども	0.17	0.18	0.93
宿題	-0.12	0.04	-2.71 ***
傘	-0.01	0.00	-2.68 ***
会社説明会	0.44	0.11	4.12 ***
定数項	1.91	1.09	1.76 *
企業ダミー	あり		
サンプルサイズ	827		
Prob > chi2	0.000		
Pseudo R2	0.082		

注) ***1%、**5%、*10%で有意

趣味・家族・近所付き合いの準備した人としていない人の家庭満足度の平均値の差は、0.352 ～ 0.431 であり、この差は統計的に有意である（表 16）。つまり、退職後の趣味・家族・近所付き合いのための準備は、退職時の生活満足度を有意に高める。

表 16. 趣味・家族・近所付き合いに関する準備の有無による家庭満足度の差の検定：マッチング法

推計結果(マッチング法、準備した=1、準備しなかった=0)

バンド幅	マッチングしない 場合(se, t値)	ガウシアン・カーネル・マッチング			局所線形マッチング			バランス 検定
		0.02	0.2	2.0	0.02	0.2	2.0	
準備した	7.288	7.271	7.271	7.271	7.271	7.271	7.271	0.000
準備しなかった	6.869	6.861	6.907	6.871	6.841	6.841	6.919	
差	0.418	0.410	0.365	0.401	0.396	0.431	0.352	
ブートストラップse	0.148	0.161	0.145	0.146	0.144	0.160	0.159	
z値	2.82 ***	2.55 ***	2.52 ***	2.75 ***	2.74 ***	2.69 ***	2.22 ***	
サンプルサイズ	818	818	818	818	818	818	818	

注)***1%、**5%、*10%で有意

(4) 健康に関する準備と現在の健康状態

健康に関する準備で「介護について学ぶ」、「健康管理や体力づくりに注意する」のいずれかに該当する場合に1、それ以外0をとる変数の決定要因をみると(表17)、男性、教育年数が多く、宿題を先送りする人ほど、退職後のための健康管理ができていない。

次に、個人の属性・特性をコントロールした上で、現在の健康状態を比較してみると(表18)、健康に関して準備したか否かによる健康状態の違いは、統計的に有意には確認されなかった。第2章第7節でみたように、健康管理や体力づくりが平均以上に疾病や怪我のリスクを引き下げられるものではないことを示唆している。今回の調査では、健康管理の具体的な方法や健康状態に関する客観的な情報を収集していない。在職時の健康管理と退職後の健康状態との関連については、詳細な情報にもとづく継続的な分析が必要であろう。

表 17. 健康に関する準備の決定要因(退職・再雇用者):プロビット法

選択関数(プロビット法、準備した=1、準備しなかった=0)

	係数	標準誤差	z値
年齢	-0.01	0.01	-1.05
男性	-0.59	0.29	-2.05 **
教育年数	-0.06	0.02	-3.13 ***
既婚	0.06	0.24	0.25
単身世帯	-0.28	0.33	-0.85
子ども	0.19	0.17	1.10
宿題	-0.10	0.04	-2.54 **
傘	0.00	0.00	-1.03
会社説明会	0.34	0.10	3.52 ***
定数項	2.87	1.04	2.77 ***
企業ダミー	あり		
サンプルサイズ	827		
Prob > chi2	0.000		
Pseudo R2	0.044		

注)***1%、**5%、*10%で有意

表 18. 健康に関する準備の有無による健康状態の差の検定：マッチング法

推計結果(マッチング法、準備した=1、準備しなかった=0)

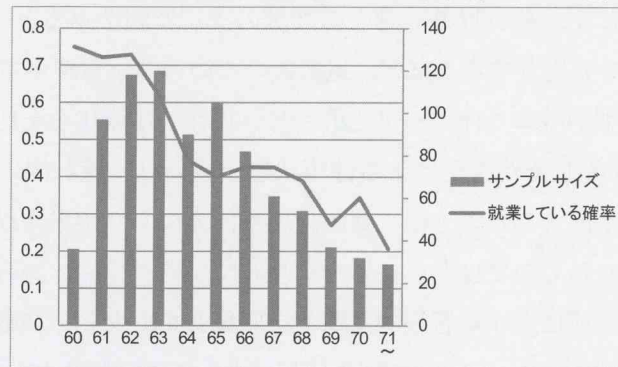
バンド幅	マッチングしない 場合(se, t値)	ガウシアン・カーネル・マッチング			局所線形マッチング			バランス 検定
		0.02	0.2	2.0	0.02	0.2	2.0	
準備した	3.337	3.327	3.327	3.327	3.327	3.327	3.327	0.4634
準備しなかった	3.388	3.416	3.383	3.388	3.420	3.398	3.390	
差	-0.051	-0.089	-0.056	-0.061	-0.092	-0.071	-0.063	
ブートストラップse	0.078	0.091	0.078	0.079	0.090	0.087	0.082	
z値	-0.65	-0.97	-0.72	-0.77	-1.03	-0.81	-0.77	
サンプルサイズ	821	821	821	821	821	821	821	

注)***1%、**5%、*10%で有意

第3節 退職・再雇用者の就業決定

退職後の再雇用の決定要因について分析する。年齢と各年齢における就業者数をサンプル数で割って算出した就業確率の関係は、図194の通りである。年齢の高まりとともに、就業確率が低下している。これは、十分に働けるだけの健康状態の維持の困難、年金受給の開始や金融資産の蓄え等による就労の必要性の低下、仕事以外の生活の充実等によるものと考えられる。そこで、本節では、退職・再雇用者の賃金関数や労働供給関数を推計して、賃金と労働時間の決定要因を明らかにする。

図194. 年齢と就業確率（各年齢における就業者／サンプル数）



本節で使用するデータの記述統計量は表19の通りである。全体のサンプルサイズは634であり、このうち有給の仕事をしている人は369人である。就業者のうち、在職時と退職後の職種が違う割合は58%、業種が違う割合は46%であり。正規の職員・従業員は12%、パート・アルバイトが30%、契約社員・嘱託がもっとも多く41%を占める。

表19. 記述統計量

	サンプル サイズ	平均	標準偏差
年齢(歳)	634	64.6	3.08
男性(男性=1、女性=0)	634	0.97	0.18
既婚(配偶者あり=1、なし=0)	634	0.94	0.25
単身世帯(単身世帯=1、それ以外=0)	634	0.03	0.18
在職時(50歳頃)の健康状態(悪い0～良い5)	634	3.73	1.12
子どもの有無(子どもあり=1、なし=0)	634	0.92	0.26
退職時の金融資産残高(万円)	634	3145.9	2447.0
仕事の準備(退職後の仕事のために準備した=1、しなかった=0)	634	0.47	0.50
年金受給額(月額、円)	634	21.0	1.1
仕事こそ生きがい(全くあてはまらない=1、ぴったり当てはまる=5)	634	3.57	0.89
達成感を味わう(全くあてはまらない=1、ぴったり当てはまる=5)	634	3.92	0.81
お金を稼ぐ手段(全くあてはまらない=1、ぴったり当てはまる=5)	634	2.72	0.96
生活のため我慢(全くあてはまらない=1、ぴったり当てはまる=5)	634	3.54	1.05
技能職(製造部門、管理部門)	634	0.65	0.48
時間当たり賃金(対数、円)	369	7.17	0.55
健康状態(悪い0～良い5)	369	3.50	1.01
在職時と退職後の職種(違う=1、同じ=0)	369	0.58	0.49
在職時と退職後の業種(違う=1、同じ=0)	369	0.46	0.50
正規の職員・従業員	369	0.12	0.33
パート・アルバイト	369	0.30	0.46
労働者派遣事業所の派遣社員	369	0.08	0.28
契約社員・嘱託	369	0.41	0.49

賃金や労働時間の分析において、有業の369人だけを対象に分析することは適切ではない。なぜなら、就業しない（あるいは就業する）と選択した人が、何らかの理由や特性でそうしているのであれば、そうした選択行動の影響も考慮しなければならないからである。つまり、有業のサンプルだけを対象に分析した場合には、推計された値に偏りが生じてしまう。この偏りを除去する方法として、就業するか否かの選択関数と、就業した場合の賃金関数や労働供給関数を同時に推計する方法がある。本節でもこの方法を採用する。

(1) 賃金関数

賃金関数の推計結果（表20）をみてみる。まず選択関数については、男性であり、在職時の健康状態がよいほど、就業を選ぶ確率が高い。また、年齢が高く、年金の受給額が大きいほど、就業確率が低くなる。在職時の就業意識は就業選択にはっきりとは影響しない。賃金関数の推計結果をみると、教育年数が高いほど、賃金が高く、人的資本の示唆するところとなっている。一方、既婚者、在職時に仕事は生活の手段と考えていた人、技能職、在職時とは異なる業種で働く、パート・アルバイトであるほど、賃金が低い。仕事を生きがいに感じていた人の係数が有意ではないものの正であることを考慮すると、在職時の就業意識は、退職後においても観察されない生産性となっている可能性がある。在職時と異なる職種に就いた場合、賃金に有意でないものの正の影響があり、在職時と異なる業種に従事する場合、賃金が有意にやや低くなる。これは、退職・再雇用後の賃金が、これまで長く経験してきた職種のスキルに対する報酬というよりも、再就職先の業種の相場等によって決まる可能性を示唆している。

表20. 賃金関数（時間当たり賃金（対数））の推計：Heckman 推定 - MLE

	賃金関数				選択関数		
	係数	標準誤差	z値		係数	標準誤差	z値
年齢	0.006	0.015	0.36	年齢	-0.131	0.023	-5.60 ***
男性	0.214	0.277	0.77	男性	1.301	0.430	3.02 ***
教育年数	0.028	0.014	1.91 *	既婚	0.237	0.328	0.72
既婚	-0.294	0.130	-2.27 **	単身世帯	-0.242	0.459	-0.53
現在の健康状態	0.025	0.029	0.88	在職時の健康状態	0.172	0.054	3.20 ***
生きがい	0.048	0.040	1.21	子どもあり	0.177	0.234	0.76
達成感	-0.022	0.044	-0.50	退職時の金融資産残高	0.000	0.000	-0.22
手段	-0.084	0.034	-2.49 **	退職後の仕事の準備あり	0.162	0.115	1.41
我慢	-0.042	0.031	-1.34	年金受給額	-0.049	0.006	-7.63 ***
技能	-0.229	0.067	-3.39 ***	生きがい	0.007	0.083	0.09
異なる職種	0.057	0.062	0.91	達成感	0.082	0.090	0.91
異なる業種	-0.125	0.064	-1.95 *	手段	-0.044	0.068	-0.65
正社員	0.127	0.128	0.99	我慢	0.093	0.060	1.54
パート・アルバイト	-0.295	0.102	-2.88 ***	技能	-0.015	0.131	-0.12
派遣	-0.152	0.135	-1.13	企業ダミー	あり		
契約・嘱託	-0.031	0.107	-0.29	定数項	6.344	1.514	4.19 ***
定数項	7.128	0.940	7.58 ***				
サンプルサイズ	629						
Prob > chi2	0.000						
LR test (rho=0)	0.061						

注) ***1%、**5%、*10%で有意

(2) 労働供給関数

次に、週当たり労働時間を被説明変数とする労働供給関数の推計結果（表 21）をみると、配偶者がいる人や契約社員・嘱託は労働時間が長い。逆に、年齢が高く、技能職、在職時と異なる職種、在職時と異なる業種、パート・アルバイト、派遣の場合、労働時間が比較的短い。つまり、現在の健康状態や在職時の就業意識は、労働時間にはあまり影響せず、正社員、パート・アルバイトといった就業形態が労働時間を決定している。前節でみたように生活上の理由による不本意な就労が幸福度や仕事の満足度を損ねること、また、一般的にいつて労働条件や労働内容が雇用形態に規定されることに鑑みると、引退というオプションも考慮にある退職・再雇用者の就労インセンティブを高めるためには、就業意識や健康状態等も包括的に加味したより柔軟な労働時間制度を講じてもよいように思われる。

表 21. 労働供給関数（週当たり労働時間）の推計（Heckman 推定 - MLE）

	労働供給関数				選択関数		
	係数	標準誤差	z値		係数	標準誤差	z値
時間当たり賃金（対数）	0.095	1.006	0.27	年齢	-0.107	0.024	-4.44 ***
年齢	-0.665	0.265	-2.10 **	男性	1.338	0.434	3.08 ***
男性	4.722	4.792	0.77	既婚	0.318	0.328	0.97
教育年数	-0.179	0.251	-0.20	単身世帯	-0.243	0.463	-0.53
既婚	4.427	2.264	2.09 **	在職時の健康状態	0.170	0.056	3.04 ***
現在の健康状態	0.282	0.492	0.34	子どもあり	0.240	0.245	0.98
生きがい	-0.286	0.686	-0.05	退職時の金融資産残高	0.000	0.000	0.57
達成感	-0.014	0.771	-0.25	退職後の仕事の準備あり	0.182	0.118	1.55
手段	0.235	0.593	0.55	年金受給額	-0.055	0.007	-8.35 ***
我慢	-0.291	0.543	-0.11	生きがい	0.043	0.086	0.50
技能	-3.543	1.191	-2.09 **	達成感	0.046	0.092	0.50
正社員	4.514	2.185	2.07 **	手段	-0.069	0.070	-0.98
パート・アルバイト	-7.587	1.772	-4.28 ***	我慢	0.099	0.061	1.61 *
派遣	-9.985	2.364	-4.22 ***	技能	-0.008	0.133	-0.06
契約・嘱託	4.068	1.812	2.25 ***	企業ダミー			
定数項	71.312	18.491	3.86 ***	あり			
サンプルサイズ	601			定数項	4.791	1.559	3.07 ***
Prob > chi2	0.000						
LR test (rho=0)	0.089						

注) ***1%、**5%、*10%で有意

第3部

資料

質問票、集計結果

定年後もイキイキと暮らすための働き方と ライフスタイルのあり方に関するアンケート

平成 23 年 2 月吉日 中部産政研

アンケートご協力をお願い

中部産政研は、トヨタグループを中心とした企業と労働組合によって設立された厚生労働省認可の公益法人であり、中部地域を足がかりに、どのようにしたら働く人々がより幸せになっていけるかを考え、中立的立場で企業労使双方にアドバイスしていくことを目的とするシンクタンクです。

このアンケートは、トヨタグループ主要企業で働く定年を控えた皆様の声をお聞きし、現在の働き方や暮らしぶり、および、退職後の生活に向けた準備状況を把握して、働き方や定年後の生活設計に関する制度や仕組みをどのように変えていくのがよいのかを考えていくために実施するものです。

つきましては、お忙しいところ恐れ入りますが、現在のお気持ちや状況についてアンケートにご協力をお願いいたします。なお、ここでお答えいただいた内容はすべて統計的に処理されますので、個別の記入内容が他に漏れることはありません。

〔回答にあたって〕

あてはまる番号に○印を付けるなど、その質問の指示に従って記入してください。
回答終了後、依頼を受けた部署にご提出ください。

〔ご提出期限〕 2011 年 3 月 4 日（金）必着

* 別途、依頼部署の指示がある場合は、それに従ってください。

ご不明な点がございましたら、下記へお問い合わせください。

（財）中部産業・労働政策研究会（中部産政研） 担当 後藤健治
〒471-0833 愛知県豊田市山之手 8-131 全労済豊田会館 3 階
T E L 0565 (27) 2731
F A X 0565 (27) 2259
E-mail : aei07243@nifty.com

A

現在の仕事について

あなたの現在の状況についてお尋ねします。

問 1. あなたが現在在籍している会社はつぎのどこですか？当てはまる番号に○をつけてください。

- | | |
|-------|-------|
| 1 A 社 | 5 E 社 |
| 2 B 社 | 6 F 社 |
| 3 C 社 | 7 G 社 |
| 4 D 社 | |

問 2. あなたのこれまでの仕事で、最も経験年数が長い職種は、主に以下のどれに当てはまりますか。以下の中から、当てはまるものを 1つ 選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|-------------|
| 1 技能・製造部門 | 5 事務 |
| 2 技能・間接部門
(保守・生産・品質管理等) | 6 営業 |
| 3 生産技術 | 7 サービス |
| 4 技術・研究・開発 | 8 プログラマー・SE |
| | 9 その他 |

付問 2-1. その経験年数は通算でどれくらいになりますか。当てはまるものを 1つ 選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|-------------|-------------|
| 1 5 年以内 | 4 21 年～30 年 |
| 2 6 ～ 10 年 | 5 30 年以上 |
| 3 11 年～20 年 | |

問 3. あなたの役職は、以下のどれにあてはまりますか。番号に○をつけてください。

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1 一般 | 4 課長クラス相当 |
| 2 監督クラス相当 (組長、班長等) | 5 部・次長クラス相当以上 |
| 3 係長クラス相当 (係長、工長等) | |

問 4. あなたの **週当たりの平均労働時間** は何時間ですか。

一週間あたり

時間程度

問5. あなたの現在の就労意識について、「ぴったり当てはまる」を1、「全くあてはらない」を5として、当てはまる番号に○をつけてください。

	ぴったり 当てはまる	どちらか という と当て はまる	どちら とも いえ ない	どちら か という と あて は ま ら ない	全く あて は ま ら ない
仕事こそが生きがいである	1	2	3	4	5
仕事を通じて達成感を味わうことができる	1	2	3	4	5
仕事は単にお金を稼ぐ手段に過ぎない	1	2	3	4	5
生活のために職場でつらいことがあっても我慢している	1	2	3	4	5

B 現在の生活について

問6. 現在の暮らしぶりはどうですか。以下の中から、当てはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- 1 ゆとりがある
- 2 いくらかゆとりがある
- 3 ゆとりはないが、どうにかやりくりしている
- 4 毎月のやりくりを追われている
- 5 非常に苦しい

問 7. 現在の仕事以外の余暇の過ごし方について、以下のうち、あなたが熱心に取り組んでおられるものを、**順位をつけて3つ**選び、番号を記入してください。

1 番の活動

2 番の活動

3 番の活動

付問 7-1. 旅行等の遠距離の場合を除き、その活動場所への移動は、
※移動手段を一つ選んで○で囲んでください

(徒歩・車・電車・バス・その他) で

分かかる

- | | |
|-------------------------------|-----------------------|
| 1 趣味（具体的に： |) 10 企業・行政主体の交流会等 |
| 2 スポーツ活動 | 11 公的資格の取得等 |
| 3 近所づきあい | 12 市民活動団体や消費者団体等の団体活動 |
| 4 同窓生との交流 | 13 家族が経営する仕事の手伝い |
| 5 会社 OB との交流 | 14 大学・大学院での研究活動 |
| 6 ボランティア活動（NPO 法人
での活動を含む） | 15 シルバー人材センターからの仕事 |
| 7 地域活動（友の会、自治会等） | 16 家族との交流 |
| 8 専門家との交流会・研修会 | 17 その他（具体的に： |
| 9 カルチャーセンターや
市民講座等の講演会 | 18 特にない |

問 8. あなたは、ふだん親しくしている友人・仲間をどの程度もっていますか。当てはまるものを**1つ**選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|---------|----------------|
| 1 1～3 人 | 4 10人以上 |
| 2 4～5 人 | 5 友人・仲間はもっていない |
| 3 6～9 人 | |

問 9. あなたが、ふだん親しくしている友人・仲間は、どのような方ですか。以下の中から、当てはまるものを**すべて**選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|-------------|------------|
| 1 学校時代の友人 | 4 趣味を通じた仲間 |
| 2 職場の同僚・元同僚 | 5 その他（ |
| 3 近所の人 | 6 友人・仲間はいい |

今後の予定について

あなたの今後の予定とその考えについてお尋ねします。

問 10. あなたは、元気に働けるうちはいつまでも働きたいと思っていますか。

- 1 はい
2 いいえ

問 11. あなたは何歳まで働きたいですか。

滿

--	--

歲

問 12. あなたにとって定年とは何ですか。当てはまるものを 1 つ選んで番号に○をつけてください。

- 1 やり遂げた達成感を感じる時
2 仕事から解放され自由となる時
3 人生の節目としてのスタートの時
4 定期的な働きを離れて寂しさを感じる時
5 特に意義は感じていない
6 その他（具体的に： ）

問 13. あなたは、**定年退職（定年退職扱いを含む）**を予定していますか。当てはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- 1 定年退職を見込んでいる（定年退職者説明会に参加した）→ 付問 13-1 へ
2 定年退職を予定しているが、まだ決まっていない → 付問 13-1 へ
3 定年の前に退職する予定である → 付問 13-3 へ

【問13で「1」または「2」と答えた方にご質問いたします】

付問 13-1. 定年で退職する時の勤続年数は何年になりますか。



年

付問 13-2. 定年後、再雇用制度で働くことを予定していますか。

- 1 働くことを予定している（再雇用の通知を受けている）
2 働くことを予定しているが、まだ決まっていない
3 予定していない
4 その他

【問 13 で「3」と答えた方にご質問いたします】

付問 13-3. あなたはどのような理由で退職する予定ですか。当てはまるものを 1つ 選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 転職 | 4 自己都合(健康上の理由) |
| 2 出向・転籍 | 5 その他(具体的に:) |
| 3 自己都合(家庭の事情) | |

問 14. あなたは自分がいくつまで生きると考えていますか。当てはまるものを 1 つ選んで番号に○をつけてください。

- 1 ~70 歳くらいまで
- 2 ~75 歳くらいまで
- 3 ~80 歳くらいまで
- 4 ~85 歳くらいまで
- 5 ~90 歳くらいまで
- 6 それ以上

D 定年退職への備えについて

あなたの**定年退職後**に向けた準備についてお尋ねします。

(定年退職を予定されていない方は退職後の意向について、ご回答ください)

問 15. あなたは、現在、定年退職後の就労や生活に備えて準備していますか。以下の中から、当てはまるものを すべて 選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1 主体的に自分の仕事について考える | 8 近隣や地域社会との付き合いを増やす |
| 2 専門能力の習得、公的資格の取得 | 9 家族と話す機会を増やす |
| 3 パソコンや IT を使いこなせるようにする | 10 介護について学ぶ |
| 4 独立や開業に関する情報の収集 | 11 健康管理や体力づくりに注意する |
| 5 財産形成や資産運用に関する情報の収集 | 12 ボランティアや社会貢献活動への参加 |
| 6 将来に備えた貯蓄をしておく | 13 その他() |
| 7 自分なりに趣味をもつ | 14 とくにない |

問 16. あなたの現在における生活資金や資産の管理・運用について、以下の中から、当てはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

- 1 家計簿をつけている
2 計画的に貯蓄をしている（あるいは貯蓄を取り崩している）
3 積極的に資産運用を行なっている
4 株などの価値が変動する資産の比率を定期的に見直している
5 資産運用の専門家のアドバイスを定期的に受けている
6 その他（具体的に： _____）
7 特に何もしていない

問 17. あなたは、何歳から定年退職後の準備を始めましたか。当てはまるものを 1つ 選び、番号に○をつけてください。

- | | | |
|-----------|-----------|--------------|
| 1 20 歳代 | 4 40 歳代後半 | 7 とくに準備していない |
| 2 30 歳代 | 5 50 歳代前半 | |
| 3 40 歳代前半 | 6 50 歳代後半 | |

問 18. 定年退職に備えて、あなたのお宅の世帯全体の負債を除いた金融資産残高（預貯金・株・保険等）をどれくらい準備しておこう（目標金額）とお考えですか。当てはまるものを1つ選び、番号を記入してください。

- | | | | |
|---|--------------------|----|-----------------------|
| 1 | 500 万円未満 | 6 | 4, 000～5, 000 万円未満 |
| 2 | 500～1, 000 万円未満 | 7 | 5, 000 万円～7, 500 万円未満 |
| 3 | 1, 000～2, 000 万円未満 | 8 | 7, 500 万円～1 億円未満 |
| 4 | 2, 000～3, 000 万円未満 | 9 | 1 億円以上 |
| 5 | 3, 000～4, 000 万円未満 | 10 | とくに考えていない |

問 19. 今後の生活を考えた際に、あなたが不安や心配に思うことは何ですか。以下の中から当てはまるものを5つ以内で選んで、番号に○をつけてください。なお、「1」を選んだ方は、他の回答を選ばないでください。

- | | |
|-----------------------------|----------------------|
| 1 不安や心配を感じない | 11 賃金の水準 |
| 2 年金支給開始年齢の引き上げ | 12 自分の健康（入院費用を含む） |
| 3 年金の支給額 | 13 家族の健康（入院費用を含む） |
| 4 住宅ローンなど借金 | 14 打ち込める趣味がもてないこと |
| 5 病気などの不時に備えての貯蓄 | 15 地域社会とのつながりが持てないこと |
| 6 子どもの教育や就職、結婚 | 16 子どもとの関係 |
| 7 親や親せきなどの冠婚葬祭費用 | 17 夫婦関係 |
| 8 安定した住宅の確保 | 18 生きがいや孤独感など精神面 |
| 9 自分の希望する仕事を続けられるか | 19 その他（具体的に：_____） |
| 10 仕事内容に関わらず今後も働きつづけられるかどうか | |

問 20. 定年退職後の生活設計に向けて役立った、あるいは役立つと思う会社の取り組みについて、以下の中から、当てはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

- 1 定年後の資金運用説明会
2 定年後に備えた生活説明会（趣味・地域・ボランティアなど）
3 定年後に備えた就職説明会
4 定年後の元従業員によるアドバイス
5 その他（具体的に： ）
6 特になし

問 21. あなたが、今後に備えて、ご自分の健康の維持増進のために心がけていることはありますか。以下の中から、当てはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1 休養や睡眠を十分とる | 7 タバコを控える |
| 2 規則正しい生活を送る | 8 散歩やスポーツをする |
| 3 栄養のバランスのとれた食事をとる | 9 地域の活動や友人との付き合いに参加する |
| 4 保健薬や強壮剤をのむ | 10 気持ちをなるべく明るく持つ |
| 5 健康診査などを定期的に受ける | 11 その他 () |
| 6 酒を控える | 12 特に心がけていない |

問 22. あなたは、今後に備えて、資産の運用をどのように行いたいと考えていますか。
この中から 1 つだけお答えください。

- 1 資産が減ったとしても、高い利益を得られるものを選択する
2 資産が減る可能性は多少あるが、利益が得られるものを選択する
3 資産が減る心配がほとんどないものを選択する
4 その他 ()
5 資産運用は積極的に考えていない

E

再雇用も含めた仕事の退職後について

あなたの**再雇用も含めた仕事の退職後**の意欲についてお尋ねします。

(再雇用を予定されていない方は定年退職後の意向について、定年退職を予定されていない方は退職後の意向について、ご回答ください)

問 23. あなたは、**再雇用も含めた仕事**の退職後も続けて働きたいですか。以下の中から、当てはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- 1 働きたい → (付問 23-1 へ)
- 2 働きたくない → (付問 23-2 へ)

付問 23-1. あなたが**再雇用も含めた仕事**の退職後も**続けて働きたい**理由は何ですか。以下の中から、当てはまるものに**すべて**選んで、番号に○をつけてください。

- 1 現在・将来の生活のため
- 2 自分の経験や能力を発揮できるから
- 3 健康のため
- 4 社会とのつながりを維持したいから
- 5 仕事を通じて、社会貢献したいから
- 6 小遣いがほしいため
- 7 会社や職場の仲間から働いてほしいと頼まれているから
- 8 今、担当している仕事が好きだから
- 9 仕事を通じて、実現したい夢や理想があるから
- 10 家にいても仕方がないから
- 11 やり残している仕事があるから
- 12 ほかに仕事が見つからないから
- 13 その他 (具体的に:)

付問 23-2. あなたが**再雇用も含めた仕事**の退職後に**働きたくない**理由は何ですか。以下の中から、当てはまるものに**すべて**選んで、番号に○をつけてください。

- 1 充分働いてきたから
- 2 働きたいが働く場がないから
- 3 自分の時間を大切にしたいから
- 4 仕事をしないでも生活に困らないから
- 5 希望する仕事ができる職場がないから
- 6 自分の体調がよくないから
- 7 一定期間、休養したいから
- 8 家族との団らんを大切にしたいから
- 9 家族の介護をしているから
- 10 仕事以外の家の外での活動が忙しいから (趣味や町内会活動など)
- 11 その他

F

現在の家庭環境等について

あなたの現在の家庭環境等についてお尋ねします。

問 24. あなたの性別をお答えください。

- 1 男性 2 女性

問 25. 現在、配偶者はおられますか。当てはまるものを **1 つ** 選び、番号に○をつけてください。なお、配偶者には事実婚による相手も含めてください。

- 1 配偶者有り（現在夫または妻がいる。事実婚を含む） → 付問 25-1, 2 へ
2 配偶者なし

付問 25-1. 現在の配偶者と結婚したのは、あなたが何歳のときですか。

あなたが 満 歳 のとき

付問 25-2. あなたの家計の消費や貯蓄・投資の決定はおもにどちらが行っていますか。それぞれ当てはまるものを **1 つ** 選び、番号に○をつけてください。

	あなたが 決定	配偶者が 決定	二人で相談するが、あなたが主に決定	二人で相談するが、配偶者が主に決定
消費の決定	1	2	3	4
貯蓄・投資の決定	1	2	3	4

問 26. これまでに配偶者との離別や配偶者の他界を経験されたことがありますか。当てはまるものを **1 つ** 選び、番号に○をつけてください。なお、これまでの配偶者には事実婚による相手も含めてください。

- 1 離別した経験がある 3 離別と他界両方の経験がある
2 配偶者が他界した経験がある 4 いずれもない

【現在配偶者がおられない方は、問27、28の質問で「あなた」の欄のみにご回答ください】

問 27. あなたとあなたの配偶者は現在おいくつですか。満年齢でお答えください。

あなた 満 歳 配偶者 満 歳

問 28. あなたとあなたの配偶者が**最後に卒業された学校**をお答えください。当てはまるものを**1つ**選び、番号をご記入ください。

あなた

配偶者

- 1 小中学校 卒業（尋常小学校、高等小学校を含む）
- 2 高等学校 卒業（旧制中学校、女学校、実業学校、師範学校を含む）
- 3 短期大学 卒業（高専等を含む）
- 4 大学 卒業（旧制高校、旧制高等専門学校を含む）
- 5 大学院修士課程 修了
- 6 大学院博士課程 修了

【全員の方にお尋ねします】

問 29. 現在あなたが同居しているご家族の**家族形態**は、次のどれに当たりますか。当てはまるものを**1つ**選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|---------|-------------|
| 1 単身 | 5 夫婦と子供と親 |
| 2 夫婦だけ | 6 夫婦と子供と孫 |
| 3 夫婦と子供 | 7 それ以外（具体的に |
| 4 片親と子供 | ） |

問 30. 現在のあなたの**世帯の人数**はあなたを含め何人ですか。ここで世帯とは、生計を同一にする人を意味します。

人

問 31. 子どもの状況についてご質問いたします。以下のうち、当てはまる番号に○をつけてください。

- 1 子供がいない
- 2 子供がいる → お子さんの数は

人 → 付問 31-1 へ

付問 31-1 あなたの**お子さんのうち最も下のお子さん**は、現在何歳ですか。

満

歳

問 32. あなたの**ご家族で**、要介護認定を受け、介護を必要とする方がいらっしゃいますか。

- 1 1人いる
- 2 1人以上いる
- 3 いない

問 33. あなたの現在のお住まいの種類は、次のどれに当たりますか。当てはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|--------------------|----------------------------|
| 1 持ち家（一戸建て） | 5 公営の借家（住宅公団、住宅供給公社、県営住宅等） |
| 2 持ち家（集合住宅） | 6 借間、下宿 |
| 3 民間の借家（一戸建て、集合住宅） | 7 独身寮 |
| 4 社宅（借り上げも含む） | 8 その他 |

問 34. あなたの月々の収入額や支出額に当てはまるものを以下の0～10からそれぞれ1つ選び、その番号を記入してください。

- | | |
|-------------|-------------|
| 0 なし | |
| 1 10万円未満 | 6 30～35万円未満 |
| 2 10～15万円未満 | 7 35～40万円未満 |
| 3 15～20万円未満 | 8 40～45万円未満 |
| 4 20～25万円未満 | 9 45～50万円未満 |
| 5 25～30万円未満 | 10 50万円以上 |

		あてはまる額 (0～10の番号で記入)
A	月々の勤労収入	
B	月々のその他の収入（事業・不動産・利子・配当収入等）	
C	月々の収入合計（A+B）	
D	月々の支出（日常生活費）	

問 35. あなたのお宅の世帯全体の2010年の税込み年間総収入は、ボーナスを含めてどのくらいになりますか。以下から最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1 100万円未満 | 7 1,000～1,200万円未満 |
| 2 100～200万円未満 | 8 1,200～1,400万円未満 |
| 3 200～400万円未満 | 9 1,400～1,600万円未満 |
| 4 400～600万円未満 | 10 1,600～1,800万円未満 |
| 5 600～800万円未満 | 11 1,800～2,000万円未満 |
| 6 800～1,000万円未満 | 12 2,000万円以上 |

問 36. 「あなたの生活水準」はどの程度だとお考えですか。「もっとも豊か」を10点、「もっとも貧しい」を0点として、当てはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

(点)	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	豊 か も っ と も										貧 しい も っ と も

問 37. 全体として、あなたは普段**どの程度幸福**だと感じていますか。「非常に幸福」を 10 点、「非常に不幸」を 0 点として、当てはまるものを **1つ** 選び、番号に○をつけてください。

(点)	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	幸 非 福 常 に										不 非 幸 常 に

問 38. 以下の項目の**それぞれについて**、あなたは**現在どの程度満足**していますか。「非常に満足」を 10 点、「非常に不満足」を 0 点として、当てはまるものを **1つ** 選び、番号に○をつけてください。

		非 満 足										非 不 満 足
生活全般 について	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
家庭に ついて	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
仕事に ついて	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	

G

リスク・時間に関する好みについて

あなたの行動における好みや考え方に関するいくつかの質問にお答えください。

問 39. あなたは、こどもの時、休みに出された宿題をいつごろやるが多かったですか。
当てはまるものを 1つ 選び、番号に○をつけてください。

- 1 休みが始まると最初のころにやった
- 2 どちらかという最初のころにやった
- 3 毎日ほぼ均等にやった
- 4 どちらかという終わりのころにやった
- 5 休みの終わり頃にやった

問 40. あなたが普段お出かけになる時に、傘をもって出かけるのは降水確率が何%以上だ
と思う時ですか。

%以上

問 41. 次の各項目は、あなたに当てはまりますか。「ぴったり当てはまる」を1、「全くあてはらない」を5として、当てはまる番号に○をつけてください。

	び た り ま あ て は ま る	ど ち ら か と い う の あ て は ま る	ど ち も あ て は ま ら い	ど か う も あ て は ま ら い	全 く あ て は ま ら い
楽しみは後にとっておきたい	1	2	3	4	5
一度手に入れたものを手放すのは苦痛だ	1	2	3	4	5
結果があいまいなときは、たいてい、よいほうを予想する	1	2	3	4	5
周りの人と同じような行動をとっていると安心だ	1	2	3	4	5
宗教を熱心に信仰している	1	2	3	4	5
以前からなされてきたやり方を守ることが、最上の結果を生む	1	2	3	4	5
大部分の人びとは信頼できる	1	2	3	4	5
何か新しいことを人にさがけて試みる方だ	1	2	3	4	5

H

健康状態、健康保険等について

あなたとご家族の**健康の状態**についてお伺いします。

問 42. あなたの**現在の健康状態**はいかがですか。あてはまる番号 **1 つ** に○をつけてください。

- | | | |
|--------|-----------|--------|
| 1 よい | 3 ふつう | 5 よくない |
| 2 まあよい | 4 あまりよくない | |

問 43. あなたは過去 1 年間に、病気により、病院や診療所の**外来**に行きましたか。**その回数と、1 回あたりの平均的な窓口自己負担額（薬代を含む）**をご記入ください（一度も行かなかった場合には、ともに 0 とご記入ください）。ただし、歯の治療のための通院などは除いてお答えください。

外来受診回数（年間）	<u>およそ</u> <u> </u> 回
窓口自己負担額（1 回あたり平均額）	<u> </u> 円程度

問 44. あなたは過去 1 年間に、病気により、**入院**されましたか。

- 1 入院した → （付問 44-1 へ）
- 2 入院していない

付問 44-1. そのうち 1 年間で 1 番長かった**入院の日数**は連続で何日間でしたか。一時的な退院は、入院日数に含めてお答えください。

入院日数 **日間**

付問 44-2. その入院で支払った**窓口自己負担額**をご記入ください。

窓口自己負担額（1 入院あたり負担額） **円程度**

問 45. あなたは、**この 5 年間に**病気で**入院**されたことがありますか。

- 1 ある
- 2 ない

問 46. これまでに、あなたご自身に関わる年間 10 万円以上の医療費自己負担（歯科含む）がかかったご経験をお持ちですか。

- 1 ある
- 2 ない

.....

あなたの将来への備えについてお伺いします。

問 47. あなたは、「生命保険会社や損害保険会社、郵便局、JA などでは取り扱っている医療・疾病関係の保険」に加入していますか。「1 加入している」方は、すべての医療保険を合算して、過去 1 年間に支払った**保険料の総額**をご記入ください。

- 1 加入している → (年間保険料総額 _____ 円程度)
2 加入していない

.....

[自由記述欄]

問 48. 最後に、定年退職後もイキイキと暮らすために会社や労働組合に望むこと、現役の時にやっておいた方が良いと思うことなど、以下にご自由にご記入ください。

アンケートにご協力いただき、まことにありがとうございました

集計結果 現役

		回答数		470 件
質 問		選 択 肢	回答数	構成比(%) 平 均 値
問1 在籍している会社		1 : A社	71	15.1
		2 : B社	147	31.3
		3 : C社	60	12.8
		4 : D社	49	10.4
		5 : E社	52	11.1
		6 : F社	49	10.4
		7 : G社	41	8.7
問2 最も経験年数が長い職種		1 : 技能・製造部門	180	38.3
		2 : 技能・間接部門	118	25.1
		3 : 生産技術	37	7.9
		4 : 技術・研究・開発	85	18.1
		5 : 事務	29	6.2
		6 : 営業	5	1.1
		7 : サービス	6	1.3
		8 : プログラマー・SE	2	0.4
		9 : その他	7	1.5
付問2-1 経験年数の通算期間		1 : 5年以内	6	1.3
		2 : 6～10年	8	1.7
		3 : 11～20年	77	16.4
		4 : 21～30年	114	24.3
		5 : 30年以上	264	56.2
問3 役職		1 : 一般	190	40.4
		2 : 監督クラス相当（組長、班長等）	76	16.2
		3 : 係長クラス相当（係長、工長等）	48	10.2
		4 : 課長クラス相当	98	20.9
		5 : 部・次長クラス相当以上	57	12.1
問4 週当たりの平均労働時間	時間（平均）		461	41.3
問5 就労意識について	仕事こそ生きがい	1 : ぴったり当てはまる	20	4.3
		2 : どちらかというと当てはまる	130	27.7
		3 : どちらともいえない	211	44.9
		4 : どちらかというと当てはまらない	88	18.7
		5 : 全く当てはまらない	18	3.8
	達成感を味わう	1 : ぴったり当てはまる	49	10.4
		2 : どちらかというと当てはまる	257	54.7
		3 : どちらともいえない	125	26.6
		4 : どちらかというと当てはまらない	30	6.4
		5 : 全く当てはまらない	8	1.7
	お金を稼ぐ手段	1 : ぴったり当てはまる	20	4.3
		2 : どちらかというと当てはまる	104	22.1
		3 : どちらともいえない	181	38.5
		4 : どちらかというと当てはまらない	137	29.1
		5 : 全く当てはまらない	24	5.1
	生活のため我慢	1 : ぴったり当てはまる	48	10.2
		2 : どちらかというと当てはまる	212	45.1
		3 : どちらともいえない	122	26.0
		4 : どちらかというと当てはまらない	69	14.7
		5 : 全く当てはまらない	14	3.0
問6 現在の暮らしぶりについて		1 : ゆとりがある	24	5.1
		2 : いくらかゆとりがある	187	39.8
		3 : どうにかやりくりしている	230	48.9
		4 : やりくりを追われている	23	4.9
		5 : 非常に苦しい	5	1.1
問7 余暇の過ごし方について	1番の活動	1 : 趣味	195	41.5
		2 : スポーツ活動	80	17.0
		3 : 近所づきあい	5	1.1
		4 : 同窓生との交流	2	0.4
		5 : 会社OBとの交流	1	0.2
		6 : ボランティア活動	3	0.6
		7 : 地域活動	16	3.4
		8 : 専門家との交流会・研修会	0	0.0
		9 : 講演会	4	0.9
		10 : 企業・行政主体の交流会	0	0.0
		11 : 公的資格の取得等	0	0.0
		12 : 団体活動	1	0.2
		13 : 家族が経営する仕事の手伝い	3	0.6
		14 : 大学・大学院での研究活動	0	0.0
		15 : シルバー人材センターからの仕事	1	0.2
		16 : 家族との交流	104	22.1
		17 : その他	18	3.8
		18 : 特になし	26	5.5
	2番の活動	1 : 趣味	87	18.5
		2 : スポーツ活動	63	13.4
		3 : 近所づきあい	32	6.8
		4 : 同窓生との交流	23	4.9
		5 : 会社OBとの交流	10	2.1

質 問		選 択 肢	回答数	構成比(%) 平 均 値
問7 余暇の過ごし方について	2番の活動	6 : ボランティア活動	14	3.0
		7 : 地域活動	19	4.0
		8 : 専門家との交流会・研修会	2	0.4
		9 : 講演会	5	1.1
		10 : 企業・行政主体の交流会	1	0.2
		11 : 公的資格の取得等	4	0.9
		12 : 団体活動	0	0.0
		13 : 家族が経営する仕事の手伝い	2	0.4
		14 : 大学・大学院での研究活動	1	0.2
		15 : シルバー人材センターからの仕事	0	0.0
		16 : 家族との交流	127	27.0
		17 : その他	21	4.5
		18 : 特にない	18	3.8
	3番の活動	1 : 趣味	32	6.8
		2 : スポーツ活動	29	6.2
		3 : 近所づきあい	39	8.3
		4 : 同窓生との交流	17	3.6
		5 : 会社OBとの交流	13	2.8
		6 : ボランティア活動	13	2.8
		7 : 地域活動	40	8.5
		8 : 専門家との交流会・研修会	5	1.1
		9 : 講演会	7	1.5
		10 : 企業・行政主体の交流会	1	0.2
		11 : 公的資格の取得等	1	0.2
		12 : 団体活動	0	0.0
		13 : 家族が経営する仕事の手伝い	3	0.6
		14 : 大学・大学院での研究活動	1	0.2
		15 : シルバー人材センターからの仕事	0	0.0
		16 : 家族との交流	73	15.5
		17 : その他	29	6.2
		18 : 特にない	92	19.6
付問7-1 活動場所への移動について	手段	1 : 徒歩	36	7.7
		2 : 車	195	41.5
		3 : 電車	10	2.1
		4 : バス	2	0.4
		5 : その他	16	3.4
		時間 (平均: 分)	291	32.7
問8 友人・仲間の人数		1 : 1~3人	149	31.7
		2 : 4~5人	139	29.6
		3 : 6~9人	58	12.3
		4 : 10人以上	91	19.4
		5 : いない	29	6.2
		6 : その他	28	6.0
問9 友人・仲間の間柄について		1 : 学校時代の友人	134	28.5
		2 : 職場の同僚・元同僚	278	59.1
		3 : 近所の人	142	30.2
		4 : 趣味を通じた仲間	249	53.0
		5 : その他	28	6.0
		6 : いない	28	6.0
問10 いつまでも働きたいですか		1 : はい	340	72.3
問11 何歳まで働きたいですか		2 : いいえ	128	27.2
問12 定年とは	歳 (平均)		462	64.7
問13 定年退職の予定について		1 : 達成感を感じる時	22	4.7
		2 : 仕事から解放され自由となる時	118	25.1
		3 : 人生の節目のスタート	243	51.7
		4 : 定期的な働きを離れて寂しさを感じる時	27	5.7
		5 : 特に意義は感じていない	44	9.4
		6 : その他	12	2.6
付問13-1 定年時の勤続年数	年 (平均)	1 : 定年退職を見込んでいる	203	43.2
		2 : 予定しているが、まだ決まっていない	246	52.3
		3 : 定年の前に退職予定	1	0.2
付問13-2 再雇用の予定について			458	37.0
		1 : 予定している (通知を受けている)	107	22.8
		2 : 予定しているが、まだ決まっていない	246	52.3
		3 : 予定していない	91	19.4
付問13-3 退職理由		4 : その他	12	2.6
		1 : 転職	6	1.3
		2 : 出向・転籍	1	0.2
		3 : 自己都合 (家庭の事情)	9	1.9
		4 : 自己都合 (健康上の事情)	10	2.1
問14 あなたはいつまで生きると考えていますか		5 : その他	13	2.8
		1 : ~70歳くらいまで	58	12.3
		2 : ~75歳くらいまで	130	27.7
		3 : ~80歳くらいまで	169	36.0
		4 : ~85歳くらいまで	59	12.6
		5 : ~90歳くらいまで	22	4.7
		6 : それ以上	5	1.1

質 問	選 択 肢	回答数	構成比(%) 平 均 値
問15 定年退職後の就労や生活に備えての準備について	1 :主体的に自分の仕事について考える	157	33.4
	2 :専門能力の習得、公的資格の取得	31	6.6
	3 :パソコンやITを使いこなせるようにする	46	9.8
	4 :独立や開業に関する情報の収集	12	2.6
	5 :財産形成や資産運用に関する情報の収集	78	16.6
	6 :将来に備えた貯蓄をしておく	213	45.3
	7 :自分なりに趣味をもつ	328	69.8
	8 :近隣や地域社会との付き合いを増やす	166	35.3
	9 :家族と話す機会を増やす	176	37.4
	10 :介護について学ぶ	34	7.2
	11 :健康管理や体力づくりに注意する	303	64.5
	12 :ボランティアや社会貢献活動への参加	89	18.9
	13 :その他	6	1.3
	14 :とくにない	29	6.2
問16 生活資金や資産の管理・運用について	1 :家計簿をつけている	61	13.0
	2 :計画的に貯蓄している	262	55.7
	3 :積極的に資産運用を行なっている	34	7.2
	4 :価値が変動する資産の比率を定期的に見直している	42	8.9
	5 :資産運用の専門家のアドバイスを定期的に受けている	6	1.3
	6 :その他	7	1.5
	7 :特に何もしていない	173	36.8
問17 何歳から定年退職後の準備をはじめましたか	1 :20歳代	4	0.9
	2 :30歳代	8	1.7
	3 :40歳代前半	25	5.3
	4 :40歳代後半	32	6.8
	5 :50歳代前半	78	16.6
	6 :50歳代後半	108	23.0
	7 :特に準備していない	203	43.2
問18 定年退職に備えての世帯全体の負債を除いた金融資産残高をどれくらい準備するお考えですか	1 :500万円未満	23	4.9
	2 :500～1,000万円未満	58	12.3
	3 :1,000～2,000万円未満	84	17.9
	4 :2,000～3,000万円未満	89	18.9
	5 :3,000～4,000万円未満	57	12.1
	6 :4,000～5,000万円未満	48	10.2
	7 :5,000～7,500万円未満	23	4.9
	8 :7,500～1億円未満	7	1.5
	9 :1億円以上	5	1.1
	10 :特に考えていない	62	13.2
問19 今後の生活を考えた際に、不安や心配に思うこと	1 :不安や心配を感じない	19	4.0
	2 :年金支給開始年齢の引き上げ	235	50.0
	3 :年金の支給額	278	59.1
	4 :住宅ローンなど借金	54	11.5
	5 :病気などの不測に備えての貯蓄	175	37.2
	6 :子どもの教育や就職、結婚	96	20.4
	7 :親や親せきなどの冠婚葬祭費用	25	5.3
	8 :安定した住宅の確保	17	3.6
	9 :自分の希望する仕事を続けられるか	65	13.8
	10 :仕事内容に関わらず今後も働きつづけられるかどうか	109	23.2
	11 :資金の水準	38	8.1
	12 :自分の健康（入院費用を含む）	304	64.7
	13 :家族の健康（入院費用を含む）	255	54.3
	14 :打ち込める趣味が持てないこと	26	5.5
	15 :地域社会とのつながりが持てないこと	17	3.6
	16 :子どもとの関係	25	5.3
	17 :夫婦関係	36	7.7
	18 :生きがいや孤独感など精神面	58	12.3
	19 :その他	9	1.9
問20 定年退職後の生活設計に役立った、あるいは役立つと思う会社の取り組みについて	1 :定年後の資金運用説明会	260	55.3
	2 :定年後に備えた生活説明会	200	42.6
	3 :定年後に備えた就職説明会	144	30.6
	4 :定年後の元従業員によるアドバイス	126	26.8
	5 :その他	6	1.3
	6 :特にない	73	15.5
問21 健康の維持増進のために心がけていること	1 :休養や睡眠を十分とる	294	62.6
	2 :規則正しい生活を送る	281	59.8
	3 :栄養のバランスのとれた食事をとる	269	57.2
	4 :保険薬や強壮剤をのむ	17	3.6
	5 :健康診査などを定期的に受ける	235	50.0
	6 :酒を控える	67	14.3
	7 :タバコを控える	83	17.7
	8 :散歩やスポーツをする	324	68.9
	9 :地域の活動や友人との付き合いに参加する	110	23.4
	10 :気持ちをなるべく明るく持つ	155	33.0
	11 :その他	4	0.9
	12 :特に心がけていない	11	2.3
問22 今後に備えての資産の運用について	1 :資産が減ったとしても、高い利益を得られるものを選択する	10	2.1

質 問		選 択 肢	回答数	構成比(%) 平均 値	
問22	今後に備えての資産の運用について	2 : 資産が減る可能性は多少あるが、利益が得られるものを選択する	110	23.4	
		3 : 資産が減る心配がほとんどないものを選択する	165	35.1	
		4 : その他	2	0.4	
		5 : 資産運用は積極的に考えていない	169	36.0	
問23	再雇用も含めて退職後も働きたいですか	1 : 働きたい	356	75.7	
		2 : 働きたくない	95	20.2	
付問23-1	再雇用も含めて退職後も働きたい理由は	1 : 現在・将来の生活のため	282	60.0	
		2 : 自分の経験や能力を発揮できるから	116	24.7	
		3 : 健康のため	202	43.0	
		4 : 社会とのつながりを維持したいから	104	22.1	
		5 : 仕事を通じて、社会貢献したいから	57	12.1	
		6 : 小遣いがほしいため	117	24.9	
		7 : 会社や職場の仲間から働いてほしいと頼まれているから	20	4.3	
		8 : 今、担当している仕事が好きだから	75	16.0	
		9 : 仕事を通じて、実現したい夢や理想があるから	29	6.2	
		10 : 家にいても仕方がないから	123	26.2	
		11 : やり残している仕事があるから	14	3.0	
		12 : はかに仕事が見つからないから	50	10.6	
		13 : その他	18	3.8	
付問23-2	再雇用も退職後に働きたくない理由について	1 : 充分働いてきたから	77	16.4	
		2 : 働きたいが働く場がないから	5	1.1	
		3 : 自分の時間を大切にしたいから	71	15.1	
		4 : 仕事をしなくても生活に困らないから	11	2.3	
		5 : 希望する仕事ができる職場がないから	8	1.7	
		6 : 自分の体調がよくないから	16	3.4	
		7 : 一定期間、休養したいから	37	7.9	
		8 : 家族との団らんを大切にしたいから	32	6.8	
		9 : 家族の介護をしているから	8	1.7	
		10 : 仕事以外の家の外での活動が忙しいから	24	5.1	
		11 : その他	8	1.7	
問24	性別	1 : 男性	436	92.8	
		2 : 女性	22	4.7	
問25	配偶者について	1 : 配偶者あり	410	87.2	
		2 : 配偶者なし	49	10.4	
付問25-1	現在の配偶者と結婚した時の年齢	歳（平均）	404	28.1	
付問25-2	家計の消費や貯蓄・投資の決定は主にどちらですか	消費の決定	1 : あなたが決定	45	9.6
			2 : 配偶者が決定	104	22.1
			3 : 二人で相談するが、あなたが主に決定	168	35.7
			4 : 二人で相談するが、配偶者が主に決定	82	17.4
		貯蓄・投資の決定	1 : あなたが決定	86	18.3
			2 : 配偶者が決定	60	12.8
			3 : 二人で相談するが、あなたが主に決定	181	38.5
			4 : 二人で相談するが、配偶者が主に決定	66	14.0
問26	配偶者との離別や他界について	1 : 離別した経験がある	27	5.7	
		2 : 配偶者が他界した経験がある	13	2.8	
		3 : 離別と他界両方の経験がある	1	0.2	
		4 : いずれもない	398	84.7	
問27	あなたとあなたの配偶者の年齢は	あなたの年齢（平均）	360	57.2	
		配偶者の年齢（平均）	317	54.1	
問28	あなたとあなたの配偶者が最後に卒業された学校について	あなた	1 : 小中学校卒業	68	14.5
			2 : 高等学校卒業	243	51.7
			3 : 短期大学卒業（高専等を含む）	23	4.9
			4 : 大学卒業（旧制高校、旧制高等専門学校を含む）	74	15.7
			5 : 大学院修士課程修了	21	4.5
			6 : 大学院博士課程修了	0	0.0
		配偶者	1 : 小中学校卒業	31	6.6
			2 : 高等学校卒業	230	48.9
			3 : 短期大学卒業（高専等を含む）	76	16.2
			4 : 大学卒業（旧制高校、旧制高等専門学校を含む）	40	8.5
			5 : 大学院修士課程修了	3	0.6
			6 : 大学院博士課程修了	1	0.2
問29	同居しているご家族の家族形態について	1 : 単身	35	7.4	
		2 : 夫婦だけ	94	20.0	
		3 : 夫婦と子供	207	44.0	
		4 : 片親と子供	6	1.3	
		5 : 夫婦と子供と親	65	13.8	
		6 : 夫婦と子供と孫	14	3.0	
		7 : それ以外	36	7.7	
問30	世帯の人数	人（平均）	457	3.4	
問31	子どもの状況について	1 : 子供がいない	56	11.9	
		2 : 子供がいる	395	84.0	
		お子さんの人数（平均）	397	2.2	
付問31-1	最も下のお子さんの歳は	年齢（平均）	401	24.6	
問32	ご家族で、要介護認定を受け、介護を必要とする方について	1 : 1人いる	52	11.1	
		2 : 1人以上いる	3	0.6	
		3 : いない	400	85.1	

質 問		選 択 肢	回 答 数	構 成 比 (%) 平 均 値		
問33 現在のお住まいについて		1 : 持家（一戸建て）	383	81.5		
		2 : 持家（集合住宅）	33	7.0		
		3 : 民間の借家（一戸建て、集合住宅）	19	4.0		
		4 : 社宅	0	0.0		
		5 : 公営の借家	8	1.7		
		6 : 借間、下宿	1	0.2		
		7 : 独身寮	0	0.0		
		8 : その他	2	0.4		
		問34 月々の収入額や支出額について	A: 月々の勤労収入	0 : なし	0	0.0
1 : 10万円未満	1			0.2		
2 : 10～15万円未満	3			0.6		
3 : 15～20万円未満	11			2.3		
4 : 20～25万円未満	22			4.7		
5 : 25～30万円未満	53			11.3		
6 : 30～35万円未満	72			15.3		
7 : 35～40万円未満	55			11.7		
8 : 40～45万円未満	43			9.1		
9 : 45～50万円未満	50			10.6		
	10 : 50万円以上		117	24.9		
	B: 月々のその他の収入		0 : なし	296	63.0	
			1 : 10万円未満	44	9.4	
			2 : 10～15万円未満	7	1.5	
			3 : 15～20万円未満	4	0.9	
			4 : 20～25万円未満	3	0.6	
			5 : 25～30万円未満	2	0.4	
			6 : 30～35万円未満	2	0.4	
			7 : 35～40万円未満	0	0.0	
			8 : 40～45万円未満	1	0.2	
9 : 45～50万円未満			0	0.0		
	10 : 50万円以上		4	0.9		
	C: 月々の収入合計（A+B）		0 : なし	4	0.9	
			1 : 10万円未満	1	0.2	
			2 : 10～15万円未満	2	0.4	
			3 : 15～20万円未満	8	1.7	
			4 : 20～25万円未満	12	2.6	
			5 : 25～30万円未満	42	8.9	
			6 : 30～35万円未満	66	14.0	
			7 : 35～40万円未満	51	10.9	
			8 : 40～45万円未満	42	8.9	
9 : 45～50万円未満			44	9.4		
	10 : 50万円以上		118	25.1		
	D: 月々の支出		0 : なし	0	0.0	
			1 : 10万円未満	10	2.1	
			2 : 10～15万円未満	20	4.3	
			3 : 15～20万円未満	45	9.6	
			4 : 20～25万円未満	64	13.6	
			5 : 25～30万円未満	74	15.7	
			6 : 30～35万円未満	78	16.6	
		7 : 35～40万円未満	50	10.6		
		8 : 40～45万円未満	31	6.6		
9 : 45～50万円未満		19	4.0			
	10 : 50万円以上	15	3.2			
	1 : 100万円未満	1	0.2			
	2 : 100～200万円未満	0	0.0			
	3 : 200～400万円未満	3	0.6			
	4 : 400～600万円未満	27	5.7			
	5 : 600～800万円未満	112	23.8			
	6 : 800～1,000万円未満	124	26.4			
	7 : 1,000～1,200万円未満	71	15.1			
	8 : 1,200～1,400万円未満	53	11.3			
	9 : 1,400～1,600万円未満	24	5.1			
	10 : 1,600～1,800万円未満	9	1.9			
	11 : 1,800～2,000万円未満	9	1.9			
問35 世帯全体の2010年の税込み年間 総収入について		12 : 2,000万円以上	6	1.3		
		0 点	0	0.0		
		1 点	2	0.4		
		2 点	6	1.3		
		3 点	24	5.1		
		4 点	54	11.5		
		5 点	134	28.5		
		6 点	111	23.6		
		7 点	93	19.8		
		8 点	19	4.0		
		9 点	2	0.4		
		10 点	0	0.0		
		問36 あなたの生活水準について		0 点	0	0.0
				1 点	2	0.4
				2 点	6	1.3
3 点	24			5.1		
4 点	54			11.5		
5 点	134			28.5		
6 点	111			23.6		
7 点	93			19.8		
8 点	19			4.0		
9 点	2			0.4		
10 点	0	0.0				

質 問		選 択 肢	回答数	構成比(%) 平均値
問37 普段どの程度幸福だと感じていますか		0 点	0	0.0
		1 点	1	0.2
		2 点	3	0.6
		3 点	10	2.1
		4 点	29	6.2
		5 点	121	25.7
		6 点	71	15.1
		7 点	107	22.8
		8 点	69	14.7
		9 点	20	4.3
		10 点	15	3.2
問38 現在どの程度満足していますか	生活全般について	0 点	0	0.0
		1 点	0	0.0
		2 点	5	1.1
		3 点	12	2.6
		4 点	26	5.5
		5 点	93	19.8
		6 点	80	17.0
		7 点	111	23.6
		8 点	73	15.5
		9 点	26	5.5
		10 点	19	4.0
	家庭について	0 点	0	0.0
		1 点	0	0.0
		2 点	3	0.6
		3 点	14	3.0
		4 点	16	3.4
		5 点	72	15.3
		6 点	62	13.2
		7 点	94	20.0
		8 点	96	20.4
		9 点	45	9.6
		10 点	35	7.4
	仕事について	0 点	1	0.2
		1 点	4	0.9
		2 点	6	1.3
		3 点	25	5.3
		4 点	35	7.4
		5 点	112	23.8
		6 点	68	14.5
		7 点	101	21.5
		8 点	51	10.9
		9 点	24	5.1
		10 点	14	3.0
		1 : 休みが始まると最初のころにやった	52	11.1
		2 : どちらかというとも最初のころにやった	78	16.6
		3 : 毎日ほぼ均等にやった	36	7.7
		4 : どちらかというとも終わりのころにやった	196	41.7
		5 : 休みの終わり頃にやった	71	15.1
問39 子供の時の宿題について	9% (平均)		427	50.4
問40 傘をもって出かける時の降水確率について 問41	楽しみは後に取っておきたい	1 : ぴったり当てはまる	33	7.0
		2 : どちらかというとも当てはまる	166	35.3
		3 : どちらともいえない	143	30.4
		4 : どちらかというとも当てはまらない	72	15.3
		5 : 全く当てはまらない	18	3.8
	一度手に入れたものを手放すのは苦痛だ	1 : ぴったり当てはまる	43	9.1
		2 : どちらかというとも当てはまる	173	36.8
		3 : どちらともいえない	150	31.9
		4 : どちらかというとも当てはまらない	56	11.9
		5 : 全く当てはまらない	10	2.1
	結果があいまいなときは、たいてい、よいほうを予想する	1 : ぴったり当てはまる	15	3.2
		2 : どちらかというとも当てはまる	189	40.2
		3 : どちらともいえない	161	34.3
		4 : どちらかというとも当てはまらない	61	13.0
		5 : 全く当てはまらない	7	1.5
	周りの人と同じような行動をとっていると安心だ	1 : ぴったり当てはまる	13	2.8
		2 : どちらかというとも当てはまる	170	36.2
		3 : どちらともいえない	169	36.0
		4 : どちらかというとも当てはまらない	62	13.2
		5 : 全く当てはまらない	17	3.6
	宗教を熱心に信仰している	1 : ぴったり当てはまる	3	0.6
		2 : どちらかというとも当てはまる	27	5.7
		3 : どちらともいえない	66	14.0
		4 : どちらかというとも当てはまらない	144	30.6
		5 : 全く当てはまらない	192	40.9
	以前からなされてきたやり方を守ることが、最上の結果を生む	1 : ぴったり当てはまる	3	0.6
		2 : どちらかというとも当てはまる	61	13.0

質 問		選 択 肢	回答数	構成比(%) 平 均 値
	以前からなされてきたやり方を守る ことが、最上の結果を生む	3 : どちらともいえない	208	44.3
		4 : どちらかというと当てはまらない	136	28.9
		5 : 全く当てはまらない	24	5.1
		1 : ぴったり当てはまる	6	1.3
		2 : どちらかというと当てはまる	166	35.3
	大部分の人びとは信頼できる	3 : どちらともいえない	195	41.5
		4 : どちらかというと当てはまらない	56	11.9
		5 : 全く当てはまらない	9	1.9
		1 : ぴったり当てはまる	16	3.4
		2 : どちらかというと当てはまる	128	27.2
問42 現在の健康状態について	何か新しいことを人にさがし て試みる方だ	3 : どちらともいえない	189	40.2
		4 : どちらかというと当てはまらない	86	18.3
		5 : 全く当てはまらない	14	3.0
		1 : よい	78	16.6
		2 : まあよい	73	15.5
	外来受診回数（年間） 窓口自己負担額	3 : ふつう	203	43.2
		4 : あまりよくない	72	15.3
		5 : よくない	9	1.9
		回（平均）	344	9.2
		円（平均）	337	5,620.8
問43 外来について		1 : 入院した	27	5.7
問44 入院について		2 : 入院していない	406	86.4
付問44-1 一番長かった入院の日数（連続）	日間（平均）		28	13.5
付問44-2 その入院で支払った窓口自己負担額	円（平均）		22	213,136.4
問45 この5年間に病気で入院されたこと がありますか		1 : ある	67	14.3
		2 : ない	366	77.9
問46 あなたご自身に関わる年間10万円 以上の医療費自己負担額について		1 : ある	150	31.9
		2 : ない	282	60.0
問47 医療・疾病関係の保険について		1 : 加入している	398	84.7
		2 : 加入していない	65	13.8
	年間保険料総額	円（平均）	373	283,204.5

定年後もイキイキと暮らすための働き方と ライフスタイルのあり方に関するアンケート

平成 23 年 2 月吉日
(財) 中部産業・労働政策研究会
理事長 加藤裕治

アンケートご協力をお願い

トヨタグループの主要企業を退職された皆様、お元気にお過ごしのことと存じます。財団法人「中部産業・労働政策研究会」理事長の加藤裕治です。当財団は、トヨタグループを中心とした企業と労働組合によって設立された厚生労働省認可の公益法人です。中部地域を足がかりに、どのようにしたら働く人々がより幸せになっていけるかを考え、中立的立場で企業労使双方にアドバイスしていくことを活動目的としています。

このアンケートは、各社でご活躍のあと退職された皆様の生の声をお聞きし、退職後も元氣よく過ごしていくために、現役世代の人々がどのような準備をしたらいいのか、また働き方に関する制度や仕組みをどのように変えていくのがよいのかを考えていくために実施するものです。

つきましては、お忙しいところ恐れ入りますが、現在のお気持ちや状況についてアンケートにご協力をお願いいたします。ここで答えいただいた内容はすべて統計的に処理されますので、個別の記入内容が他に漏れることはありません。

なお、世界の名車を展示するトヨタ博物館の特別券（1 名分の無料入館券）とボールペンを同封いたしました。ご活用いただけたら幸いに存じます。

〔回答にあたって〕

あてはまる番号に○印を付けるなど、その質問の指示に従ってください。
回答終了後、このアンケート用紙を添付の封筒に入れ、ご返送ください。

〔ご提出期限〕…平成 23 年 3 月 4 日（金）必着

* 別途、依頼部署の指示がある場合は、それに従ってください。

〔ご返送先〕 (財) 中部産業・労働政策研究会（中部産政研）

〒471-0833 愛知県豊田市山之手 8-131 全労済豊田会館 3 階

ご不明な点がございましたら、下記へお問い合わせください。

(財) 中部産業・労働政策研究会（中部産政研） 担当 後藤健治

〒471-0833 愛知県豊田市山之手 8-131 全労済豊田会館 3 階

TEL 0565 (27) 2731 (月曜～金曜 9 時～17 時)

FAX 0565 (27) 2259

E-mail : aei07243@nifty.com

このアンケートでは、在職時の状況や現在の暮らしに関する質問をいたしますので、**ご本人様**がご回答ください。やむを得ず、ご本人様以外の方がご回答される場合には、以下のいずれかの番号に○をつけてください。

問0. このアンケートにご記入くださるのはどなたですか。

1. ご本人
その他の者（1以外） → 2. 配偶者 3. 子 4. 父母 5. 介護者

A

在職時の状況

あなたが、最も長く在籍されていた会社での状況についてお聞きします。

問1. あなたが最も長く在籍された会社はつぎのどこですか？現在の会社名で選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|------|-------|
| 1 A社 | 5 E社 |
| 2 B社 | 6 F社 |
| 3 C社 | 7 G社 |
| 4 D社 | 8 その他 |

問2. あなたの在職時に、最も経験年数が長い職種は、主に以下のどれに当てはまりますか。
以下の中から、当てはまるものを 1つ 選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|-------------|
| 1 技能・製造部門 | 5 事務 |
| 2 技能・間接部門
（保守、生産・品質管理等） | 6 営業 |
| 3 生産技術 | 7 サービス |
| 4 技術・研究・開発 | 8 プログラマー・SE |
| | 9 その他 |

付問2-1. その経験年数は通算でどれくらいになりますか。以下の中から、当てはまるものを 1つ 選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 5年以内 | 4 21年～30年 |
| 2 6～10年 | 5 30年以上 |
| 3 11年～20年 | |

問3. あなたのこれまでの最高位の役職は、以下のどれにあてはまりますか。当てはまるものを 1つ 選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1 一般 | 4 課長クラス相当 |
| 2 監督クラス相当（組長、班長等） | 5 部・次長クラス相当以上 |
| 3 係長クラス相当（係長、工長等） | |

問4. あなたの在職時（50歳頃）の就労意識について、「ぴったり当てはまる」を1、「全く当てはらない」を5として、当てはまる番号に○をつけてください。

	ぴったり 当てはまる	どちらか というと はまる	どちら ともい えない	どちらか というと はまらない	全く 当て はまら ない
仕事こそが生きが이었다	1	2	3	4	5
仕事を通じて達成感を味わう ことができた	1	2	3	4	5
仕事は単にお金を稼ぐ手段に 過ぎなかった	1	2	3	4	5
生活のために職場でつらいこ とがあっても我慢していた	1	2	3	4	5

問5. 以下の項目のそれぞれについて、あなたは在職時（50歳頃）どの程度満足していましたか。「非常に満足」を10点、「非常に不満足」を0点として、当てはまる番号に○をつけてください。

	非常 に満 足										不 満 足に 非 常
生活全般 について	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
家庭に ついて	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
仕事に ついて	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0

問6. あなたは在職時（50歳頃）、定年退職後の就労や生活に備えて準備していたことはありますか。以下の中から、当てはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 主体的に自分の仕事について考える | 8 近隣や地域社会との付き合いを増やす |
| 2 専門能力の習得、公的資格の取得 | 9 家族と話す機会を増やす |
| 3 パソコンやITを使いこなせるようにする | 10 介護について学ぶ |
| 4 独立や開業に関する情報の収集 | 11 健康管理や体力づくりに注意する |
| 5 財産形成や資産運用に関する情報の収集 | 12 ボランティアや社会貢献活動への参加 |
| 6 将来に備えた貯蓄をしておく | 13 その他() |
| 7 自分なりに趣味をもつ | 14 とくがない |

問7. あなたの在職時（50歳頃）における生活資金や資産の管理・運用について、以下の中から、当てはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

- 1 家計簿をつけていた
2 計画的に貯蓄をしていた（あるいは貯蓄を取り崩していた）
3 積極的に資産運用を行っていた
4 株などの価値が変動する資産の比率を定期的に見直していた
5 資産運用の専門家のアドバイスを定期的に受けていた
6 その他（具体的に： _____）
7 特に何もしていなかった

問8. あなたは、何歳から定年退職後の準備を始めましたか。当てはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- | | | |
|-----------|-----------|--------------|
| 1 20 歳代 | 4 40 歳代後半 | 7 とくに準備しなかった |
| 2 30 歳代 | 5 50 歳代前半 | |
| 3 40 歳代前半 | 6 50 歳代後半 | |

問9. 定年退職に備えて、あなたのお宅の世帯全体の負債を除いた金融資産残高（預貯金・株・保険等）をどれくらい準備しておこう（目標金額）とお考えでしたか。また、実際に、退職時にどれくらい準備できましたか（実際額）。それぞれ当てはまるものを1つ選び、番号を記入してください。

目標金額

11

實際額

11

- | | | | |
|---|------------------|----|---------------------|
| 1 | 500 万円未満 | 6 | 4,000～5,000 万円未満 |
| 2 | 500～1,000 万円未満 | 7 | 5,000 万円～7,500 万円未満 |
| 3 | 1,000～2,000 万円未満 | 8 | 7,500 万円～1 億円未満 |
| 4 | 2,000～3,000 万円未満 | 9 | 1 億円以上 |
| 5 | 3,000～4,000 万円未満 | 10 | とくに考えていなかった |

問 10. あなたの在職時（50歳頃）の健康状態はいかがでしたか。あてはまる番号 1つ に ○をつけてください。

- 1 よかった 3 ふつうだった 5 よくなかった
2 まあよかった 4 あまりよくなかった

定年退職時の状況

あなたの定年退職時の状況についてお尋ねします。

問 11. あなたは、定年退職（定年退職扱いを含む）を経験されましたか？。当てはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- 1 はい → 付問 11-1 へ。
2 いいえ → 付問 11-4 へ。

【問 11 で「はい」と答えた方にご質問いたします】

付問 11-1. 定年退職時のあなたの年齢は何歳でしたか？

歲

付問 11-2. 定年退職時の勤続年数は何年でしたか。

年

付問 11-3. 定年後、再雇用制度で働いた経験がありますか？
(もしくは、現在、再雇用制度で働いていますか？)

- 1 経験がある (働いている)
2 経験がない (働いていない)

【問 11 で「いいえ」と答えた方にご質問いたします】

付問 11-4. あなたはなぜ退職しましたか。当てはまるものを 1つ 選び、番号に○をつけてください。

- 1 倒産、人員整理 4 自己都合(家庭の事情)
- 2 解雇 5 自己都合(健康上の理由)
- 3 契約期間満了 6 その他(具体的に:)

定年退職に起きたこと

あなたの定年退職後に起きたことについてお尋ねします。

問 12. 定年退職後に、あなたに生じた出来事について、当てはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 再就職した（再雇用を含まない） | 10 家族が大きなけがや病気をした |
| 2 失業した | 11 家族を介護するようになった |
| 3 結婚した | 12 火事にあった |
| 4 離婚した | 13 天災にあった |
| 5 配偶者が他界した | 14 ローンを完済した |
| 6 思いがけない収入があった | 15 破産した |
| 7 支出（出費）を減らした | 16 その他 |
| 8 引越しをした | 17 とくに変わらない |
| 9 大きなけがや病気をした | |

問 13. 定年退職後の生活設計に役立った会社の取り組みについて、以下の中から、当てはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

- 1 定年後の資金運用説明会
2 定年後に備えた生活説明会（趣味・地域・ボランティアなど）
3 定年後に備えた就職説明会
4 定年後の元従業員によるアドバイス
5 その他（具体的に： ）
6 とくになし

問 14. 定年退職後に、あなたは在職時に「やっておけばよかった」と思うものは何ですか。以下の中から、当てはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 主体的に自分の仕事について考える | 8 近隣や地域社会との付き合いを増やす |
| 2 専門能力の習得、公的資格の取得 | 9 家族と話す機会を増やす |
| 3 パソコンやITを使いこなせるようにする | 10 介護について学ぶ |
| 4 独立や開業に関する情報の収集 | 11 健康管理や体力づくりに注意する |
| 5 財産形成や資産運用に関する情報の収集 | 12 ボランティアや社会貢献活動への参加 |
| 6 将来に備えた貯蓄をしておく | 13 その他() |
| 7 自分なりに趣味をもつ | 14 とくにない |

D**現在の活動状況**

あなたの現在の活動状況についてお尋ねします。

問 15. 現在の暮らしぶりはどうですか。以下の中から、当てはまるものを 1つ 選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1 ゆとりがある | 4 毎月のやりくりを追われている |
| 2 いくらかゆとりがある | 5 非常に苦しい |
| 3 ゆとりはないが、どうにかやりくりしている | |

問 16. あなたは、現在、仕事をしていますか。以下の中から、当てはまるものを 1つ 選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1 働いている（再雇用制度を利用して） | → 付問 16-1～16-5 へ |
| 2 働いている（それ以外） | → 付問 16-1～16-5 へ |
| 3 働いていない | → 付問 16-6～16-8 へ |

【問 16 で働いている（1または2）と答えた方にご質問します】

付問 16-1. あなたの職種は次のどれにあたりますか。当てはまるものを 1つ 選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|-------------|
| 1 技能・製造（運転手を含む） | 5 事務 |
| 2 技能・間接部門
（保守、生産・品質管理等） | 6 営業 |
| 3 生産技術 | 7 サービス |
| 4 技術・研究・開発 | 8 プログラマー・SE |
| | 9 その他 |

付問 16-2. あなたの雇用形態は次のどれにあたりますか。当てはまるものを 1つ 選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|-------------|-----------------|
| 1 正規の職員・従業員 | 4 労働者派遣事業所の派遣社員 |
| 2 パート | 5 契約社員・嘱託 |
| 3 アルバイト | 6 その他 |

付問 16-3. あなたのお仕事の業種は次のどれにあたりますか。当てはまるものを 1つ 選び、番号に○をつけてください。

- | | | |
|-------|-----------|-----------------|
| 1 農林業 | 5 卸売業・小売業 | 9 電気・ガス・水道・熱供給業 |
| 2 鉱業 | 6 金融・保険業 | 10 サービス業 |
| 3 建設業 | 7 不動産業 | 11 その他 |
| 4 製造業 | 8 運輸・通信業 | |

付問 16-4. あなたの週当たりの平均労働時間は何時間ですか。

一週間あたり 時間程度

付問 16-5. あなたは何歳まで働きたいですか。

満 歳

【問 16 で働いていない（3）と答えた方にご質問します】

付問 16-6. あなたの現在の状況は、以下のどれですか。当てはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

- 1 求職活動している
- 2 求職活動していない
- 3 雇用給付を受けている（もしくは申請中である）
- 4 仕事から引退した

付問 16-7. あなたが現在働いていない理由は何ですか。以下の中から、当てはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|---------------------|---------------------------------------|
| 1 充分働いてきたから | 7 一定期間、休養したいから |
| 2 働きたいが働く場がないから | 8 家族との団らんを大切にしたいから |
| 3 自分の時間を大切にしたいから | 9 家族の介護をしているから |
| 4 仕事をしないでも生活に困らないから | 10 仕事以外の家の外での活動が忙しいから
(趣味や町内会活動など) |
| 5 希望する仕事ができる職場がないから | 11 その他 |
| 6 自分の体調がよくないから | |

付問 16-8. あなたは、1 週間の内でどのくらい外出していますか。当てはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|----------------------|-------------|
| 1 毎日でかける | 4 ほとんどでかけない |
| 2 2 日から 3 日に 1 回でかける | 5 でかけない |
| 3 週に 1 回でかける | |

【全員にご質問いたします】

問 17. あなたが、今後に備えて、ご自分の健康の維持増進のために心がけていることはありますか。以下の中から、当てはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1 休養や睡眠を十分とる | 7 タバコを控える |
| 2 規則正しい生活を送る | 8 散歩やスポーツをする |
| 3 栄養のバランスのとれた食事をとる | 9 地域の活動や友人との付き合いに参加する |
| 4 保健薬や強壮剤をのむ | 10 気持ちをなるべく明るく持つ |
| 5 健康診査などを定期的に受ける | 11 その他（ ） |
| 6 酒を控える | 12 特に心がけていない |
-

問 18. あなたの現在における生活資金や資産の管理・運用について、以下の中から、当てはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

- 1 家計簿をつけている
 - 2 計画的に貯蓄をしている（あるいは貯蓄を取り崩している）
 - 3 積極的に資産運用を行なっている
 - 4 株などの価値が変動する資産の比率を定期的に見直している
 - 5 資産運用の専門家のアドバイスを定期的に受けている
 - 6 その他（具体的に： ）
 - 7 特に何もしていない
-

問 19. あなたは、今後に備えて、資産の運用をどのように行いたいと考えていますか。この中から 1つ だけお答えください。

- 1 資産が減ったとしても、高い利益を得られるものを選択する
 - 2 資産が減る可能性は多少あるが、利益が得られるものを選択する
 - 3 資産が減る心配がほとんどないものを選択する
 - 4 その他（ ）
 - 5 資産運用は積極的に考えていない
-

問 20. 現在の仕事以外の余暇の過ごし方について、以下のうち、あなたが熱心に取り組んでおられるものを、順位をつけて3つ選び、番号を記入してください。

1 番の活動

2 番の活動

3 番の活動



付問 20-1. 旅行等の遠距離の場合を除き、その活動場所への移動は、
※移動手段の一つ選んで○で囲んでください

(徒歩・車・電車・バス・その他) で 分かかる

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1 趣味（具体的に： |) 10 企業・行政主体の交流会等 |
| 2 スポーツ活動 | 11 公的資格の取得等 |
| 3 近所づきあい | 12 市民活動団体や消費者団体等の団体活動 |
| 4 同窓生との交流 | 13 家族が経営する仕事の手伝い |
| 5 会社 OB との交流 | 14 大学・大学院での研究活動 |
| 6 ボランティア活動（NPO 法人 | 15 シルバー人材センターからの仕事 |
| での活動を含む） | 16 家族との交流 |
| 7 地域活動（友の会、自治会等） | 17 その他（具体的に： |
| 8 専門家との交流会・研修会 | 18 特にない |
| 9 カルチャーセンターや市民講座等の講演会 | |

問 21. あなたは、ふだん親しくしている友人・仲間をどの程度もっていますか。当てはまるものを 1つ 選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|--------|----------------|
| 1 1～3人 | 4 10人以上 |
| 2 4～5人 | 5 友人・仲間はもっていない |
| 3 6～9人 | |

問 22. あなたが、ふだん親しくしている友人・仲間は、どのような方ですか。以下の中から、当てはまるものを すべて 選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|-------------|-------------|
| 1 学校時代の友人 | 4 趣味を通じた仲間 |
| 2 職場の同僚・元同僚 | 5 その他（ |
| 3 近所の人 | 6 友人・仲間はいない |

E

現在の家庭環境等

あなたの現在の家庭環境等についてお尋ねします。

問 23. あなたの性別をお答えください。

- 1 男性 2 女性

問 24. 現在、配偶者はおられますか。当てはまるものを 1つ 選び、番号に○をつけてください。なお、配偶者には事実婚による相手も含めてください。

- 1 配偶者有り（現在夫または妻がいる。事実婚を含む） → 付問 24-1 へ
2 配偶者なし

付問 24-1. 現在の配偶者と結婚したのは、あなたが何歳のときですか。

あなたが 歳のとき

付問 24-2. あなたの家計の消費や貯蓄・投資の決定はおもにどちらが行っていますか。それぞれ当てはまるものを 1つ 選び、番号に○をつけてください。

	あなたが 決定	配偶者が 決定	二人で相談するが、あなたが主に決定	二人で相談するが、配偶者が主に決定
消費の決定	1	2	3	4
貯蓄・投資の決定	1	2	3	4

問 25. これまでに配偶者との離別や配偶者の他界を経験されたことがありますか。当てはまるものを 1つ 選び、番号に○をつけてください。なお、これまでの配偶者には事実婚による相手も含めてください。

- 1 離別した経験がある 3 離別と他界両方の経験がある
2 配偶者が他界した経験がある 4 いずれもない

【現在配偶者がおられない方は、問 26、27 の質問で「あなた」の欄のみにご回答ください】

問 26. あなたとあなたの配偶者は現在おいくつですか。満年齢でお答えください。

あなた 満 歳 配偶者 満 歳

問 27. あなたとあなたの配偶者が**最後に卒業された学校**をお答えください。当てはまるものを **1つ** 選び、番号をご記入ください。

あなた 配偶者

- 1 小中学校 卒業（尋常小学校、高等小学校を含む）
- 2 高等学校 卒業（旧制中学校、女学校、実業学校、師範学校を含む）
- 3 短期大学 卒業（高専等を含む）
- 4 大学 卒業（旧制高校、旧制高等専門学校を含む）
- 5 大学院修士課程 修了
- 6 大学院博士課程 修了

【全員の方にお尋ねします】

問 28. 現在あなたが同居しているご家族の**家族形態**は、次のどれに当たりますか。当てはまるものを **1つ** 選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|---------|-------------|
| 1 単身 | 5 夫婦と子供と親 |
| 2 夫婦だけ | 6 夫婦と子供と孫 |
| 3 夫婦と子供 | 7 それ以外（具体的に |
| 4 片親と子供 | ） |

問 29. 現在のあなたの**世帯の人数**はあなたを含め何人ですか。ここで世帯とは、生計を同一にする人を意味します。

人

問 30. 子どもの状況についてご質問いたします。以下のうち、当てはまる番号に○をつけてください。

- 1 子供がいない
- 2 子供がいる → お子さんの数は 人 → 付問 30-1 へ

付問 30-1. あなたのお子さんのうち**最も下のお子さん**は、現在何歳ですか。

満 歳

問 31. あなたは、要介護認定を受けていますか。実際にサービスを受けているかどうかは問いません。

- 1 要介護認定を受けている
- 2 要介護認定を受けていない

問 32. あなたのご家族で、要介護認定を受け、介護を必要とする方がいらっしゃいますか。

- 1 1人いる
- 2 1人以上いる
- 3 いない

問 33. あなたの現在のお住まいの種類は、次のどれに当たりますか。当てはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- 1 持ち家（一戸建て）
- 2 持ち家（集合住宅）
- 3 民間の借家（一戸建て、集合住宅）
- 4 社宅（借り上げも含む）
- 5 公営の借家（住宅公団、住宅供給公社、県営住宅等）
- 6 借間、下宿
- 7 独身寮
- 8 その他

問 34. あなたの月々の収入額や支出額に当てはまるものを以下の0～10からそれぞれ1つずつ選び、その番号を記入してください。

- 0 なし
- 1 10万円未満
- 2 10～15万円未満
- 3 15～20万円未満
- 4 20～25万円未満
- 5 25～30万円未満
- 6 30～35万円未満
- 7 35～40万円未満
- 8 40～45万円未満
- 9 45～50万円未満
- 10 50万円以上

		あてはまる額 (0～10の番号で記入)
A	月々の勤労収入	
B	月々の年金収入	
C	月々のその他の収入（事業・不動産・利子・配当収入等）	
D	月々の収入合計（A+B+C）	
E	月々の支出（日常生活費）	

問 35. あなたのお宅の世帯全体の2010年の税込み年間総収入は、ボーナスを含めてどのくらいになりますか。以下から最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- 1 100万円未満
- 2 100～200万円未満
- 3 200～400万円未満
- 4 400～600万円未満
- 5 600～800万円未満
- 6 800～1,000万円未満
- 7 1,000～1,200万円未満
- 8 1,200～1,400万円未満
- 9 1,400～1,600万円未満
- 10 1,600～1,800万円未満
- 11 1,800～2,000万円未満
- 12 2,000万円以上

問 36. 「あなたの生活水準」はどの程度だとお考えですか。「もっとも豊か」を 10 点、「もっとも貧しい」を 0 点として、当てはまるものを 1 つ 選び、番号に○をつけてください。

(点)	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	豊か もっとも										貧しい もっとも

問 37. 全体として、あなたは普段どの程度幸福だと感じていますか。「非常に幸福」を 10 点、「非常に不幸」を 0 点として、当てはまるものを 1 つ 選び、番号に○をつけてください。

(点)	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	幸福 非常に										不幸 非常に

問 38. 以下の項目のそれぞれについて、あなたは現在どの程度満足していますか。「非常に満足」を 10 点、「非常に不満足」を 0 点として、当てはまるものを 1 つ 選び、番号に○をつけてください。

		非常 満足										非常 不満足
生活全般について	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
家庭について	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
仕事について※	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	

※仕事については、仕事をしている方のみご回答ください。

F

リスク・時間に関する好みについて

あなたの行動における好みや考え方に関するいくつかの質問にお答えください。

問 39. あなたは、こどもの時、休みに出された宿題をいつごろやるが多かったですか。
当てはまるものを 1つ 選び、番号に○をつけてください。

- 1 休みが始まると最初のころにやった
- 2 どちらかというと最初のころにやった
- 3 毎日ほぼ均等にやった
- 4 どちらかというと終わりのころにやった
- 5 休みの終わり頃にやった

問 40. あなたが普段お出かけになる時に、傘をもって出かけるのは降水確率が何%以上だ
と思う時ですか。

--	--	--

%以上

問 41. 次の各項目は、あなたに当てはまりますか。「ぴったり当てはまる」を1、「全くあてはらない」を5として、当てはまる番号に○をつけてください。

	ぴったり 当ては まる	どちら かとい うと当 る	どち らとい うとま えな い	ど か う と は ま ら な い	全 く あ て は ら な い
楽しみは後にとっておきたい	1	2	3	4	5
一度手に入れたものを手放す のは苦痛だ	1	2	3	4	5
結果があいまいなときは、た いてい、よいほうを予想する	1	2	3	4	5
周りの人と同じような行動を とっていると安心だ	1	2	3	4	5
宗教を熱心に信仰している	1	2	3	4	5
以前からなされてきたやり方 を守ることが、最上の結果を 生む	1	2	3	4	5
大部分の人びとは信頼できる	1	2	3	4	5
何か新しいことを人にさが けて試みる方だ	1	2	3	4	5

G

健康状態、健康保険に関する質問

あなたとご家族の**健康の状態**についてお伺いします。

問 42. あなたの**現在の健康状態**はいかがですか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- | | | |
|--------|-----------|--------|
| 1 よい | 3 ふつう | 5 よくない |
| 2 まあよい | 4 あまりよくない | |

問 43. あなたは過去 1 年間に、病気により、病院や診療所の**外来**に行きましたか。**その回数**と、**1 回あたりの平均的な窓口自己負担額（薬代を含む）**をご記入ください（一度も行かなかった場合には、ともに 0 とご記入ください）。ただし、歯の治療のための通院などは除いてお答えください。

外来受診回数（年間） およそ 回

窓口自己負担額（1 回あたり平均額） 円程度

問 44. あなたは過去 1 年間に、病気により、**入院**されましたか。

- 1 入院した → （付問 44-1 へ）
- 2 入院していない

付問 44-1. そのうち 1 年間で 1 番長かった**入院の日数**は連続で何日間でしたか。一時的な退院は、入院日数に含めてお答えください。

入院日数 日間

付問 44-2. その入院で支払った**窓口自己負担額**をご記入ください。

窓口自己負担額（1 入院あたり負担額） 円程度

問 45. あなたは、**この 5 年間に**病気で**入院**されたことがありますか。

- 1 ある
- 2 ない

問 46. これまでに、あなたご自身に関わる年間 10 万円以上の医療費自己負担（歯科含む）がかかったご経験をお持ちですか。

- 1 ある
- 2 ない

あなたの健康保険と将来への備えについてお伺いします。

問 47. あなたは、この中のどの公的な健康保険に加入していますか。健康保険証等を参考に○をつけてください。「9 後期高齢者医療制度」の方は、ご自身の自己負担率をあわせて○をつけてください。

- 1 政府管掌健康保険・本人
- 2 政府管掌健康保険・家族
- 3 組管掌健康保険（健康保険組合）・本人
- 4 組管掌健康保険（健康保険組合）・家族
- 5 国民健康保険・本人（世帯主）
- 6 国民健康保険・家族（世帯主以外）
- 7 その他（共済組合および船員保険・その他）・本人
- 8 その他（共済組合および船員保険・その他）・家族
- 9 後期高齢者医療制度 → 自己負担率（どちらかを選んでください：1割・3割）

問 48. あなたは、「生命保険会社や損害保険会社、郵便局、JA などでは取り扱っている医療・疾病関係の保険」に加入していますか。「1 加入している」方は、すべての医療保険を合算して、過去1年間に支払った保険料の総額をご記入ください。

- 1 加入している →（年間保険料総額 _____ 円程度）
- 2 加入していない

〔自由記述欄〕

問 49. 最後に、現役で働かれている社員の方に、現役の時にやっておいた方が良いと思うことやメッセージなど、以下の欄にご自由にご記入ください。

アンケートにご協力いただき、まことにありがとうございました

集計結果 退職&再雇用者

		回答数		945 件
質 問		選 択 肢	回答数	構成比(%) 平 均 値
問0 アンケートを記入された方は		1 :ご本人	918	97.1
		2 :配偶者	6	0.6
		3 :子	0	0.0
		4 :父母	0	0.0
		5 :介護者	0	0.0
問1 最も長く在籍された会社		1 :A社	387	41.0
		2 :B社	219	23.2
		3 :C社	80	8.5
		4 :D社	90	9.5
		5 :E社	53	5.6
		6 :F社	62	6.6
		7 :G社	45	4.8
		8 :その他	8	0.8
問2 最も経験年数が長い職種		1 :技能・製造部門	371	39.3
		2 :技能・間接部門	241	25.5
		3 :生産技術	57	6.0
		4 :技術・研究・開発	121	12.8
		5 :事務	88	9.3
		6 :営業	17	1.8
		7 :サービス	18	1.9
		8 :プログラマー・SE	10	1.1
		9 :その他	19	2.0
付問2-1 経験年数の通算期間		1 :5年以内	3	0.3
		2 :6～10年	14	1.5
		3 :11～20年	89	9.4
		4 :21～30年	190	20.1
		5 :30年以上	647	68.5
問3 これまでの最高位の役職		1 :一般	125	13.2
		2 :監督クラス相当 (組長、班長等)	302	32.0
		3 :係長クラス相当 (係長、工長等)	243	25.7
		4 :課長クラス相当	138	14.6
		5 :部・次長クラス相当以上	136	14.4
問4 在職時(50歳頃)の就労意識について	仕事こそ生きがい	1 :ぴったり当てはまる	135	14.3
		2 :どちらかというと当てはまる	396	41.9
		3 :どちらともいえない	290	30.7
		4 :どちらかというと当てはまらない	84	8.9
		5 :全く当てはまらない	14	1.5
	達成感を味わう	1 :ぴったり当てはまる	218	23.1
		2 :どちらかというと当てはまる	485	51.3
		3 :どちらともいえない	172	18.2
		4 :どちらかというと当てはまらない	48	5.1
		5 :全く当てはまらない	7	0.7
	お金を稼ぐ手段	1 :ぴったり当てはまる	24	2.5
		2 :どちらかというと当てはまる	176	18.6
		3 :どちらともいえない	357	37.8
		4 :どちらかというと当てはまらない	255	27.0
		5 :全く当てはまらない	105	11.1
	生活のため我慢	1 :ぴったり当てはまる	149	15.8
		2 :どちらかというと当てはまる	400	42.3
		3 :どちらともいえない	204	21.6
		4 :どちらかというと当てはまらない	128	13.5
		5 :全く当てはまらない	41	4.3
問5 在職時どの程度満足していましたか	生活全般について	0 点	2	0.2
		1 点	0	0.0
		2 点	4	0.4
		3 点	9	1.0
		4 点	12	1.3
		5 点	102	10.8
		6 点	92	9.7
		7 点	214	22.6
		8 点	296	31.3
		9 点	113	12.0
	家庭について	10 点	90	9.5
		0 点	3	0.3
		1 点	3	0.3
		2 点	4	0.4
		3 点	16	1.7
		4 点	18	1.9
		5 点	94	9.9
		6 点	60	6.3
		7 点	158	16.7
		8 点	257	27.2
	仕事について	9 点	165	17.5
		10 点	156	16.5
		0 点	6	0.6

質 問		選 択 肢	回答数	構成比(%) 平均値
	仕事について	1 点	6	0.6
		2 点	13	1.4
		3 点	28	3.0
		4 点	30	3.2
		5 点	124	13.1
		6 点	110	11.6
		7 点	190	20.1
		8 点	235	24.9
		9 点	114	12.1
		10 点	76	8.0
		1 : 主体的に自分の仕事について考える	223	23.6
問6 在職時定年退職後の就労や生活に備えて準備していましたが		2 : 専門能力の習得、公的資格の取得	117	12.4
		3 : パソコンやITを使いこなせるようにする	224	23.7
		4 : 独立や開業に関する情報の収集	18	1.9
		5 : 財産形成や資産運用に関する情報の収集	207	21.9
		6 : 将来に備えた貯蓄をしておく	557	58.9
		7 : 自分なりに趣味をもつ	574	60.7
		8 : 近隣や地域社会との付き合いを増やす	337	35.7
		9 : 家族と話す機会を増やす	245	25.9
		10 : 介護について学ぶ	33	3.5
		11 : 健康管理や体力づくりに注意する	604	63.9
		12 : ボランティアや社会貢献活動への参加	138	14.6
		13 : その他	25	2.6
		14 : とくにない	91	9.6
問7 在職時における生活資金や資産の管理・運用について		1 : 家計簿をつけていた	107	11.3
		2 : 計画的に貯蓄していた	597	63.2
		3 : 積極的に資産運用を行っていた	99	10.5
		4 : 価値が変動する資産の比率を定期的に見直していた	158	16.7
		5 : 資産運用の専門家のアドバイスを定期的に受けていた	12	1.3
		6 : その他	22	2.3
問8 何歳から定年退職後の準備をはじめましたか		7 : 特に何もしていなかった	282	29.8
		1 : 20歳代	8	0.8
		2 : 30歳代	23	2.4
		3 : 40歳代前半	49	5.2
		4 : 40歳代後半	84	8.9
		5 : 50歳代前半	165	17.5
		6 : 50歳代後半	252	26.7
		7 : とくに準備しなかった	336	35.6
問9 定年退職に備えての世帯全体の負債を除いた金融資産残高の準備について	目標金額	1 : 500万円未満	12	1.3
		2 : 500～1,000万円未満	54	5.7
		3 : 1,000～2,000万円未満	120	12.7
		4 : 2,000～3,000万円未満	170	18.0
		5 : 3,000～4,000万円未満	128	13.5
		6 : 4,000～5,000万円未満	105	11.1
		7 : 5,000～7,500万円未満	62	6.6
		8 : 7,500～1億円未満	23	2.4
		9 : 1億円以上	34	3.6
		10 : とくに考えていなかった	94	9.9
	実際額	1 : 500万円未満	45	4.8
		2 : 500～1,000万円未満	78	8.3
		3 : 1,000～2,000万円未満	150	15.9
		4 : 2,000～3,000万円未満	196	20.7
		5 : 3,000～4,000万円未満	108	11.4
		6 : 4,000～5,000万円未満	83	8.8
		7 : 5,000～7,500万円未満	59	6.2
		8 : 7,500～1億円未満	30	3.2
		9 : 1億円以上	21	2.2
		10 : とくに考えていなかった	11	1.2
問10 在職時の健康状態について		1 : よかった	321	34.0
		2 : まあよかった	190	20.1
		3 : ふつうだった	316	33.4
		4 : あまりよくなかった	67	7.1
		5 : よくなかった	36	3.8
		1 : はい	863	91.3
問11 定年退職を経験されましたか		2 : いいえ	36	3.8
付問11-1 定年時の年齢	歳 (平均)		896	60.0
付問11-2 定年時の勤続年数	年 (平均)		879	39.6
付問11-3 再雇用制度で働いた経験について		1 : 経験がある (働いている)	481	50.9
		2 : 経験がない (働いていない)	393	41.6
		1 : 倒産、人員整理	3	0.3
		2 : 解雇	3	0.3
		3 : 契約期間満了	35	3.7
		4 : 自己都合 (家庭の事情)	22	2.3
		5 : 自己都合 (健康上の事情)	10	1.1
付問11-4 退職理由		6 : その他	42	4.4
問12 定年退職後の出来事について		1 : 再就職した (再雇用を含まない)	323	34.2

質 問		選 択 肢	回答数	構成比(%) 平 均 値
問12 定年退職後の出来事について		2 : 失業した	74	7.8
		3 : 結婚した	4	0.4
		4 : 離婚した	3	0.3
		5 : 配偶者が他界した	16	1.7
		6 : 思いがけない収入があった	20	2.1
		7 : 支出(出費)を減らした	253	26.8
		8 : 引越しをした	48	5.1
		9 : 大きなけがや病気をした	92	9.7
		10 : 家族が大きなけがや病気をした	57	6.0
		11 : 家族を介護するようになった	60	6.3
		12 : 火事にあった	4	0.4
		13 : 天災にあった	0	0.0
		14 : ローンを完済した	116	12.3
		15 : 破産した	1	0.1
		16 : その他	29	3.1
		17 : とくに変わらない	355	37.6
問13 定年退職後の生活設計に役立った会社の取り組みについて		1 : 定年後の資金運用説明会	287	30.4
		2 : 定年後に備えた生活説明会	275	29.1
		3 : 定年後に備えた就職説明会	82	8.7
		4 : 定年後の元従業員によるアドバイス	112	11.9
		5 : その他	23	2.4
		6 : とくになし	410	43.4
問14 定年退職後にやっておけばよかったことについて		1 : 主体的に自分の仕事について考える	57	6.0
		2 : 専門能力の習得、公的資格の取得	163	17.2
		3 : パソコンやITを使いこなせるようにする	261	27.6
		4 : 独立や開業に関する情報の収集	27	2.9
		5 : 財産形成や資産運用に関する情報の収集	161	17.0
		6 : 将来に備えた貯蓄をしておく	268	28.4
		7 : 自分なりに趣味をもつ	374	39.6
		8 : 近隣や地域社会との付き合いを増やす	231	24.4
		9 : 家族と話す機会を増やす	112	11.9
		10 : 介護について学ぶ	47	5.0
		11 : 健康管理や体力づくりに注意する	299	31.6
		12 : ボランティアや社会貢献活動への参加	135	14.3
		13 : その他	15	1.6
		14 : とくにない	175	18.5
問15 現在の暮らしについて		1 : ゆとりがある	117	12.4
		2 : いくらかゆとりがある	367	38.8
		3 : どうかやりくりしている	415	43.9
		4 : やりくりに追われている	20	2.1
		5 : 非常に苦しい	16	1.7
問16 現在、仕事をしていますか		1 : 働いている (再雇用制度を利用して)	216	22.9
		2 : 働いている (それ以外)	283	29.9
		3 : 働いていない	437	46.2
付問 16-1 職種について		1 : 技能・製造 (運転手を含む)	60	6.3
		2 : 技能・間接部門 (保守、生産・品質管理等)	95	10.1
		3 : 生産技術	22	2.3
		4 : 技術・研究・開発	37	3.9
		5 : 事務	64	6.8
		6 : 営業	14	1.5
		7 : サービス	62	6.6
		8 : プログラマー・SE	1	0.1
		9 : その他	136	14.4
付問 16-2 雇用形態について		1 : 正規の職員・従業員	65	6.9
		2 : パート	100	10.6
		3 : アルバイト	38	4.0
		4 : 労働者派遣事業所の派遣社員	36	3.8
		5 : 契約社員・嘱託	183	19.4
		6 : その他	74	7.8
付問 16-3 業種について		1 : 農林業	23	2.4
		2 : 鉱業	0	0.0
		3 : 建設業	5	0.5
		4 : 製造業	258	27.3
		5 : 卸売業・小売業	10	1.1
		6 : 金融・保険業	1	0.1
		7 : 不動産業	3	0.3
		8 : 運輸・通信業	9	1.0
		9 : 電気・ガス・水道・熱供給業	2	0.2
		10 : サービス業	74	7.8
		11 : その他	119	12.6
付問16-4 週当たりの平均労働時間	時間 (平均)		505	30.2
付問16-5 何歳まで働きたいですか	歳 (平均)		505	67.8
不問16-6 現在の状況について		1 : 求職活動している	36	3.8
		2 : 求職活動していない	164	17.4
		3 : 雇用給付を受けている (もしくは申請中である)	12	1.3
		4 : 仕事から引退した	315	33.3

質 問		選 択 肢	回答数	構成比(%) 平 均 値
付問16-7 働いていない理由について		1 : 充分働いてきたから	227	24.0
		2 : 働きたいが働く場がないから	87	9.2
		3 : 自分の時間を大切にしたいから	186	19.7
		4 : 仕事をしなくても生活に困らないから	125	13.2
		5 : 希望する仕事ができる職場がないから	75	7.9
		6 : 自分の体調がよくないから	68	7.2
		7 : 一定期間、休養したいから	31	3.3
		8 : 家族との団らんを大切にしたいから	61	6.5
		9 : 家族の介護をしているから	31	3.3
		10 : 仕事以外の家の外での活動が忙しいから	120	12.7
		11 : その他	29	3.1
付問16-8 1週間の内でどのくらい外出していますか		1 : 毎日でかける	187	19.8
		2 : 2日から3日に1回でかける	208	22.0
		3 : 週に1回でかける	48	5.1
		4 : ほとんどでかけない	25	2.6
		5 : でかけない	1	0.1
問17 健康の維持増進のために心がけていること		1 : 休養や睡眠を十分とる	593	62.8
		2 : 規則正しい生活を送る	684	72.4
		3 : 栄養のバランスのとれた食事をする	559	59.2
		4 : 保険薬や強壮剤をのむ	68	7.2
		5 : 健康診査などを定期的に受ける	613	64.9
		6 : 酒を控える	186	19.7
		7 : タバコを控える	161	17.0
		8 : 散歩やスポーツをする	717	75.9
		9 : 地域の活動や友人との付き合いに参加する	383	40.5
		10 : 気持ちをなるべく明るく持つ	463	49.0
		11 : その他	36	3.8
		12 : 特に心がけていない	18	1.9
問18 現在における生活資金や資産の管理・運用について		1 : 家計簿をつけている	192	20.3
		2 : 計画的に貯蓄している	366	38.7
		3 : 積極的に資産運用を行なっている	124	13.1
		4 : 価値が変動する資産の比率を定期的に見直している	184	19.5
		5 : 資産運用の専門家のアドバイスを定期的に受けている	30	3.2
		6 : その他	19	2.0
		7 : 特に何もしていない	391	41.4
問19 今後に備えての資産の運用について		1 : 資産が減ったとしても、高い利益を得られるものを選択する	17	1.8
		2 : 資産が減る可能性は多少あるが、利益が得られるものを選択する	195	20.6
		3 : 資産が減る心配がほとんどないものを選択する	270	28.6
		4 : その他	14	1.5
		5 : 資産運用は積極的に考えていない	432	45.7
問20 余暇の過ごし方について	1番の活動	1 : 趣味	369	39.0
		2 : スポーツ活動	175	18.5
		3 : 近所づきあい	26	2.8
		4 : 同窓生との交流	20	2.1
		5 : 会社OBとの交流	23	2.4
		6 : ボランティア活動	25	2.6
		7 : 地域活動	61	6.5
		8 : 専門家との交流会・研修会	5	0.5
		9 : 講演会	6	0.6
		10 : 企業・行政主体の交流会	3	0.3
		11 : 公的資格の取得等	2	0.2
		12 : 団体活動	0	0.0
		13 : 家族が経営する仕事の手伝い	5	0.5
		14 : 大学・大学院での研究活動	3	0.3
		15 : シルバー人材センターからの仕事	7	0.7
		16 : 家族との交流	65	6.9
		17 : その他	30	3.2
		18 : 特になし	56	5.9
	2番の活動	1 : 趣味	113	12.0
		2 : スポーツ活動	118	12.5
		3 : 近所づきあい	52	5.5
		4 : 同窓生との交流	55	5.8
		5 : 会社OBとの交流	84	8.9
		6 : ボランティア活動	35	3.7
		7 : 地域活動	65	6.9
		8 : 専門家との交流会・研修会	7	0.7
		9 : 講演会	17	1.8
		10 : 企業・行政主体の交流会	4	0.4
		11 : 公的資格の取得等	2	0.2
		12 : 団体活動	7	0.7
		13 : 家族が経営する仕事の手伝い	2	0.2
		14 : 大学・大学院での研究活動	0	0.0
		15 : シルバー人材センターからの仕事	8	0.8
		16 : 家族との交流	135	14.3
		17 : その他	36	3.8
		18 : 特になし	19	2.0

質 問		選 択 肢	回答数	構成比(%) 平均値
問20 余暇の過ごし方について	3番の活動	1 : 趣味	34	3.6
		2 : スポーツ活動	45	4.8
		3 : 近所づきあい	62	6.6
		4 : 同窓生との交流	47	5.0
		5 : 会社OBとの交流	92	9.7
		6 : ボランティア活動	22	2.3
		7 : 地域活動	71	7.5
		8 : 専門家との交流会・研修会	8	0.8
		9 : 講演会	24	2.5
		10 : 企業・行政主体の交流会	5	0.5
		11 : 公的資格の取得等	1	0.1
		12 : 団体活動	3	0.3
		13 : 家族が経営する仕事の手伝い	2	0.2
		14 : 大学・大学院での研究活動	0	0.0
		15 : シルバー人材センターからの仕事	10	1.1
		16 : 家族との交流	147	15.6
		17 : その他	36	3.8
		18 : 特にない	62	6.6
付問20-1 活動場所への移動について	手段	1 : 徒歩	64	6.8
		2 : 車	416	44.0
		3 : 電車	16	1.7
		4 : バス	4	0.4
		5 : その他	23	2.4
	時間 (平均:分)		614	28.3
問21 友人・仲間の人数		1 : 1~3人	195	20.6
		2 : 4~5人	250	26.5
		3 : 6~9人	143	15.1
		4 : 10人以上	289	30.6
		5 : いらない	47	5.0
問22 友人・仲間の間柄について		1 : 学校時代の友人	288	30.5
		2 : 職場の同僚・元同僚	570	60.3
		3 : 近所の人	341	36.1
		4 : 趣味を通じた仲間	533	56.4
		5 : その他	67	7.1
		6 : いらない	48	5.1
問23 性別		1 : 男性	895	94.7
		2 : 女性	38	4.0
問24 配偶者について		1 : 配偶者あり	859	90.9
		2 : 配偶者なし	73	7.7
付問24-1 現在の配偶者と結婚した時の年齢	歳 (平均)		862	27.1
付問24-2 家計の消費や貯蓄・投資の決定は主にどちらですか	消費の決定	1 : あなたが決定	106	11.2
		2 : 配偶者が決定	235	24.9
		3 : 二人で相談するが、あなたが主に決定	324	34.3
		4 : 二人で相談するが、配偶者が主に決定	202	21.4
	貯蓄・投資の決定	1 : あなたが決定	240	25.4
		2 : 配偶者が決定	105	11.1
		3 : 二人で相談するが、あなたが主に決定	374	39.6
		4 : 二人で相談するが、配偶者が主に決定	134	14.2
問25 配偶者との離別や他界について		1 : 離別した経験がある	30	3.2
		2 : 配偶者が他界した経験がある	38	4.0
		3 : 離別と他界両方の経験がある	2	0.2
		4 : いずれもない	827	87.5
問26 あなたとあなたの配偶者の年齢は	あなたの年齢 (平均)		873	64.6
	配偶者の年齢 (平均)		802	61.2
問27 あなたとあなたの配偶者が最後に卒業された学校について	あなた	1 : 小中学校卒業	243	25.7
		2 : 高等学校卒業	514	54.4
		3 : 短期大学卒業 (高専等を含む)	23	2.4
		4 : 大学卒業 (旧制高校、旧制高等専門学校を含む)	124	13.1
		5 : 大学院修士課程修了	20	2.1
		6 : 大学院博士課程修了	2	0.2
	配偶者	1 : 小中学校卒業	181	19.2
		2 : 高等学校卒業	548	58.0
		3 : 短期大学卒業 (高専等を含む)	100	10.6
		4 : 大学卒業 (旧制高校、旧制高等専門学校を含む)	33	3.5
		5 : 大学院修士課程修了	2	0.2
		6 : 大学院博士課程修了	1	0.1
問28 同居しているご家族の家族形態について		1 : 単身	39	4.1
		2 : 夫婦だけ	359	38.0
		3 : 夫婦と子供	292	30.9
		4 : 片親と子供	19	2.0
		5 : 夫婦と子供と親	62	6.6
		6 : 夫婦と子供と孫	89	9.4
		7 : それ以外	73	7.7
問29 世帯の人数	人 (平均)		934	2.9
問30 子どもの状況について		1 : 子供がいない	85	9.0
		2 : 子供がいる	841	89.0

質 問	選 択 肢	回答数	構成比(%) 平 均 値
	お子さんの人数 (平均)	848	2.1
付問30-1 最も下のお子さんの歳は	年齢 (平均)	850	32.0
問31 要介護認定を受けていますか	1 : 要介護認定を受けている	16	1.7
	2 : 要介護認定を受けていない	909	96.2
問32 ご家族で要介護認定を受け介護必要な方について	1 : 1人いる	87	9.2
	2 : 1人以上いる	7	0.7
	3 : いない	840	88.9
問33 現在のお住まいについて	1 : 持家 (一戸建て)	868	91.9
	2 : 持家 (集合住宅)	45	4.8
	3 : 民間の借家 (一戸建て、集合住宅)	14	1.5
	4 : 社宅	2	0.2
	5 : 公営の借家	1	0.1
	6 : 借間、下宿	1	0.1
	7 : 独身寮	0	0.0
	8 : その他	1	0.1
問34 月々の収入額や支出額について	A: 月々の労働収入	0 : なし	194 20.5
		1 : 10万円未満	120 12.7
		2 : 10～15万円未満	107 11.3
		3 : 15～20万円未満	49 5.2
		4 : 20～25万円未満	59 6.2
		5 : 25～30万円未満	48 5.1
		6 : 30～35万円未満	21 2.2
		7 : 35～40万円未満	8 0.8
		8 : 40～45万円未満	5 0.5
		9 : 45～50万円未満	2 0.2
		10 : 50万円以上	39 4.1
	B: 月々の年金収入	0 : なし	31 3.3
		1 : 10万円未満	130 13.8
		2 : 10～15万円未満	92 9.7
		3 : 15～20万円未満	94 9.9
		4 : 20～25万円未満	210 22.2
		5 : 25～30万円未満	154 16.3
		6 : 30～35万円未満	91 9.6
		7 : 35～40万円未満	30 3.2
		8 : 40～45万円未満	12 1.3
		9 : 45～50万円未満	6 0.6
		10 : 50万円以上	6 0.6
	C: 月々のその他の収入	0 : なし	288 30.5
		1 : 10万円未満	202 21.4
		2 : 10～15万円未満	35 3.7
		3 : 15～20万円未満	23 2.4
		4 : 20～25万円未満	13 1.4
		5 : 25～30万円未満	5 0.5
		6 : 30～35万円未満	6 0.6
		7 : 35～40万円未満	2 0.2
		8 : 40～45万円未満	3 0.3
		9 : 45～50万円未満	2 0.2
		10 : 50万円以上	12 1.3
	D: 月々の収入合計 (A+B+C)	0 : なし	6 0.6
		1 : 10万円未満	3 0.3
		2 : 10～15万円未満	21 2.2
		3 : 15～20万円未満	38 4.0
		4 : 20～25万円未満	102 10.8
		5 : 25～30万円未満	130 13.8
		6 : 30～35万円未満	156 16.5
		7 : 35～40万円未満	77 8.1
		8 : 40～45万円未満	69 7.3
		9 : 45～50万円未満	33 3.5
		10 : 50万円以上	72 7.6
	E: 月々の支出 (日常生活費)	0 : なし	3 0.3
		1 : 10万円未満	14 1.5
		2 : 10～15万円未満	48 5.1
		3 : 15～20万円未満	94 9.9
		4 : 20～25万円未満	163 17.2
		5 : 25～30万円未満	176 18.6
		6 : 30～35万円未満	144 15.2
		7 : 35～40万円未満	57 6.0
		8 : 40～45万円未満	27 2.9
		9 : 45～50万円未満	18 1.9
		10 : 50万円以上	17 1.8
問35 世帯全体の2010年の税込み年間 総収入について		1 : 100万円未満	11 1.2
		2 : 100～200万円未満	37 3.9
		3 : 200～400万円未満	351 37.1
		4 : 400～600万円未満	239 25.3
		5 : 600～800万円未満	94 9.9
		6 : 800～1,000万円未満	63 6.7

質 問		選 択 肢	回 答 数	構 成 比 (%) 平 均 値
問35 世帯全体の2010年の税込み年間 総収入について		7 : 1,000～1,200万円未満	40	4.2
		8 : 1,200～1,400万円未満	26	2.8
		9 : 1,400～1,600万円未満	14	1.5
		10 : 1,600～1,800万円未満	10	1.1
		11 : 1,800～2,000万円未満	8	0.8
		12 : 2,000万円以上	13	1.4
問36 あなたの生活水準について		0 点	2	0.2
		1 点	4	0.4
		2 点	21	2.2
		3 点	69	7.3
		4 点	88	9.3
		5 点	293	31.0
		6 点	206	21.8
		7 点	157	16.6
		8 点	70	7.4
		9 点	8	0.8
問37 普段どの程度幸福だと感じていますか		10 点	4	0.4
		0 点	1	0.1
		1 点	2	0.2
		2 点	9	1.0
		3 点	17	1.8
		4 点	31	3.3
		5 点	201	21.3
		6 点	124	13.1
		7 点	231	24.4
		8 点	194	20.5
問38 現在どの程度満足していますか	生活全般について	9 点	76	8.0
		10 点	36	3.8
		0 点	0	0.0
		1 点	3	0.3
		2 点	6	0.6
		3 点	21	2.2
		4 点	42	4.4
		5 点	159	16.8
		6 点	99	10.5
		7 点	233	24.7
	家庭について	8 点	209	22.1
		9 点	99	10.5
		10 点	52	5.5
		0 点	2	0.2
		1 点	2	0.2
		2 点	6	0.6
		3 点	23	2.4
		4 点	37	3.9
		5 点	125	13.2
		6 点	81	8.6
	仕事について	7 点	196	20.7
		8 点	233	24.7
		9 点	118	12.5
		10 点	90	9.5
		0 点	3	0.3
		1 点	3	0.3
		2 点	10	1.1
		3 点	17	1.8
		4 点	22	2.3
		5 点	80	8.5
問39 子供の時の宿題について		6 点	73	7.7
		7 点	98	10.4
		8 点	112	11.9
		9 点	45	4.8
		10 点	35	3.7
問40 傘をもって出かける時の降水確率について		1 : 休みが始まると最初のころにやった	56	5.9
		2 : どちらかというときと最初のころにやった	216	22.9
		3 : 毎日ほぼ均等にやった	88	9.3
		4 : どちらかというときと終わりのころにやった	439	46.5
		5 : 休みの終わり頃にやった	120	12.7
問41	% (平均)		907	52.4
問41	楽しみは後に取っておきたい	1 : ぴったり当てはまる	45	4.8
		2 : どちらかというときと当てはまる	301	31.9
		3 : どちらともいえない	381	40.3
		4 : どちらかというときと当てはまらない	147	15.6
		5 : 全く当てはまらない	44	4.7
	一度手に入れたものを手放すのは苦痛だ	1 : ぴったり当てはまる	81	8.6
		2 : どちらかというときと当てはまる	374	39.6
		3 : どちらともいえない	334	35.3
		4 : どちらかというときと当てはまらない	112	11.9

質 問		選 択 肢	回答数	構成比(%) 平 均 値
問41	結果があいまいなときは、たい てい、よいほうを予想する	5 : 全く当てはまらない	22	2.3
		1 : びったり当てはまる	42	4.4
		2 : どちらかという当てはまる	348	36.8
		3 : どちらともいえない	384	40.6
		4 : どちらかという当てはまらない	134	14.2
	周りの人と同じような行動を とっていると安心だ	5 : 全く当てはまらない	14	1.5
		1 : びったり当てはまる	24	2.5
		2 : どちらかという当てはまる	305	32.3
		3 : どちらともいえない	408	43.2
		4 : どちらかという当てはまらない	145	15.3
	宗教を熱心に信仰している	5 : 全く当てはまらない	40	4.2
		1 : びったり当てはまる	18	1.9
		2 : どちらかという当てはまる	50	5.3
		3 : どちらともいえない	165	17.5
		4 : どちらかという当てはまらない	224	23.7
	以前からなされてきたやり方を 守ることが、最上の結果を生む	5 : 全く当てはまらない	465	49.2
		1 : びったり当てはまる	8	0.8
		2 : どちらかという当てはまる	203	21.5
		3 : どちらともいえない	468	49.5
		4 : どちらかという当てはまらない	188	19.9
	大部分の人びとは信頼できる	5 : 全く当てはまらない	55	5.8
		1 : びったり当てはまる	18	1.9
		2 : どちらかという当てはまる	356	37.7
		3 : どちらともいえない	425	45.0
		4 : どちらかという当てはまらない	106	11.2
	何か新しいことを人にさがし て試みる方だ	5 : 全く当てはまらない	18	1.9
		1 : びったり当てはまる	41	4.3
		2 : どちらかという当てはまる	265	28.0
		3 : どちらともいえない	414	43.8
		4 : どちらかという当てはまらない	174	18.4
問42 現在の健康状態について	5 : 全く当てはまらない	27	2.9	
	1 : よい	167	17.7	
	2 : まあよい	206	21.8	
	3 : ふつう	403	42.6	
	4 : あまりよくない	122	12.9	
問43 外来について	5 : よくない	37	3.9	
	外来受診回数(年間)	回(平均)	806	14.0
問44 入院について	窓口自己負担額	円(平均)	784	10,519.5
	付問44-1 一番長かった入院の日数(連続)	1 : 入院した	93	9.8
付問44-2 その入院で支払った窓口自己負担額		2 : 入院していない	842	89.1
	問45 この5年間に病気で入院されたこと がありますか	日間(平均)	96	13.3
問46 あなたご自身に関わる年間10万円 以上の医療費自己負担額について		円(平均)	92	187,183.4
	問47 加入している健康保険について	1 : ある	233	24.7
問48 医療・疾病関係の保険について		2 : ない	698	73.9
	年間保険料総額	1 : ある	450	47.6
年間保険料総額		2 : ない	484	51.2
	年間保険料総額	1 : 政府管掌健康保険・本人	12	1.3
年間保険料総額		2 : 政府管掌健康保険・家族	2	0.2
	年間保険料総額	3 : 組合管掌健康保険(健康保険組合)・本人	243	25.7
年間保険料総額		4 : 組合管掌健康保険(健康保険組合)・家族	32	3.4
	年間保険料総額	5 : 国民健康保険・本人(世帯主)	389	41.2
年間保険料総額		6 : 国民健康保険・家族(世帯主以外)	39	4.1
	年間保険料総額	7 : その他・本人	3	0.3
年間保険料総額		8 : その他・家族	0	0.0
	年間保険料総額	9 後期高齢者医療制度 自己負担率-1割	8	0.8
年間保険料総額		9 後期高齢者医療制度 自己負担率-3割	13	1.4
	年間保険料総額	1 : 加入している	749	79.3
年間保険料総額		2 : 加入していない	165	17.5
	年間保険料総額	円(平均)	684	201,295.4

研 究 体 制

研究主査

大竹 文雄	大阪大学社会経済研究所 教授
澤野 孝一郎	名古屋市立大学大学院経済学研究科 准教授
久米 功一	名古屋商科大学経済学部 准教授

専門委員

米増 隆一	トヨタ自動車(株)	人事部企画室 主任
角谷 聡	トヨタ自動車労働組合	職場活動局 局長
松尾 正樹	(株)デンソー	人事部人事室 グループリーダー
北村 美帆	デンソー労働組合	執行委員
宮崎 祐次	アイシン精機(株)	人材開発部人事グループ
石川 圭吾	アイシン労働組合	労働政策部 部長
成橋 貴夫	トヨタ車体(株)	人事部人事室 主任
山口 智史	トヨタ車体労働組合	執行委員
酒井 俊樹	(株)豊田自動織機	人事部人事室 ジュニアスタッフ
小久保伸浩	豊田自動織機労働組合	労働政策部 部長
甲斐 政博	(株)ジェイテクト	人事部人事企画室 主任
東山 博司	ジェイテクト労働組合	中央副執行委員長
大倉 吉貴	トヨタ紡織(株)	グローバル人材開発部労務厚生室
落 邦広	トヨタ紡織労働組合	執行委員
長尾 美絵	全トヨタ労働組合連合会	総合政策室 経営政策局 部長

事務局

安藤 章洋	中部産政研 事務局長
後藤 健治	中部産政研 主任研究員

第 23 期

定年後もイキイキと暮らすための
働き方とライフスタイルのあり方

発行年月 平成 23 年 12 月

発行人 加藤 裕治

編集・発行 財団法人 中部産業・労働政策研究会

〒 471-0833 愛知県豊田市山之手 8 丁目 131 番地

全労済豊田会館 3 F

電話 (0565) 27-2731 FAX (0565) 27-2259

<http://www.sanseiken.com>

印刷・製本 (有)第一プリント社
